調布市立多摩川小学校給食室改修工事

図番	図　面　名　称	図番	図　面　名　称	図番	図　面　名　称	図番	図　面　名　称
A-00	図面リスト						
A-01	特記仕様書(1)	A-36	展開図(4)【改修後】	KA-01	1階平面詳細図【増築前・後】	S-01	構造設計特記仕様　その1
A-02	特記仕様書(2)	A-37	天井伏図【改修前・後】	KA-02	2階平面詳細図【増築前・後】	S-02	構造設計特記仕様　その2
A-03	特記仕様書(3)	A-38	建具キープラン【改修前・後】	KA-03	1階平面図(区画図)【改修後】	S-03	建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(1)
A-04	特記仕様書(4)	A-39	建具表【改修前】			S-04	建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(2)
A-05	特記仕様書(5)	A-40	建具表【改修後】			S-05	建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(3)
A-06	特記仕様書(6)	A-41	部分詳細図(1)			S-06	建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(4)
A-07	特記仕様書(7)	A-42	部分詳細図(2)			S-07	地盤資料　基礎伏図(改修後)
A-08	特記仕様書(8)	A-43	部分詳細図(3)			S-08	1階床梁伏図　1階柱壁R階床梁伏図(改修後)
A-09	案内図・配置図	A-44	部分詳細図(4)			S-09	軸組図(改修後)
A-10	求積図・面積表	A-45	部分詳細図(5)			S-10	各リスト(1)
A-11	仕上表【改修前・後】	A-46	部分詳細図(6)(参考)			S-11	各リスト(2)
A-12	1階土間撤去平面図【改修前・後】	A-47	アルミ製建具詳細図(1)(参考)			S-12	雑詳細図
A-13	1階平面図【改修前・後】	A-48	アルミ製建具詳細図(2)・軽量鋼製建具詳細図(参考)				
A-14	2～4階平面図【改修前・後】	A-49	サインキープラン、サイン詳細図【改修前】				
A-15	立面図【改修前】	A-50	目隠しフェンス詳細図【改修前】、設備基礎詳細図【改修前・後】				
A-16	立面図【改修後】	A-51	目隠しフェンス詳細図【改修後】				
A-17	断面図【改修前・後】	A-52	エキスパンションジョイント詳細図【改修後】				
A-18	矩計図(1)【改修前】	A-53	外構図【改修前】				
A-19	矩計図(1)【改修後】	A-54	外構図【改修後】				
A-20	矩計図(2)【改修前】	A-55	外構詳細図(1)				
A-21	矩計図(2)【改修後】	A-56	外構詳細図(2)				
A-22	矩計図(3)(4)【改修前】	A-57	倉庫1、2【撤去】				
A-23	矩計図(3)【改修後】	A-58	倉庫　配置図・仕上表・平面図・立面図・矩計図【改修後】(参考)				
A-24	1階平面詳細図【改修前】	A-59	渡り廊下詳細図【改修前・後】				
A-25	1階平面詳細図【改修後】(厨房機器無し)	A-60	仮設計画図(参考)				
A-26	1階平面詳細図【改修後】(厨房機器有り)	A-61	山留計画図(参考)				
A-27	R階平面詳細図【改修前】	A-62	厨房設備器具明細表【改修後】(参考)				
A-28	R階平面詳細図【改修後】						
A-29	1階給食配膳室平面詳細図【改修前・後】						
A-30	展開図(1)【改修前】						
A-31	展開図(2)【改修前】						
A-32	展開図(3)【改修前】						
A-33	展開図(1)【改修後】						
A-34	展開図(2)【改修後】						
A-35	展開図(3)【改修後】						

設計図承認日：令和7年 3月 7日

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
図面リスト	A1: － A3: －	A-00

特記仕様書

第１編　共通事項

第１章　工事概要

1.1　工事件名　　調布市立多摩川小学校給食室改修工事

1.2　工事場所　　調布市多摩川３丁目２１番地１

1.3　工事建物

(1)　敷地面積　12,246.08 ㎡

(2)　申請建物

建物名称		小学校校舎		付属建物			合　計 (左記②、⑤)
		①　撤　去 給食室	②　増　築 給食室	③　撤　去 倉庫1	④　撤　去 倉庫2	⑤　新　設 倉庫3	
建築構造		鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造	軽量鉄骨造	
建築面積		14.40㎡	45.01㎡	5.51㎡	5.50㎡	7.99㎡	53.00㎡
床面積	1F	14.40㎡	45.01㎡	5.51㎡	5.50㎡	7.99㎡	53.00㎡
	2F						
延べ面積			45.01㎡			7.99㎡	53.00㎡

1.5　週休２日制工事の適用については以下による。

●　本工事は，現場閉所により実施する「週休２日制工事」である。週休２日を前提に労務費を補正し，予定価格を算出しているため，週休２日が達成できなかった場合は労務費補正分を減額変更する。詳細は東京都「財務局「週休２日促進工事」実施要領」及び「調布市週休２日制工事実施要領（以下，「調布市要領」）」を参照すること。ただし，「調布市要領」における「経費」は「労務費」に読み替えるものとする。なお，交代制を行う場合は，着手日までに調布市へ必ず申し出ること。また，実施方式は途中で変更することはできない。この場合は，東京都「財務局「週休２日交替制工事」実施要領」及び「調布市要領」を参照すること。

なお，「調布市要領」は，調布市ホームページから，東京都財務局の各要領は，東京都財務局建築保全ホームページからそれぞれ入手できる。

第２章　一般事項

調布市庁舎は、「ISO14001」に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、市庁舎内の組織が行う事業活動における環境配慮及び環境保全に関する行動を適切に実行することとしている。

この取組みには受注者の協力が不可欠であり、工事関係者の業務管理や施工管理などに当たっては、本制度の趣旨の理解に努め、地球環境保全に十分配慮するものとする。

2.1　適用範囲

(1)　この特記仕様書は、東京都建築工事標準仕様書（令和5年4月版 以下「標準仕様書」という。）に定めのない事項又はこれにより難い事項を定める。

この特記仕様書に記載されていない事項は、上記の標準仕様書により施工する。

(2)　設計図書間に相違がある場合の優先順位は

１質問回答書　２特記仕様書　３設計図　４標準仕様書　とする。

(3)　この工事は、設計図書に従い施工するが、設計図書に明示されていない事項でも工事の性質上当然必要なものは，監督員の指示に従い施工する。

(4)　本特記仕様書の各項目における●については、本工事において適用させるものであることを示す。

2.3　労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置等

(1)　労働安全衛生法第30条第 1項に規定する措置を講ずべき者として本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

(2)　上記の指名に基づき、労働安全衛生法に規定する次の事項を労働基準監督署長に報告した場合は、速やかにその写しを監督員に提出する。

ア　統括安全衛生責任者

イ　元方安全衛生管理者

ウ　店社安全衛生管理者

2.5　工事の入札等について

入札（又は見積書の提出）に当たっては、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。

2.7　各種点検、調査、見学会等への協力

(1)　監督員が施工体制、現場管理、施工管理等の適正化を図るため、各種点検、調査等を行う場合は、受注者はこれに立会い、協力しなければならない。

(2)　(1)の各種点検、調査等の結果に基づき、監督員から改善措置等の指示が出された場合は、速やかにその指示に従わなければならない。

(3)　監督員が必要とする現場見学会等を開催する場合は、受注者はこれに協力しなければならない。

第４章　施工区分

4.1　施工区分

別途関連工事との施工区分は、原則として次表による。

建築・電気設備・機械設備標準施工区分表

項目	内容	建築	電気	機械		備考
				給水衛生	空調	
1 各種水槽・ピット（建物と一体構造のもの）	1 受水槽・排水槽・汚水槽等でコンクリート造のもの	○				
	2 コンクリート造の各種水槽釜場	○				
	3 コンクリート造の受水槽の人孔蓋(防水型)及びタラップ，排水槽・汚水槽等の人孔蓋(防臭型)及びタラップ	○				
	4 最下階便所のピット，人孔蓋(防臭型)及びタラップ	○				
	5 二重床改め口	○				
	6 二重底盤内通気管・通水管	○				
	7 二重壁内の水抜管	○				
2 トレンチ・排水溝	1 各種トレンチ蓋及び人孔蓋	○				
	2 屋内排水溝及び人孔蓋	○				
3 機器等の基礎（建物と一体構造のもの）	1 機器用基礎(コンクリート打ち)	○				
	2 屋上水槽の基礎(コンクリート打ち)	○				
	3 二重床下部分の機器用基礎(コンクリート打ち)	○				
	4 機器等のアンカー及び基礎仕上げ		○	○	○	
4 スリーブ	1 各種配管用スリーブ		○	○	○	
	2 ダクト，ガラリ用スリーブ	○＊			○	＊建築が取り付けるガラリの場合
	3 衛生器具(大便器)取付け用箱入れ			○		
	4 押込型屋内消火栓取付け穴等の箱入れ			○		
	5 分電盤取付け穴等の箱入れ		○			
	6 各種スリーブの補強	○				
	7 避雷針取付け部	○				防水を考慮した基礎仕上げ
	8 外壁貫通スリーブまわりの防水	○				
	9 床貫通スリーブまわりの防水	○				防水層を貫通する場合
	10 貫通穴及びダクト空隙充填		○	○	○	
5 天井切込及び換気扇取付け枠	1 埋込照明器具，スピーカー，空調換気用吹出口等埋込器具類取付けのための天井切込み及び下地補強	○				墨出しは電気，給水衛生又は空調
	2 換気扇取付け用枠及び穴あけ	○				墨出しは電気，給水衛生又は空調
6 改め口，点検扉	1 天井改め口	○				
	2 各種シャフト点検口	○				
7 はつり及び補修	1 配管のための貫通及び埋込み箇所のはつり及び補修		○	○	○	
8 排水	1 各種床排水金具	○		○		
	2 造付け流し(人造石とぎ出し)の排水金具			○		
	3 流しの排水金具	○＊		○		＊建築が取り付ける流しの場合
	4 外構工事におけるＵ字溝及びこれに接続するため桝	○				
	5 第1桝から排水幹線までの配管、中継桝			○		
9 雨水排水	1 ルーフドレイン	○				
	2 第1桝までの屋外竪樋・排水管	○				
	3 建物外部までの屋内部分排水管	○				
	4 屋内部分排水管のうちパイプシャフト内配管の竪樋			○		
	5 第1桝から排水幹線までの配管、中継桝			○		
10 ガラリ	1 外壁，サッシュに取り付けるガラリ(ただし，空調・排気用ダクトその他に取合いあるものを除く。)	○				
	2 ドアーガラリ	○				
	3 暗室等の遮光ガラリ	○				
11 動力	1 一般用動力操作盤及び電動機端子接続までの配管・配線・結線		○			
	2 ボイラー操作盤及び二次側配管・配線・結線				○	
	3 冷凍機用動力操作盤及び二次側配管・配線・結線				○	
	4 パッケージ形空調機用電源で手元開閉器以降の配管・配線・結線		○			
	5 電動機シャッター・自動ドアとその電源の三次側配管・配線・結線及び操作盤・押ボタン取付け	○				
12 制御	1 空調用制御機器及び操作用機器取付け及びその配管・配線・結線				○	
	2 衛生用液面制御機器取付け及びその配管・配線・結線		○			
	3 総合監視盤(給水衛生・空調)				○	
13 防災	1 煙感知器連動の防火戸・防火シャッターその他の防災設備の電源・二次側配管・配線・結線及び検出器・制御盤		○			
	2 排煙口・ダンパー等とその電源の三次側配管・配線・結線及び検出器・制御盤				○	
14 コンセント・接続穴あけ	1 フリーアクセスの穴あけ	○				墨出しは電気
	2 実験台・演台(備品)等の穴あけ	○				墨出しは電気，給水衛生又は空調
15 各種シャフト	1 各種シャフトのうちコンクリート造のもの及びこれに必要なコンクリート床	○				
16 その他	1 解体または改修する建物等の機器のうち，再使用するものの取外し	○	○	○	○	
	2 仮囲い、足場作業	○				
17 制御	1 空調用制御機器及び操作用機器取付けとその配管・配線				○	
	2 衛生用液面制御機器取付けとその配管・配線		○			
	3 総合監視盤(衛生・空調)				○	

本表は，設計図書等で示される一般的工事範囲を補足するもので，関連工事との取合部分についてその施工区分を示すものである。

この表は、設計図書等で示される一般的工事範囲を補足するもので、関連工事との取り合い部分についてその施工区分を示すものである。

4.2　工事の施工に伴う光熱水費の取扱い

(1)　電気料金

ア　仮設引込み後は，下記による。

		基本料金	従量料金
機械	空調		○
	衛生		○
建築			○
電気		○	○
その他			○

(2)　水道料金

ア　私設メーター設置後は，下記による。

		基本料金	従量料金
機械	空調		○
	衛生	○	○
建築			○
電気			○
その他			○

第２編　工種別事項

第１章　総　則

第１節　一般事項

1.1.2　用語の定義

標準仕様書「1.1.2用語の定義（17）」の表記は、次のように読み替える。

(17)「書面」とは、発行年月日が記載され、署名又は押印された文章をいう。

ただし、関係規定等で署名又は押印を不要とした書類については、署名又は押印がない場合も有効な書面と取り扱う。

1.1.3　現場代理人、監理技術者、監理技術者補佐及び主任技術者

（標準仕様書1.1.1.5）

(1) 建築業法（昭和24年法律第100号）第26条第３項の規定により専任が求められる監理技術者等は、次の期間については工事現場への選任を要しない。

●　工事用地等の確保が魅了、自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間

当該期間については、請負契約の締結後、監督員からの工事の全部中止の通知により定める。

●　橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター、発電機、配電盤等の電気品等の工場製作を含む工事全般について、工場製作のみが行わている期間

当該期間については、請負契約の締結後、監督員との協議の上、書面において定める。

なお、当該工場製作過程において、同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作が可能である場合は、同一の監理技術者がこれらの製作を一括して管理することができる。

●　工事完了後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている期間

(3) 専任の監理技術者等が、技術研さんのための研修、講習、試験等への参加、休暇の取得、その他の合理的な理由で短期間工事現場を離れることについては、適切な施工ができる体制を確保するとともに、その体制について、元請の監理技術者等の場合は発注者、下請の主任技術者の場合は元請又は上位の下請の了解を得ていることを前提として、差し支えない。

1.1.4　官公庁その他への届出手続等

工事の着手、施工又は完了に当たり。「労働安全衛生法」第88条第１項のほか、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等について十分調査の上、これを遅滞なく行う。

記事	

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
特記仕様書(1)	A1: － A3: －	A-01

1.1.7　工事実績情報の登録

契約金額が 500万円以上の工事は、工事実績情報サービス（コリンズ）に基づく工事実績情報の登録を行う。

登録内容についてあらかじめ監督員の確認を受けた後、次に示す期間内に（財）日本建設情報総合センター「JACIC」（ジャシック）に登録する。

ただし、期間には、行政機関の休日に関する法律第一条第一項に定める行政機関の休日は含まない。

(1)　工事受注時　　契約締結後10日以内

(2)　登録内容の変更時（契約金額のみの変更の場合を除く）
変更契約締結後10日以内

(3)　工事完了時　　工事完了後10日以内

【登録先】〒107-8416　東京都港区赤坂7-10-20　アカサカセブンスアヴェニュービル
一般財団法人　日本建設情報総合センター(JACIC)　コリンズ／テクリスセンター
電話　(03)3505-0463　FAX　(03)3505-8985
http://ct.jacic.or.jp/　　E-mail　ct7h@jacic.or.jp

1.1.8　提出書類

受注者等が監督員に提出する工事請負契約関係の書面の書式，その提出部数等は，別に定める調布市総務部「請負者等提出書類処理基準及び請負者等提出書類処理要領」等による。ただし，これに定めのないものは，監督員の指示による。

1.1.11　別契約の関連工事

「調布市立多摩川小学校給食室改修に伴う電気設備工事」

「調布市立多摩川小学校給食室改修に伴う機械設備工事」

上記別途工事と施工上関連する工事については、当該工事関係者と相互に協力し、工事全体への円滑な施工計画に励むこと。

また、定置する足場及び作業構台の類は、別契約の関係受注者に無償で使用させること。

1.1.16　建設副産物の処理

建設副産物は、次により処理する。

●　標準仕様書による

●　本工事は「建設副産物情報交換システム」（以下「COBRIS」（コブリス）という。）への登録対象工事であり、受注者は工事の実施に当たっては、システムの活用を図るものとする。

（システムに関する問い合わせ先）
〒107-8416　東京都港区赤坂7-10-20　アカサカセブンスアヴェニュービル２Ｆ
一般財団法人　日本建設情報総合センター　建設副産物情報センター
TEL　03-3505-0410　　FAX　03-3505-0520
HP　http://www.recycle.jacic.or.jp
E-mail　recycle@jacic.or.jp

受注者は、施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は、速やかに「COBRIS」にデータの入力を行い、データ入力の都度「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を監督員に提出して確認を受ける。

また、受注者は、「再生資源利用計画書（実施書）」及び「再生資源利用促進計画書（実施書）」の作成、提出に当たっては、「COBRIS」に搭載されている「建設リサイクル統合データシステム」（以下「CREDAS」（クレダス）という。）に必要なデータを入力して作成し、監督員に提出して確認を受ける。

ウ　建設副産物の取扱い

（ア）建設発生土の取扱い

本工事により発生した建設発生土は、「東京都建設リサイクルガイドライン」に基づき掘削量の削減、現場内での再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努める。

なお、搬出する場合は、次の場所へ搬出し、土砂伝票（土砂搬入管理券等の発生側の運搬証明）、土砂搬入確認書（受入側の受入証明）の写し及び集計表を監督員に提出する。

※受注者は、建設発生土の積込み、搬出及び運搬に当たっては、コンクリート塊、木くず、金属くず等と分別し、これらの異物が混入しないようにしなければならない。

※受注者は、建設発生土の積込み及び搬出に当たり、現場での分別状況を写真撮影し、それを工事記録写真帳に入れて監督員に提出しなければならない。ただし、建設発生土の掘削のみの場合など異物が混入するおそれのない場合は、この限りではない。

●　青梅建設発生土再利用事業所等へ搬出する。

（イ）建設廃棄物の取扱い

ａ）発生量の抑制

本工事により発生した建設廃棄物については、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努める。

ｂ）再資源化施設

本工事において建設廃棄物を搬出する場合は再資源化施設に搬出し、資源リサイクルの促進に努める。搬出先は、受注者が「COBRIS」等を利用し、また、受入条件、再資源化の方法等を施設に確認し適切な再資源化施設等を選定する。搬出に先立って、搬出先、再資源化の方法等をリサイクル計画として取りまとめ、施工計画書に含めて提出し、監督員の承諾を受ける。

なお、本工事では、次の場所にある再資源化施設等への搬出を想定しているが、事前に監督員の承諾を得た場合は、受注者はこれ以外の施設を選定することができる。

（２）再生材の活用

ア　建設発生土の再利用

埋戻し土及び盛土については、次による。

●　青梅建設発生土再利用事業所等からストック土（普通土）を搬入する。

（３）アスベストの処理

アスベスト含有吹付材の除去（レベル3）

アスベスト含有吹付材の除去方法については、次による。

●　石綿含有吹付け材の除去は、部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様で監督職員の承諾するものとする。（解体共仕6.3.2による）

除去物及び汚染物質等について

●　密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタ等についても密封処理を行う。

1.1.19　保険の加入及び事故の補償

●　本工事において、受注者は法定外の労災保険※に付さなければならない。また、当該保険契約の証券又はこれに代わるものを発注者に提示する。

※　法定外の労災保険とは、公共工事に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要なな金額を担保するための保険契約であり、国の労働災害補償保険（労災保険）とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とした保険契約をいう。

標準仕様書「1.1.19 保険の加入及び補償(5)及び(7)」の表記は、次のように読み替える。

(5)　建設業退職金共済制度に該当する場合は同制度に加入し、その掛金収納書（発注者用）を工事請負契約締結後、原則1か月以内（電子申請方式による場合は原則40日以内）に発注者に提出する。

(7)　発注者から共済証紙の受払状況を把握するための請求があった場合は、速やかに共済証紙の受払簿（電子申請方式による場合は掛金充当書（工事別））その他関係資料を提出する。

第２節　工事関係図書

1.2.1　実施工程表

(4)　実施工程表は次のものを作成し、監督員に提出する。

●　全体工程表(ネットワーク工程表とする)

●　月間工程表

●　週間工程表

1.2.2　施工計画書

(4)　2.2.4「仮囲い等」において指定された仮設の施工計画書について、監督員の承諾を受ける。

1.2.5　試験、施工等の記録

(3)　工事記録写真の撮影は、別に定める「財務局工事記録写真撮影要領」（東京都財務局）による。
また、工事記録写真撮影計画書の作成は、次による。

●　作成する

第３節　工事現場管理

1.3.5　施工条件

施工条件は、次による。

(1)　本工事は小学校敷地内により，工事期間中は，児童，施設利用者，職員，歩行者等に危害を与えないように事前に施工計画，工程等の打ち合わせを行い，充分な安全対策を施すこと。また，工事に起因して損害等を生じた場合は，受注者の責任において復旧または，補償を行うこと。整理，清掃，後片づけはその都度行い児童，施設利用者，職員，歩行者に危害を与えないように飛散，転倒防止等，安全対策管理，事故防止に努めること。

(2)　重機，工具，ウォールソー等の建設機械は，低騒音型・低振動型建設設備にすること。

(3)　別契約の関連工事との調整を行い、工事全体の円滑な進捗に努めること。

(4)　手続及び提出書類
本工事の施工に必要な関係機関との協議・手続きは請負者の責任において行うこと。

(5)　工事着手及び施工時間については，施設運営に支障をきたさないよう，施設管理者及び監督員と協議を行い必要に応じて適切な処理を講じること。

(6)　給食室内の作業及び給食搬入動線に係る作業については令和7年7月14日以降とする。また，令和8年3月31日までに完了検査に合格し引渡しを完了させること。総合調整期間及び関連工事の総合試運転・調整期間の確保並びに各種行政機関の検査等を含め適切な工程管理を行うこと。

(7)　ブレーカー作業を伴う解体工事等については，可能な限り，夏季休暇期間である令和7年7月19日から8月31日までに完了すること。

(8)　児童の登校(7:50～8:30)の時間帯，工事車両は可能な限り敷地周辺の道路を通行しないこと。

(9)　工事着手後、外装、内装仕上げの模様、色及び艶等は監督員の承諾を得ること。

(10)　着手時及び竣工時の工事区画内の備品の移設については，受注者の責任において行うこと。

(11)　再利用に伴う、調理機器の移設は機械設備工事とする。なお、休憩室のロッカーの移設は建築工事とする。

1.3.7　施工中の安全確保

・　交通整理員及び警備員は、必要に応じて配置すること。

・　又、火気を使用する場合は、付近に消火器を設置して工事を行う事。その他監督員の指示する安全措置を講ずること。

1.3.14　室内空気汚染対策等

(1)　対象物質

対象物質は、ＶＯＣのうちホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン、フタル酸ジ-ｎ-ブチル、クロルピリホス、テトラデカン、フタル酸ジ-２-エチルヘキシル、ダイアジノン、フェノブカルブの１３物質とする。

(2)　対象箇所等

対象室は、基本的に全ての室とし、建物の用途については特に限定しない。（室に合板類、フローリング、壁紙等の内装材料等を多量に使用することにより、または、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木等に接着剤を多量に使用することにより、ＶＯＣが多量に放散される恐れがある場合には本対策による。）

(3)　建材及び施工材の選定

建材及び施工材の選定においては、対象物質を放散しないか、放散が十分少ないものを日本農林規格（ＪＡＳ）、日本工業規格（ＪＩＳ）及びＳＤＳ（安全データシート)等参考にして、適切に選択する。

(5)　使用材料の立会い検査

原則として、使用材料の搬入時に監督員による立会い検査を実施し、設計図書に指定したものまたは同等品以上であることを確認する。具体的には、ホルムアルデヒド放散等級等について、製品やその包装の表示マークまたは国土交通大臣の認定書等により確認するものとする。

(6)　使用材料の保管・養生

搬入された使用材料は、開封して通風の良い場所に保管し、化学物質の放散に努める。また、養生期間を出来る限り長く設けることで、化学物質を放散させる。養生シートで覆う場合には、通気性のあるものを使用すること。

(7)　施工中の対策

接着剤、塗料等の使用にあたっては、施工方法や塗布量等を十分に管理するとともに、適切な乾燥時間を設ける。また施工中及び施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質を室外に放出させる。

(8)　施工完了後の対策

対象室の施工が完了し、引渡しをするまでの間、強制換気や必要に応じてベークアウト等の措置をし、室内空気中の化学物質の低減化を図る。

(9)　建材及び施工材の選定について

ア　建材及び施工材は次のものとする。

木工事、建具工事、内装工事、ユニット工事等に用いる接着剤は、トルエン等の含有量の少ない規格品とし、接着剤に含まれる可塑剤は、フタル酸ジ-n-ブチル 及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル を含まない難揮発性（沸点３００℃以上）のものとする。ホルムアルデヒド放散等級が示されているものは、Ｆ☆☆☆☆（ＪＩＳ）または大臣認定とする。

イ　木材は工場において加圧式防腐・防蟻処理を行うことを原則とし、十分に乾燥した上で現場搬入する。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対して、現場で表面処理用防腐剤または表面処理用防腐・防蟻剤を塗布することができる。なお、表面処理用防腐剤及び表面処理用防腐・防蟻剤は(社)日本木材保存協会の認定品または同等品以上とし、クロルピリホス、ダイアジノン及びフェノブカルブを含有しない非有機リン系とする。

ウ　塗料は、水性系（エマルション系）で環境配慮型のものを原則とし、ホルムアルデヒド放散等級が示されているものは、Ｆ☆☆☆☆（ＪＩＳ）または大臣認定とする。なお、室内に使用する塗料は、有害金属（鉛、クロム類）、ホルムアルデヒド、クロルピリホス、トルエンを配合せず、重金属類０．０５％以下、ＶＯＣ５％以下のものとする。

エ　内装材に用いる集成材及び合板類、単板積層材は、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆（ＪＡＳ）のものまたは大臣認定品とし、非ホルムアルデヒド系接着剤（ＪＡＳ）及びホルムアルデヒドを放散しない塗料（ＪＡＳ）を使用したものとする。パーティクルボード及びＭＤＦは、ホルムアルデヒドの放散等級がＦ☆☆☆☆（ＪＩＳ）のものまたは大臣認定品とする。通気性がある畳、カーペット等の下地板も同様とする。

オ　弾性ウレタン塗床及びエポキシ樹脂塗床に使用する塗料は、ホルムアルデヒドの放散等級がＦ☆☆☆☆　（ＪＩＳ)のものまたは大臣認定品とする。

カ　フローリングは、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆（ＪＡＳ）のものまたは接着剤等不使用（ＪＡＳ）のもの、または大臣認定品とする。

1.3.16　ディーゼル自動車の排出ガス規制

●　環境により良い自動車利用

本契約の履行に当たって自動車を利用し、又は利用させる場合は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（平成12年東京都条例第 215号）の規定に基づき、次の事項を遵守すること。

(1)　ディーゼル車規制に適合する自動車であること。

(2)　自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（平成４年法律第70号）の対策地域内で登録可能な自動車利用に努めること。

なお、当該自動車の自動車検査証（車検証）、粒子状物質減少装置装着証明書等の提示又は写の提出を求められた場合には、速やかに提示し、又は提出すること。

第４節　材料

1.4.1　環境への配慮

(1)　工事の施工に当たっては、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号。以下「グリーン購入法」という。）及び「東京都建設リサイクルガイドライン」に基づき策定された「東京都環境物品等調達方針（公共工事）」（島しょにおける工事の場合は、「東京都島しょ地域における環境物品等調達方針（公共工事）」とする。以下に同じ。）により、環境負荷を低減できる資材等を選定するよう努める。

1.4.4　材料の検査等

(4)　設計図書で指定を受けたコンクリートの圧縮強度試験・鉄筋の引張試験等の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」に基づく試験機関の一覧表に示された(公財)東京都防災・建築まちづくりセンター等のⅠ類の試験機関において実施する。

なお、選定した試験機関は、監督員の確認を受ける。

（東京都都市整備局ホームページに登載されているので、参照すること。）

(http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kenchiku/bousai/kn_t07.htm)

第５節　アスベスト含有建材の取扱い

工事で使用する各種材料については、アスベストを含有する建材を使用しない。

(1)　新築、改築、増築等の場合でも既存構造物に影響を与える場合は同様の調査を行う。これには外構工事における工作物等も含む。

工事を進めるうえで、現地の状況により契約図書に定める範囲外の工事を行う場合には追加の事前調査を行う。なお、新たに分析調査を行う場合は、施工条件の変更とみなすことができることとする。なお、事前調査を行うことができる石綿等に関する知識を有する者等とは以下の者である。

①建築物石綿含有建材調査者講習登録規定（平成30年10月23日　厚生労働省　国土交通省環境省告示第1号　令和2年7月1日改正）に基づき厚生労働省に登録された機関が行う講習を修了した建築物石綿含有建材調査者（特定、一般）

②（一社）日本アスベスト調査診断協会に令和5年9月30日までに登録されたもの

ただし、戸建て住宅及び共同住宅の住戸部分の内部の事前調査に限っては、前記「登録規定」に基づく講習を修了した戸建て等石綿含有建材調査者も行うことができる。

イ　分析方法は、次による。

「建材中の石綿含有率の分析方法について」[平成18年8月21日付け基発第0821002号（厚生労働省）（令和3年12月22日付け基発1222第18号により一部改正）参照]

・JIS　A　1481-1（定性分析）
・JIS　A　1481-2（定性分析）
・JIS　A　1481-3（定量分析）
・JIS　A　1481-4（定量分析）
・JIS　A　1481-5（定量分析）

「分析を行う者は、十分な経験及び必要な能力を有するもの」については、「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針に基づく石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル」（厚生労働省）を参考とする。

また、試料採取に際して、石綿の飛散防止を徹底するとともに、採取後は石綿飛散防止剤（固化剤）を散布し、粉じんが飛散しないよう補修する。

ウ　事前調査の結果について、法令に基づき、報告対象となる場合は、石綿の使用の有無に関わらず、原則として「石綿事前調査結果報告システム」により、労働基準監督署及び区役所、市役所又は多摩環境事務所等に報告する。また、報告した旨を示す資料（システム登録時の確認メール等）を監督員に提示すること。

なお、石綿含有吹付け材の除去等を行う場合の官公署への届出とは別であることに留意すること。

報告対象等の詳細は、厚生労働省ＨＰ「石綿総合情報ポータルサイト」、東京都環境局ＨＰ「東京都アスベスト情報サイト」等を参照のこと。

エ　事前調査の結果について、法令に基づき、定められた大きさの掲示板を公衆及び作業に従事する労働者が見やすい箇所に掲示する。

(2)　本工事の対象である建築物その他の施設等において、石綿が含有していることが判明している建材等は、次による。

○　図面による。

(3)　足場仮設工事等の穿孔掘削については，集じん機能付きドリル(HEPAフィルター付)を使用する。

第７節　施工

1.6.7　排出ガス対策型建設機械

次の建設機械は、排出ガス対策型建設機械とする。（道路運送車両法による排ガス規制を受けている建設機械は除く。）

対象機種（ディーゼルエンジン出力7.5～260kW）

a 発動発電機（可搬式・溶接兼用機を含む。）
b 空気圧縮機（可搬式）
c 油圧ユニット（基礎工事用機械で独立したもの）
d ホイールクレーン（ラフテレンクレーン）
e ローラ類（ﾛｰﾄﾞﾛｰﾗ、ﾀｲﾔﾛｰﾗ、振動ﾛｰﾗ）

1.6.8　低騒音型・低振動型建設機械

次の建設機械は、低騒音型・低振動型建設機械とする。

a　発動発電機
b　空気圧縮機
c　電気ｸﾞﾗｲﾝﾀﾞ、ｻﾝﾀﾞ、ｴｱｸﾞﾗｲﾝﾀﾞその他これらに類するｺﾝｸﾘｰﾄはつり機
d　ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ、ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ、ﾎｲｰﾙｸﾚｰﾝその他これらに類する荷役機械
e　ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬ、ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀその他これらに類する舗装用機械

1.6.9　化学物質の濃度測定

(1)　室内空気環境測定は次による。

ア　測定対象物質

１３物質（ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン、フタル酸ジ-ｎ-ブチル、クロルピリホス、テトラデカン、フタル酸ジ-２-エチルヘキシル、ダイアジノン、フェノブカルブ）

イ　空気試料の採取方法等

室内空気環境測定は、原則として、厚生労働省の室内空気中化学物質の採取方法と測定方法に準拠して行う。なお、測定にあたっての留意点は次のとおりとする。

(ｱ)　室内の中央付近で、少なくとも壁から１ｍ以上離した高さ1.2～1.5mの位置を測定位置とする。乳幼児施設では、使用実態による測定方法とする。

(ｲ)　常時換気設備がある場合は、稼動させた状態で測定する。

(ｳ)　木製造作収納家具等の扉及び引出しは、開放した状態にする。

(ｴ)　測定する前に、室内を３０分換気し、続いて５時間以上窓及び扉を密閉する。（測定終了まで閉鎖を保つ）

(ｵ)　アクティブ（吸引）方式とし、３０分間で２回採取する。

(ｶ)　ホルムアルデヒドは、ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着／溶媒抽出法によって採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。

(ｷ)　揮発性有機化合物は、固相吸着／溶媒抽出法／、固相吸着／加熱脱着法、容器採取法の３種の方法のいずれかを用いて採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。

※対象物質の厚生労働省の指針値及び測定時の定量下限値は下記のとおりとする。

対象物質	指針値(μg/m3(ppm))	定量下限値(μg/m3(ppm))
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	100(0.08)	指針値の1/10
ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	48(0.03)	指針値の1/10
ﾄﾙｴﾝ	260(0.07)	指針値の1/10
ｷｼﾚﾝ	200(0.05)	指針値の1/10
ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	370(0.085)	指針値の1/10
ｽﾁﾚﾝ	220(0.05)	指針値の1/10
ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ	240(0.04)	指針値の1/10
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-n-ﾌﾞﾁﾙ	17(1.5)	指針値の1/10
ｸﾛﾙﾋﾟﾘﾎｽ	1(0.00007)	指針値の1/10
ﾃﾄﾗﾃﾞｶﾝ	330(0.04)	指針値の1/10
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ	100(6.3)	指針値の1/10
ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ	0.29(0.00002)	指針値の1/10
ﾌｪﾉﾌﾞｶﾙﾌﾞ	33(0.0038)	指針値の1/10

ウ　測定箇所

室　名	箇所数	回　数
調理室	１か所	改修後　１回
休憩室	１か所	改修後　１回
アレルギー対応室	１か所	改修後　１回

(2)　施工完了後の測定及び対策

対象室の施工が完了し、工事完了するまでの間、室内空気環境測定を行う。なお、事前に測定に関する計画書を作成し、監督員の承諾を受ける。測定の結果が厚生労働省の定める指針値を超えた場合は、内装材等の材質及び換気の状況を調査し、原因を究明する。

また、換気設備については換気風量の実測を行う。換気の促進等で改善が見込める場合は、必要に応じてベークアウト等の措置をし、室内空気中化学物質の低減化を図る。

換気の促進等で改善が見込めない場合は、再施工等の措置を講ずる。

是正措置後、再度室内空気環境測定を実施し、安全を確認する。

(3)　情報の提供

工事発注の担当課及び施設管理者に対して、室内空気汚染源となる材料の使用状況を示すとともに、必要に応じて、対策に関する配慮事項について情報提供を行う。

(4)　引渡し

室内環境測定の結果を考慮し、安全を確認した上で引渡しをする。

第８節　竣工図

1.8.2　しゅん功図

しゅん功図面の作成に当たっては、監督員の承諾を得て設計原図を複写訂正し、
しゅん功原図としてもよい。
種類、記入内容及び提出部数については、次による。
(1) 電子データ版　(CD-R等)　　1　部

電子納品対象工事の場合は、本特記仕様書の電子納品対象工事の項目に基づいてCD－R等に記録し、監督員による内容確認を受けた後、CD-R等のラベル面に直接署名又は押印し、監督員に提出する。
電子納品媒体への記録の方法等は、「1.1.27 電子納品対象工事」の事前協議による。

第２章　仮設工事

第２節　縄張り、遣方、仮囲い及び足場等

2.2.4　仮囲い等

本工事の施工に当たり、別途指示する位置に、次の仮囲いを設置する。
● ガードフェンス　H=1.8（上部：養生シート　下部：巾木）　結束：ナイロン製ロープ
仮囲い以外の指定する仮設は、次による。
● 仮設計画図による。

2.2.5　足場等

足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第 0424001号　平成２１年４月２４日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式又は、(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
また，定置する足場及び作業構台の類は、別契約の関係受注者に無償で使用させること。

第3節　材料置場、下小屋その他仮設物

2.3.4　監督員事務所及び備品等

監督員事務所の設置及び備品等は、次による。
● 監督員事務所：設置しない。

第５節　既存部分の養生

2.5.2　既存部分の養生

(1)　既存部分の養生は次による。
● ビニールシート養生
● ベニヤ養生　5.0×910×1820(JISA5905)
● 内部廊下の出隅部分にはマット等を設置する
(2)　固定された備品等の移動は次による。
● 行なう

2.5.3　仮設間仕切

(1)　仮設間仕切等の種別は，次による。

種　別	下　地	仕上げ材（厚さ　mm）	充てん材	塗装等
●Ｅ種	軽量鉄骨下地	● 石膏ボード張り(9.5mm)	なし	なし

(2)　仮設扉の設置箇所及び種別は、つぎによる。
● 図面による

第３章　土工事

第２節　根切り及び埋戻し

3.2.3　埋戻し及び盛土

(2)　埋戻し及び盛土の材料は、「1.1.16　建設副産物の処理(2)ア(7)」による。

第3節　山留め

3.3.1　山留めの設置

(2)　山留めは、次による
●親杭横矢板山留壁とする。(既存取合い部は軽量鋼矢板山留壁)

3.3.3　山留めの撤去

(2)　山留めを存置する場合は、次による。
●　撤去する。

第４章　地業工事

第６節　砂利、砂、割り石、捨コンクリート地業等

4.6.2　材料

(1)　砂利地業に使用する砂利は、次による。
●　再生クラッシャラン（RC-40）

4.6.3　砂利及び砂地業

(1)　砂利及び砂地業の厚さは、次による。
●　図示による

4.6.5　捨コンクリート地業

(1)　捨コンクリートの厚さは、次による。
●　図示による

4.6.6　床下防湿層

(1)　防湿層の適用及び範囲は、次による。
●　ポリエチレンフィルム0.15mm（屋内土間コンクリート下）

第５章　鉄筋工事

第２節　材料

5.2.1　鉄筋

鉄筋の種類は、次による。

種類の記号	呼び名（mm）	使用部位
ＳＤ２９５Ａ	D10～D16	構造図による
ＳＤ３４５	D19～D22	

5.2.2　溶接金網

溶接金網の網目の形状、寸法及び鉄線の径は、次による。

種　類	網目の形状	寸法(mm)	鉄線の径(mm)	使用部位
※　溶接金網	格子目	150×150	6　mm	図示による

5.3.7　各部配筋

各部の配筋は、次による。
●　図示による

第３節　加工及び組立て　（下記以外は標準仕様書及び構造図による）

5.3.4　継手及び定着

(1)　鉄筋の継手は、次による。
●　重ね継手(D10,D13,D16)　使用部位は構造図による
●　ガス圧接継手(D19,D22,D25)　　使用部位は構造図による
(2)　鉄筋の継手位置は図面による。
(3)　重ね継手は次による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは細い鉄筋の径による。
イ　ア以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表5.3.2による。
なお、表5.3.2は、コンクリートの設計基準強度(Fc)が18N/mm2以上36N/mm2以下の場合に適用する。

表5.3.2　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度	フックなし	フックあり
	(Fc)　(N/mm2)	L1	L1h
SD295A	18	45d	35d
	24	35d	25d

図5.3.1フックのある場合の
の重ね継手及び定着の長さ

(注) 1、L1､L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2､フックのある場合のL　は、図5.3.1に示すようにフック部分Ｉを含まない。
3､軽量コンクリートの場合は、表の値に5ｄを加えたものとする。

第４節　ガス圧接　（下記以外は標準仕様書及び構造図による）

5.4.3　技能資格者

(2)　圧接技量資格者の技量確認試験の実施は、次による。
●　行わない。

5.4.10　圧接完了後の試験

(2)　抜取試験は、次による。
●　超音波探傷試験
a　1ロットの大きさは、1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、圧接箇所数が200を超えるときは、200ごと及びその端数ごとを1検査ロットとする。
b　試験の箇所数は、1ロットに対して30箇所とする。
c　試験方法及び判定基準は、JIS Z 3062(鉄筋コンクリート用異形棒鋼ガス圧接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)による。
d　ロットの合計判定は、ロットの全ての試験箇所が合格と判定された場合に、当該ロットを合格とする。
e　不合格となったロットへの措置は、「5.4.11不合格となった圧接部への措置(2)」による。

5.4.11　不合格圧接部の修正

(2)　抜取試験で不合格になったロットの処置
エ　不合格ロットは、同一の検査ロットから10本の試験片を採取し、引張強度試験の再試験を行うとともに、全圧接箇所に対して超音波探傷試験を行う。試験方法、判定基準等は、「5.4.10圧接完了後の試験(2)ア及びイ(ｳ)から(ｵ) まで」による。ただし、母材強度値不合格の場合又は、2本以上の圧接面破断を生じた場合は、監督員と協議し、必要な試験を行う。

第６章　コンクリート工事

第１節　一般事項

6.2.1　コンクリートの種類

(2)　コンクリートの使用骨材による種類は、次による
●　普通コンクリート

6.2.2　コンクリートの強度

コンクリートの設計基準強度（Fc）は、次による。

設計基準強度（Fc）	スランプ（cm）	適用範囲
24 N/mm2	18 cm	基礎、基礎梁、柱型、1階床
18 N/mm2	18 cm	シンダーコンクリート
18 N/mm2	15 cm	捨てコンクリート
21 N/mm2	15 cm	ポーチ、フェンス基礎、設備基礎 コンクリート舗装

6.2.5　構造体コンクリートの仕上がり

(2)　コンクリート表面の仕上がり状態
ア　コンクリートの打放し仕上
(7)　合板せき板を用いる場合のコンクリートの打放し仕上げは、表6.2.4により、種別は、特記による。

種別	使用箇所	備考
B種	外壁(増築部)	
C種	基礎(増築部)	

第３節　コンクリートの材料及び調合　（下記以外は標準仕様書及び構造図による）

6.3.1　コンクリートの材料

(1)　セメント

ア　セメントの種類は、次による。

●　JIS R 5210に規定する普通ポルトランドセメント

(4)　混和材量

混和材料の種類及び適用は、次による。

●　AE減水剤又は高性能AE減水剤

第６節　コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め

6.6.6　打継ぎ

(3)　目地の寸法は、次による。

●　幅20mm以上、深さ10mm以上とする。

第８節　型枠

6.8.2　一般事項

(5)　外部に面するコンクリートの打放し仕上げの打増し厚さは、次による。

●　20mm

(6)　ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は、次による。

●　目地寸法は幅20mm以上、深さ10mm以上とする。

6.8.3　材料

(1)　せき板の材料は、次による。

●　合板

6.14.2　検査等

コンクリートの圧縮強度試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」に基づく登録簿（Ａ類）に示されたＩ－Ａの試験機関で実施する。

第９章　防水工事

第２節　アスファルト防水

9.2.3　防水層の種別及び工程

防水層の種類及び工程による種別等は、次による。

防水層の種類	種別	使用箇所	備考
屋根保護防水 絶縁工法	B-1（絶縁工法）	(増築部)給食室屋上	環境対応型、ﾉﾝｹﾄﾙ冷熱併用工法
	－	－	－

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による

立上り部への断熱材及び絶縁用シート
※設置しない

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　　※水下　80mm以上

立上り部の保護方法
●乾式保護板　窯業系ﾊﾟﾈﾙI型　厚さ15mm

立上り部の防水層の下地
※コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り
※図示による

屋上排水溝
※図示による

第５節　塗膜防水

9.5.3　防水層の種別及び工程

防水層の種類及び工程による種別等は、次による。

防水層の種類	種別	使用箇所	備考
ウレタン	X-1同等（絶縁工法）	(改修部)給食室屋上平場	高靭性(ﾒｯｼｭﾌﾘｰ)
	X-2同等（密着工法）	(改修部)給食室屋上立上、設備基礎	高靭性(ﾒｯｼｭﾌﾘｰ)

第７節　シーリング

9.7.2　材料

(2)　シーリング材の種類及び施工箇所は、次による。

種類は被着体に応じたものとし、標準仕様書表9.7.2を標準とする。

シーリング材の種類	使用箇所	備　考
ポリウレタン系（2成分）	外壁目地	PU-2(ﾉﾝﾌﾞﾘｰﾄﾞ)
変成シリコン系（2成分）	建具廻り・建具水切り	MS-2(ﾉﾝﾌﾞﾘｰﾄﾞ)
シリコン系（1成分）	ガラス廻り	SR-1

9.7.3　目地寸法

(1)　シーリング材の目地寸法は、次による。

箇　所	ｺﾝｸﾘｰﾄの打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地	ガラス回り（標準仕様書16.13.3による場合を除く）	左記以外
幅（mm）	20以上	5以上	10以上
深さ(mm)	10以上	5以上 ※バックアップ材を充填の上、２面接着とすること。	10以上

9.7.5　シーリング材の試験

(2)　接着性試験は、次による。

●　簡易接着性試験

※止水板

(1)　止水板の種類は、次による。

●　反応接着型止水板（非加硫ブチルゴム系）t=6、W=100

第１２章　木工事

第２節　材料

12.2.1　木材

「1.4.1 環境への配慮」により製材等（製材、集成材、合板又は単板積層材）、再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板又は木質系セメント板）を指定された場合は、「東京都環境物品等調達方針(公共工事)」(島しょにおける工事の場合は、「東京都島しょ地域における環境物品等調達方針(公共工事)」)の「製材等」及び「再生木質ボード」による。
また、ホルムアルデヒドの放散量については 標準仕様書「1.4.1 (2)」による。

12.2.2　床張り用合板等

(1)　構造用合板は、次による。

厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等	使用箇所
12.0	杉	１類	２級	Ｃ－Ｄ以上	行う	休憩室(床下地)

(3)パーティクルボードに使用する木質材料が再生資源である場合は、木質材料及び植物繊維の重量比配合割合が50%以上のものを使用するものとし、再生資源以外の場合は、原料の原木は、伐採に当たって、生産された国又は地域における森林に関する法令上の手続きが適切になされたものを使用するものとする。また、曲げ強さ、接着剤等による区分は次による。

厚さ(mm)	曲げ強さによる区分	耐水性	使用箇所	備考
20.0	１８タイプ	Ｍタイプ	休憩室(床下地)	

12.2.3　巾木・框

框の種類は、次による。

●　框：造作材 ﾅﾗ 40*90

※監理者監督員と協議の上決定すること。

12.2.4　接着具等

(3)　接着剤

塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとる。また、施工時及び施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

第１３章　屋根及びとい工事

第4節　とい

13.4.2　材料

(1)　といその他の材種等は、次による。

材　種	材質その他	使用箇所
硬質ポリ塩化ビニル管	カラーVP 100φ	外部竪樋

第１４章　金属工事

第１節　一般事項

14.1.3　材料

(1) グレーチングの材質、メインバーピッチ等は次による。

●　アルミ製（ノンスリップタイプ）・メインバーピッチ22 t=30　　アルミ製アングル受枠
※取外し用フック2本を納入すること

(2) 排水溝廻りの端部処理：ステンレス(SUS304)製アングル枠　L-25×25×3.0

(3) 腰SUS鋼板の種類：SUS304 HL　t=1.2

第２節　表面処理

14.2.1　ステンレスの表面仕上げ

範囲：ライニング天端　　仕上げ：SUS304 HL

第４節　軽量鉄骨天井下地

14.4.2　材料

(2)　野縁等の種類は、次による。

●　屋内は19形、屋外は25形とする。

14.4.3　形式及び寸法

(1)　野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔は、次による。

●　間隔は、900mm程度とし、周辺部は端から 150mm以内とする。

(2)　野縁の間隔は、次による。

天井仕上げの種類	野縁の間隔	ダブル野縁の間隔
下貼りのある場合	360mm 程度	1,800mm 程度
仕上げ材料の直張り、壁紙又は塗装下地の類を直接張付ける場合	300mm 程度	900mm 程度

14.4.4　工法

(1)　吊りボルト受けのインサート及びあと施工アンカーは次による。

ア　既存の埋込みインサート

●使用する

イ　あと施工アンカー　　●接着系

（オ）あと施工アンカーの引き抜き試験

●行う

(2)　吊りボルトの躯体への取付けは、鉄筋コンクリート造等の場合は埋込みインサート又はあと施工アンカーに十分ねじ込み固定する。なお、ダクト等のため、躯体に直接吊りボルトが取り付けられない場合はアングル等の鋼材を別に設けて、吊りボルトを取り付ける。

(6)　開口部の補強

ア　照明器具、ダクト吹出し口類等の開口のために、野縁又は野縁受が切断された場合は、同材で補強する。
また、ダクト等によって、吊りボルトの間隔が900mmを超える場合は、補強を行う。補強方法は次による。

イ　天井点検口等の人の出入りする開口部は、野縁受と同材で取付け用補強財を設けて補強する。

(10)　溶接した箇所は、表18.3.2「亜鉛めっき鋼面さび止め塗料の種別」のＡ種のさび止め塗料を塗りつける。

第５節　軽量鉄骨壁下地

14.5.3　形式及び寸法

(1)　スタッド、ランナーの種類は、次による。

●　65形　　(高さ4.0m以下)

●　90形　　(高さ4.0mを超え4.5m以下)

●　100形　　(高さ4.5mを超え5m以下)※コンクリート立上り部

エキスパンションジョイント金物

材質　●　内部：アルミ製、●　外部：アルミ製

クリアランス　●　100

耐火性能　●　有り

14.5.4　工法

(1)　ランナーは、鉄骨、軽量鉄骨天井下地等に取り付ける場合は、タッピングねじの類又は溶接で固定する。

第１５章　左官工事

第３節　床コンクリート直均し仕上げ

15.3.1　適用範囲

床コンクリート直均し仕上げとする箇所は、次による。

●　コンクリートスラブ、土間及び床全面

第５節　仕上塗材仕上げ

15.5.2　材料

(1)　仕上塗材

エ　仕上塗材の種類、呼び名、仕上げの形状等は、次による。

種　類	呼び名	仕上げの形状等
薄付け仕上塗材	吹付タイル	●　ゆず肌
	防水型薄塗材Ｅ	耐候性：●　１種（アクリルシリコン系）
	（不燃性能）	上塗材：
		溶媒：●　弱溶剤系
		樹脂：●　アクリルシリコン系
		外観：●　つやあり
複層仕上塗材	（外部新設部）	●凸部処理仕上
	防水形複層塗材E：	耐候性：●　1種（アクリルシリコン系）
	超耐久低汚染型	上塗材：
	一液性ｾﾗﾐｯｸ塗装	溶媒：●　エマルション系
		樹脂：●　アクリルシリコン系
		外観：●　つやあり
	（内部改修部）	●凸凹模様
	防水形複層塗材E：	耐候性：●　1種（アクリルシリコン系）
	超耐久低汚染型	上塗材：
	一液性ｾﾗﾐｯｸ塗装	溶媒：●　エマルション系
	（厚付け）	樹脂：●　アクリルシリコン系
		外観：●　つやあり

15.5.5　下地調整

(1)　コンクリートの下地調整

ウ　下地調整塗材は、次による。

●　下地調整塗材 C-2　　（付着物は完全に除去し、傷、不陸、目違い等は補修調整を行う）

(3)　せっこうボード面及びその他のボード面の下地調整は、次による。

ア　「せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえ」のB種とする。

イ　合成樹脂エマルションクリヤーを全面に塗り付ける。

第１６章　建具工事

第１節　一般事項

16.1.3　防火戸

(1)　防火戸の指定は、次による。

●　図面による

(3)　防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動は、次による。

●　図面による

第２節　アルミニウム製建具

16.2.2　性能及び構造

(2)　アルミニウム製建具の性能値等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	使用箇所
Ｂ種	Ｓ－５	Ａ－３	Ｗ－４	７０	図面による

16.2.3　材料

(5)　網戸防虫網は、次による。

●　ステンレス（SUS316）製

16.2.4　形状及び仕上げ

(4)　アルミニウムの表面処理の種別、色等は、次による。

建具の種類	表面処理の種別	色	使用箇所
外部に面する建具	BB－１種	標準色	図面による
屋内建具	BC－１種	標準色	図面による

第５節　鋼製軽量建具

16.5.3　材料

(5)　召合せ、縦小口包み板等の材質は、次による。

●　亜鉛めっき鋼板

第８節　建具用金物

16.8.4　鍵

(1)　マスターキーの製作は、次による。

●　既存マスターキーに組み込む。

第１０節　自閉式上吊り引戸装置

16.10.3　性能等

(2)　自閉式上吊り引戸装置の性能は、次による。

※　標準仕様書　表16.9.1により、適用する戸の質量に応じたものとする。

第１４節　ガラス

16.14.2　材料

(1)　板ガラス

フロート板ガラス、型板ガラス、網入り板ガラスは、次による。

種類・品種等	厚さ	使用箇所
●　網入透明ガラス(PW)	t6.8	図面による
●　学校用強化ガラス(T)	t4.0	図面による
●　複層ガラス	Tt4.0+At6+Tt4.0 PWt6.8+At6+Tt4.0	図面による

第１８章　塗装工事

第１節　一般事項

18.1.3　材料

(5)　塗料は、トルエン等の含有量の少ない規格品とし、水性形のものを原則とするほか、図面（仕上表等）による。また、低VOC塗料は、次による。

ア　建築物内装用の塗料は、有害金属類を添加していない塗料であって、VOC含有量1%以下（鉄部用は5%以下）の水性塗料であること。

イ　建築物外装用の塗料は、有害金属類を添加していない塗料であって、従来の溶剤型塗料と比較しVOC含有量を低減して塗料であること。
塗布に当っては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

第２節　素地ごしらえ

18.2.2　木部の素地ごしらえ

木部の素地ごしらえの種別等は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ａ種	不透明塗料塗り　額縁	

18.2.4　亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえの種別等は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	鋼製建具及び鉄部	

18.2.6　コンクリート面及びＡＬＣパネル面の素地ごしらえ

コンクリート面及びＡＬＣパネル面の素地ごしらえの種別等は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	内外壁　吹付タイル 【防水型複層塗材Ｅ】 （不燃区画部は不燃性能を要す）	

18.2.8　せっこうボード及びその他のボード面の素地ごしらえ

せっこうボード及びその他のボード面の素地ごしらえの種別等は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	内壁　吹付タイル 【防水型複層塗材Ｅ】 （不燃区画部は不燃性能を要す）	

第３節　さび止め塗料塗り

18.3.2　塗料種別

（1）　鉄鋼面のさび止め塗料の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ａ種	特記なき鉄部	

（2）　亜鉛めっき鋼面のさび止め塗料の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	鋼製建具	

第８節　つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）

18.8.2　つや有合成樹脂エマルションペイント塗りの種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	鉄鋼面	

第９節　合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）

18.9.2　合成樹脂エマルションペイント塗りの種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ｂ種	ボード面、コンクリート面	

第１３節　結露防止塗料

18.13.2　結露防止塗料の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　Ａ種	天井	調湿性、防カビ性

ｴﾏﾙｼｮﾝ系ｱｸﾘﾙ樹脂塗材

第１４節　コンクリート保護塗料

18.14.2　コンクリート保護塗料の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　フッ素樹脂系 撥水材塗装	既存外巾木	
●　ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ系 水性疎水材塗装	増築外巾木	

第１９章　内装工事

第１節　一般事項

19.1.2　基本品質

(5)　内装工事に用いる接着剤は、トルエン等の含有量の少ない規格品とし、接着材に含まれる可塑剤は、フタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシルを含まない難揮発性（沸点300℃以上）のものとする。
ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量は、次による。

●　規制対象外（ 標準仕様書「1.4.1 (2)」による。）又はＦ☆☆☆☆

塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。
また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

第２節　ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

19.2.2　材料

（1）　ビニル床シートの種類、色柄、厚さ等は、次による。

規格・品質	色　柄	厚　さ	使用箇所
特殊防滑（ＮＦ）		2.0	図示による（VS(1)）
ＮＣ	一般	2.0	図示による（VS(2)）

※調理室内の床の色分けについては、監督員と協議の上決定すること。

（4）　ビニル幅木の厚さ、高さ等は、次による。

●　厚さ：1.5㎜　　高さ：100㎜

（6）　接着剤

ウ　ビニル床シート及びビニル床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量は、次による。

●　規制対象外（ 標準仕様書「1.4.1 (2)」 による。）又はＦ☆☆☆☆

19.2.3　施工

（2）　ビニル床シート張り

ウ　ビニル床シートの継目処理工法は、次による。

●　熱溶接工法　溝：Ｕ字形

第５節　フローリング張り

19.5.2　材料

フローリングは、「フローリングの日本農林規格」による。

19.5.3　工法一般

（1）　フローリングの種別、工法等は、次による。

種　別	樹　種	寸法等	工　法	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量	使用箇所
化粧複合フローリング	なら	標準仕様書表19.5.4のＣ種 厚さ：12㎜	釘止め工法	Ｆ☆☆☆☆	休憩室

表面ツキ板t=2㎜以上とする。（塗装品）

第７節　せっこうボード、その他ボード及び合板張り

19.7.2　材料

（1）　せっこうボード、その他のボード類の種類、厚さ等は、次による。

種　類	規格・品質	厚　さ	使用箇所
石膏ボード	GB-R	9.5、12.5	図示による
耐水石膏ボード	GB-S	12.5	
強化石膏ボード（不燃）	GB-F	12.5	
硬質石膏ボード（不燃）	GB-R-H	9.5	
化粧石膏ボード	GB-D	9.5	
吸音穴あき石膏ボード（不燃）	GB-P	9.5	
ケイ酸カルシウム板（不燃）	FK	6.0	
化粧ケイ酸カルシウム板（不燃）	化粧FK	6.0	

19.7.3　工法

（1）　下地は、次による。

●　軽量鉄骨下地

（7）　せっこうボードの目地工法の種類は、次による。

●　テーパー突付け工法（継目処理なし）

第８節　壁紙張り

19.8.2　材料

（1）　壁紙の種類、防火性能は、次による。
また、ISM マーク（壁装材料協会の自主規格）、SV マーク（壁紙製品規格協議会の自主規格）表示品又はこれらと同等の基準及び性能に適合するものとする。

種　類	防火性能	使用箇所
ビニルクロス	１種(不燃)	図示による

19.8.3　施工

（2）　せっこうボード面の素地ごしらえは、次による。

●　Ｂ種

第２０章　ユニット及びその他の工事

第１節　一般事項

20.1.2　基本品質

（4）　ユニット工事に用いる接着剤は、トルエン等の含有量の少ない規格品とし、接着材に含まれる可塑剤は、フタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシルを含まない難揮発性（沸点300℃以上）のものとする。
ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量は、次による。

●　規制対象外（ 標準仕様書「1.4.1 (2)」 による。）又はＦ☆☆☆☆

20.2.6　黒板及びホワイトボード

（1）　黒板及びホワイトボードに使用する合板類のホルムアルデヒド放散量は、Ｆ☆☆☆☆とする。

20.2.10　コーナーガード

（1）　コーナーガードの材種は、次による。

●　笠木：耐衝撃性塩化ビニール樹脂製エンボス仕上げ（抗菌剤入り）
笠木受：アルミ押出型材 アルマイト処理
クッション／特殊軟質樹脂　　エンドキャップ／耐衝撃性樹脂エンボス仕上げ

（1）　壁ガード(ストレッチャーガード)の材種は、次による。

●　笠木：耐衝撃性塩化ビニール樹脂製エンボス仕上げ（抗菌剤入り）
笠木受：耐衝撃性塩化ビニール樹脂製
Ｒエンド／コーナーキャップ耐衝撃性ＡＢＳ樹脂

20.2.13　家具類

(1)　収納、収納家具、住宅設備機器及び建具類に用いる合板類のホルムアルデヒド放散量は、次による。

●　規制対象外（ 標準仕様書「1.4.1 (2)」 による。）又はＦ☆☆☆☆

(2)　MDF及びパーティクルボードは再生資源である木質材料及び植物繊維の重量比配合割合が50%以上とし、再生資源以外の場合は、原料の原木は、伐採に当たって、生産された国又は地域における森林に関する法令に照らして手続きが適切になされたものとする。
ホルムアルデヒド放散量は、次による。

●　規制対象外（ 標準仕様書「1.4.1 (2)」 による。）又はＦ☆☆☆☆

20.2.14　サイン工事

館名表示、室名札、ピクト表示に関しては原則として、「調布市サイン整備方針」及びJIS Z8210に基づき、その図柄を選定することとする。
なお選定にあたっては、監督員の承諾を受けること。

その他の工事

【エプロンフック】　SUS製品とし、フックは可動式、L600程度とする
【シューズラック】　既製品　4台

第２１章　外構工事

第２節　舗装工事

21.2.3　アスファルト舗装

(1)　路床の構成及び仕上がり

ア　舗装の厚さは、次による。

●　図面による

(2)　材料

ア　舗装材料は、次による。

●　図面による

第３節　排水工事

21.3.3　材料

(1) グレーチングの材質、適用荷重、メインバーピッチ等は次による。

●　アルミ製ノンスリップグレーチング・t=30・メインバーピッチ22
●　フックについても2本納入すること

第２７章　塗装改修工事

第２節　下地調整

27.2.1　一般事項

既存塗膜の除去範囲は、次による。

●　塗膜の劣化部分

27.2.2　木部の下地調整

木部の下地調整の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　ＲＢ種	枠・カーテンボックス	

27.2.3　鉄鋼面の下地調整

鉄鋼面の下地調整の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　ＲＢ種	鉄骨	

27.2.5　モルタル及びプラスター面の下地調整

モルタル及びプラスター面の下地調整の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　ＲＢ種	内壁、梁	

27.2.6　コンクリート面及びＡＬＣパネル面の下地調整

コンクリート面及びＡＬＣパネル面の下地調整の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　ＲＢ種	内壁、梁	

27.2.8　せっこうボード面及びその他ボード面の下地調整

せっこうボード面及びその他ボード面の下地調整の種別は、次による。

種　別	施工部位及び塗料の種別	備　考
●　ＲＢ種	内壁	

第２８章　あと施エアンカー工事

第２節　材料

28.2.1　あと施エアンカー

(1)　あと施エアンカーは次による。

●　接着系アンカー　　●　土間床、壁新設部

(2)　あと施エアンカーの性能確認試験は、次による。

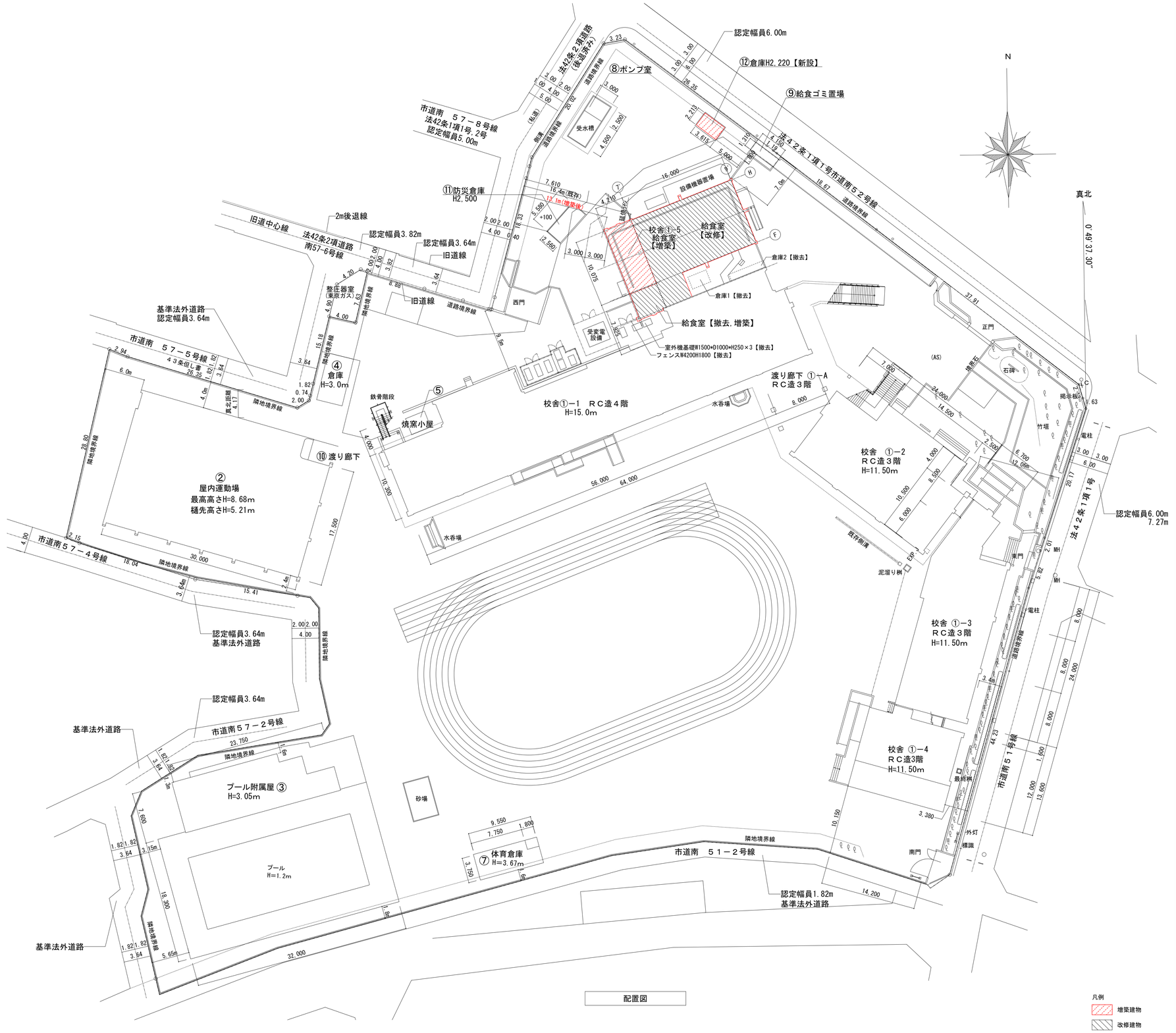
●　行う

敷地内建物一覧表

区分	番号	名称	構造	階数	建築面積 (m2)	床面積 計 (m2)	最高の高さ (m)	備考
増築	1 (①-5)	校舎(給食室)	R C	1 階	45.01	45.01	6.60	
新設	⑫	倉庫	S	1 階	7.99	7.99	2.22	
申請建物 小計					53.00	53.00		
既存	①-1	校舎	R C	4 階	1,085.64	3,316.96	15.00	昭和45年 5月新築
	①-2	校舎	R C	3 階	490.92	1,058.23	11.50	昭和55年 5月増築
	①-A	渡り廊下	S			26.84		平成 4年 9月増築
	①-3	校舎	R C	3 階	334.86	972.70	11.50	平成23年 5月増築
	①-4	校舎	R C	3 階	177.84	468.56	11.50	令和 4年 9月増築
	②	屋内運動場	RC＋S	2 階	616.33	648.19	8.68	平成23年 5月増築
	③	プール附属屋	R C	1 階	96.84	96.84	4.88	平成 5年 3月増築
	④	倉庫	C B	1 階	26.25	26.25	3.00	昭和46年 8月増築
	⑤	焼窯小屋	C B	1 階	7.77	7.77	3.00	昭和51年 12月増築
	⑦	体育倉庫	R C	1 階	35.81	33.38	3.67	平成 6年 3月増築
	⑧	ポンプ室	S	1 階	7.50	7.50	2.815	平成10年 6月増築
	⑨	給食ゴミ置場	R C	1 階	5.43	5.43	3.55	平成 6年 3月増築
	⑩	渡り廊下	S	1 階	28.00	28.00	3.55	昭和46年 3月増築
	⑪	防災倉庫	S	1 階	14.28	14.28	2.50	平成27年 3月増築
既存建物 小計					2,927.47	6,710.93		
申請建物＋既存建物 合計					2,980.47	6,763.93		

調布市立多摩川小学校
調布市多摩川三丁目２１番地１外

案内図

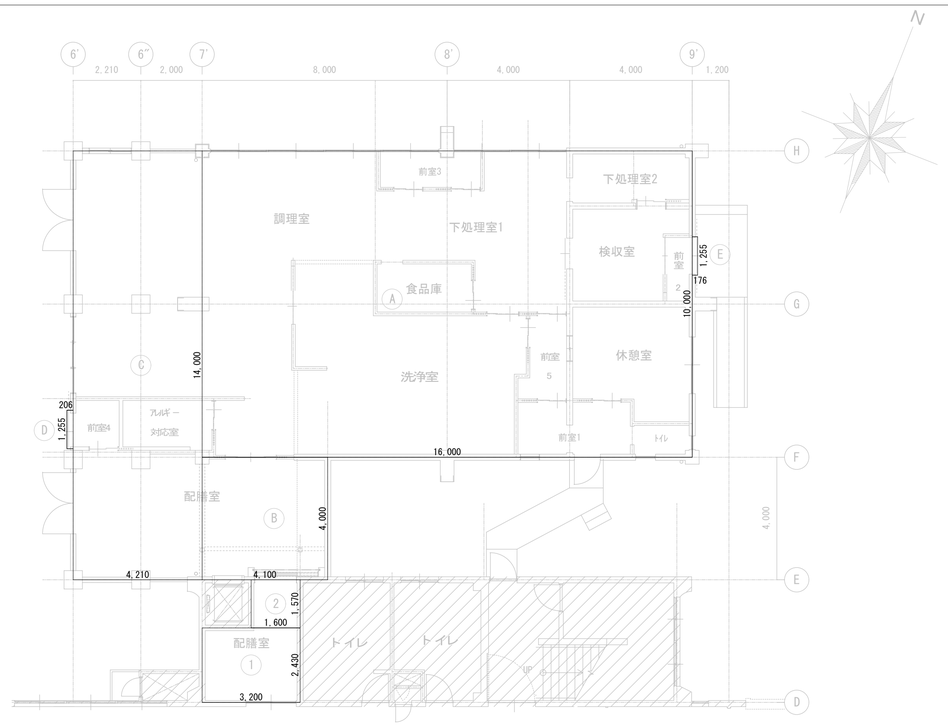


配置図

凡例
増築建物
改修建物

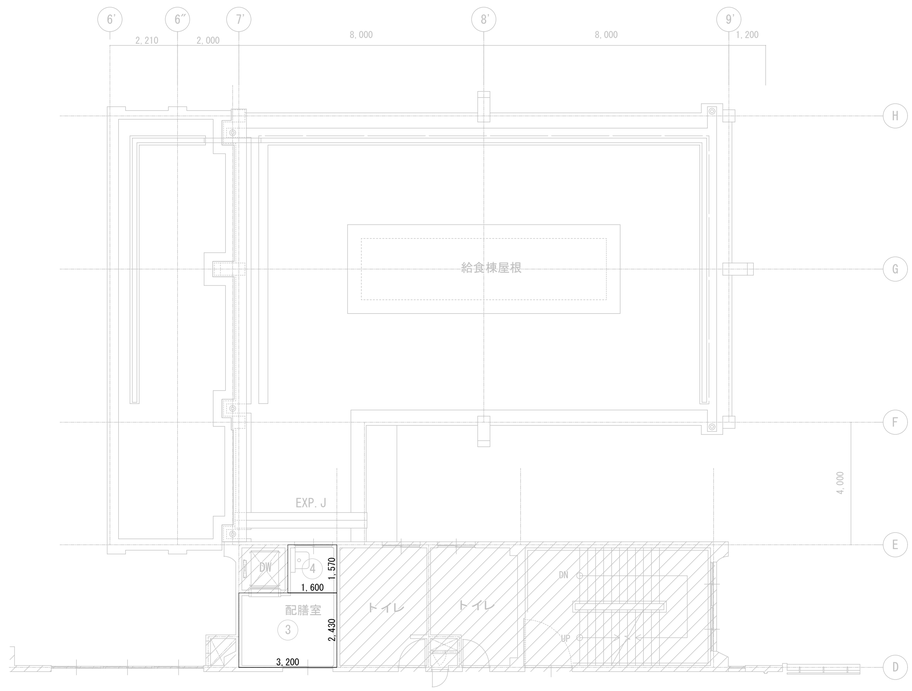
記事		株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 －
			図面名称 案内図・配置図	縮尺 A1: 1/300 A3: 1/600	図面番号 A-09

1階求積図



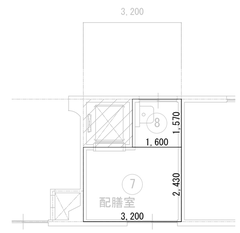
1階平面図

2階求積図



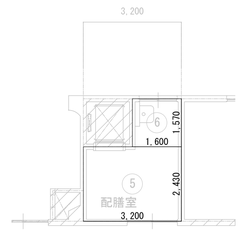
2階平面図

4階求積図



4階平面図

3階求積図



3階平面図

給食棟(既存+増築) 1階床面積 面積表

符号	X	Y	面積(㎡)
A	16.000	10.000	160.000
B	4.100	4.000	16.400
C	4.210	14.000	58.940
D	0.206	1.255	0.2585
E	0.176	1.255	0.2209
小計(4桁)			235.819
小計(三桁目切り捨て)			235.81

給食棟(増築) 建築面積 面積表

符号	X	Y	面積(㎡)
C	4.210	14.000	58.940
D	0.206	1.255	0.259
小計(4桁)			59.199
小計(三桁目切り捨て)			59.19

付属建物 面積表

符号	X	Y	面積(㎡)
倉庫1(撤去)	2.900	1.900	5.510
倉庫2(撤去)	5.500	1.000	5.500
倉庫3(新設)	3.615	2.213	7.999

撤去建物 面積表

符号	X	Y	面積(㎡)
倉庫1(撤去)	4.000	3.600	14.40

校舎棟(既存) 1階床面積 面積表

符号	X	Y	面積(㎡)
1	3.200	2.430	7.776
2	1.600	1.570	2.512
小計(4桁)			10.288
小計(三桁目切り捨て)			10.28

校舎棟(既存) 2階床面積 面積表

符号	底辺	高さ	面積(㎡)
3	3.200	2.430	7.776
4	1.600	1.570	2.512
小計			10.288
小計(三桁目切り捨て)			10.28

校舎棟(既存) 3階床面積 面積表

符号	底辺	高さ	面積(㎡)
5	3.200	2.430	7.776
6	1.600	1.570	2.512
小計			10.288
小計(三桁目切り捨て)			10.28

校舎棟(既存) 4階床面積 面積表

符号	底辺	高さ	面積(㎡)
7	3.200	2.430	7.776
8	1.600	1.570	2.512
小計			10.288
小計(三桁目切り捨て)			10.28

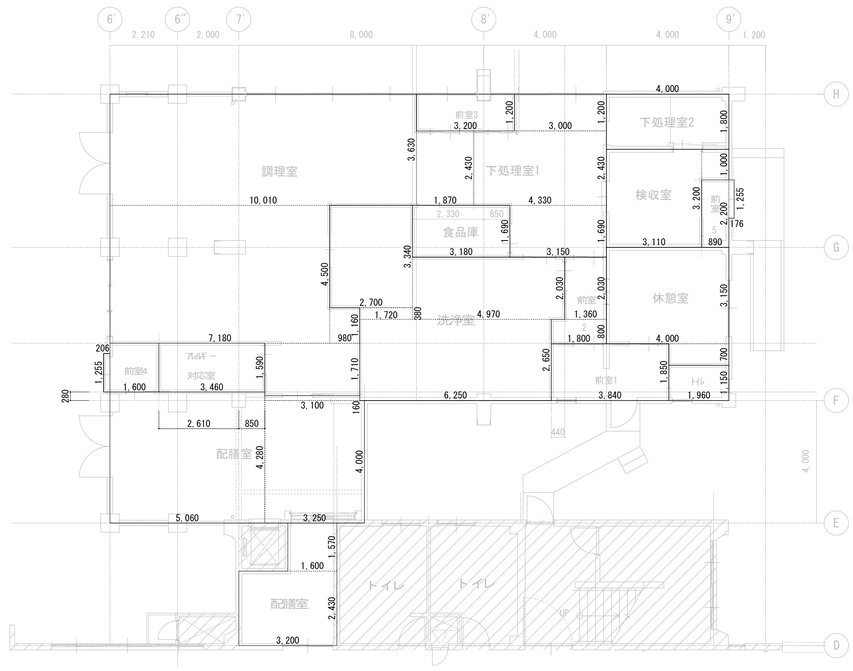
(既存+増築部)延床面積		
【給食棟】	A ～ E	235.81 ㎡
【校舎棟】	1 ～ 8	41.12 ㎡
		276.46 ㎡

(増築部のみ)延床面積、建築面積	
C + D + E	59.41 ㎡

給食棟 各室床面積 面積表

階	室名	底辺(m)	高さ(m)	面積(㎡)	計
【給食室】1階	配膳室	5.060	4.280	21.657	
		3.100	0.160	0.496	
		3.250	4.000	13.000	35.152 ㎡
	調理室	10.010	3.630	36.336	
		7.180	4.500	32.310	
		3.100	1.710	5.301	
		1.870	2.430	4.544	
		0.980	1.160	1.137	79.628 ㎡
	洗浄室	6.250	2.650	16.563	
		1.700	0.380	0.646	
		2.680	3.340	8.951	
		4.990	2.030	10.130	36.289 ㎡
	下処理室 1	4.330	2.430	10.522	
		3.150	1.690	5.324	
		3.000	1.200	3.600	19.445 ㎡
	下処理室2	4.000	1.800	7.200	7.200 ㎡
	休憩室	4.000	3.150	12.600	
		1.960	0.750	1.470	14.070 ㎡
	検収室	3.110	3.200	9.952	
		0.890	1.000	0.890	10.842 ㎡
	前室1	3.840	1.850	7.104	7.104 ㎡
	前室2	1.360	2.030	2.761	
		1.800	0.800	1.440	4.200 ㎡
	前室3	3.200	1.200	3.840	3.840 ㎡
	前室4	1.600	1.590	2.544	
		0.206	1.255	0.259	2.802 ㎡
	前室5	0.890	2.200	1.958	
		0.176	1.255	0.221	2.178 ㎡
	アレルギー対応室	3.460	1.590	5.501	5.501 ㎡
	食品庫	3.200	1.690	5.408	5.408 ㎡
	トイレ	1.960	1.100	2.156	2.156 ㎡

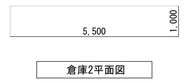
1階各室求積図



1階平面図

付属建物求積図

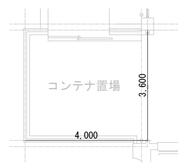
倉庫1平面図



倉庫2平面図

倉庫3平面図

撤去建物求積図



記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
求積図・面積表	A1: - A3: -	A-10

外部仕上表

給食室 屋上 (改修部)	(改修前)	平場：ｺﾝｸﾘｰﾄ下地+均ﾓﾙﾀﾙt20+ｱｽﾌｧﾙﾄ防水層+ｼﾝｸﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄt40～100押え+ 仕上ﾓﾙﾀﾙt20【存置】 +ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)(既存目地シール@3000共)【撤去・目荒し】 立上り、設備基礎：ｺﾝｸﾘｰﾄ下地+樹脂ﾓﾙﾀﾙ+ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)【存置】 他：ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ端部固定金物(ｱﾝｸﾞﾙ30L)【存置】
	(改修後)	平場：高靭性ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-1同等)一部ｼﾝｸﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄt40～100(D10@200ﾀﾃﾖｺ) +ﾓﾙﾀﾙt20　金属製目地@3000【下地調整の上新設】 立上り、設備基礎周り：高靭性ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2同等)【下地調整の上新設】
給食室 屋上 (解体部)	(改修前)	着色耐酸ｱｸﾘﾙ被覆鋼板波板葺H=35t0.8【撤去】
給食室 屋上 (増築部)	(改修後)	平場：ｺﾝｸﾘｰﾄ下地+改質ｱｽﾌｧﾙﾄ防水(ﾉﾝｶﾄﾙﾅ冷熱併用工法)+ 保護ｺﾝｸﾘｰﾄt80(D10@200ﾀﾃﾖｺ)　金属製目地@3000【新設】 立上り：ｺﾝｸﾘｰﾄ下地+改質ｱｽﾌｧﾙﾄ防水(ﾉﾝｶﾄﾙﾅ冷熱併用工法)+乾式保護板【新設】 (立上り天端)高靭性ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2同等)【新設】 他：立上り防水端末部固定金物(ｱﾝｸﾞﾙ30Lｼｰﾘﾝｸﾞ共)【新設】

給食室 外壁 (改修部)	(改修前)	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し+ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き+ﾘｼﾝ吹付+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3相当] 【撤去】 庇裏：ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き+ﾘｼﾝ吹付+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3相当] 【撤去】 巾木：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ【存置】
	(改修後)	超耐久低汚染型一液性ｾﾗﾐｯｸｼﾘｺﾝ樹脂塗装【下地調整の上新設】 庇裏：透湿性複層塗材E【下地調整の上新設】 巾木：ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ系基礎巾木塗材【新設】
給食室 外壁 (解体部)	(改修前)	硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板t12+ﾘｼﾝ吹付【撤去】 庇：木毛ｾﾒﾝﾄ板t18+ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ+ｶﾗｰ鋼板t0.4【撤去】 庇裏：FKt6+VP[※3]【撤去】
給食室 外壁 (増築部)	(改修後)	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し+超耐久低汚染型一液性ｾﾗﾐｯｸｼﾘｺﾝ樹脂塗装【新設】 庇裏：透湿性複層塗材E【新設】

その他	(改修前)	縦樋：塩ﾋﾞ製φ100【撤去】 ﾄﾞﾚｲﾝ：鋳鉄製横引φ100【撤去】
	(改修後)	縦樋：硬質塩ﾋﾞ製φ100【新設】 ﾄﾞﾚｲﾝ：改修ﾄﾞﾚｲﾝ横引φ100【新設】
出入口 ﾎﾞｰﾁ1,2	(改修前)	床：RC+M金ｺﾃ【撤去】、段部：RC+SUS製ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ【撤去】
	(改修後)	床：RC+M金ｺﾃ【新設】、段部：RC+SUS製ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ【新設】

倉庫1	(改修前)	屋根、外壁：鋼板(波型)【撤去】
倉庫2	(改修前)	屋根：ｽﾚｰﾄ板(波型)[※3]【撤去】 外壁：ﾌﾚｷｼﾌﾞﾎﾞｰﾄﾞt15[※3]【撤去】
	(改修後)	屋根・外壁：鋼板【新設】
外構	(改修前)	アスファルト舗装【一部撤去】、砂利敷き【一部撤去】、畑【一部撤去】、 縁石【一部撤去】設備基礎【存置】、既存樹木【一部剪定】
	(改修後)	アスファルト舗装【一部新設】、砂利敷き【一部新設】、畑【一部新設】、 縁石【一部新設】設備基礎【新設】

内部仕上表

棟	階	室名		レベル(FL) 躯体	レベル(FL) 仕上	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	巾木 高さ	壁 下地	壁 仕上	腰壁 仕上	腰壁 高さ	天井 下地	天井 仕上	廻り縁	天井高	備考
給食棟	1F	調理室	(改修前)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【存置】	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打t190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt30～90【撤去】 ｺﾝｸﾘｰﾄ増打t190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt30～90【一部撤去】	磁器質ﾀｲﾙ 【撤去】	—	RC【存置】 RC【一部撤去】	M+ アクリル系吹付タイル[※3]【撤去】	M+100角陶器質ﾀｲﾙ 【撤去】	H1500	LGS【撤去】	FKt6+結露防止塗料吹付[※3]【撤去】	ｱﾙﾐ製 【撤去】	H2470,2600 2850,3100	
		ｺﾝﾃﾅ置場	(改修前)	-450	±0～-30	砕石t150+ RCt150 【撤去】	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打t360+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt60～90(溶接金網φ6×@150)【撤去】	磁器質ﾀｲﾙ 【撤去】	—	LGS+RC【撤去】	GB-St9.5+ アクリル系吹付タイル[※3]【撤去】	M+100角陶器質ﾀｲﾙ 【撤去】	H1500	LGS【撤去】	FKt6+結露防止塗料吹付[※3]【撤去】	ｱﾙﾐ製 【撤去】	H2600	
		調理室	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ピンク]【新設】、 一部合成樹脂塗床t6(耐熱用)【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置・新設】 LGS【新設】+ 断熱【一部新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	FKt6(突付)+結露防止塗料吹付【新設】	ｱﾙﾐ製 【新設】	H2800	ストレッチャー手摺2段、コーナーガード、 モップハンガーL900(5本掛)、ペーパーホルダー、設備基礎H50
		食品庫	(改修後)	-280	±0	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ミドリ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	LGS【新設】	GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	ストレッチャー手摺2段
		下処理室1	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ミドリ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】+ 断熱【一部新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2800	ストレッチャー手摺2段、コーナーガード、 モップハンガーL900(5本掛)
		洗浄室	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色オレンジ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】+ 断熱【一部新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	SUS板HLt0.8【新設】 CB+M+SUS板HLt0.8【新設】	H800 H1500	LGS【新設】	FKt6(突付)+結露防止塗料吹付【新設】	ｱﾙﾐ製 【新設】	H2800	ストレッチャー手摺2段、コーナーガード モップハンガーL900(5本掛)
		ｱﾚﾙｷﾞｰ 対応室	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【一部新設】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ピンク]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	LGS【新設】 LGS【新設】	GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】 GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	ストレッチャー手摺2段、流し台(W750)、ガスキャビネット(W600) レンジフード(W600)、ウォールキャビネット(W750)
		配膳室	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【一部新設】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色アオ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】+ 断熱【一部新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2800	ストレッチャー手摺2段、コーナーガード、 モップハンガーL900(5本掛)
		前室2	(改修後)	-280	±0	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ベージュ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】 GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	荷物掛用レールW1800(フック20個)
		前室3	(改修後)	-280	±0	砕石t150+ RCt150 【存置】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ベージュ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	荷物掛用レールW800(フック10個)
		前室4	(改修後)	-280	±0～-60	砕石t150+ RCt150 【新設】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt30～90+VS(1)t2.0[床色ベージュ]【新設】	VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】 GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	ストレッチャー手摺2段、モップハンガーL500(3本掛)、吊戸棚
		食品庫	(改修前)	-30	+5～-30	砕石t150+ RCt150 【撤去】	勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt+5～30【撤去】	M 【存置】	H100	RC【存置】	M+ アクリル系吹付タイル[※3]【撤去】	M+100角陶器質ﾀｲﾙ 【撤去】	—	LGS【撤去】	FKt6+結露防止塗料吹付[※3]【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2600	
		下処理室2	(改修後)	-30	+5～-30	砕石t150+ RCt150 【新設】	勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt+5～30+VS(1)t2.0[床色ミドリ]【新設】	M+VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	SUS板HLt0.8【新設】	H800	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2600	ストレッチャー手摺2段、コーナーガード
		下処理室	(改修前)	-30	+5～-30	砕石t150+ RCt150 【撤去】	勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt+5～30+合成樹脂アクリル系塗材【撤去】	M 【存置】	H100	RC【存置】	M+ アクリル系吹付タイル[※3]【撤去】	—	—	LGS【撤去】	FKt6+結露防止塗料吹付[※3]【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2600	
		検収室	(改修後)	-30	+5～-30	砕石t150+ RCt150 【新設】	勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt+5～30+VS(1)t2.0[床色ミドリ]【新設】	M+VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	SUS板HLt0.8【新設】	H800	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2600	コーナーガード
		前室5	(改修後)	-30	+5～-30	砕石t150+ RCt150 【新設】	勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt+5～30+VS(1)t2.0[床色ベージュ]【新設】	M+VS(1)巻上 【新設】	H200	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	ストレッチャー手摺2段、モップハンガーL500(3本掛)、吊戸棚
		前室	(改修前)	-30	±0～-60 ±0～-30	砕石t150+ RCt150 【一部撤去】	ｼﾝｸﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄt190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt30～90【撤去】 勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt±0～30【一部撤去】+合成樹脂アクリル系塗材【撤去】	M 【存置】	H100	RC【存置】 LGS【撤去】	M【存置】+ アクリル系吹付タイル[※3]【撤去】 GB-Rt9.5+ VP[※3]【撤去】	—	—	LGS【撤去】	FKt6+VP[※3]【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2400	
		前室1	(改修後)	-30	±0～-60 ±0～-30	砕石t150+ RCt150 【一部新設】	普通Ct190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt60～90+VS(1)t2.0[床色ベージュ]【新設】 勾配ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃt±0～30【一部新設】+VS(1)t2.0【新設】、鋼製床組+VS(2)t2.0【新設】	M+VS(1)巻上, ﾋﾞﾆﾙ巾木 【新設】	H200 H100	RC【存置】 LGS【新設】 LGS【新設】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】 GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】 GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】 GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	荷物掛用レールW700×2段(フック10個)
		休憩室	(改修前)	±0	+150	RCt230 【一部撤去】	鋼製床組+スタイロタタミt55【撤去】、鋼製床組+化粧桧FLt12【撤去】	畳寄 【撤去】	—	RC【存置】	M【存置】+VC【撤去】 LGS+GB-Rt9.5+VC【撤去】	—	—	LGS【撤去】	GB-D(杉柾)t9.5【撤去】	杉 【撤去】	H2500	
		脱衣室	(改修前)	±0	+150	RCt230 【一部撤去】	鋼製床組+ VSt2[※3]【撤去】	ｿﾌﾄ巾木 [※3] 【撤去】	H100	RC【存置】 LGS【撤去】	M+ VP[※3]【撤去】 GB-St9.5+ VP[※3]【撤去】	—	—	LGS【撤去】	FKt6+VP[※3]【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2250	
		休憩室	(改修後)	±0	+150	RCt230 【一部新設】	M補修【一部新設】+鋼製床組+スタイロタタミt55【新設】、 鋼製床組+VS(2)t2.0【新設】	畳寄, ﾋﾞﾆﾙ巾木 【新設】	H100	RC【存置】 LGS【新設】+ 断熱【一部新設】	下地調整の上M+VC【新設】 GB-Rt12.5+9.5+VC【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2500	カーテンレール吊下用、カーテンレール(シングル)(開口部用)、 流し台(W900)
		トイレ	(改修前)	-80	-50	砕石t150+ RCt150 【一部撤去】	50角モザイクタイル張【撤去】	磁器質ﾀｲﾙ 【撤去】	—	RC【存置】	M+100角磁器質タイル【撤去】	—	—	LGS【撤去】	FKt6+VP[※3]【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2400	
		ｼｬﾜｰ室	(改修前)	-10	±0	砕石t150+ RCt230 【撤去】	50角モザイクタイル張【撤去】	磁器質ﾀｲﾙ 【撤去】	—	RC【存置】	M+100角磁器質タイル【撤去】	—	—	LGS【撤去】	バスリブ張【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2380	
		トイレ	(改修後)	-80	+150	砕石t150+ RCt150 【新設】	M補修【一部新設】+VS(2)t2.0【新設】	ﾋﾞﾆﾙ巾木 【新設】	H100	RC【存置】 LGS【新設】	下地調整の上M+VC【新設】 GWt50(24k)+GB-St12.5+9.5+VC【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2400	吊戸棚
校舎棟	1F	給食配膳室	(改修前)	-10	±0	RCt110 【存置】	M【存置】+ VSt2[※3]【撤去】	M+EP 【存置】	H100	RC【存置】	M+EP【存置】	—	—	LGS【撤去】	GB-Dt9.5【撤去】	塩ﾋﾞ 【撤去】	H2515	
		給食配膳室	(改修後)	-10	±0	RCt110 【存置】	下地調整の上、VS(2)t2.0【新設】	EP 【下地調整+ 新設】	H100	RC【存置】	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】	—	—	LGS【新設】	GB-Dt9.5【新設】	塩ﾋﾞ 【新設】	H2515	
	2～4F	給食配膳室	(改修前)	-10	±0	RCt110 【存置】	M【存置】+ VTt2[※3]【存置】	M+EP 【存置】	H100	RC【存置】	M+EP【存置】	—	—	LGS【存置】	GB-Pt7(有孔)+EP【存置】	塩ﾋﾞ 【存置】	H2515	
		給食配膳室	(改修後)	-10	±0	RCt110 【存置】	M【存置】+ VTt2[※3]【存置】	EP 【存置】	H100	RC【存置】	M+EP【存置】	—	—	LGS【存置】	GB-Pt7(有孔)+EP【存置】	塩ﾋﾞ 【存置】	H2515	

下地材料表示記号		仕上材料表示記号及び防火性能							塗装材料表示記号	
S	鋼製	GB-R	せっこうボード	t9.5	準不燃	QM-9828	FL	フローリング	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
RC	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	GB-R	せっこうボード	t12.5	不燃	NM-8619	VS(1)	特殊防滑ビニル床シート(耐熱)	EP-G	つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り
普通C	普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	GB-S	シージングせっこうボード	t12.5	準不燃	QM-0898	VS(2)	ビニル床シート(抗菌)	CL	クリアラッカー塗り
M	ﾓﾙﾀﾙ	GB-F	強化せっこうボード	t12.5	不燃	NM-8615	VT	ビニル床タイル	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	GB-R-H	普通硬質せっこうボード	t9.5	不燃	NM-9645	VC	ビニルクロス	DP	耐候性塗料塗り
ALC	発泡普通ｺﾝｸﾘｰﾄ板	GB-D	化粧せっこうボード	t9.5	準不燃	QM-0524	GW	グラスウール	VP	塩化ビニルエナメル
LGS	普通鋼製	GB-P	吸音穴あきせっこう膏ボード	t9.5	不燃	NM-5430				
W	木製	FK	ケイ酸カルシウム板	t6.0	不燃	NM-2773				
		化粧FK	化粧ケイ酸カルシウム板	t6.0	不燃	NM-4487				

一般共通事項

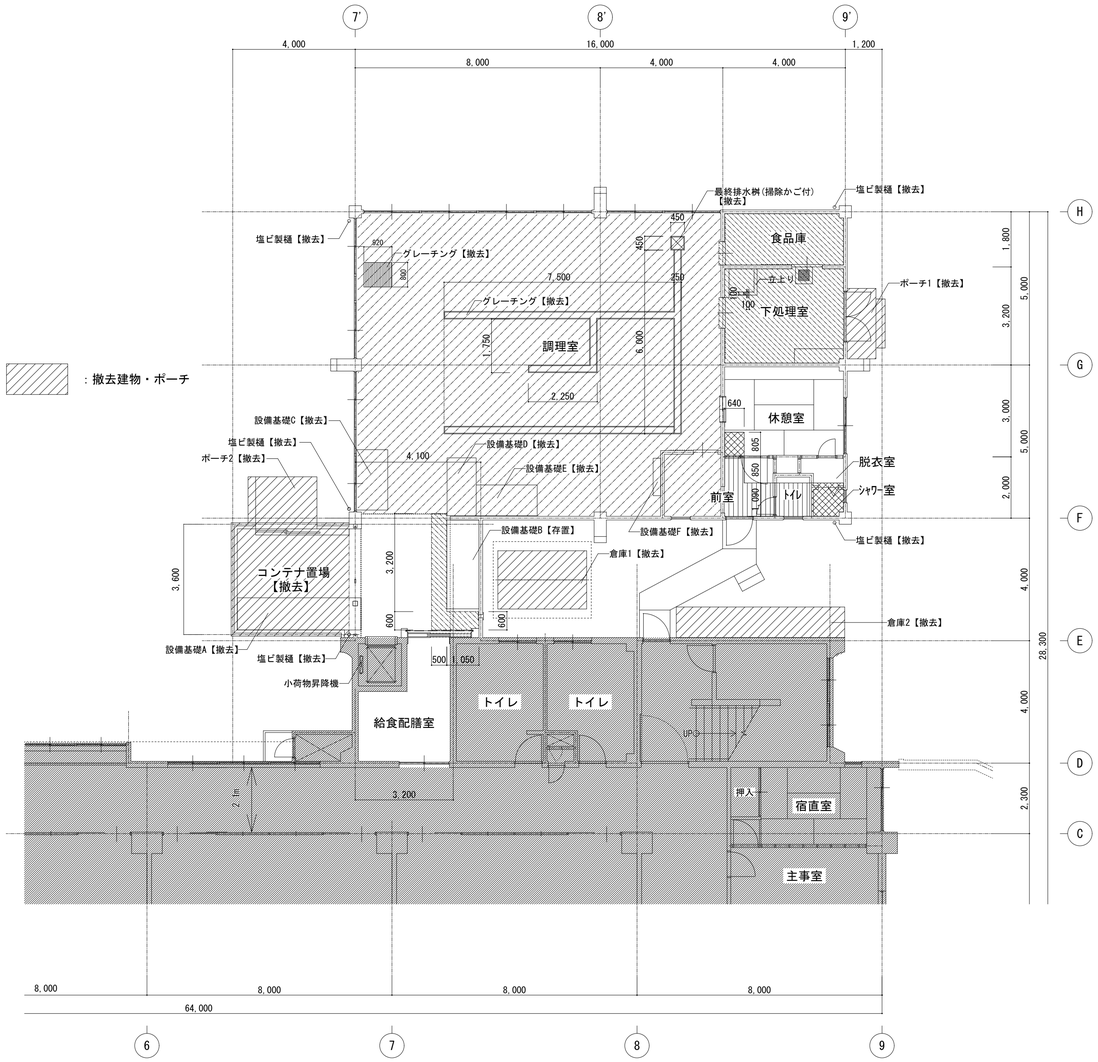
1 特記なき限り、打放しコンクリートは外部増し打ち20mmとする。
内部のコンクリート打放し表し面は増し打ち10mmとする。
2 耐火構造壁はGB-Ft21+21(片面)とする。(ボード張りはスラブ下まで)
3 カーテンボックスにはカーテンレール(ダブル)を取付ける。
4 内部EXP.J金物のクリアランスは150とし、天井―天井、内壁―内壁、床―床は
ステンレスHLとする。床―床のみ1時間耐火仕様。
5 各塗装材料はF☆☆☆☆とする。
6 アスベスト含有建材(レベル1)は [※1] 、(レベル3)は [※3] と示す。
7 アスベスト含有建材の仕上塗材(レベル3)撤去は隔離養生の上、ディスク
グラインダー等を使用する除去工法とする。
8 既存仕上新設前は高圧洗浄(15Mpa程)+ケレン清掃(内外部共)を行うこと。
9 勾配コンクリート【新設】内は溶接金網φ6@150を施工する。
10 コンクリート二次製品は東京たまエコセメント商品を使用すること。
11 外壁面(柱・梁・壁)：発泡硬質ウレタンフォームA種1H t25とする。
※断熱材仕様の決定は監理者監督員と協議の上決定すること。

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称：仕上表【改修前・後】	縮尺 A1: - A3: - / 図面番号 A-11

改修前



1階平面図【改修前】

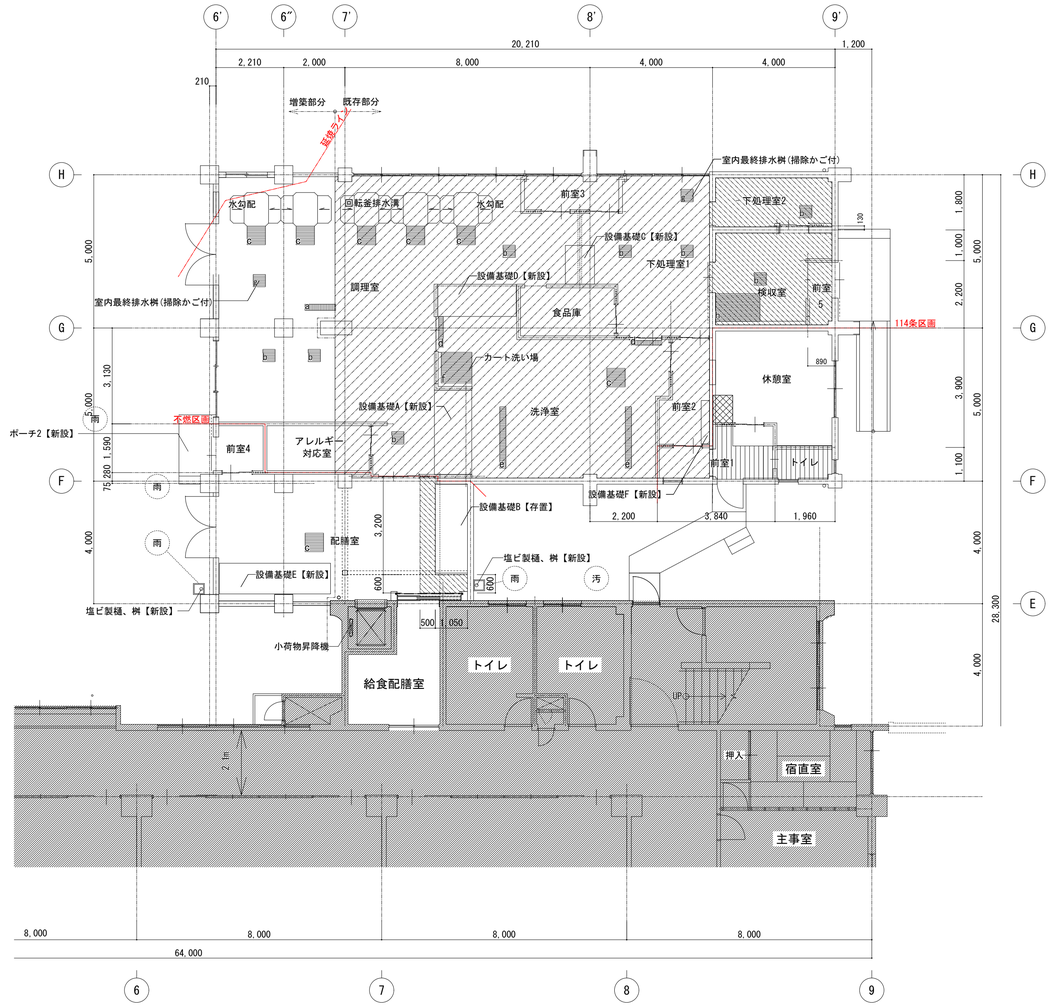
床：下地凡例

	土間ｺﾝｸﾘｰﾄt150【存置】+ｺﾝｸﾘｰﾄ増打t190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt60～90【撤去】
	砕石t150+ｺﾝｸﾘｰﾄt150+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt5～30【撤去】
	砕石t150+土間ｺﾝｸﾘｰﾄt230【撤去】
	砕石t150+ｺﾝｸﾘｰﾄt150【撤去】
	砕石t150+土間ｺﾝｸﾘｰﾄ+排水桝、グレーチング【撤去】
	床部：カッター入れを示す
	工事範囲外

設備基礎リスト

	W	D	H	数	備考
設備基礎A	4,000	1,050	50	1	撤去
設備基礎B	2,900	1,050	50	1	存置
設備基礎C	2,000	1,000	50	1	撤去
設備基礎D	1,900	950	50	1	撤去
設備基礎E	2,000	1,000	50	1	撤去
設備基礎F	1,250	250	50	1	撤去

改修後



1階平面図【改修後】

床：下地凡例

	土間ｺﾝｸﾘｰﾄt150【存置】+ｺﾝｸﾘｰﾄ増打t190+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt30～90【新設】
	砕石t150+ｺﾝｸﾘｰﾄt150+勾配ｺﾝｸﾘｰﾄt5～30【新設】
	砕石t150+土間ｺﾝｸﾘｰﾄt230【新設】
	砕石t150+ｺﾝｸﾘｰﾄt150【新設】
	砕石t150+土間ｺﾝｸﾘｰﾄ+排水桝、グレーチング【新設】
	工事範囲外

設備基礎リスト

	W	D	H	数	改修方針
設備基礎A	2,760	1,220	50	1	新設
設備基礎B	2,900	1,050	50	1	存置
設備基礎C	1,270	950	50	1	新設
設備基礎D	2,560	1,050	50	1	新設
設備基礎E	3,630	1,000	50	1	新設
設備基礎F	1,420	270	50	1	新設

SUSグレーチング、桝(室内)　リスト

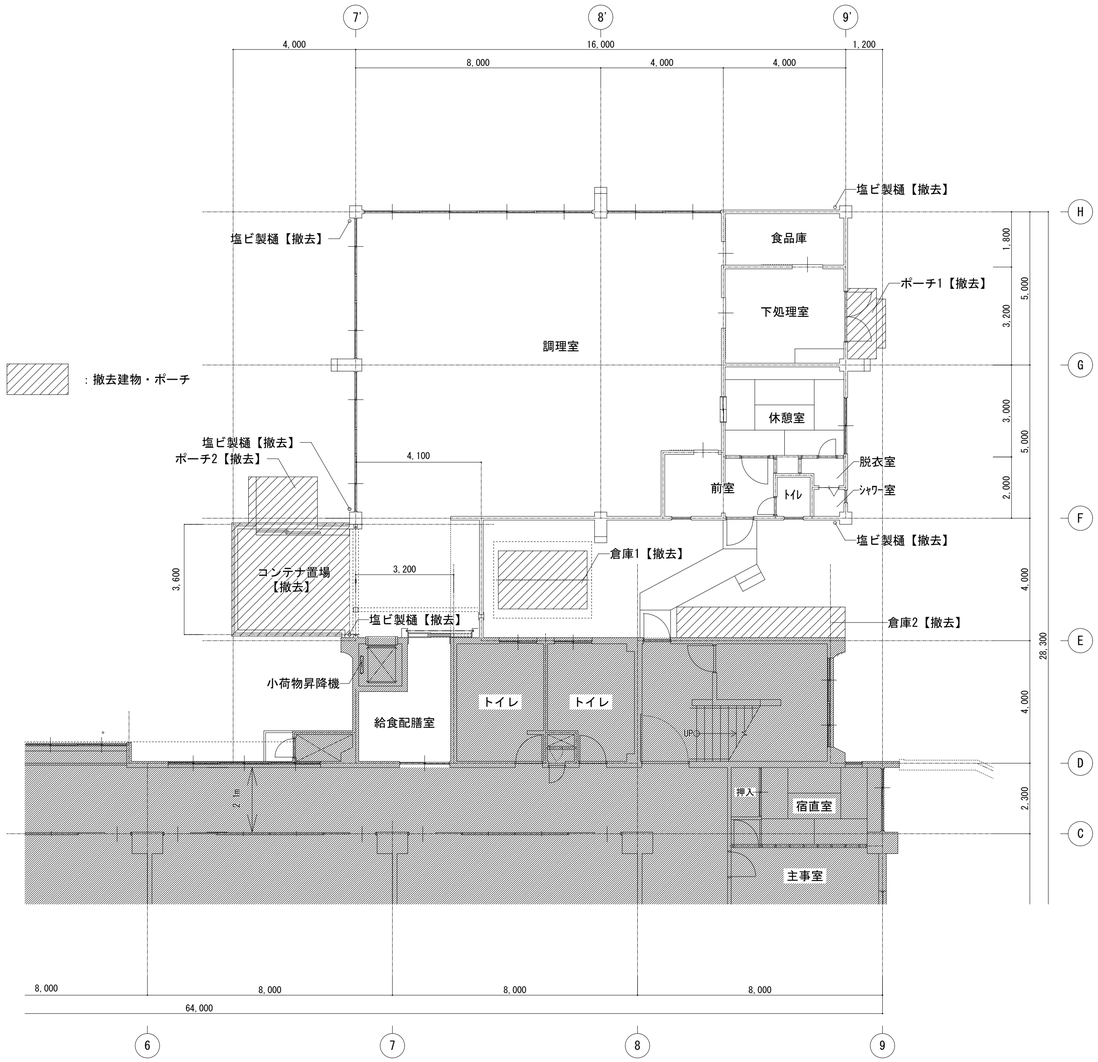
符号	W	L	箇所	改修方針	備考
a	200	1,000	1	新設	調理室
b	400	400	8	新設	調理室、下処理室1-2、洗浄室、検収室
c	600	600	7	新設	調理室、洗浄室、配膳室
d	150	1,000	2	新設	洗浄室(カート洗い場)
e	200	2,000	2	新設	洗浄室
f	1,000	1,000	1	新設	□500×4枚
g	400	400	2	新設	最終排水桝(室内)
h	1,450	900	1	新設	検収室

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月	2025年3月
図面名称	1階土間撤去平面図【改修前・後】
縮尺	A1: 1/100　A3: 1/200
図面番号	A-12

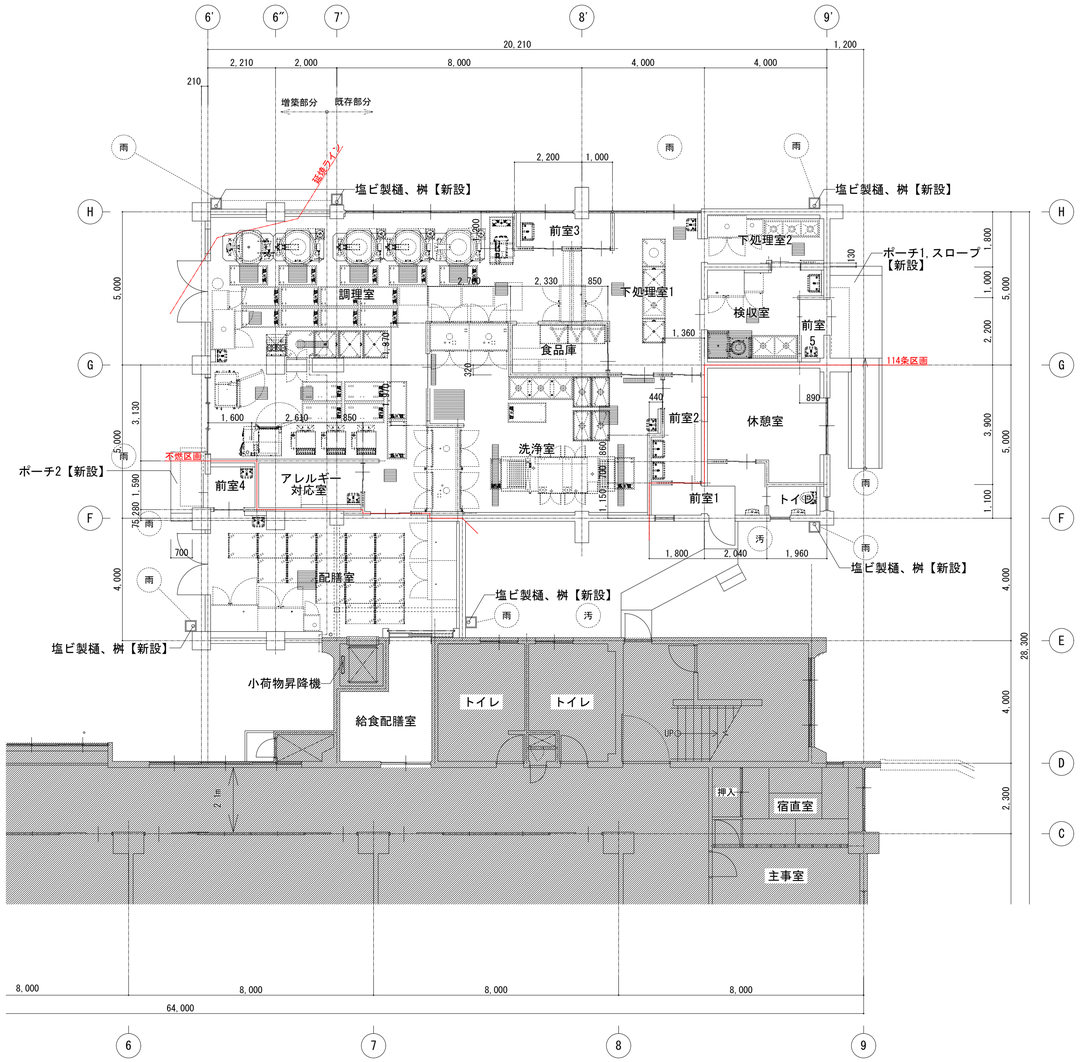
改修前



1階平面図【改修前】

工事範囲外

改修後



1階平面図【改修後】

※不燃区画壁をスラブ下まで立ち上げること。

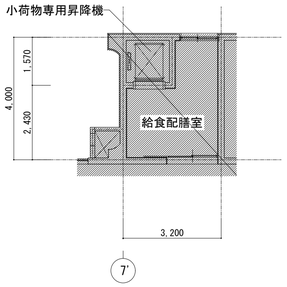
工事範囲外

記事	

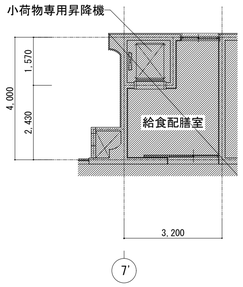
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
1階平面図【改修前・後】	A1: 1/100 A3: 1/200	A-13

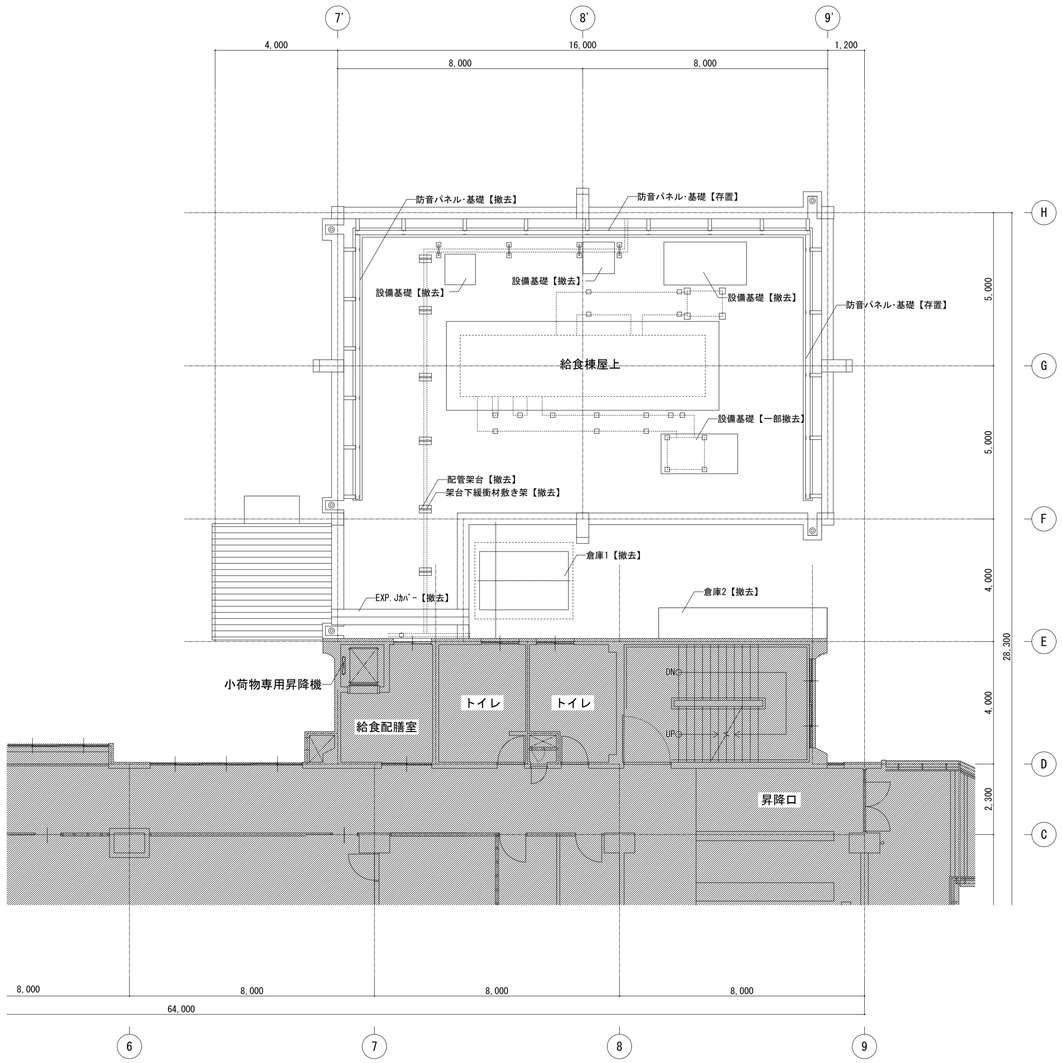
改修前



3階平面詳細図【改修前】



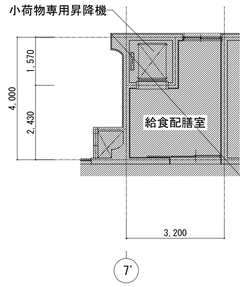
4階平面詳細図【改修前】



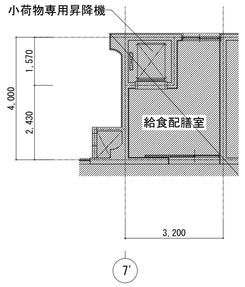
R階平面図【改修前】

工事範囲外

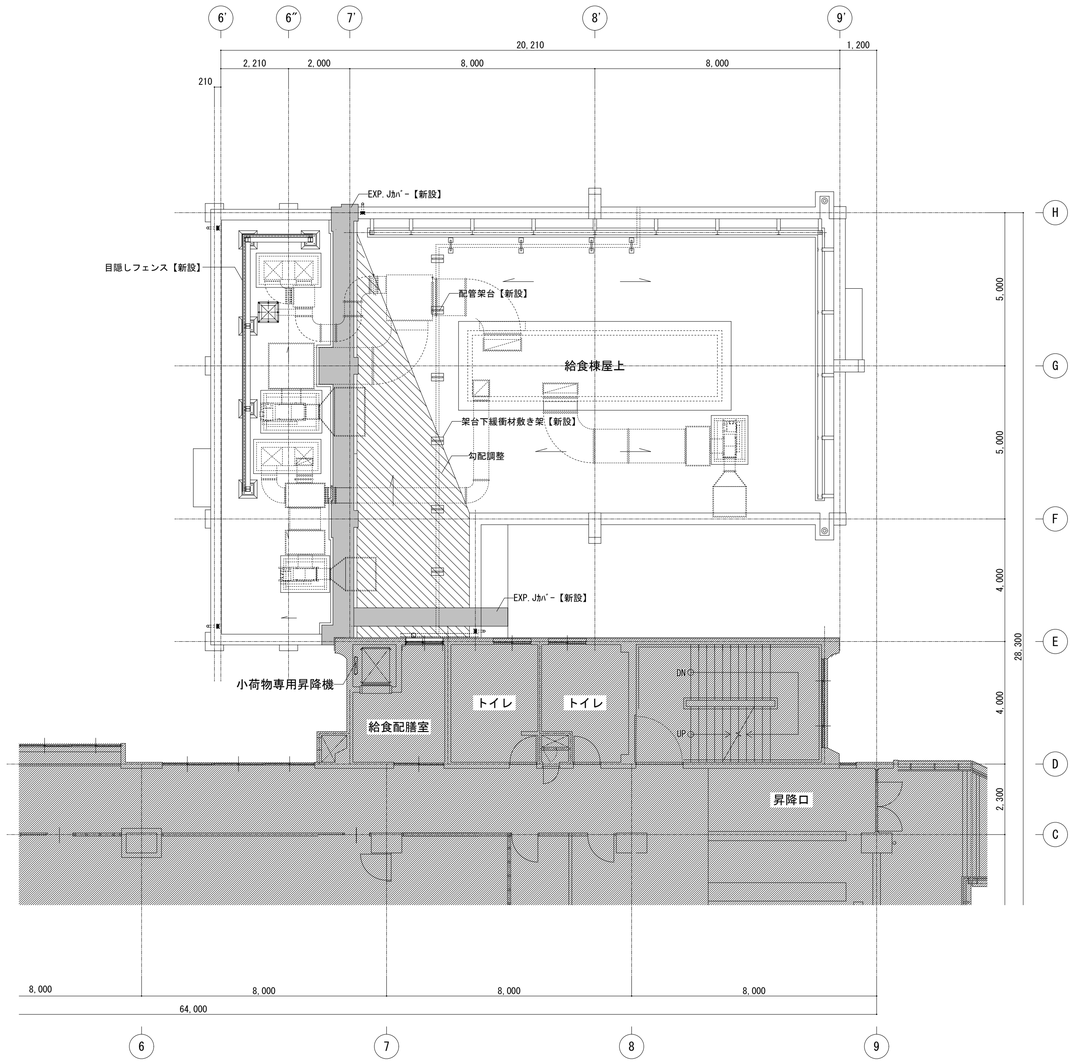
改修後



3階平面詳細図【改修後】



4階平面詳細図【改修後】



R階平面図【改修後】

勾配調整(増打ち)
3.61t

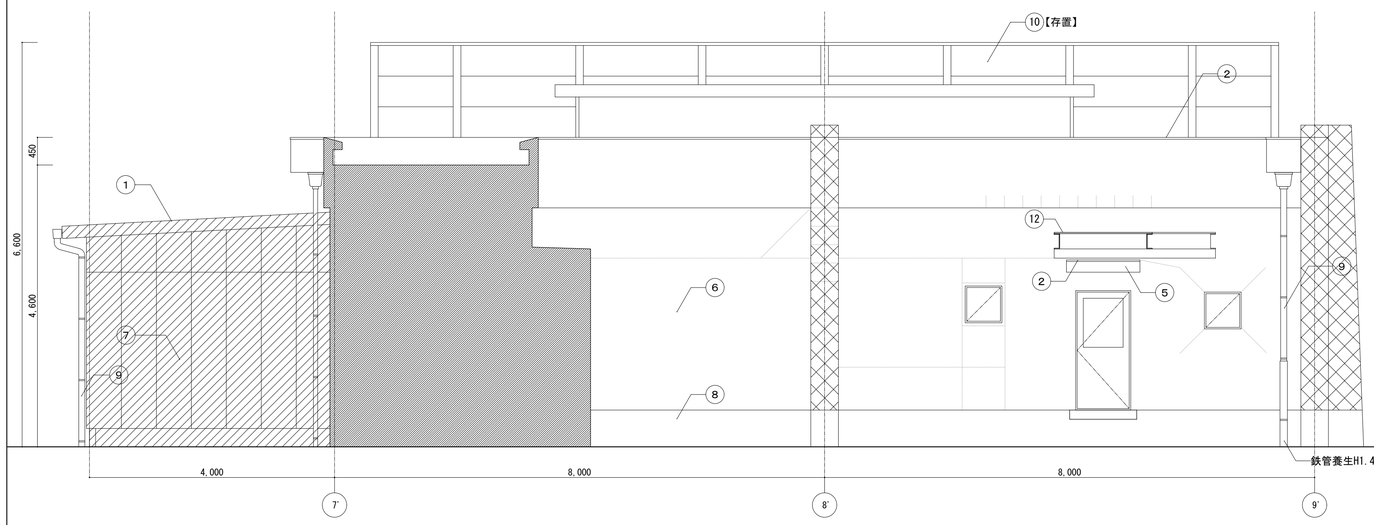
工事範囲外

記事	

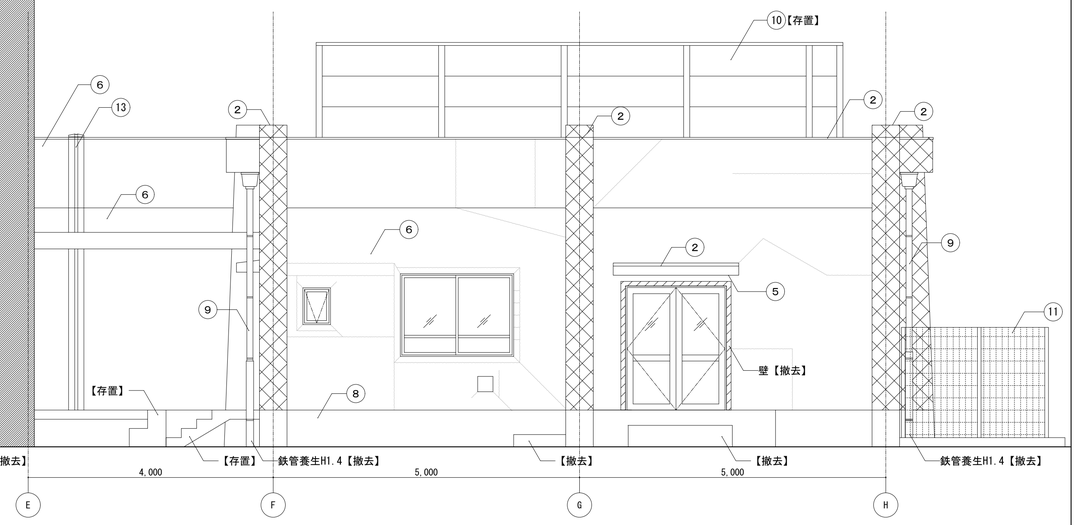
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
2～4階平面図【改修前・後】	A1: 1/100 A3: 1/200	A-14

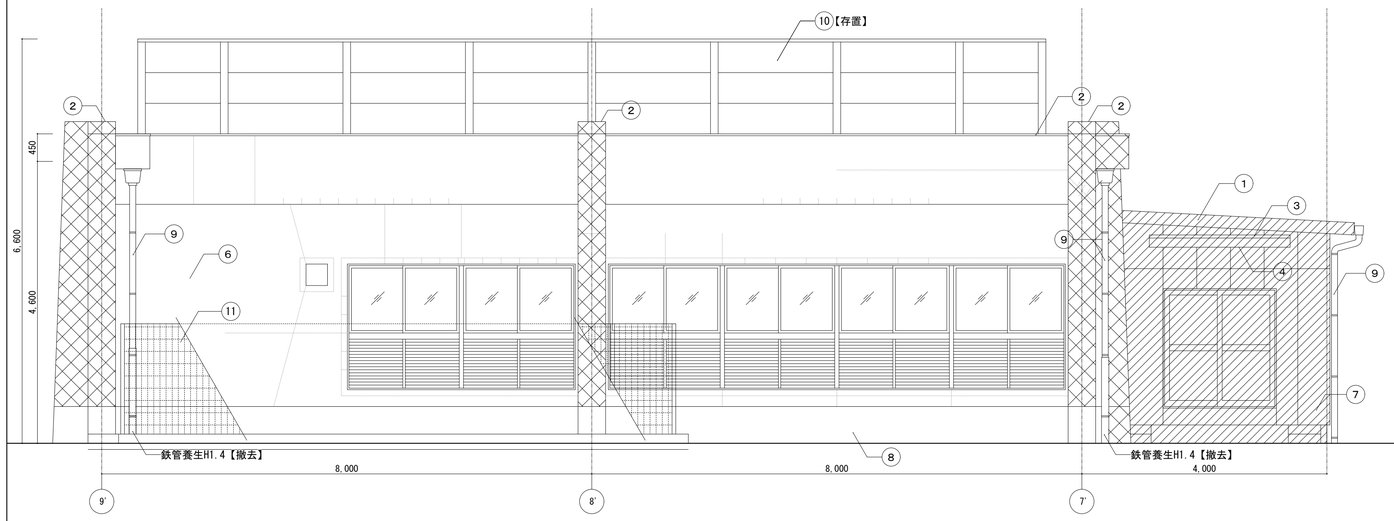
改修前



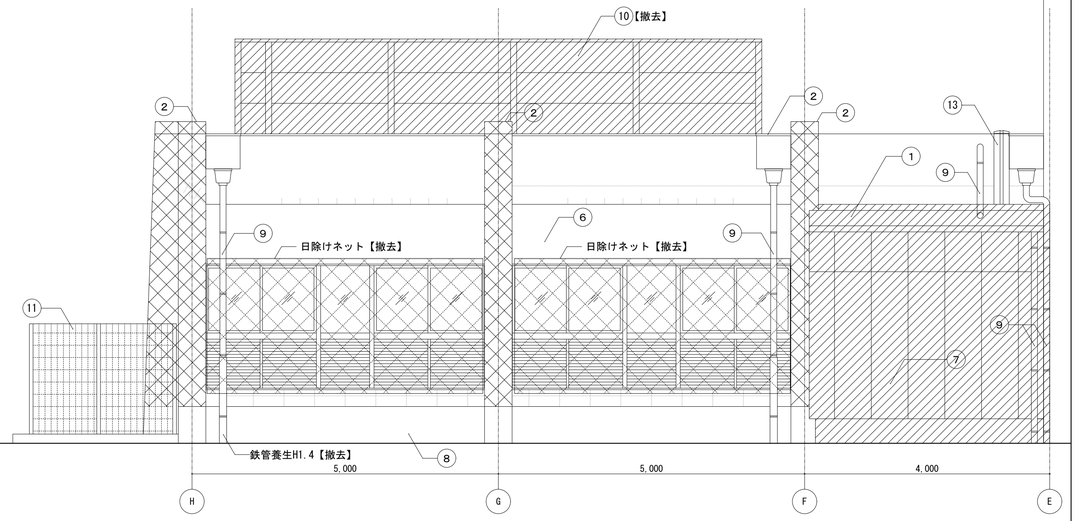
南側立面図【改修前】
(給食室棟)



東側立面図【改修前】
(給食室棟)



北側立面図【改修前】
(給食室棟)



西側立面図【改修前】
(給食室棟)

凡例

1	屋根：着色耐酸アクリル被覆鋼板波板葺きH=35 t0.8	撤去	9	竪樋：塩ビ製φ100	撤去
2	笠木、庇上：モルタル笠木の上 ウレタン塗膜防水(X-2)	高圧洗浄+下地調整	10	防音フェンス	調整(一部撤去)
3	庇：木毛セメント板t18+アスファルトルーフィング	撤去	11	設備機器置場メッシュフェンス	撤去
4	軒天：FKt6[※3]+VP[※3]	撤去	12	渡り廊下屋根	高圧洗浄シール撤去
5	軒天：アクリル系吹付タイル[※3相当]	撤去	13	EXP.J	撤去
6	外壁：アクリル系吹付タイル[※3相当]	撤去			
7	外壁:硬質木毛セメント板t12 リシン吹付	撤去		建物撤去範囲を示す	
8	外巾木:モルタル金ゴテ仕上	存置		工事範囲外範囲を示す	

外壁補修(校舎全面)		数量(参考)	改修方針	凡例
ひび割れ:	0.2mm≦W<1.0mm:エポキシ樹脂注入工法 1.0mm<W:Uカットシール材充填工法	248m 124m	補修	
	欠損:エポキシ樹脂モルタル充填工法	–	補修	
	浮き(一般部):注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	56㎡	補修	

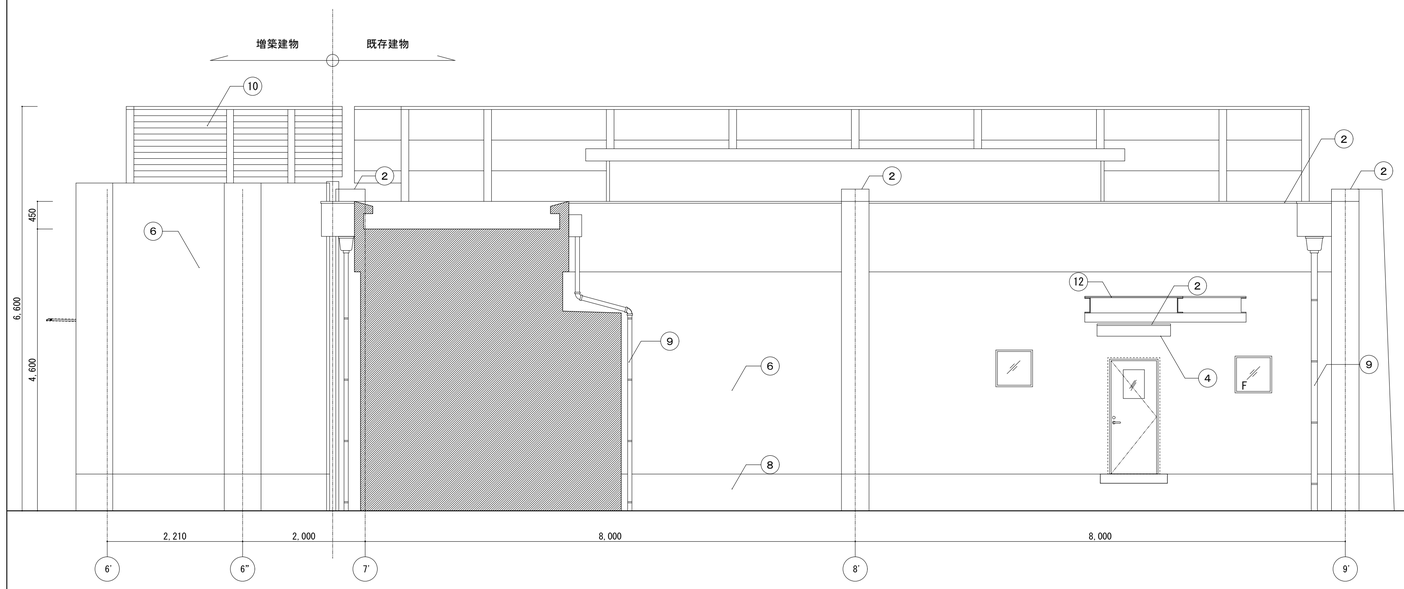
※外壁改修工事には、上記数量を見込む。
※図中の外壁改修数量は参考数量とし、施工数量調査の上、報告書を提出すること。

記事

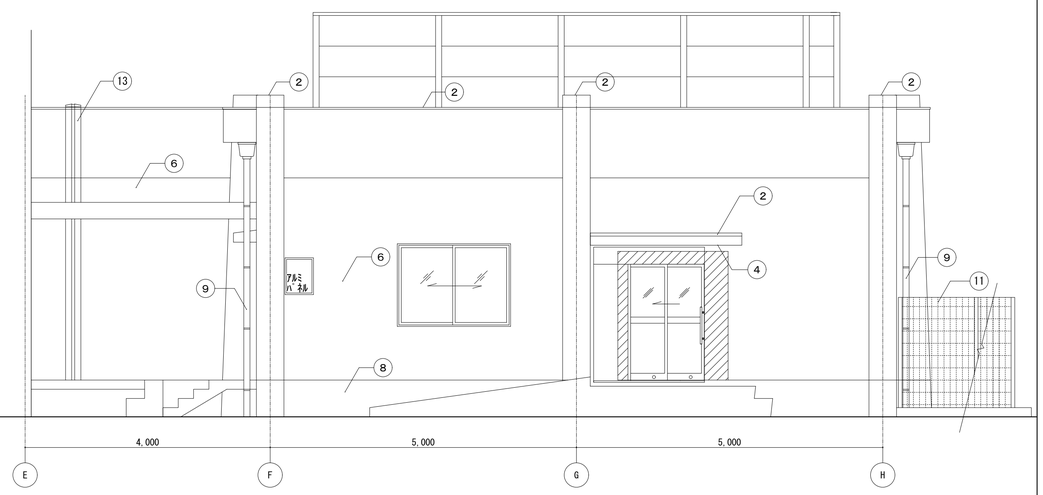
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
立面図【改修前】	A1: 1/50 A3: 1/100	A-15

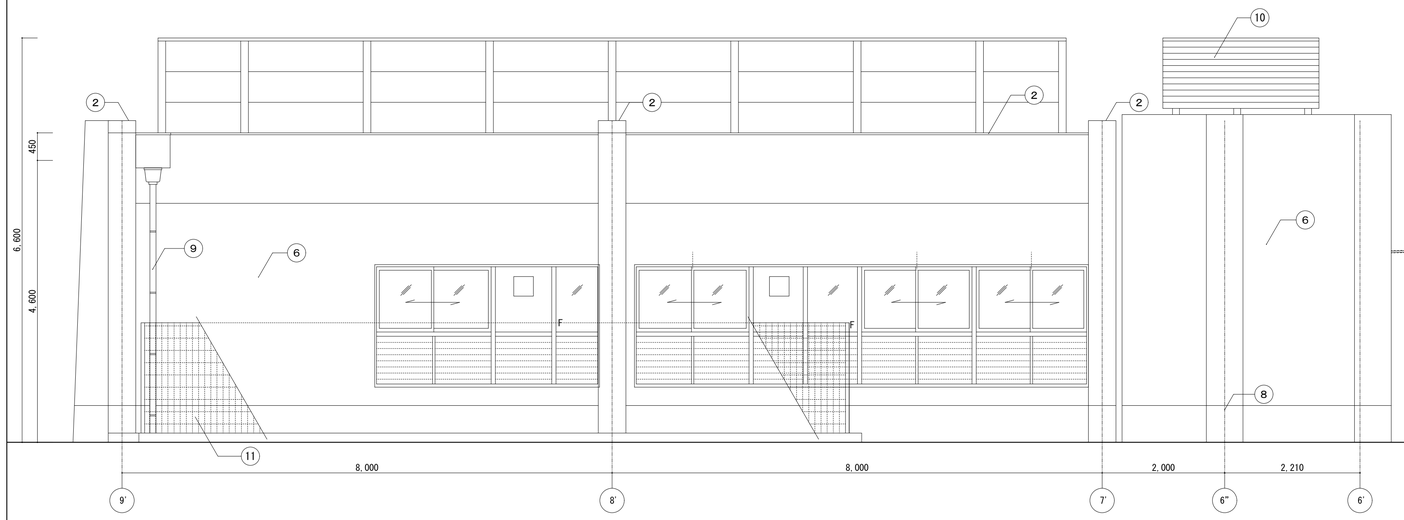
改修後



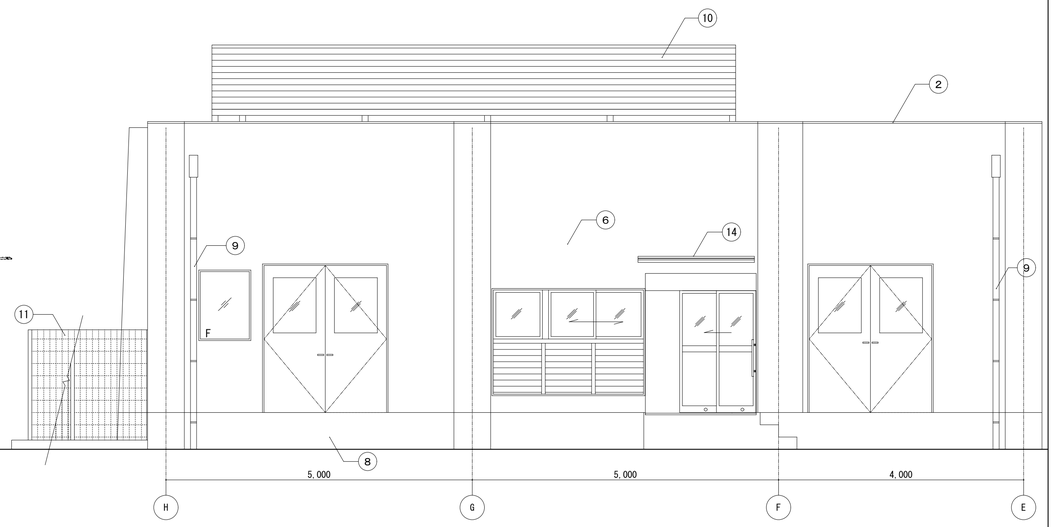
南側立面図【改修後】
（給食室棟）



東側立面図【改修後】
（給食室棟）



北側立面図【改修後】
（給食室棟）



西側立面図【改修後】
（給食室棟）

凡例

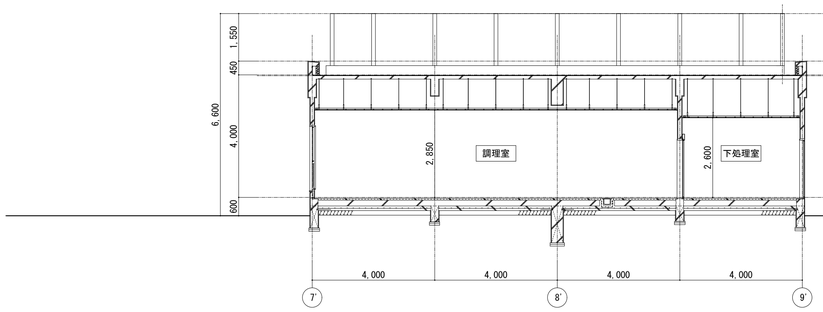
1	—	—	9	竪樋：硬質塩ビ製φ100	新設
2	笠木、庇上：モルタル笠木の上高靭性ウレタン塗膜防水	新設	10	目隠しフェンス	新設
3	—	—	11	設備機器置場メッシュフェンス	新設
4	軒天：下地調整のうえ、透湿性複層塗材E	下地調整の上新設	12	渡り廊下屋根	ｼｰﾙ打替え
5	—	下地調整の上新設	13	EXP.J	新設
6	外壁：下地調整のうえ、超耐久低汚染型一液性ｾﾗﾐｯｸｼﾘｺﾝ樹脂塗装	新設	14	アルミ庇	新設
7	—	—		壁新設（補修範囲）を示す	
8	外巾木:ポリマーセメント系基礎巾木塗材	新設		工事範囲外範囲を示す	

記事

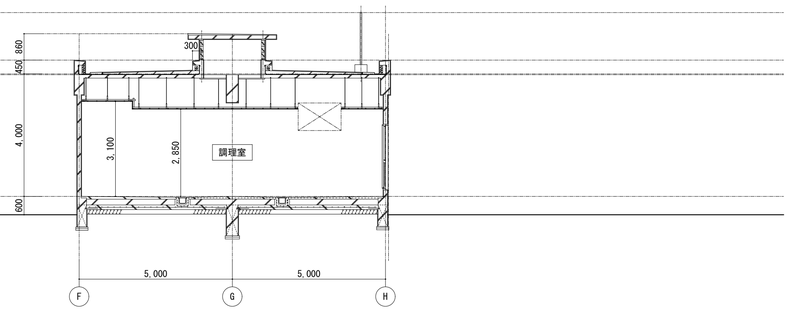
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

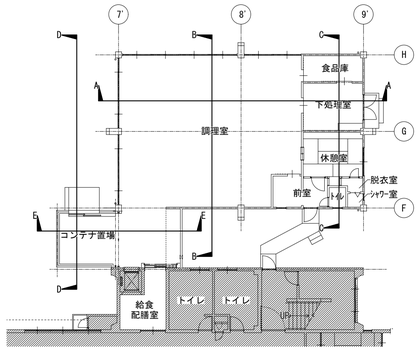
図面名称	縮尺	図面番号
立面図【改修後】	A1: 1/50 A3: 1/100	A-16



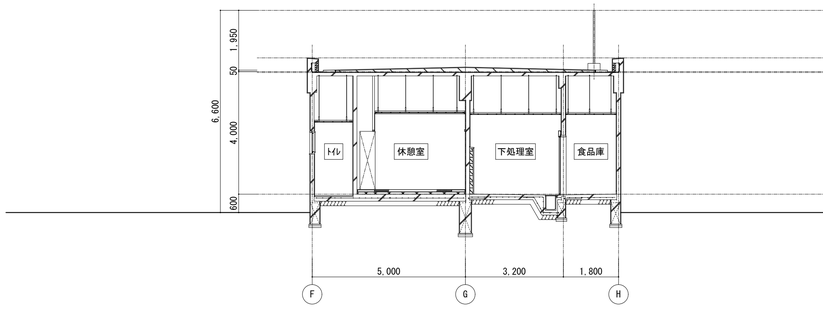
A-A断面図【改修前】



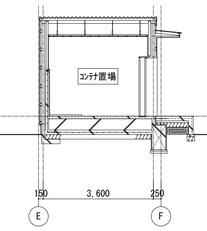
B-B断面図【改修前】



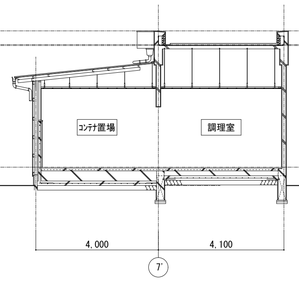
断面キープラン



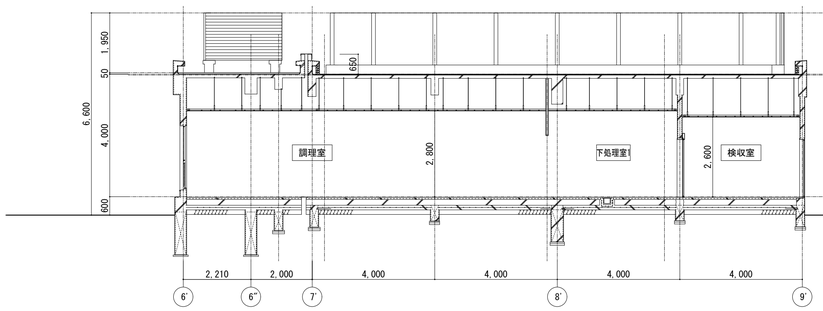
C-C断面図【改修前】



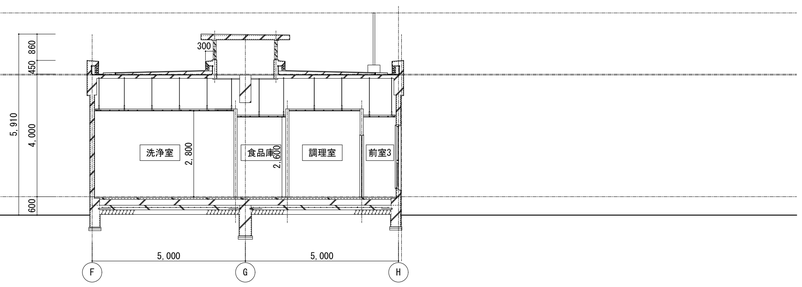
D-D断面図【改修前】



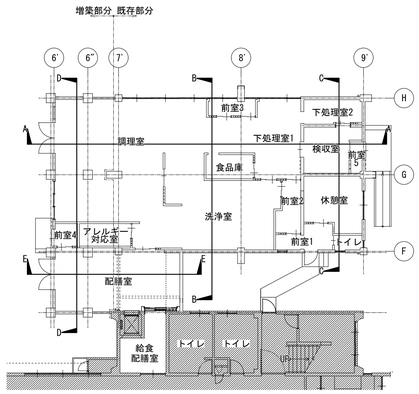
E-E断面図【改修前】



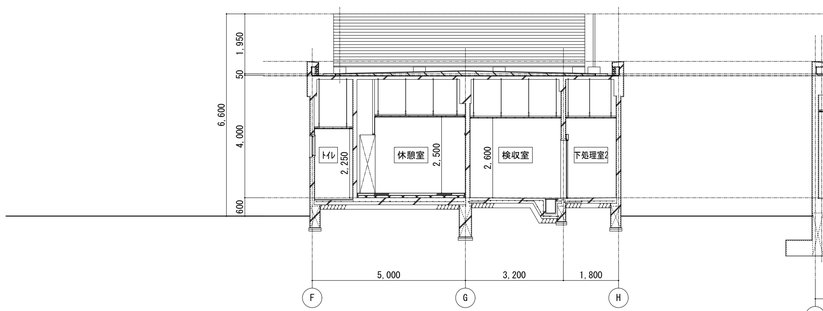
A-A断面図【改修後】



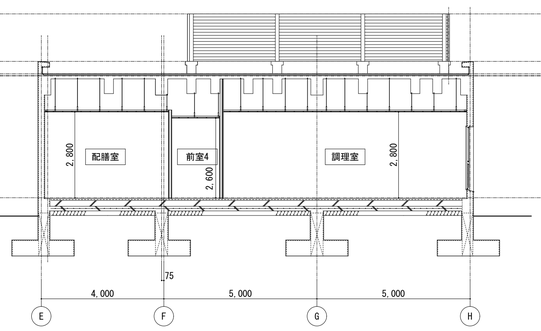
B-B断面図【改修後】



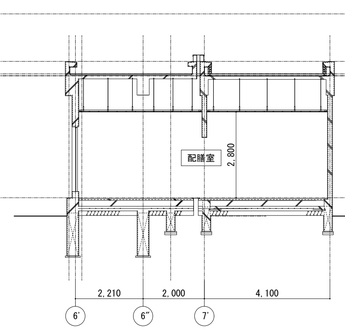
断面キープラン



C-C断面図【改修後】

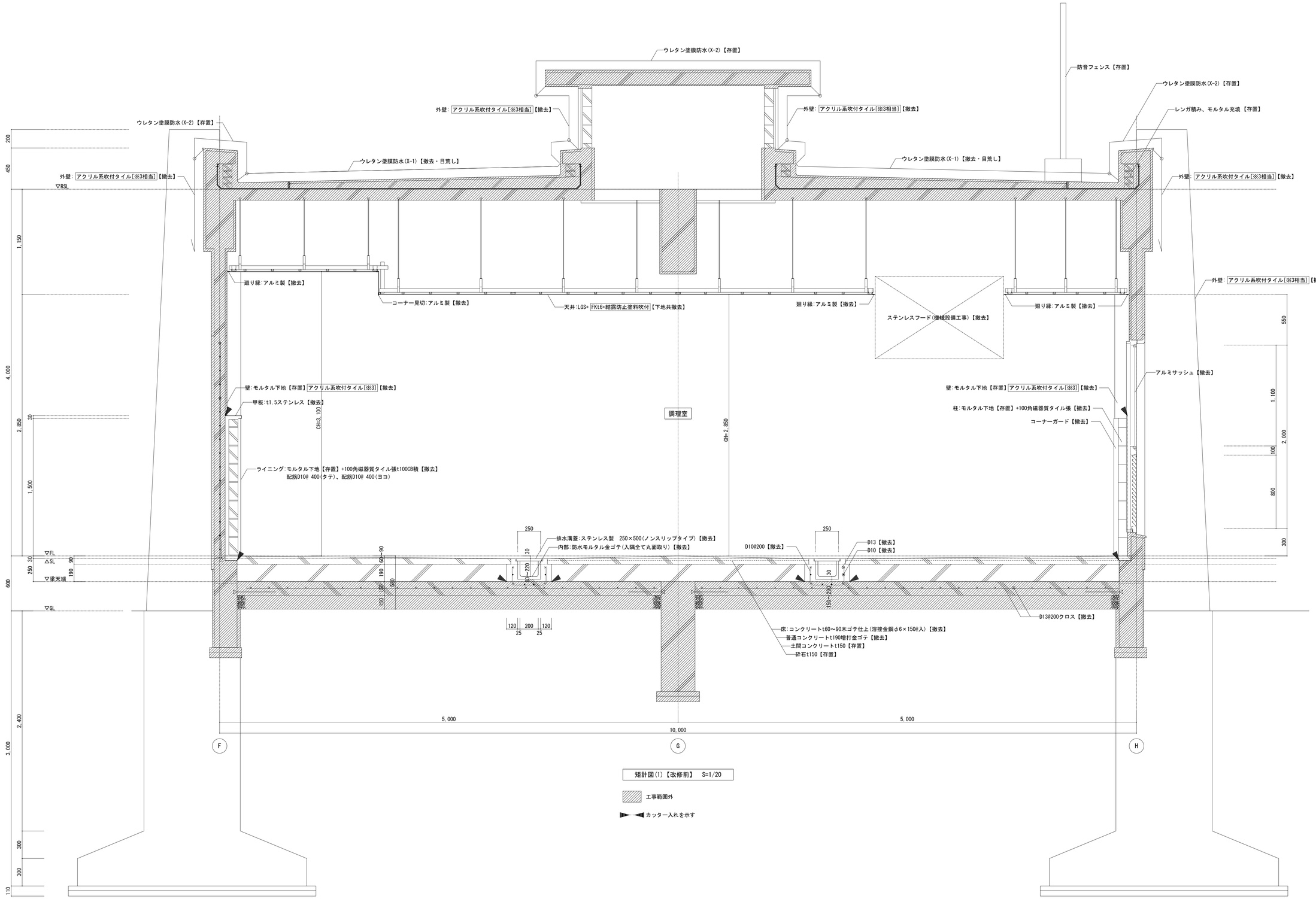


D-D断面図【改修後】



E-E断面図【改修後】

記事	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
		図面名称 断面図【改修前・後】	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
			図面番号 A-17

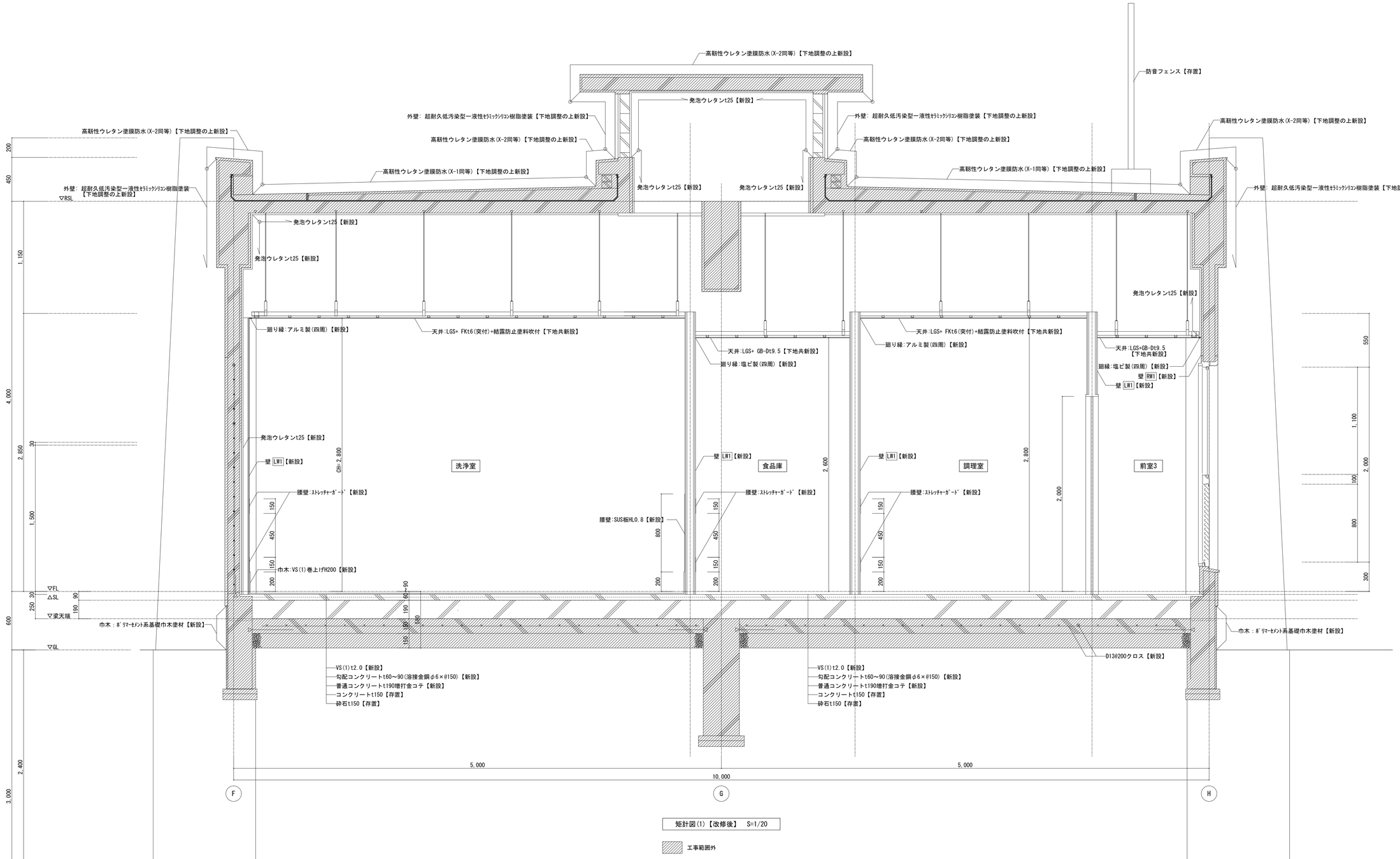


矩計図(1)【改修前】 S=1/20

工事範囲外

カッター入れを示す

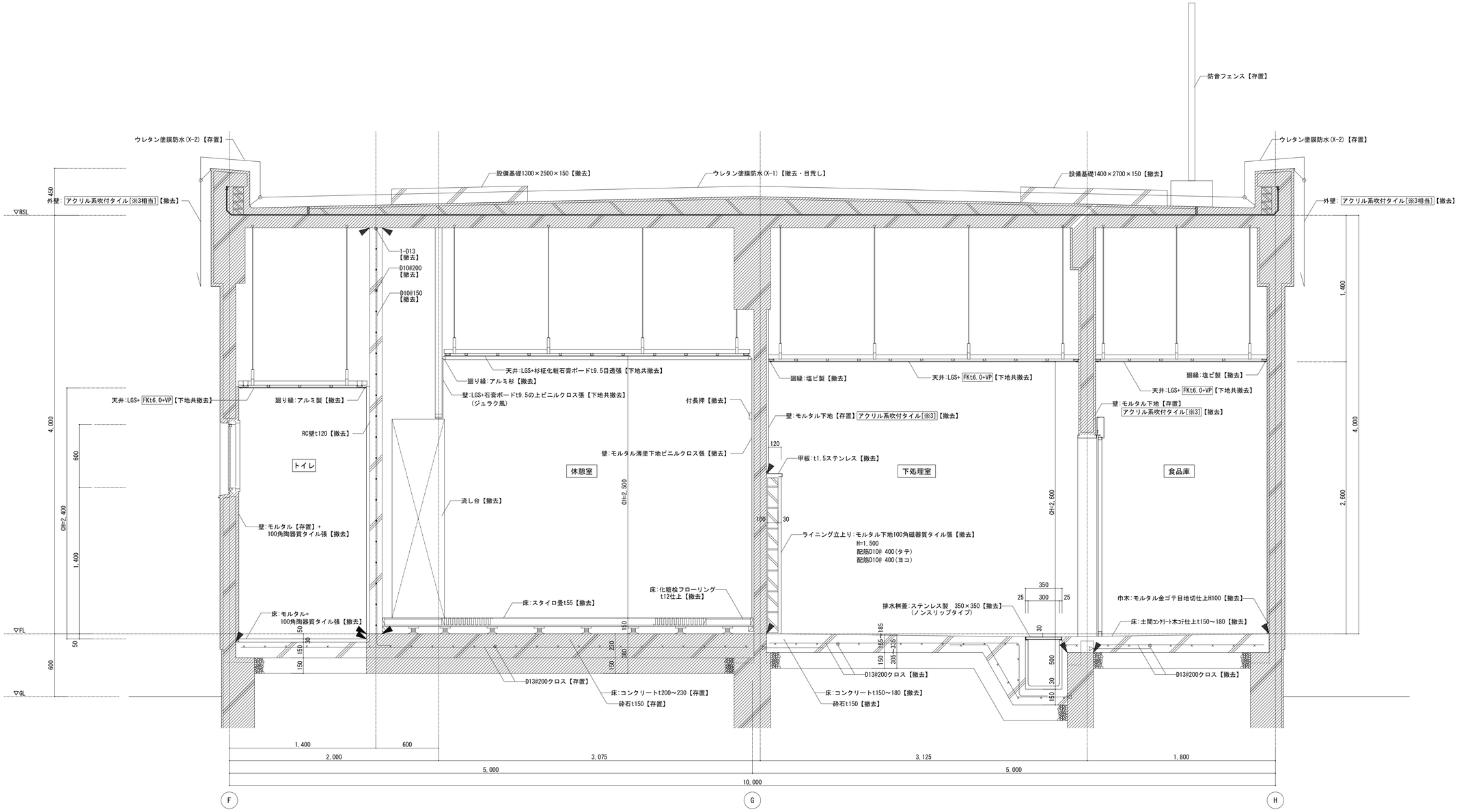
記事				
	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
		図面名称 矩計図(1)【改修前】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40	図面番号 A-18



矩計図(1)【改修後】 S=1/20

工事範囲外

記事			
株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
	図面名称 矩計図(1)【改修後】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40	図面番号 A-19

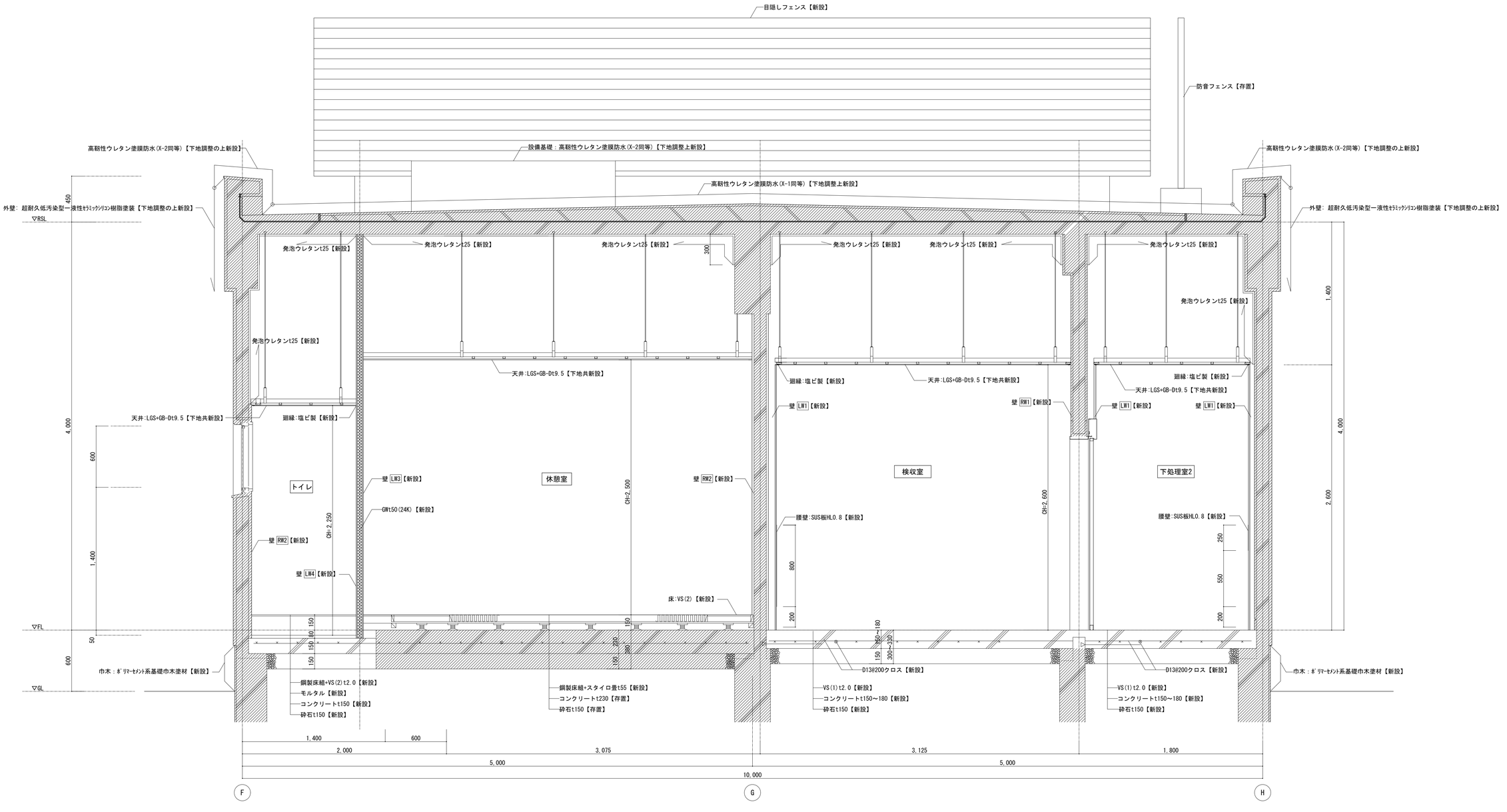


矩計図(2)【改修前】 S=1/20

工事範囲外

カッター入れを示す

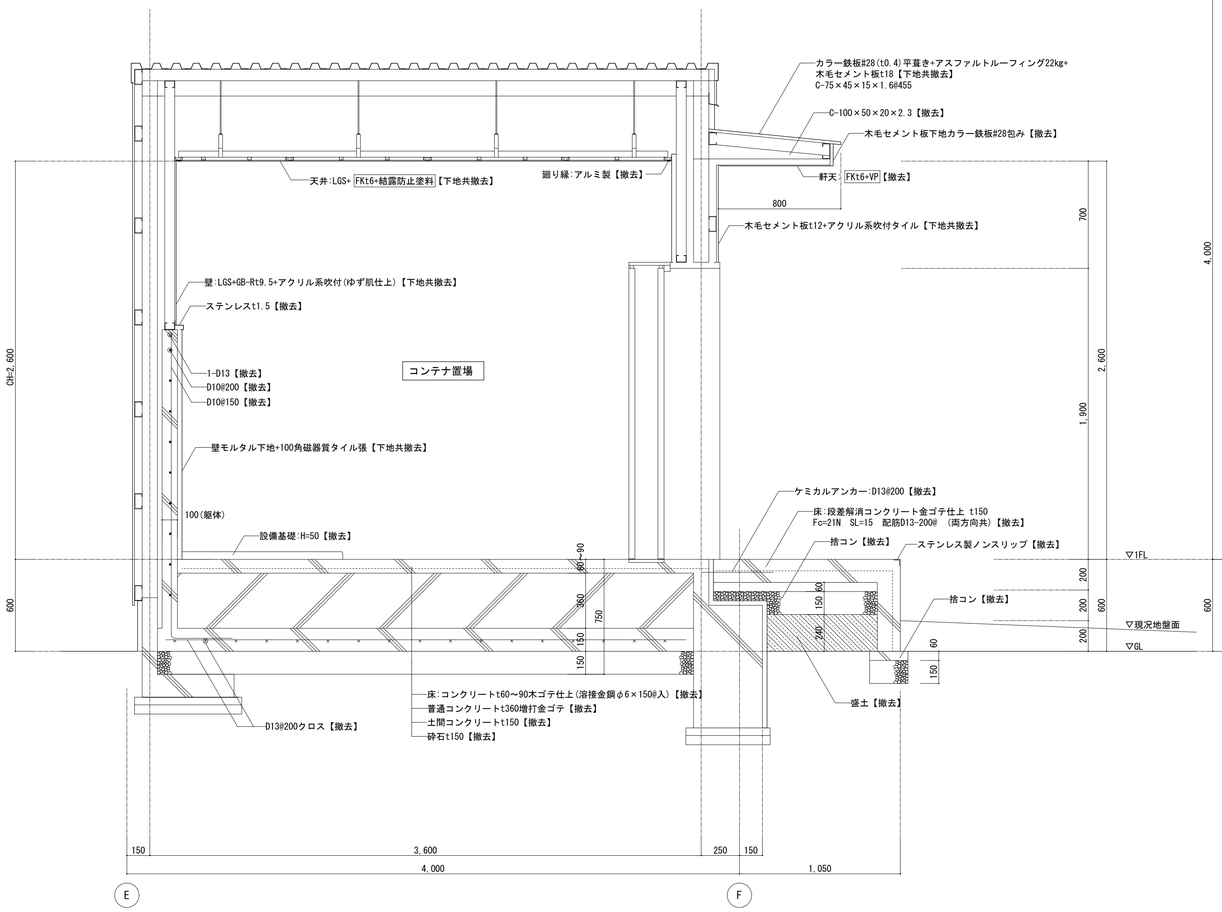
記事			
	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
		図面名称 矩計図(2)【改修前】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40
			図面番号 A-20



矩計図(2)【改修後】 S=1/20

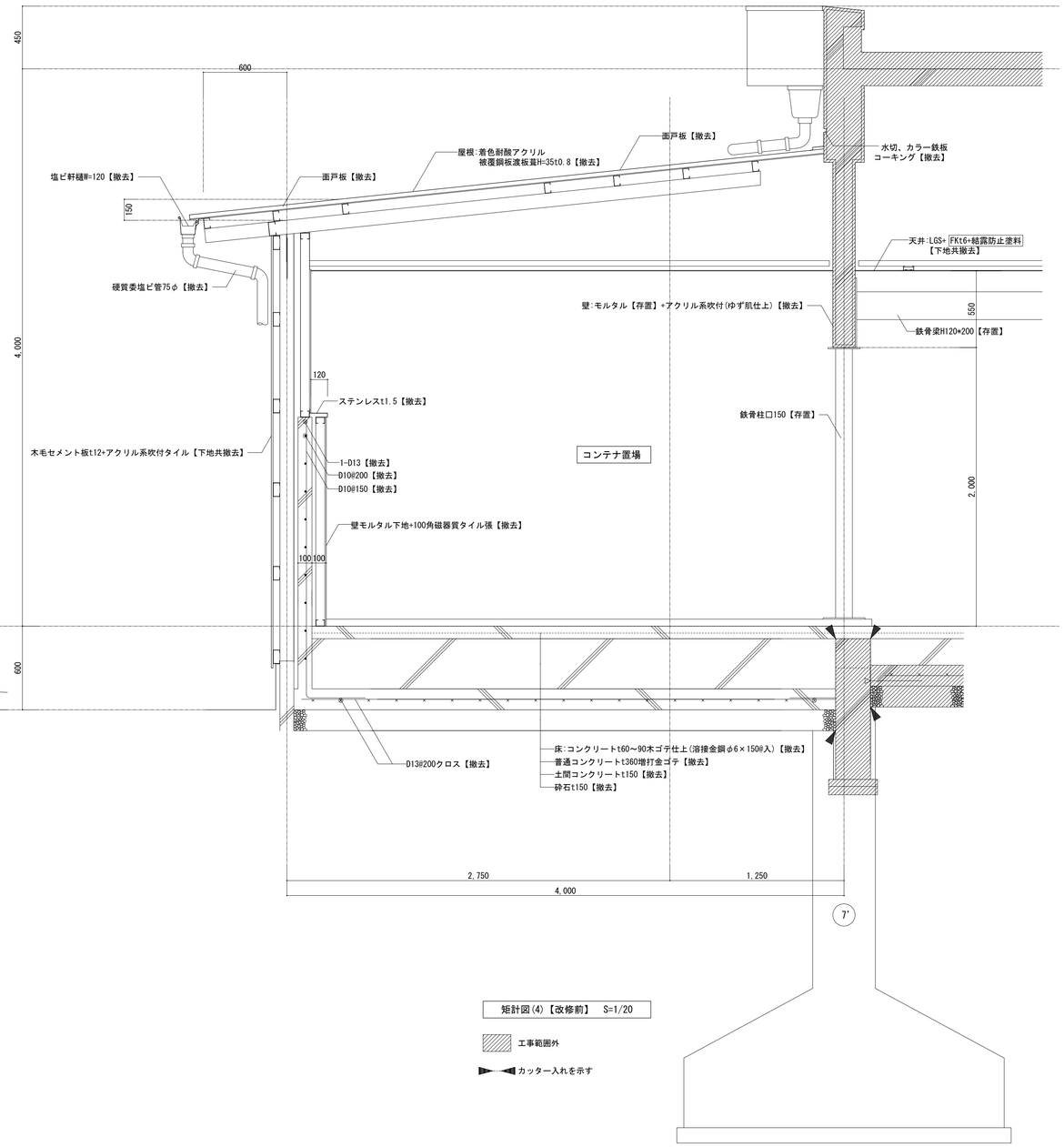
工事範囲外

記事				
	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
		図面名称 矩計図(2)【改修後】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40	図面番号 A-21



矩計図(2)【改修前】 S=1/20

工事範囲外

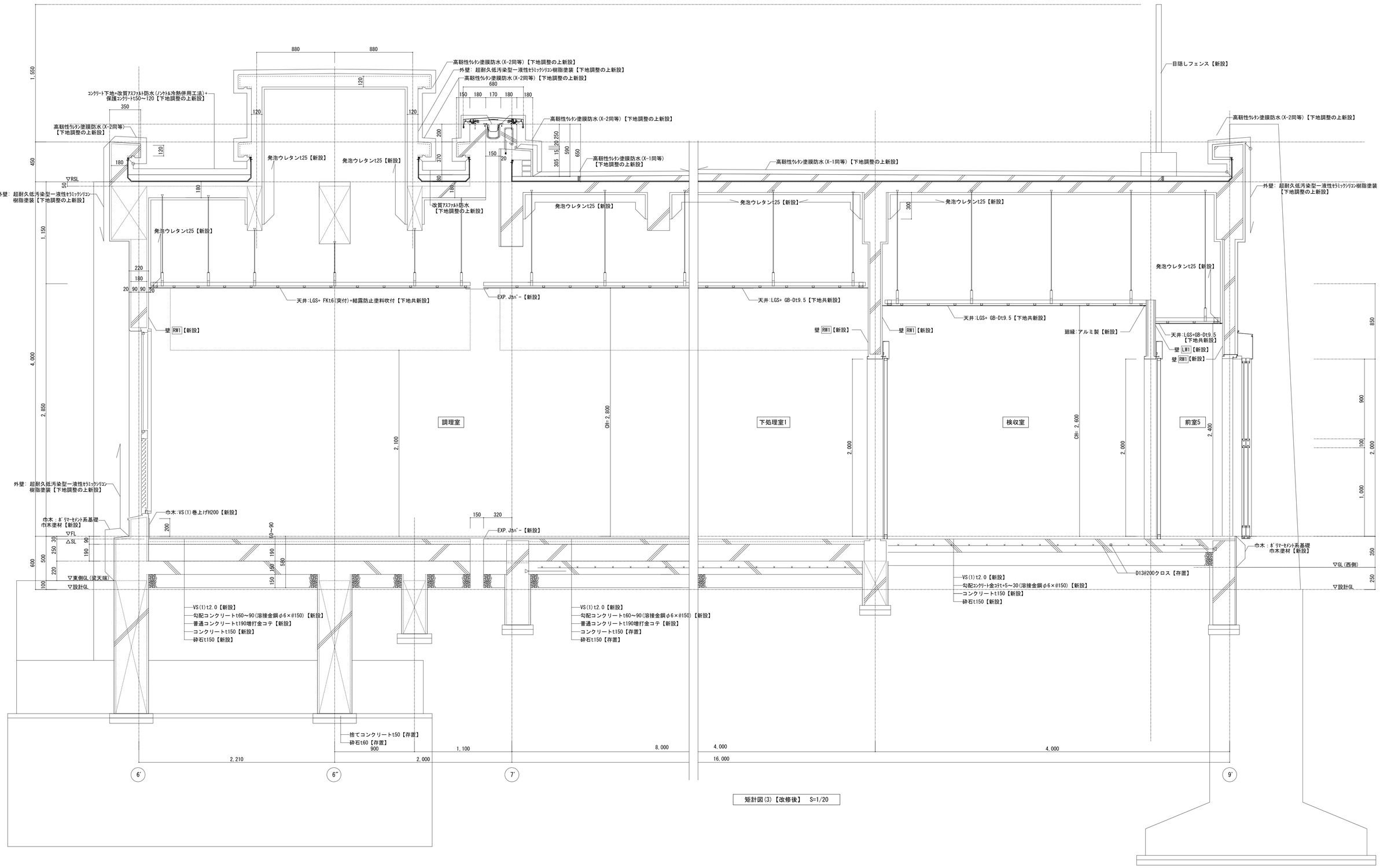


矩計図(4)【改修前】 S=1/20

工事範囲外

カッター入れを示す

記事	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
		図面名称 矩計図(3)(4)【改修前】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40
			図面番号 A-22



矩計図(3)【改修後】 S=1/20

記事			
株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
	図面名称 矩計図(3)【改修後】	縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40	図面番号 A-23

改修前

壁下地：凡例

◀▶	壁部：カッター入れを示す
RW1	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】
RW2	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【撤去】
LW1	LGS+GB-Rt9.5【撤去】
LW2	LGS+GB-St9.5【撤去】
LW3	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰部H1500)ｺﾝｸﾘｰﾄt100+ﾓﾙﾀﾙ

工事範囲外

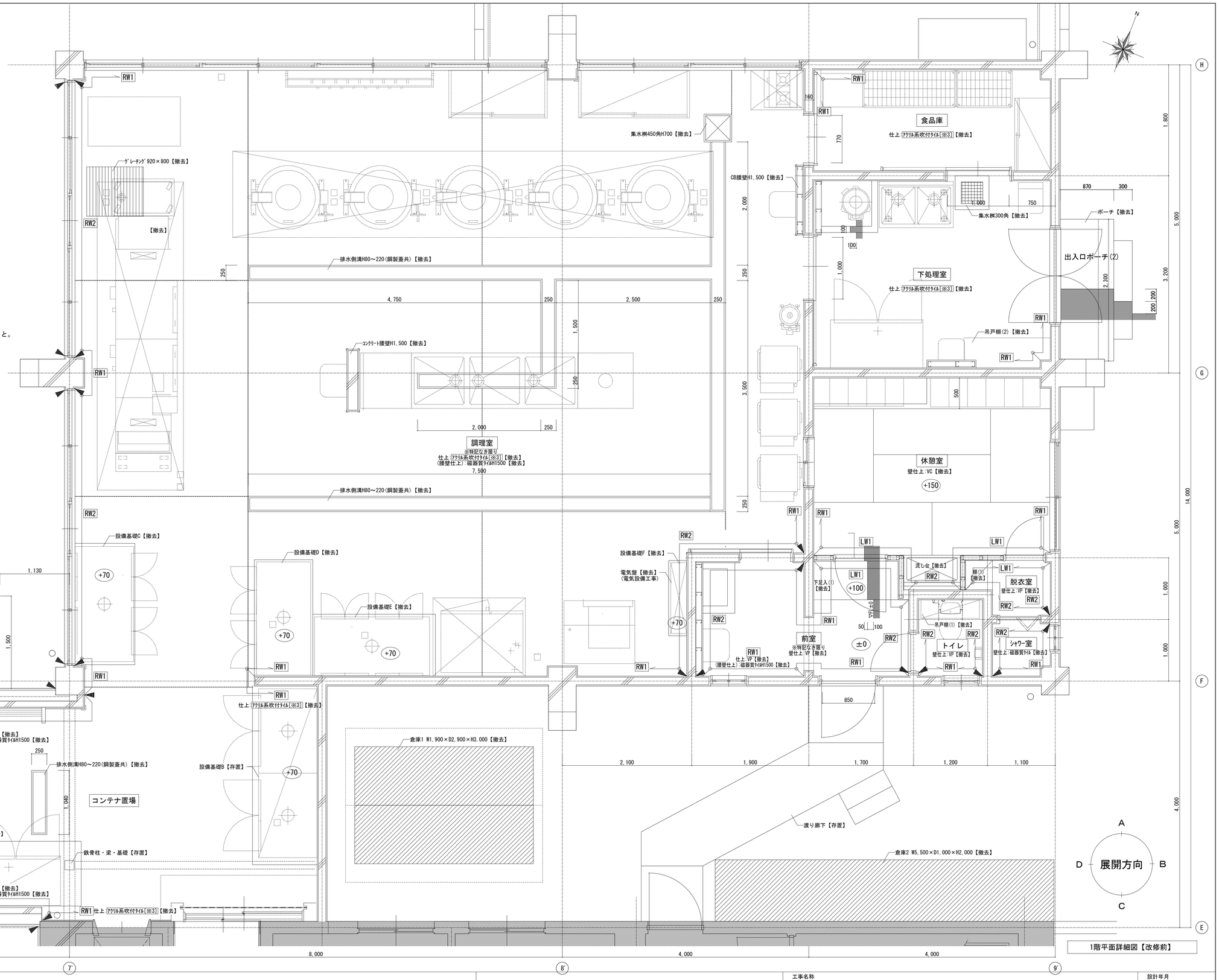
現況リスト

	W	D	H	数	改修方針
吊戸棚(1)	1,020	300	800	1	撤去
吊戸棚(2)	1,520	500	800	1	撤去
棚(1)	475	445	2,250	1	撤去
下足入(1)	890	370	1,200	1	撤去
流し台	900	560	1,940	1	撤去

備品移設リスト

	W	D	H	数	改修方針
ロッカー(3人用)	900	500	1,800	3	取外し・再取付
ロッカー(2人用)	600	500	1,800	1	取外し・再取付
厨房機器(F-5) 熱風消毒保管庫	2,560	950	1,800	1	取外し(既存RC壁撤去後)・再取付(建具取付前)

※厨房設備機器は厨房設備業者にて移設、その他備品は学校側にて移設対応を行うこと。



※厨房設備器具撤去は、機械設計図による。

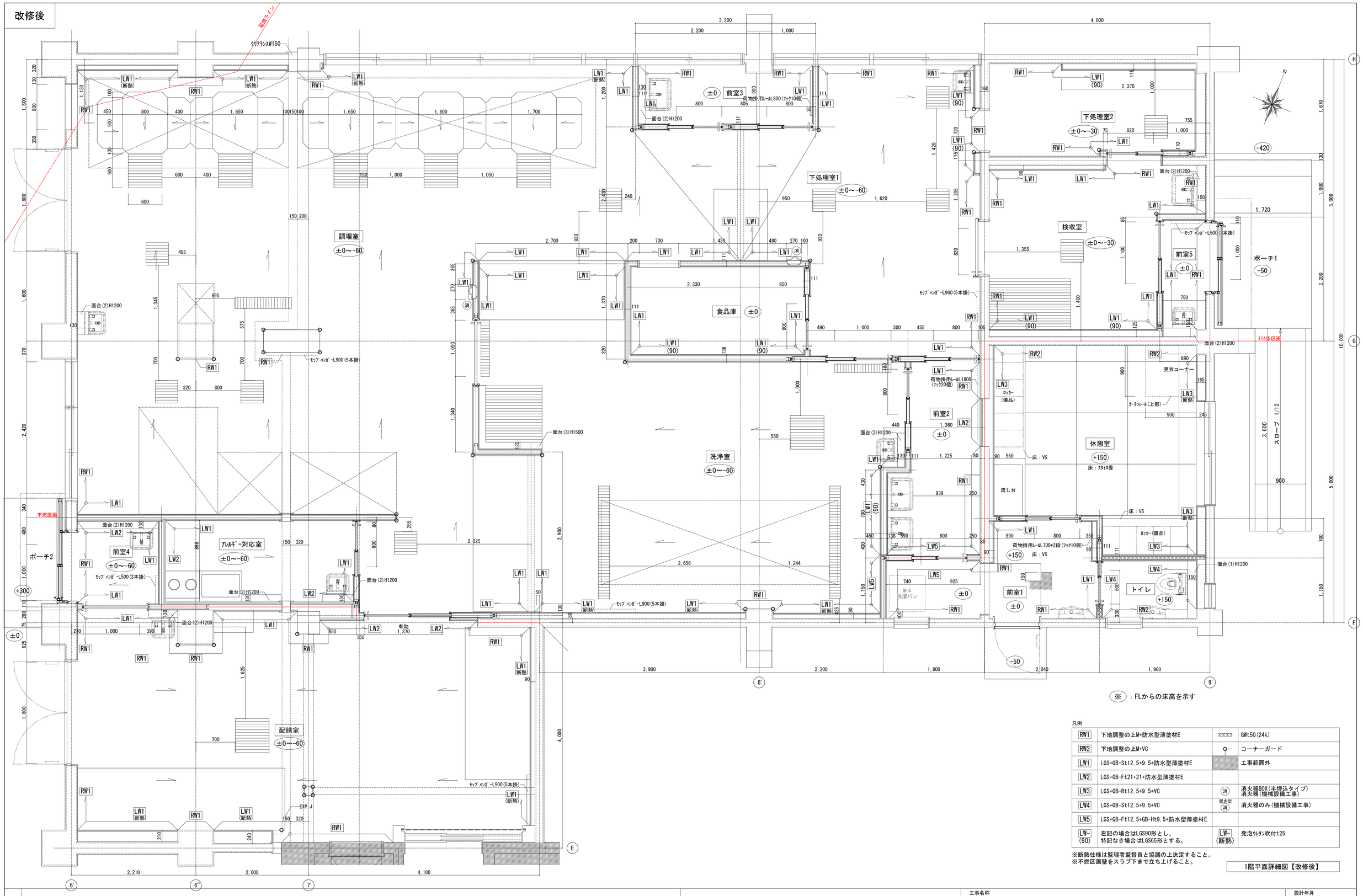
記事	

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
1階平面詳細図【改修前】	A1: 1/30 A3: 1/60	A-24

改修後



※：FLからの床高を示す

凡例

RW1	下地調整の上M+防水型薄塗材E	XXXX	GWt50(24k)
RW2	下地調整の上M+VC		コーナーガード
LW1	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E		工事範囲外
LW2	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E		
LW3	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC	消	消火器BOX(半埋込タイプ) 消火器(機械設備工事)
LW4	LGS+GB-St12.5+9.5+VC	開放型 消	消火器のみ(機械設備工事)
LW5	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E		
LW-(90)	左記の場合はLGS90形とし、 特記なき場合はLGS65形とする。	LW-(断熱)	発泡ｳﾚﾀﾝ吹付t25

※断熱仕様は監理者監督員と協議の上決定すること。
※不燃区画壁をスラブ下まで立ち上げること。

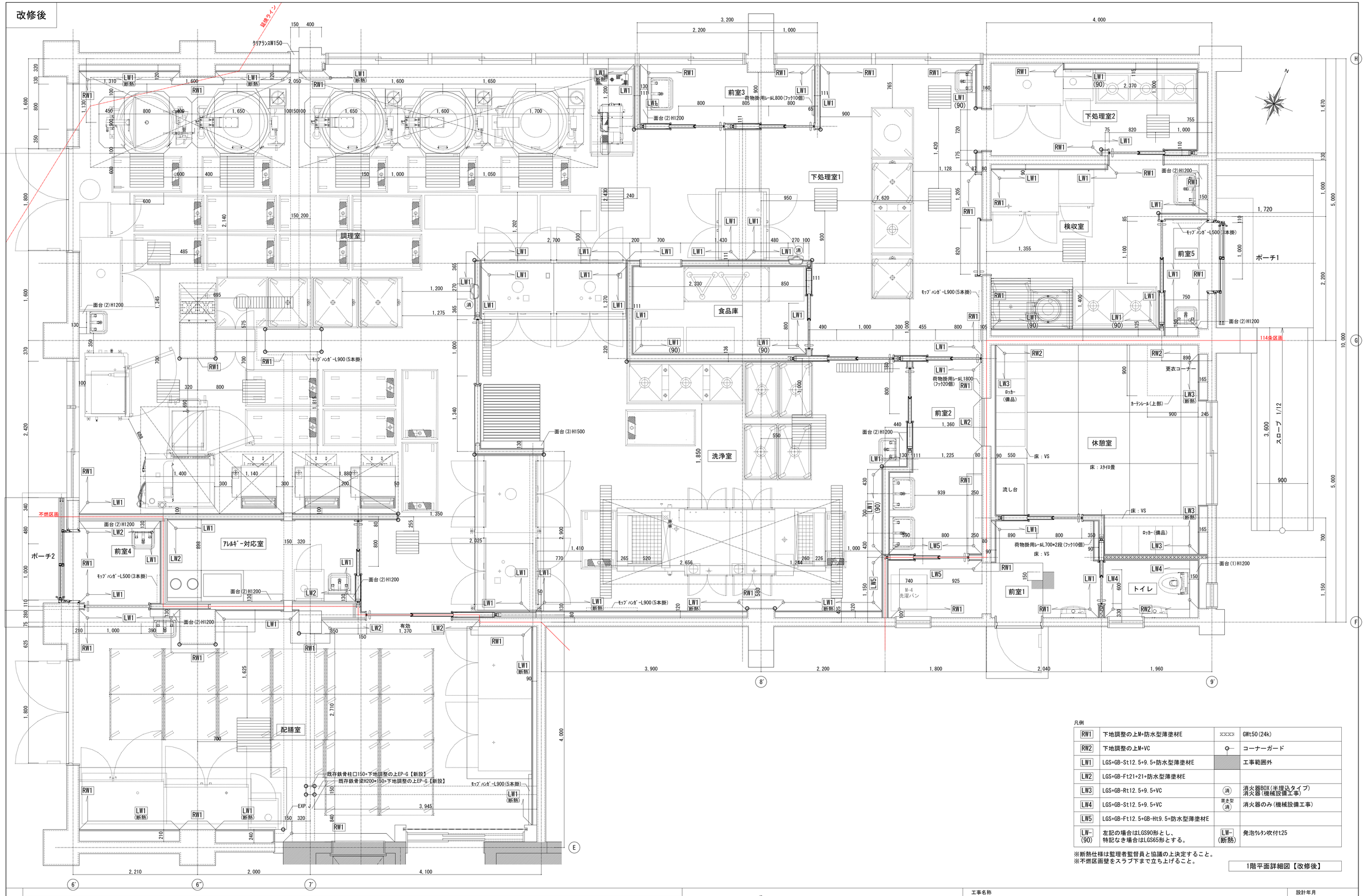
1階平面詳細図【改修後】

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
図面名称	1階平面詳細図【改修後】(厨房機器無し)	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
		図面番号 A-25

改修後



凡例

RW1	下地調整の上M+防水型薄塗材E		GWt50(24k)
RW2	下地調整の上M+VC		コーナーガード
LW1	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E		工事範囲外
LW2	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E		
LW3	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC	消	消火器BOX(半埋込タイプ) 消火器(機械設備工事)
LW4	LGS+GB-St12.5+9.5+VC	置型 消	消火器のみ(機械設備工事)
LW5	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E		
LW-(90)	左記の場合はLGS90形とし、 特記なき場合はLGS65形とする。	LW-(断熱)	発泡ｳﾚﾀﾝ吹付t25

※断熱仕様は監理者監督員と協議の上決定すること。
※不燃区画壁をスラブ下まで立ち上げること。

1階平面詳細図【改修後】

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月	2025年3月
図面名称	1階平面詳細図【改修後】(厨房機器有り)
縮尺	A1: 1/30 A3: 1/60
図面番号	A-26

改修前

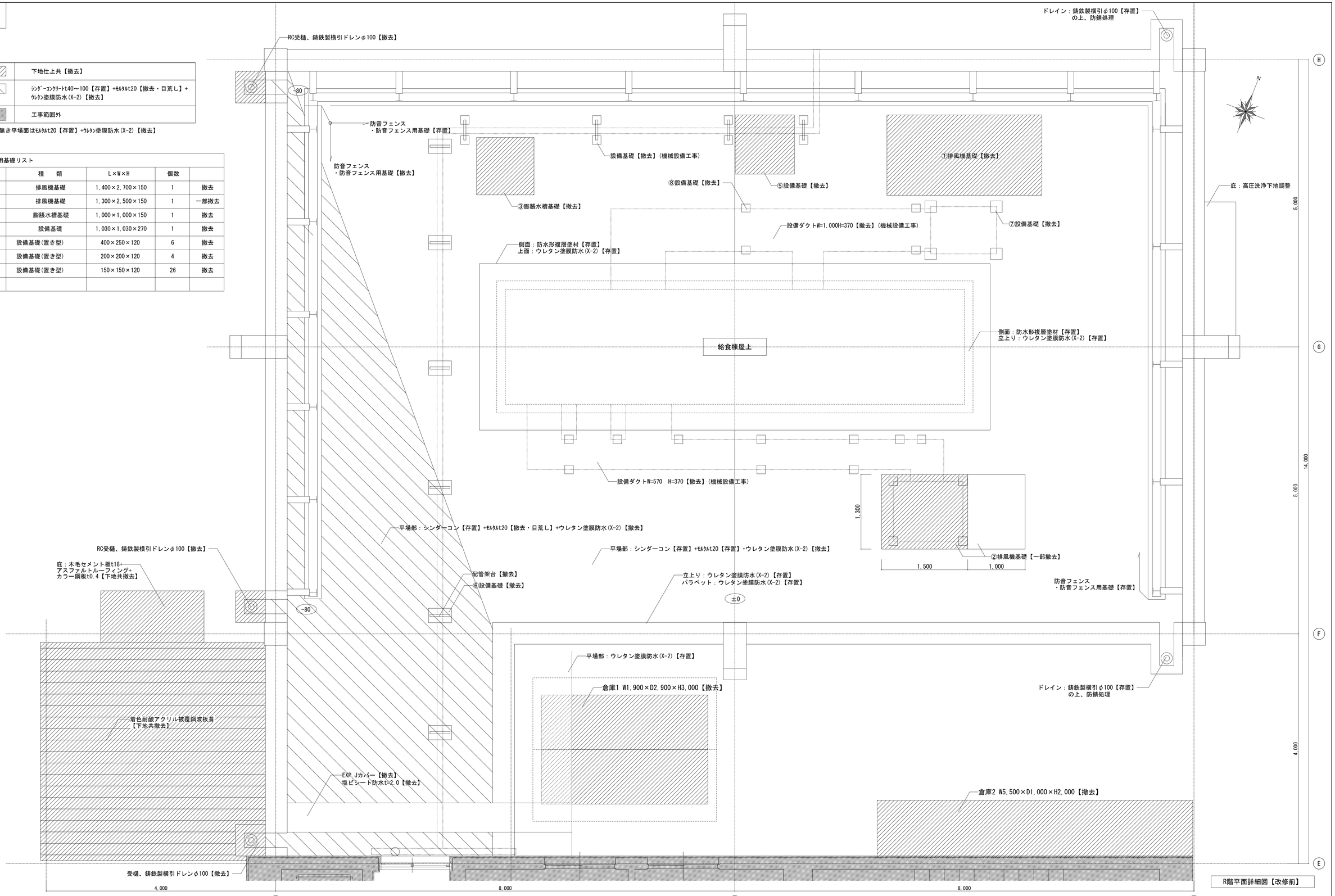
凡例

	下地仕上共【撤去】
	ｼﾝﾀﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄt40～100【存置】+ﾓﾙﾀﾙt20【撤去・目荒し】+ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)【撤去】
	工事範囲外

※特記無き平場面はﾓﾙﾀﾙt20【存置】+ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)【撤去】

設備用基礎リスト

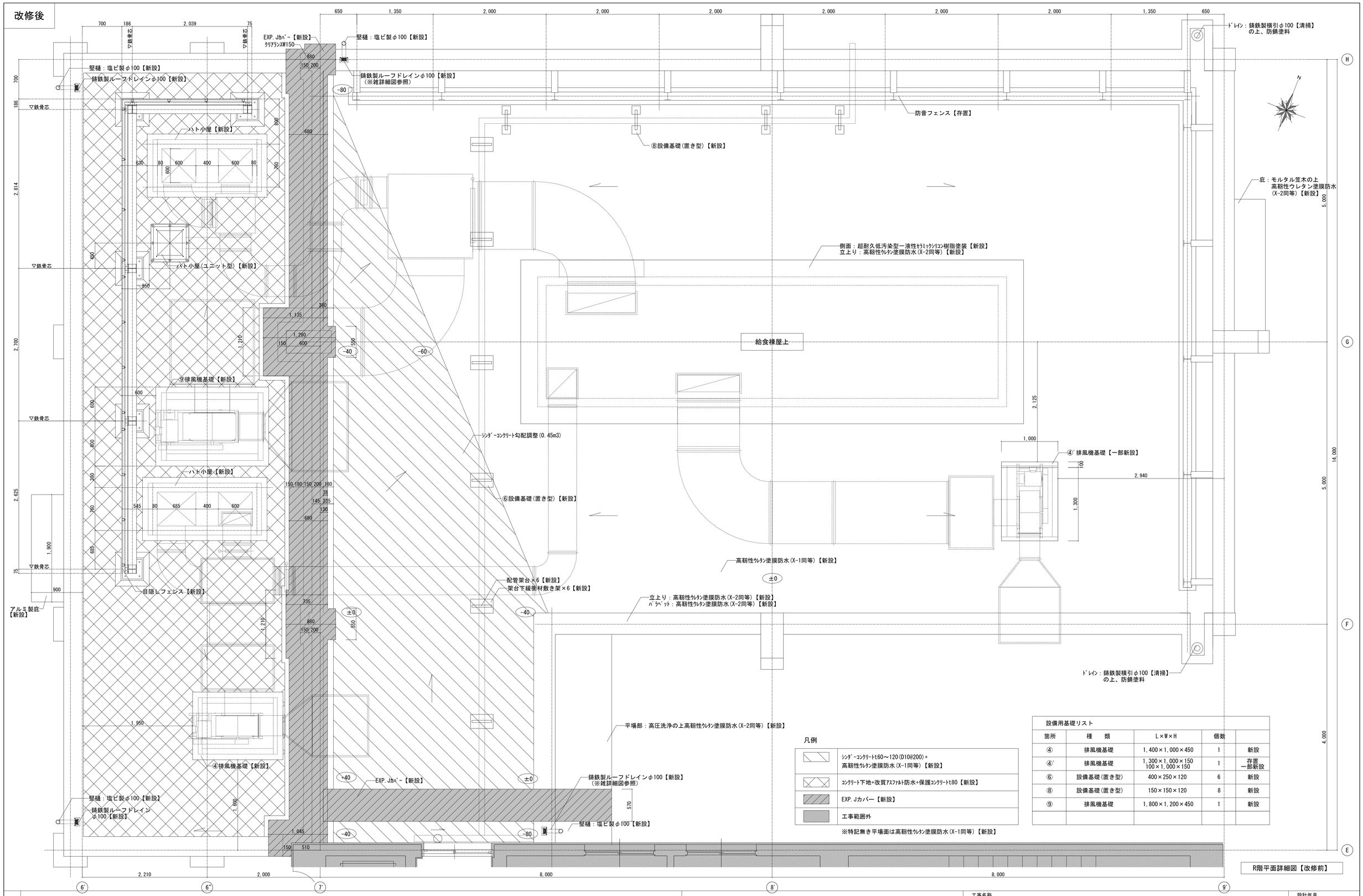
箇所	種　類	L×W×H	個数	
①	排風機基礎	1,400×2,700×150	1	撤去
②	排風機基礎	1,300×2,500×150	1	一部撤去
③	膨張水槽基礎	1,000×1,000×150	1	撤去
⑤	設備基礎	1,030×1,030×270	1	撤去
⑥	設備基礎(置き型)	400×250×120	6	撤去
⑦	設備基礎(置き型)	200×200×120	4	撤去
⑧	設備基礎(置き型)	150×150×120	26	撤去



R階平面詳細図【改修前】

記事			
株式会社 綜企画設計　西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号 一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
	図面名称 R階平面詳細図【改修前】	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 A-27

改修後



設備用基礎リスト

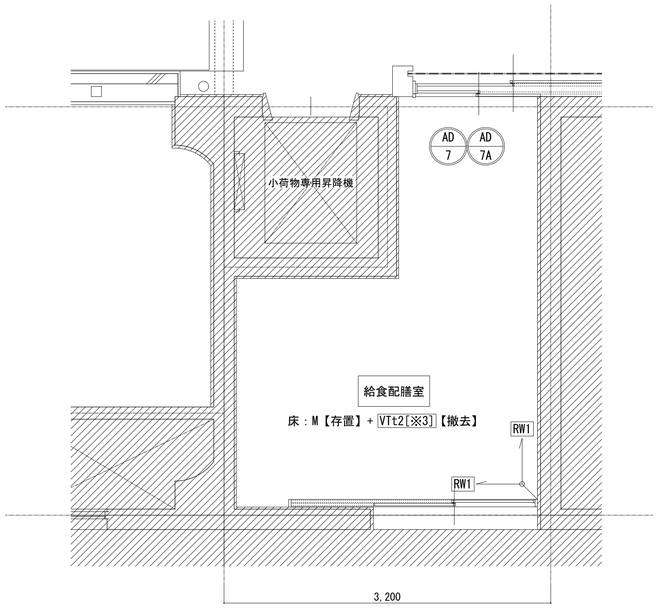
箇所	種　類	L×W×H	個数	
④	排風機基礎	1,400×1,000×450	1	新設
④'	排風機基礎	1,300×1,000×150 100×1,000×150	1	存置 一部新設
⑥	設備基礎(置き型)	400×250×120	6	新設
⑧	設備基礎(置き型)	150×150×120	8	新設
⑨	排風機基礎	1,800×1,200×450	1	新設

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

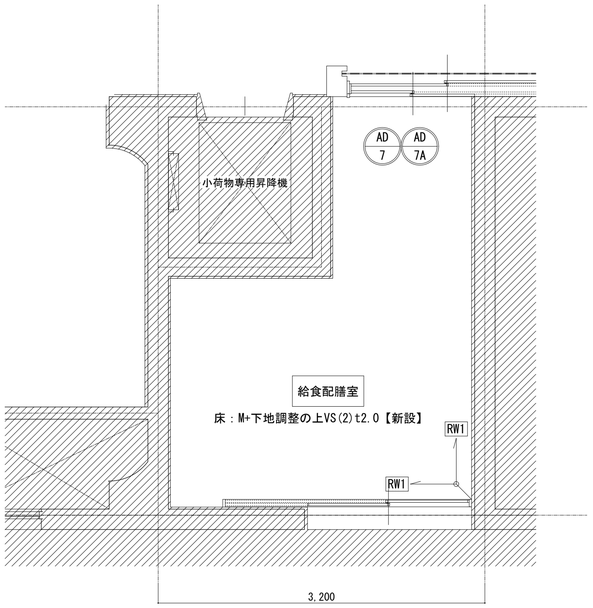
工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
図面名称 R階平面詳細図【改修後】	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 A-28

改修前



7'　1階平面詳細図【改修前】

改修後



7'　1階平面詳細図【改修後】

建具凡例

※	・・・新設建具
※	・・・建具改修
※	・・・既存のまま

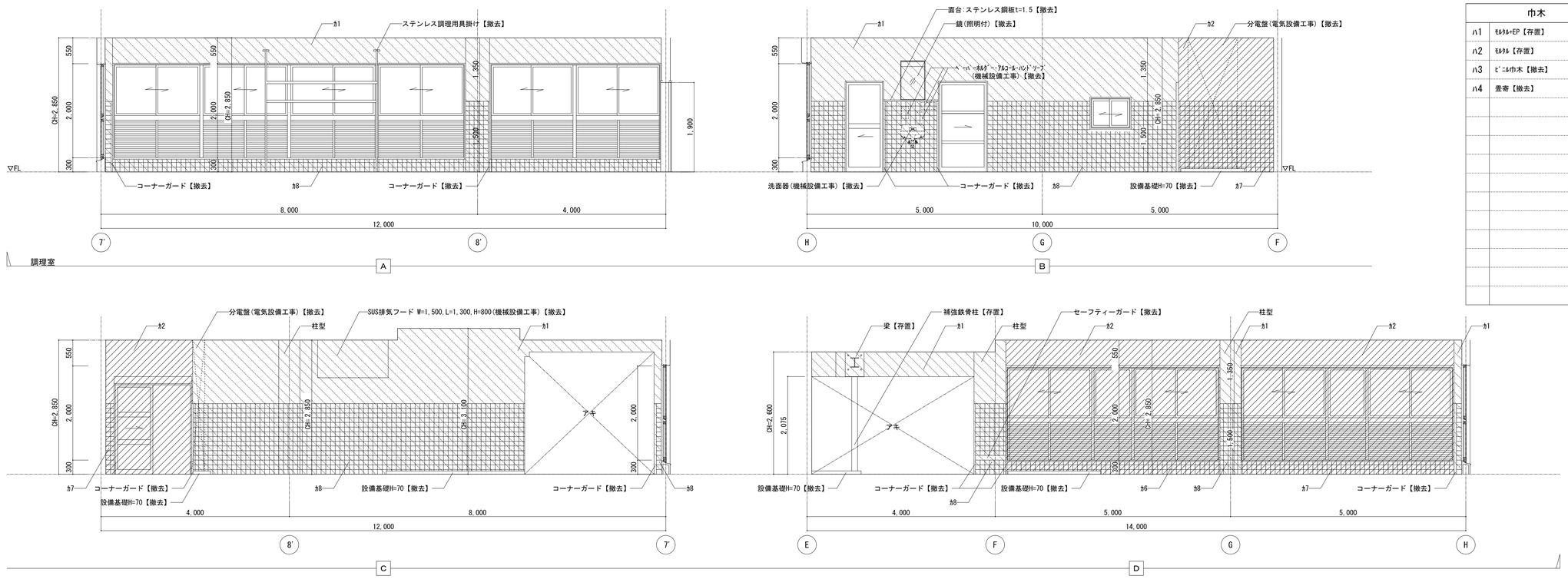
壁凡例

RW1	（改修前）M+EP【存置】
	（改修後）下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】
	工事範囲外

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
図面名称 1階給食配膳室平面詳細図【改修前・後】	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 A-29



巾木		壁・腰壁	
ハ1	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】	カ1	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ2	ﾓﾙﾀﾙ【存置】	カ2	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ3	ﾋﾞﾆﾙ巾木【撤去】	カ3	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+VP[※3]【撤去】
ハ4	畳寄【撤去】	カ4	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+VP[※3]【撤去】
		カ5	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+VP[※3]【撤去】
		カ6	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+VC【撤去】
		カ7	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ8	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ9	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】
		カ10	LGS+GB-Rt9.5+VC【撤去】
		カ11	LGS+GB-Rt9.5+VP[※3]【撤去】
		カ12	LGS+GB-St9.5+VP[※3]【撤去】
		カ13	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰部H1500)ｺﾝｸﾘｰﾄt100+ﾓﾙﾀﾙ+ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
		カ14	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰壁)ｺﾝｸﾘｰﾄt100=ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ15	ﾓﾙﾀﾙ+磁器質ﾀｲﾙ【撤去】

＜凡例＞

仕上撤去　下地共撤去

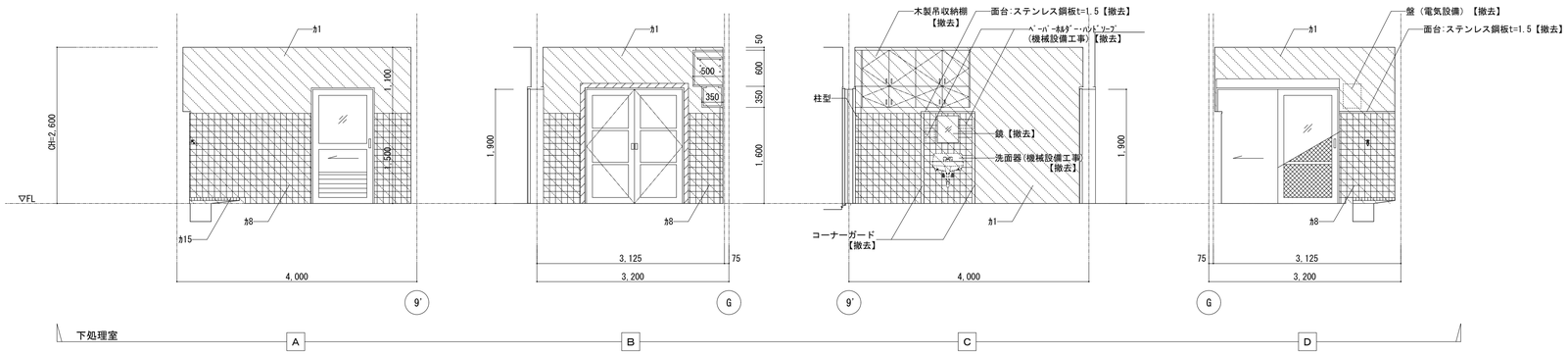
アスベスト含有建材(レベル3)は [※3]と示す。

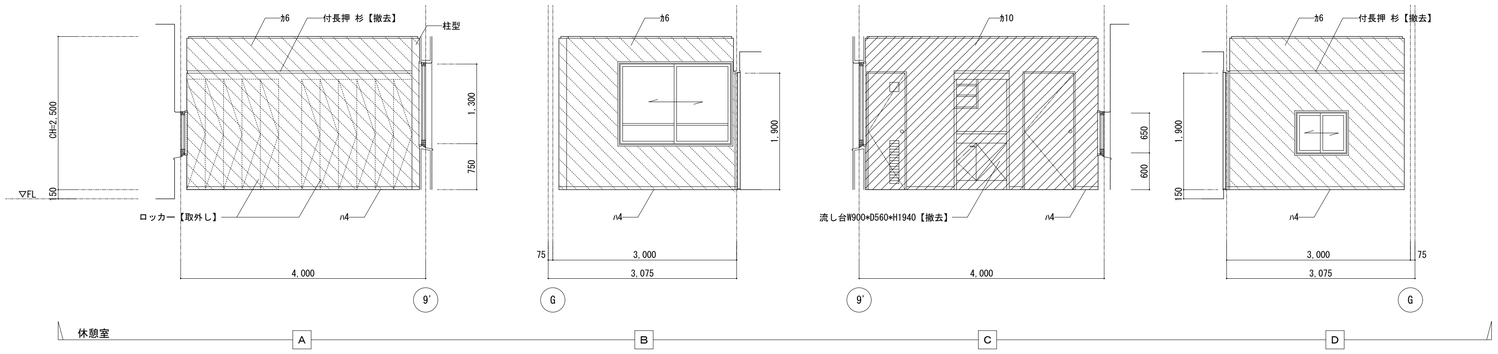
注）1.既存のアルミサッシは枠、ガラス面共清掃のこと

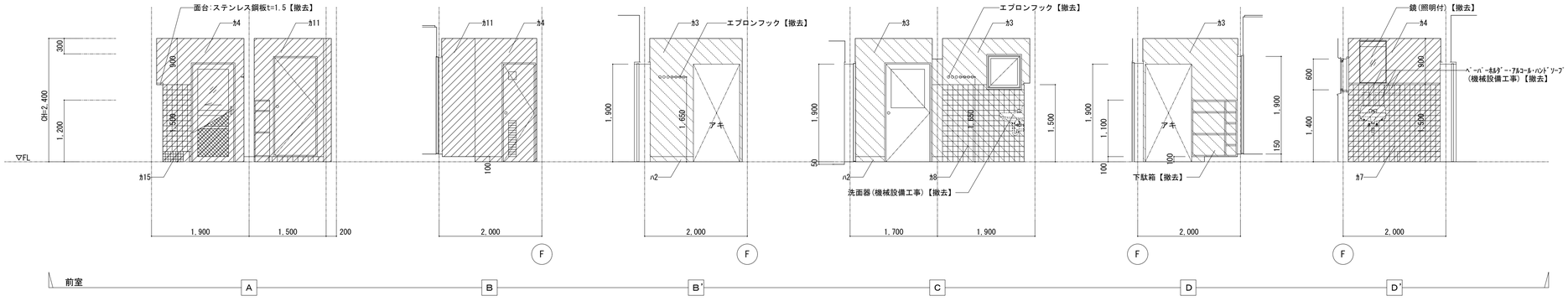
記事	

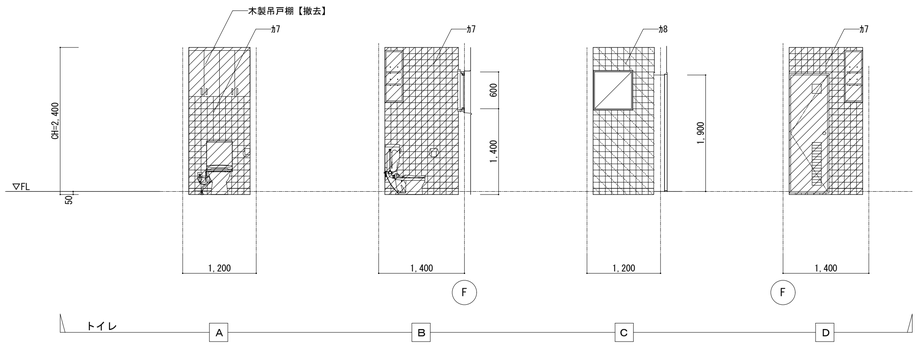
株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
展開図(1)【改修前】	A1: 1/50 A3: 1/100	A-30









巾木		壁・腰壁	
ハ1	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】	カ1	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ2	ﾓﾙﾀﾙ【存置】	カ2	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ3	ﾋﾞﾆﾙ巾木【撤去】	カ3	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ VP[※3]【撤去】
ハ4	畳寄【撤去】	カ4	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+ VP[※3]【撤去】
		カ5	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ VP[※3]【撤去】
		カ6	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+VC【撤去】
		カ7	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ8	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ9	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】
		カ10	LGS+GB-Rt9.5+VC【撤去】
		カ11	LGS+GB-Rt9.5+ VP[※3]【撤去】
		カ12	LGS+GB-St9.5+ VP[※3]【撤去】
		カ13	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰部H1500)ｺﾝｸﾘｰﾄt100+ﾓﾙﾀﾙ+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
		カ14	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰壁)ｺﾝｸﾘｰﾄt100=ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ15	ﾓﾙﾀﾙ+磁器質ﾀｲﾙ【撤去】

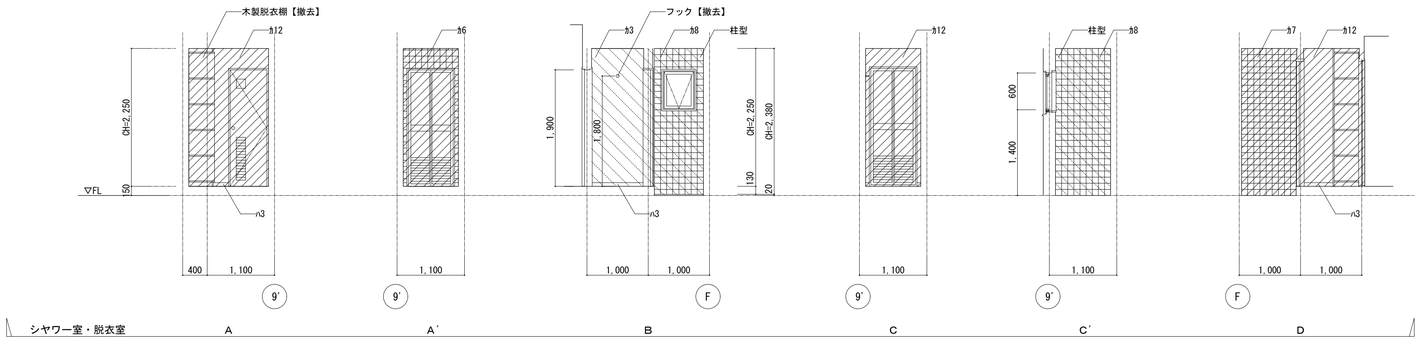
＜凡例＞

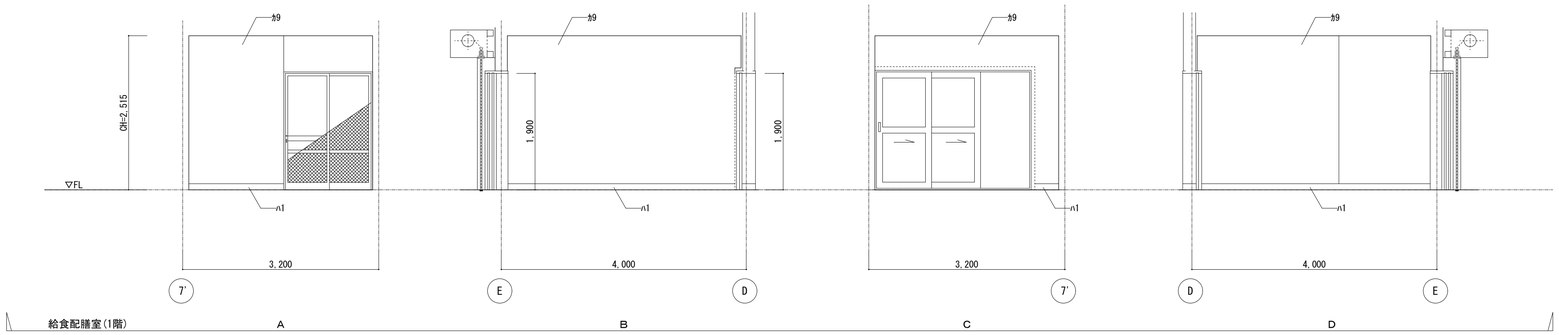
仕上撤去　下地共撤去

アスベスト含有建材(レベル3)は [※3]と示す。

注) 1.既存のアルミサッシは枠、ガラス面共清掃のこと

記事			
株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
	図面名称 展開図(2)【改修前】	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 A-31





巾木		壁・腰壁	
ハ1	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】	カ1	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ2	ﾓﾙﾀﾙ【存置】	カ2	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
ハ3	ﾋﾞﾆﾙ巾木【撤去】	カ3	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ VP[※3]【撤去】
ハ4	畳寄【撤去】	カ4	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+ VP[※3]【撤去】
		カ5	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+ VP[※3]【撤去】
		カ6	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+VC【撤去】
		カ7	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ8	ｺﾝｸﾘｰﾄ+ﾓﾙﾀﾙ【存置】+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ9	ﾓﾙﾀﾙ+EP【存置】
		カ10	LGS+GB-Rt9.5+VC【撤去】
		カ11	LGS+GB-Rt9.5+ VP[※3]【撤去】
		カ12	LGS+GB-St9.5+ VP[※3]【撤去】
		カ13	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰部H1500)ｺﾝｸﾘｰﾄt100+ﾓﾙﾀﾙ+ ｱｸﾘﾙ系吹付ﾀｲﾙ[※3]【撤去】
		カ14	100角鋼材+(腰壁ｺﾝｸﾘｰﾄ上)LGS+GB-S (腰壁)ｺﾝｸﾘｰﾄt100=ﾓﾙﾀﾙ+100角陶器質ﾀｲﾙ【撤去】
		カ15	ﾓﾙﾀﾙ+磁器質ﾀｲﾙ【撤去】

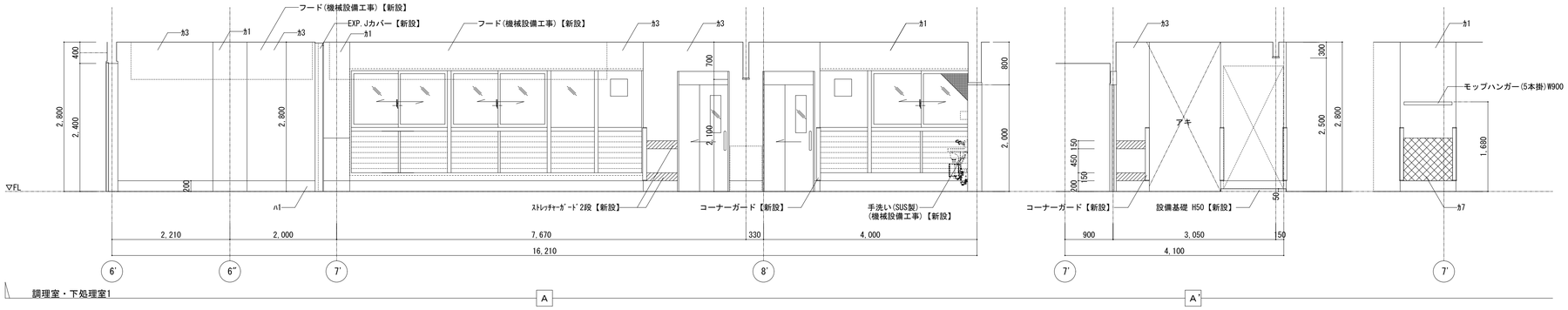
＜凡例＞

仕上撤去　下地共撤去

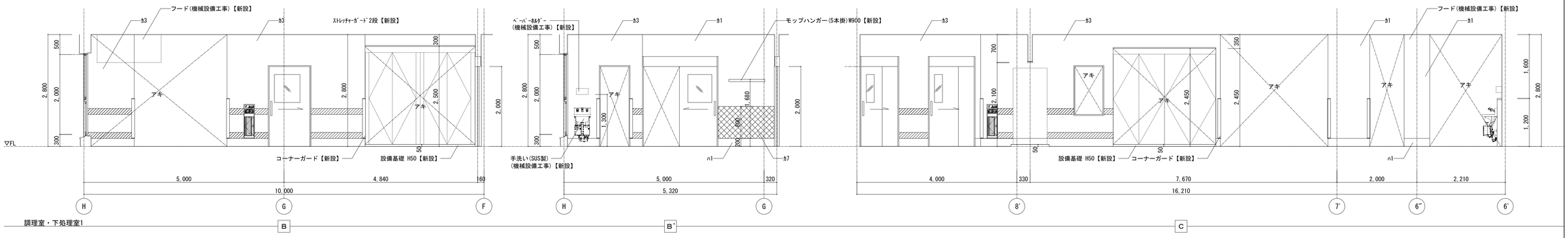
アスベスト含有建材(レベル3)は [※3]と示す。

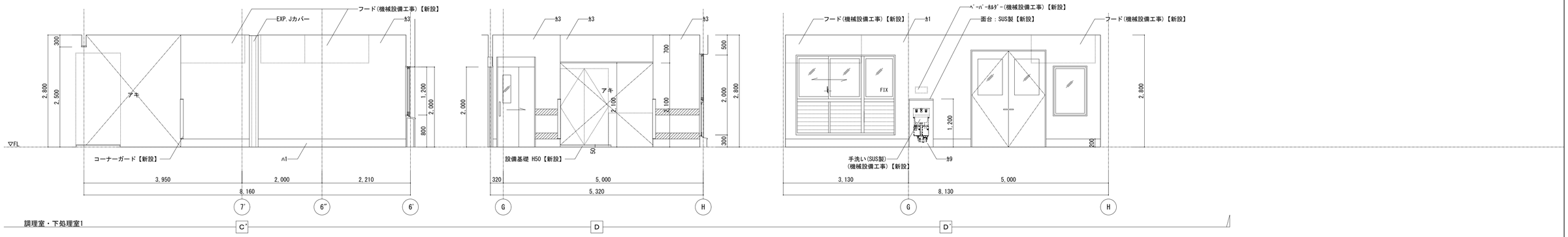
注）1.既存のアルミサッシは枠、ガラス面共清掃のこと

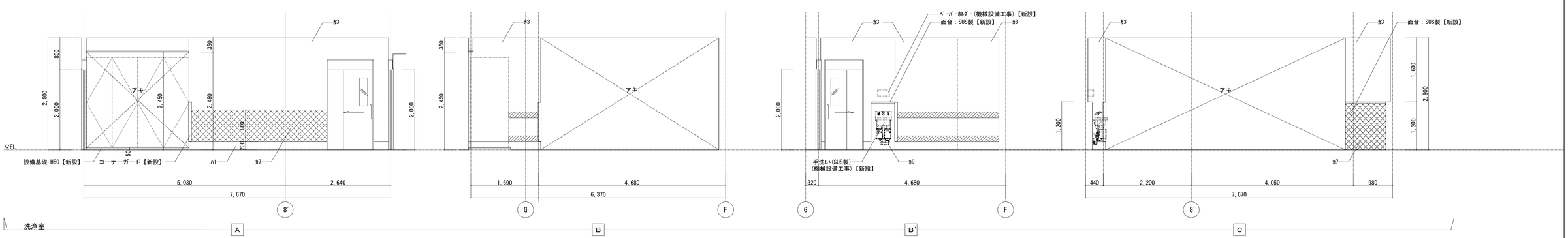
記事		株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
			図面名称 展開図(3)【改修前】	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 A-32



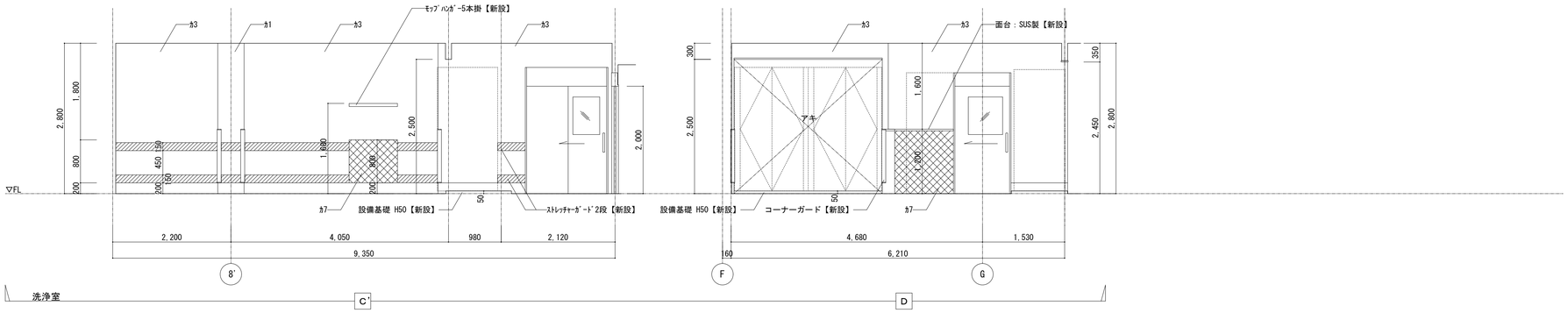
巾木		壁・腰壁	
ハ1	VS(1)巻上 H200【新設】	カ1	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】
ハ2	ビニル巾木 H100【新設】	カ2	下地調整の上M+VC【新設】
ハ3	ﾓﾙﾀﾙ+EP H100【新設】	カ3	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ4	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】
		カ5	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC【新設】
		カ6	LGS+GB-St12.5+9.5+VC【新設】
		カ7	(腰壁)SUS板HL t0.8【新設】 計20m
		カ8	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ9	LGS+GB-St12.5+化粧FK t6【新設】
		—	ｽﾄﾚｯﾁｬｰｶﾞｰﾄﾞ2段【新設】 計32m



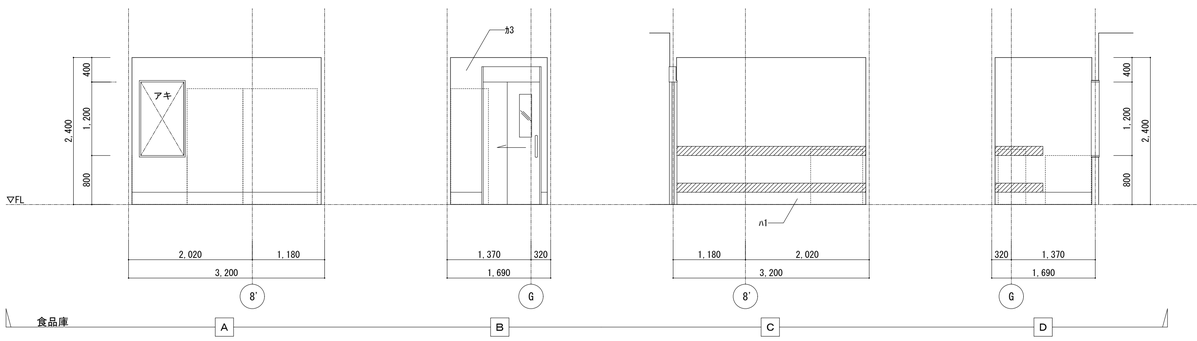


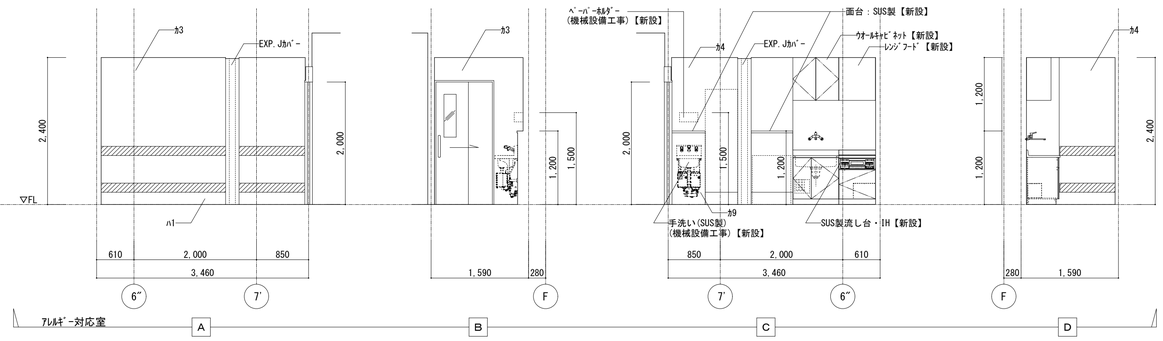


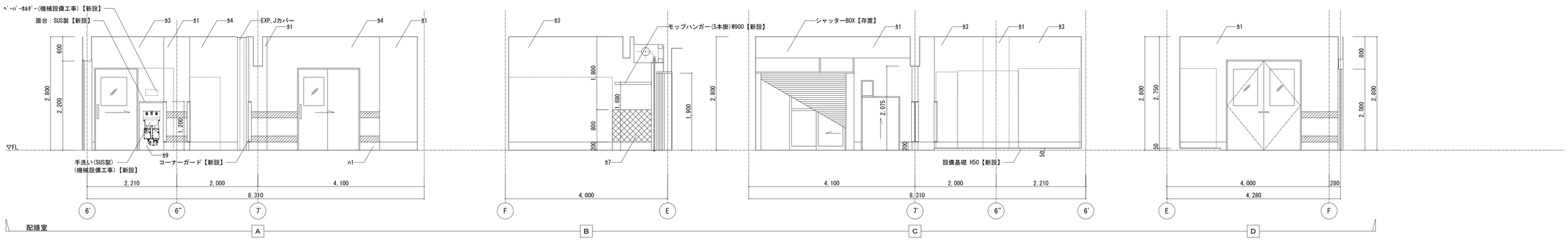
記事		株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
			図面名称 展開図(1)【改修後】	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 A-33

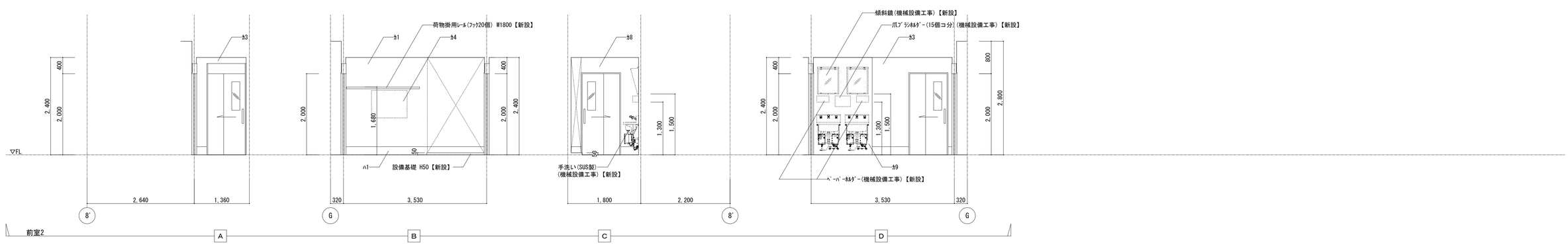


巾木		壁・腰壁	
ハ1	VS(1)巻上 H200【新設】	カ1	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】
ハ2	ビニル巾木 H100【新設】	カ2	下地調整の上M+VC【新設】
ハ3	モルタル+EP H100【新設】	カ3	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ4	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】
		カ5	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC【新設】
		カ6	LGS+GB-St12.5+9.5+VC【新設】
		カ7	(腰壁)SUS板HL t0.8【新設】 計20m
		カ8	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ9	LGS+GB-St12.5+化粧FKt6【新設】
		—	ストレッチャーガード2段【新設】 計32m





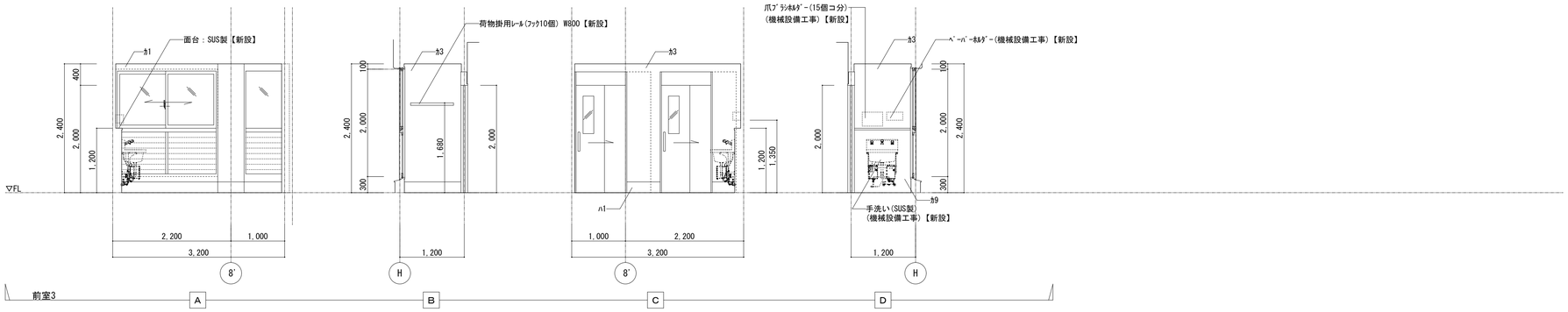




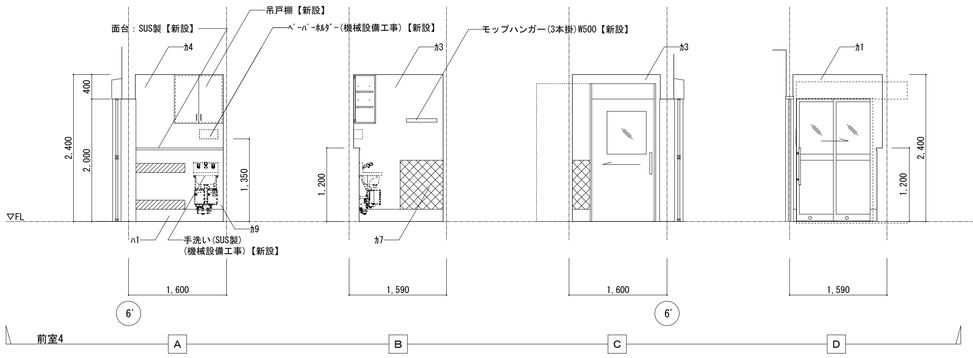
記事

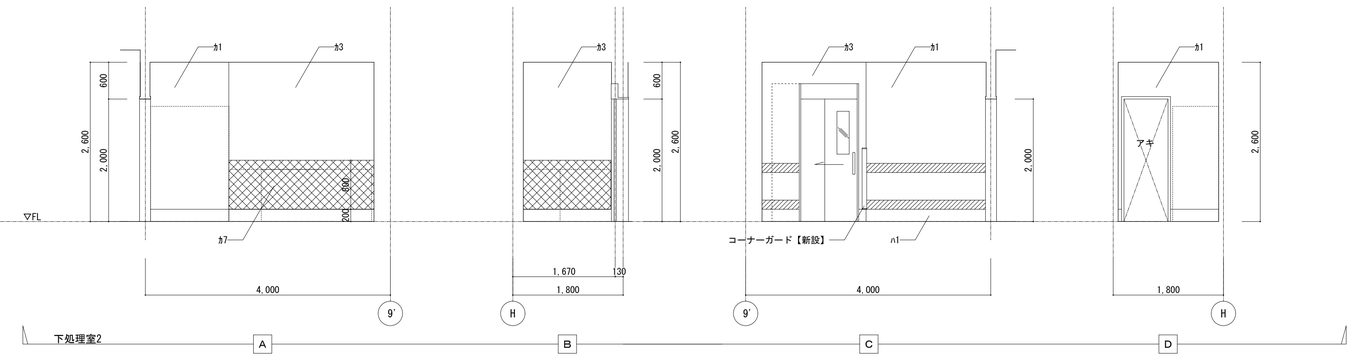
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

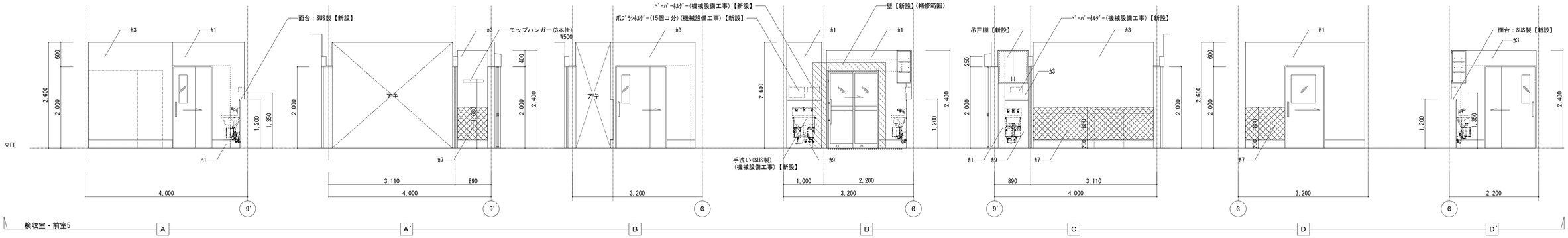
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
展開図(2)【改修後】	A1: 1/50 A3: 1/100	A-34

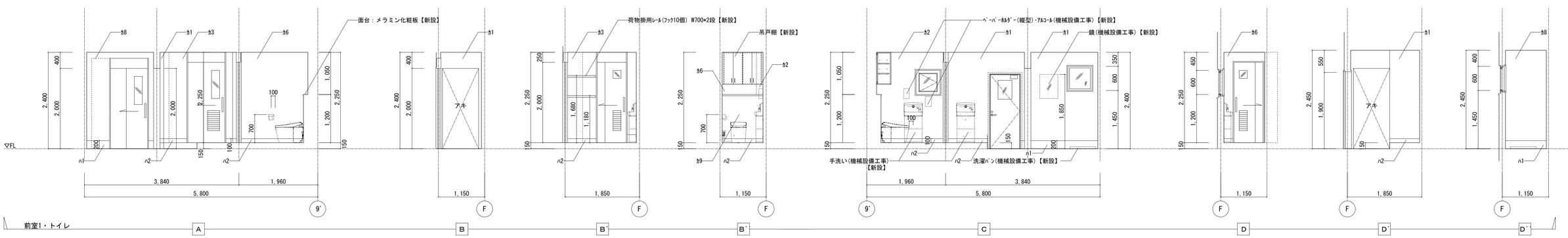


巾木		壁・腰壁	
ハ1	VS(1)巻上 H200【新設】	カ1	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】
ハ2	ビニル巾木 H100【新設】	カ2	下地調整の上M+VC【新設】
ハ3	ﾓﾙﾀﾙ+EP H100【新設】	カ3	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ4	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】
		カ5	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC【新設】
		カ6	LGS+GB-St12.5+9.5+VC【新設】
		カ7	(腰壁)SUS板HL t0.8【新設】 計20m
		カ8	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ9	LGS+GB-St12.5+化粧FK t6【新設】
		—	ｽﾄﾚｯﾁｬｰｶﾞｰﾄﾞ2段【新設】 計32m







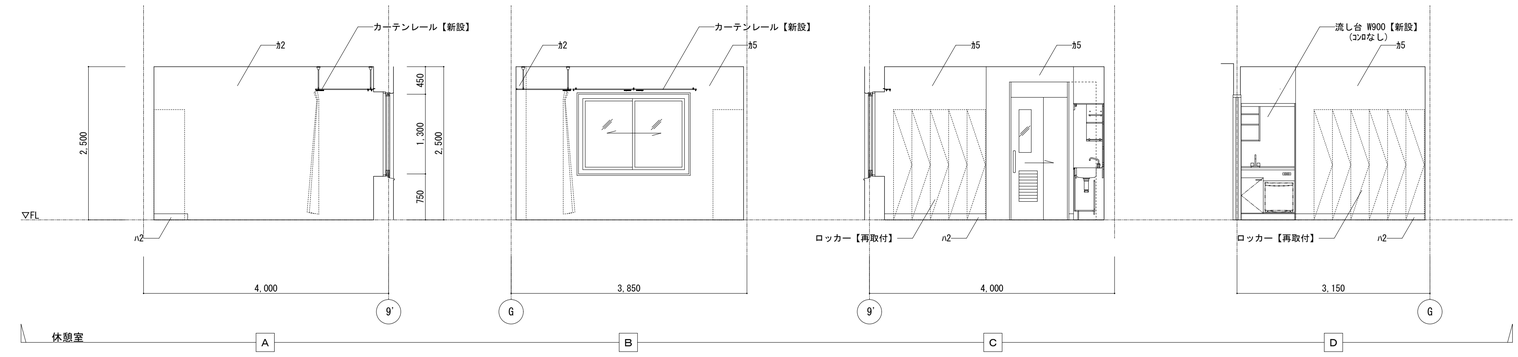


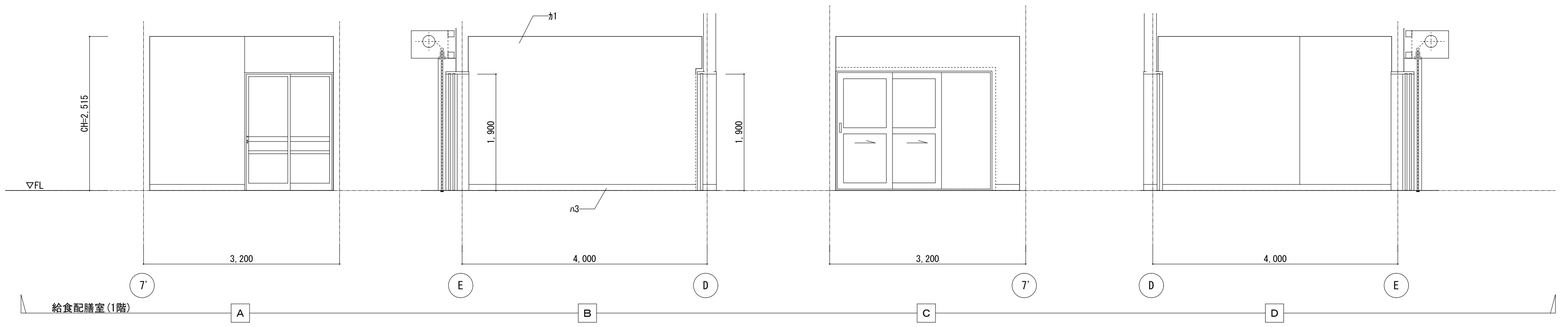
記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
展開図(3)【改修後】	A1: 1/50 A3: 1/100	A-35





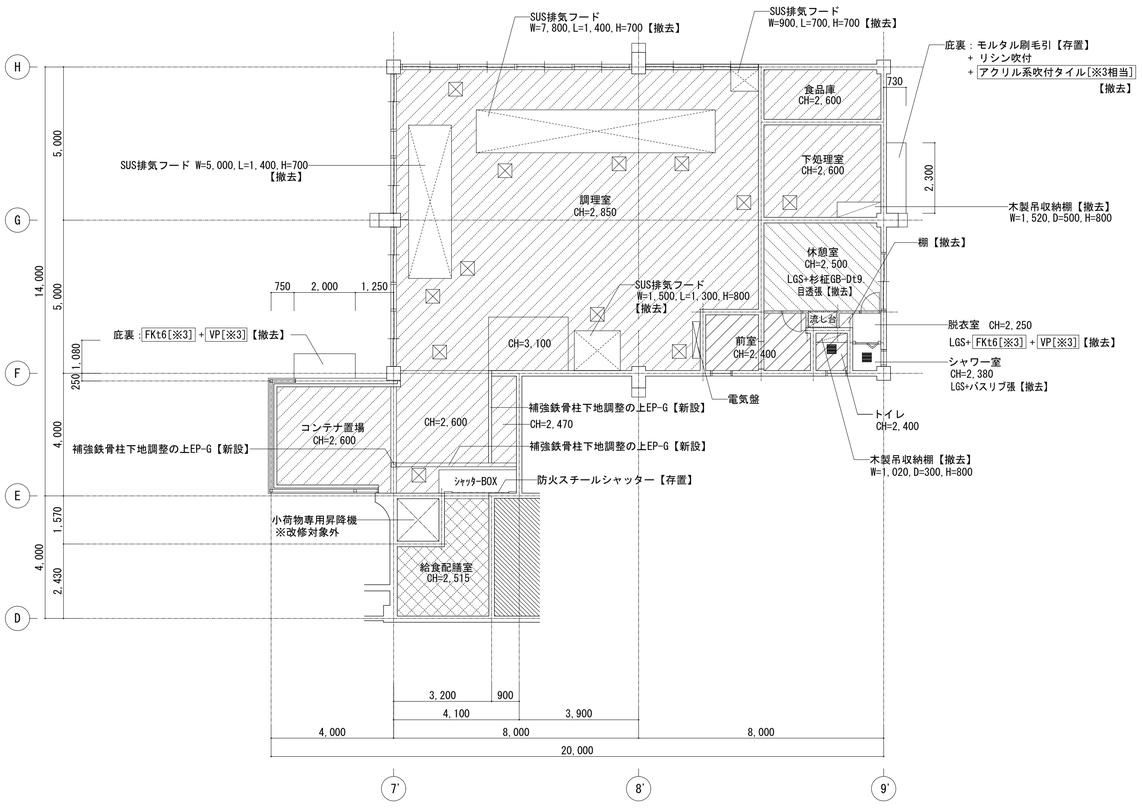
巾木		壁・腰壁	
ハ1	VS(1)巻上 H200【新設】	カ1	下地調整の上M+防水型薄塗材E【新設】
ハ2	ビニル巾木 H100【新設】	カ2	下地調整の上M+VC【新設】
ハ3	ﾓﾙﾀﾙ+EP H100【新設】	カ3	LGS+GB-St12.5+9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ4	LGS+GB-Ft21+21+防水型薄塗材E【新設】
		カ5	LGS+GB-Rt12.5+9.5+VC【新設】
		カ6	LGS+GB-St12.5+9.5+VC【新設】
		カ7	(腰壁)SUS板HL t0.8【新設】
		カ8	LGS+GB-Ft12.5+GB-Ht9.5+防水型薄塗材E【新設】
		カ9	LGS+GB-St12.5+化粧FKt6【新設】

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

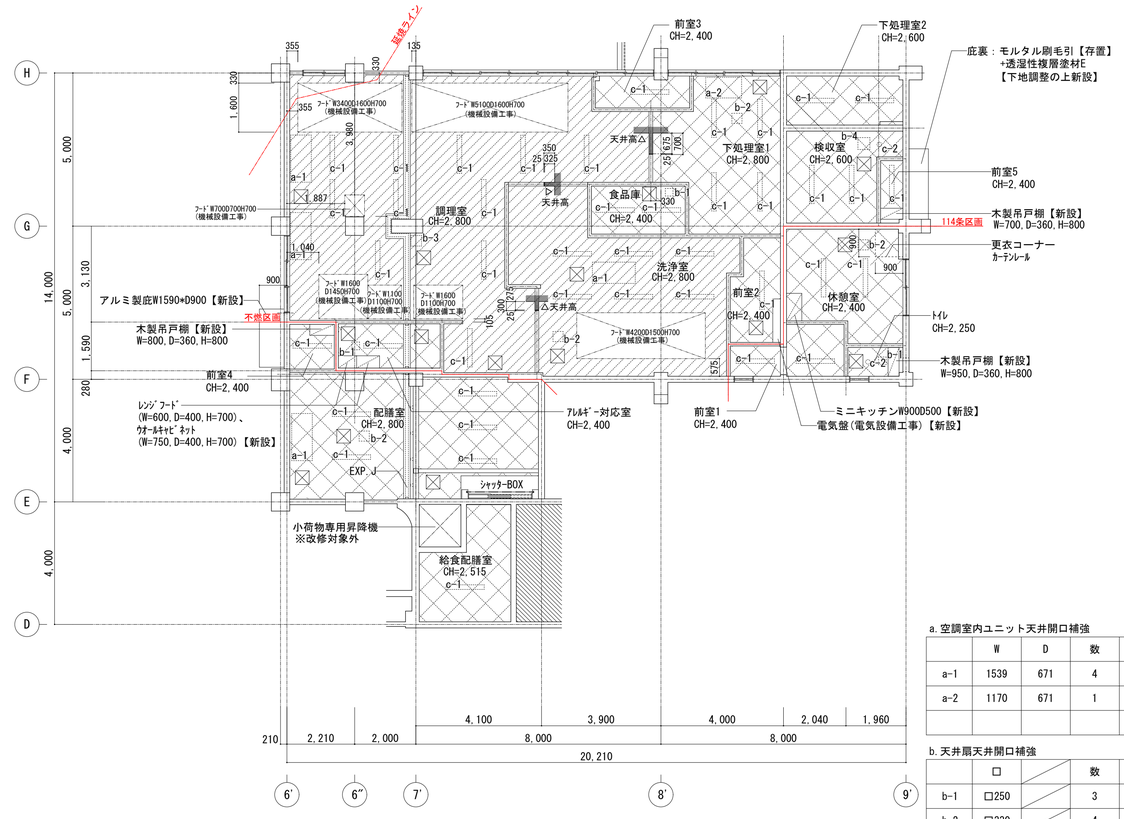
工事名称: 調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月: 2025年3月
図面名称: 展開図(4)【改修後】
縮尺: A1: 1/50 A3: 1/100
図面番号: A-36

改修前



1階天井伏図【改修前】

改修後



1階天井伏図【改修後】

※不燃区画壁をスラブ下まで立ち上げること。

a.空調室内ユニット天井開口補強

	W	D	数	備　考
a-1	1539	671	4	
a-2	1170	671	1	

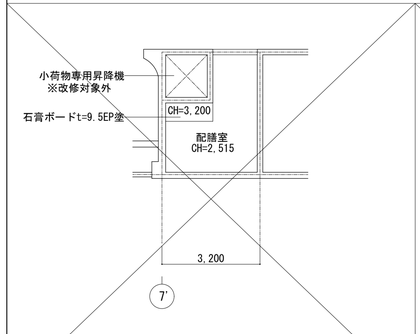
b.天井扉天井開口補強

	□		数	備　考
b-1	□250		3	
b-2	□330		4	
b-3	□334		1	
b-4	□390		1	

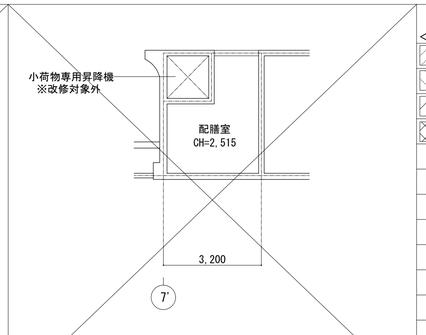
c.照明天井

	W	D	数	備　考
c-1	1250	150	42	開口補強無
c-2	φ150		2	開口補強無

※設備機本体は、各設備工事とする。



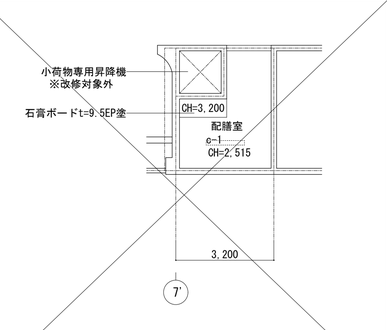
4階天井伏図【改修前】



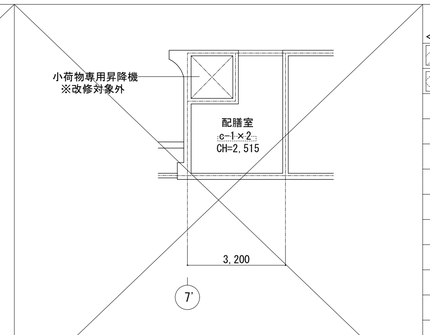
2,3階天井伏図【改修前】

＜凡例＞

- LGS+FKt6[※3]+結露防止塗料吹付【下地共撤去】
- LGS+杉柾GB-Dt9 目透張【下地共撤去】
- LGS+FKt6[※3]+VP[※3]【下地共撤去】
- LGS+GB-Dt9.5【下地共撤去】
- 天井点検口 アルミ製450×450（計12箇所）【撤去】
- 換気扇（計2箇所）【撤去】



4階天井伏図【改修後】



2,3階天井伏図【改修後】

＜凡例＞

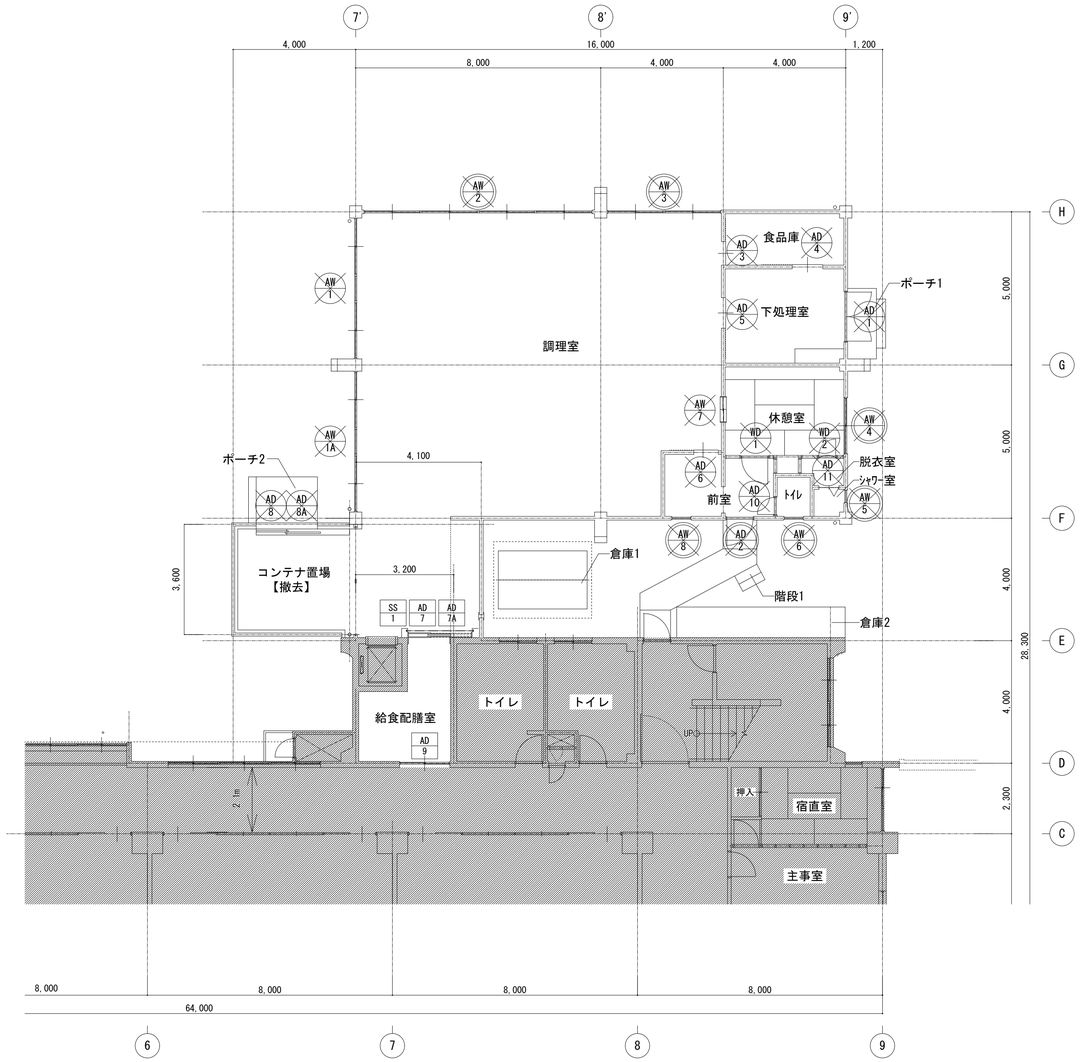
- LGS+FKt6+結露防止塗料吹付【新設】
- LGS+GB-Dt9.5【新設】
- 天井点検口 アルミ製450×450（計16箇所）【新設】
- フード(機械設備工事)【新設】
- a 室内機ユニット(機械設備工事)【新設】
- b 天井扉(機械設備工事)【新設】
- c 照明(電気設備工事)【新設】

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
図面名称	天井伏図【改修前・後】	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		図面番号 A-37

改修前



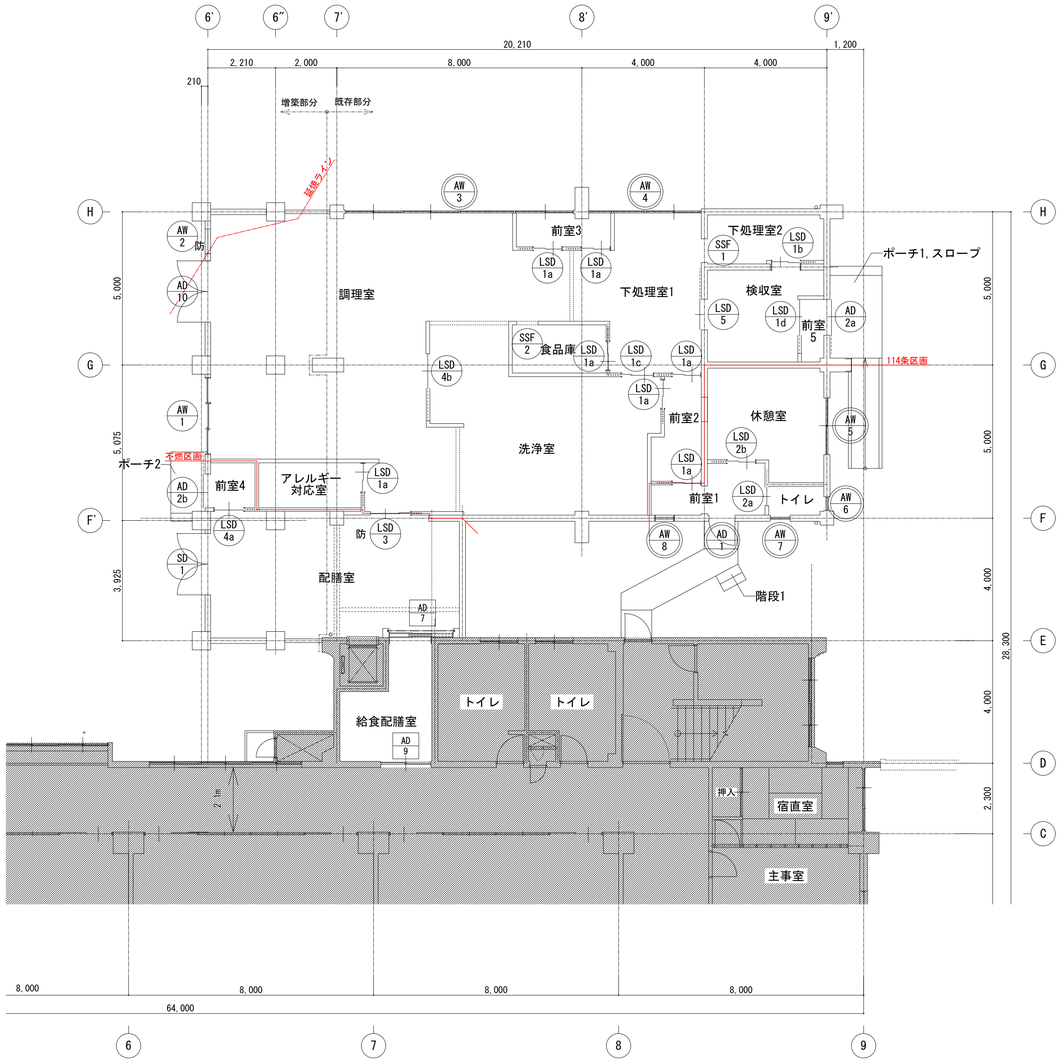
1階建具キープラン【改修前】

建具凡例

	…建具撤去(枠共)
	…建具撤去(枠残し)
	…建具改修
	…既存のまま

工事範囲外

改修後



1階建具キープラン【改修後】

建具凡例

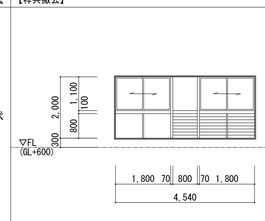
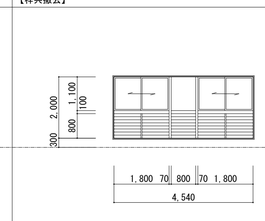
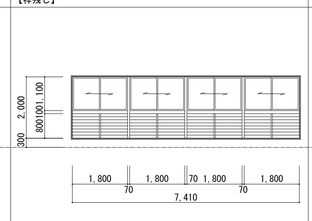
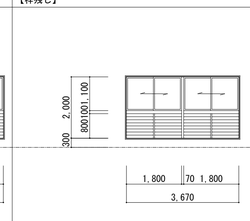
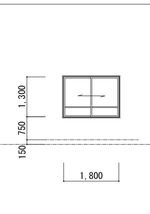
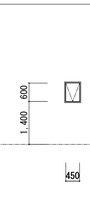
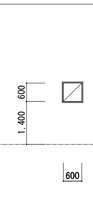
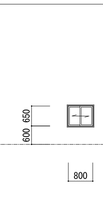
	…建具新設
	…建具新設(ｶﾊﾞｰ工法)
	…建具改修
	…既存のまま

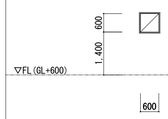
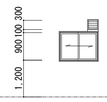
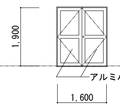
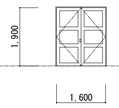
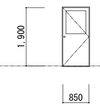
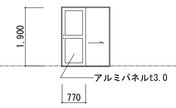
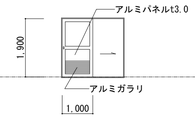
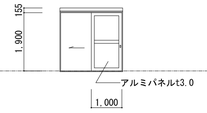
工事範囲外

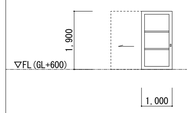
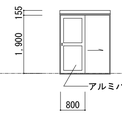
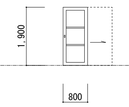
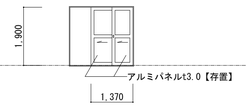
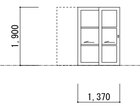
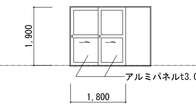
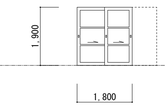
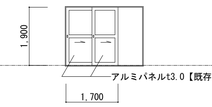
記事

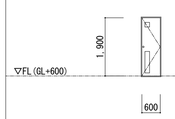
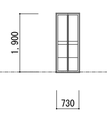
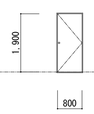
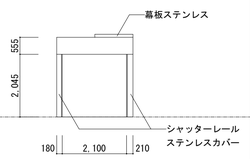
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
図面名称	建具キープラン【改修前・後】	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		図面番号 A-38

記号	AW 1	AW 1A	AW 2	AW 3	AW 4	AW 5	AW 6	AW 7
	1	1	1	1	1	1	1	1
場所・数量	調理室	調理室	調理室	調理室	休憩室	シャワー室	トイレ	休憩室
改修方法	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠残し】	【枠残し】	【枠残し】	【枠残し】	【枠残し】	【枠共撤去】
形状								
型式	中央嵌め殺し窓腰ガラリ付き引違2連窓	中央嵌め殺し窓腰ガラリ付き引違2連窓	下部可動ガラリ付4連引違いアルミサッシュ(乙種防火戸認定品)	下部可動ガラリ付2連引違いアルミサッシュ(乙種防火戸認定品)	引違いアルミサッシュ	内倒しアルミサッシュ	滑り出しアルミサッシュ	引違窓
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	アルマイト処理
ガラス	網入り磨きガラスt6.8	網入り磨きガラスt6.8	網入り透明ガラスt6.8	網入り透明ガラスt6.8	学校用強化透明ガラス(腰:強化型ガラス)t4	網入り型ガラスt6.8	型板ガラスt3.0	網入りガラスt6.8
金物	ステンレス製可動ガラリ(温度ヒューズ付)	ステンレス製可動ガラリ(温度ヒューズ付)	ステンレス網戸付、外部アルミ水切、内部ステンレス下額縁、	ステンレス網戸付、外部アルミ水切、内部ステンレス下額縁、	ステンレス網戸	外部アルミ水切、アルミ額縁、附属金物一式	外部アルミ水切、アルミ額縁、附属金物一式	アルミ額縁、附属金物一式
	内部フィルター付(取外し可)、ステンレス防虫網	内部フィルター付(取外し可)、ステンレス防虫網	アルミ額縁、附属金物一式	アルミ額縁、附属金物一式	附属金物一式	-	-	-
備考	腰ガラリ2枚はアルミパネルt3.0	-	ガラリ部:防虫網付(ステンレス)、内部フィルター付(取外し可)、ステンレス可動ガラリ(温度ヒューズ付)	ガラリ部:防虫網付(ステンレス)、内部フィルター付(取外し可)、ステンレス可動ガラリ(温度ヒューズ付)	-	-	-	-

記号	AW 8	AW 9	AD 1	AD 1A	AD 2	AD 3	AD 4	AD 5
	1	3	1	1	1	1	1	1
場所	前室1	給食配膳室(2～4階)	下処理室(外側)	下処理室(内側)	前室2	食品庫	食品庫	下処理室 (外側)
改修方法	【枠残し】	【存置】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠残し】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠共撤去】
形状								
型式	滑り出しアルミサッシュ	上部ガラリ付引違いアルミサッシュ	両開きアルミ框ドア	両開きアルミ框ステンレス網戸	片開きアルミフラッシュドア	片引きアルミ戸	片引きアルミ戸	片引きアルミ戸
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製	アルミ製	アルミ製 100	アルミ製 70	アルミ製 70	アルミ製 70
仕上	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー
ガラス	網入り型ガラスt6.8	学校用強化透明ガラスt4	網入り透明ガラスt6.8	ステンレス網	網入り型ガラスt6.8	網入り型ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3	網入り型ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3	網入り透明ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3
金物	片開きステンレス網戸、外部アルミ水切、内部ステンレス額縁	アルミ額縁、附属金物一式	3枚吊丁番、フランス落し、ドアチェック、握り玉付シリンダー錠、	3枚吊丁番、フランス落し、取手、附属金物一式	3枚吊丁番、ドアチェック、握り玉付シリンダー錠、ステンレス沓摺、	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式
	アルミ額縁、附属金物一式	錠:2～4階は扉下側より施錠可とする。	ステンレス沓摺、アルミ額縁、附属金物一式	-	アルミ額縁、附属金物一式	-	-	-
備考	-	-	-	-	-	-	アルミガラリ付	-

記号	AD 5A	AD 6	AD 6A	AD 7	AD 7A	AD 8	AD 8A	AD 9
	1	1	1	1	1	1	1	1
場所	下処理室 (内側)	前室 1 (外側)	前室 1 (内側)	コンテナ置場 (外側)	コンテナ置場 (内側)	コンテナ置場 (外側)	コンテナ置場 (内側)	給食配膳室 (1階)
改修方法	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【存置】	【存置】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【存置:鍵交換のみ】
形状								
型式	片引きアルミ框ステンレス戸	片引きアルミ戸	片引きアルミ框ステンレス戸	2本引きアルミ戸	2本引きアルミ框ステンレス戸	2本引きアルミ戸	2本引きアルミ框ステンレス戸	2本引きアルミ戸
材質・見込	アルミ製	アルミ製 70	アルミ製	アルミ製 180	アルミ製	アルミ製 180	アルミ製	アルミ製 70
仕上	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー
ガラス	ステンレス網	網入り型ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3	ステンレス網	網入り型ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3	ステンレス網	網入り型ガラスt6.8 腰:アルミパネルt3	ステンレス網	学校用強化透明ガラスt4 腰:アルミパネルt3
金物	引手、附属金物一式	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式	引手、附属金物一式	ステンレスレール、引手、錠、アルミ額縁、附属金物一式	引手、附属金物一式	ステンレスレール、引手、室内側:アルミ額縁、室外側:ステンレス額縁	引手、附属金物一式	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式
	-	-	-	-	-	室外側:ステンレス沓摺 H=330、錠、アルミ額縁、附属金物一式	-	-
備考	-	-	-	-	-	-	-	-

記号	AD 10	AD 11	WD 1	WD 2	SS 1
	1	1	1	1	1
場所	トイレ	シャワー室	休憩室	休憩室	給食室
改修方法	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【枠共撤去】	【存置】
形状					
型式	片開きアルミ戸	アルミ折戸	片開き木製フラッシュドア	片開き木製フラッシュドア	電動スチール防火シャッター(煙感連動 乙種防火戸)
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	ラワン 36(扉)	ラワン 36(扉)	スチールt1.2
仕上	シルバー	シルバー	前室側:ポリエステル合板、和室側:プリント合板	脱衣室側:ポリエステル合板、和室側:プリント合板	焼付塗装
ガラス	型ガラスt4	型ガラスt4	-	型ガラスt4	-
金物	3枚吊丁番、モノロック、ステンレス沓摺、アルミ額縁	ステンレスレール、タオル掛兼用取手、アルミ額縁、附属金物一式	3枚吊丁番、空錠、戸当り、附属金物一式	3枚吊丁番、モノロック、和室側:空錠、脱衣室側:サムターン、	ガイドレール・マグサ・座板・スイッチボックス・シャッターボックス
	前室側:空錠、便所側:サムターン、非常解錠装置付表示錠	-	-	非常解錠装置付表示錠	シャッターレールカバー・壁取合部 共ステンレスt1.5
備考	アルミガラリ付	アルミガラリ付	-	木製ガラリ付	-

建具凡例

※	…建具撤去(枠共)
※	…建具撤去(枠残し)
※	…建具改修
※	…既存のまま

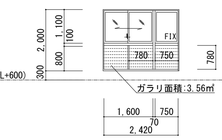
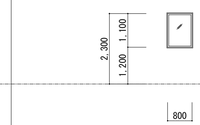
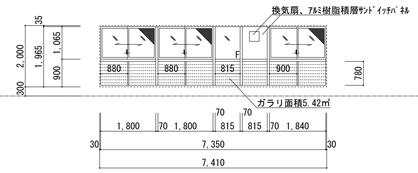
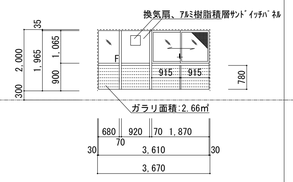
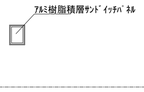
共通事項

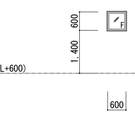
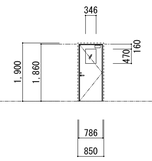
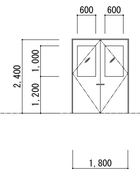
1. 標準的扉材には戸当りゴムを2ヶ所ビス止めとする。
2. 扉を開放するとき壁に当たる場所には 床付戸当りを設置する。
3. ガラス押えは特記なき限り シール押えとする。
4. サッシュ寸法はタイル割等によりサッシュ寸法調整を行い、係員の承認を得ること。
5. 金属建具の枠廻りは、外部:防水モルタル、内部:モルタル詰めとする。
6. 沓摺は下記とする。
 床面が同一の場合 :ステンレス製t2.0 形状:
 床面が段差がある場合:ステンレス製t2.0 形状:
7. 既存サッシュ廻り及びガラス廻りコーキングは全て打替えのこと
8. 給食室に面した建具の上額部はほこりの集積を避けるため斜め(45°)加工すること。
9. 注:既存のアルミサッシは枠、ガラス面共清掃のこと。

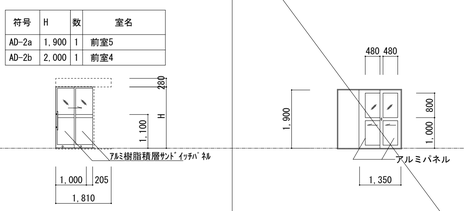
記事
※ガラス廻りシーリングは防火設備用指定シーリング材とする。

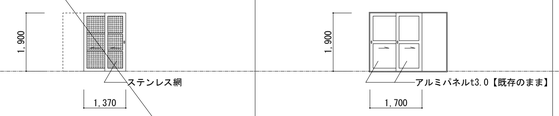
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

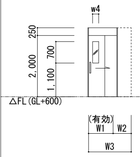
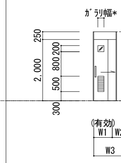
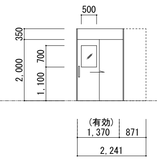
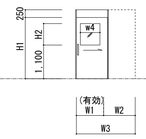
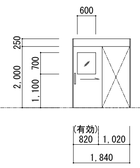
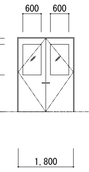
工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称: 建具表【改修前】	縮尺: A1: 1/100 A3: 1/200
	図面番号: A-39

記号	AW 1	AW 2 防	AW 3	AW 4	AW 5	AW 6	AW 7
	1	1	1	1	1	1	1
場所・数量	調理室	調理室	調理室	下処理室	休憩室	トイレ	トイレ
改修方法	【新設】	【新設】	【カバー工法】	【カバー工法】	【カバー工法】	【カバー工法】	【カバー工法】
形状							
型式	アルミ製　引き違い+FIX窓	アルミ製　引き違い窓	アルミ製　4連引違い窓	アルミ製　2連引違い窓	アルミ製　引違い窓	アルミ製　FIX窓	アルミ製　開き窓
材質・見込	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60
仕上	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー
ガラス	Tt4+At6+Tt4(学校用強化透明ガラス)	網入り透明ガラスt6.8+At6+Tt4	Tt4+At6+Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4+At6+Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4+At6+Tt4(学校用強化透明ガラス)	-	Tt4(学校用強化透明ガラス)
金物	SUS製網戸付、外部ｱﾙﾐ水切、内部SUS製下額縁、ﾛｯｸ付ｸﾚｾﾝﾄ、ﾌｨﾙﾀｰ(取外し式)、アルミ額縁、附属金物一式	アルミ額縁、附属金物一式	SUS製網戸付、外部ｱﾙﾐ水切、内部SUS製下額縁、ﾛｯｸ付ｸﾚｾﾝﾄ、ﾌｨﾙﾀｰ(取外し式)、アルミ額縁、ｱﾙﾐ樹脂積層ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ、附属金物一式	SUS製網戸付、外部ｱﾙﾐ水切、内部SUS製下額縁、ﾛｯｸ付ｸﾚｾﾝﾄ、ｱﾙﾐ額縁、ﾌｨﾙﾀｰ(取外し式)、ｱﾙﾐ樹脂積層ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ、附属金物一式	SUS製網戸付、外部ｱﾙﾐ水切、内部SUS製下額縁、ﾛｯｸ付ｸﾚｾﾝﾄ、附属金物一式	外部アルミ水切、アルミ額縁、附属金物一式	外部アルミ水切、アルミ額縁、SUS製網戸付、附属金物一式
備考						ｱﾙﾐ樹脂積層ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ	

記号	AW 8	AD 1	AD 2*	AD 7	AD 7A	AD 9	AD 10
	1	1	2	1	1	1	1
場所	前室1	前室1	前室4,5	配膳室（外側）	調理室（内側）	給食配膳室（1階のみ）	調理室
改修方法	【カバー工法】	【カバー工法】	【新設】	【存置】	【存置】	【存置：鍵交換のみ】	【新設】
形状							
型式	アルミ製　FIX窓	アルミ製　片開き戸	アルミ製　片引き戸	アルミ製　2連引き戸	アルミ製 2連引き框戸	2本引きアルミ戸	アルミ製 両開き戸
材質・見込	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠60	アルミ製　見込70・枠120	アルミ製　見込70・枠375	アルミ製	アルミ製　70	アルミ製　見込70
仕上	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー
ガラス	Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4(学校用強化透明ガラス)、腰：ｱﾙﾐ樹脂積層ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ	網入り型ガラスt6.8	ステンレス網	Tt4(学校用強化透明ガラス)　腰:アルミパネルt3	Tt4(学校用強化透明ガラス)
金物	外部アルミ水切、内部アルミ額縁、附属金物一式	3枚吊丁番、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、SUS製沓摺、ｼﾘﾝﾀﾞｰ・ｻﾑﾀｰﾝ錠、ｱﾙﾐ額縁、附属金物一式	SUS製ﾚｰﾙ(ﾌﾗｯﾄ)、SUS製引手L600、戸当り、引戸鎌錠(ｼﾝﾀﾞｰ・ｻﾑﾀｰﾝ)、ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、全開ｽﾄｯﾊﾟｰ、附属金物一式	ステンレスレール、引手、錠、アルミ額縁、附属金物一式	引手、附属金物一式	ステンレスレール、引手、アルミ額縁、附属金物一式	3枚吊丁番、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り、ｼﾘﾝﾀﾞｰ・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、附属金物一式
備考							



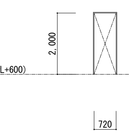
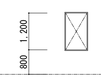


記号	LSD 1*	LSD 2*	LSD 3 防	LSD 4*	LSD 5	SD 1
	10	2	1	2	1	1
場所	調理室、下処理室1,2、食品庫、洗浄室、休憩室、検収室、アレルギー対応室、前室2～4	トイレ、休憩室	配膳室	前室4、洗浄室	検収室	配膳室
改修方法	【新設】	【新設】	【新設】	【新設】	【新設】	【新設】
形状						
型式	軽量鋼製 ハンガー2重引き込戸	軽量鋼製 ハンガー2重引き込戸	軽量鋼製 ハンガー2重引き込戸	軽量鋼製 ハンガー2重引き込戸	軽量鋼製 ハンガー引き戸	鋼製 両開き戸
材質・見込	亜鉛メッキ鋼板　140	亜鉛メッキ鋼板　140	亜鉛メッキ鋼板　140	亜鉛メッキ鋼板　140	亜鉛メッキ鋼板　140	鋼板　140
仕上	焼付塗装仕上	焼付塗装仕上	焼付塗装仕上	焼付塗装仕上	焼付塗装仕上	焼付塗装仕上
ガラス	Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4(学校用強化透明ガラス)	網入り透明ガラスt6.8	Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4(学校用強化透明ガラス)	Tt4(学校用強化透明ガラス)
金物	SUS製ﾚｰﾙ(ﾌﾗｯﾄ)、SUS製引手L600、戸当り、ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、全開ｽﾄｯﾊﾟｰ、附属金物一式	SUS製ﾚｰﾙ(ﾌﾗｯﾄ)、SUS製引手L600、戸当り、引戸鎌錠(ｼﾝﾀﾞｰ・ｻﾑﾀｰﾝ)、ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、全開ｽﾄｯﾊﾟｰ、ガラリ、附属金物一式	SUS製ﾚｰﾙ(ﾌﾗｯﾄ)、SUS製引手L600、戸当り、ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、附属金物一式	SUS製ﾚｰﾙ(ﾌﾗｯﾄ)、SUS製引手L600、戸当り、ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、全開ｽﾄｯﾊﾟｰ、附属金物一式	ｴｱﾀﾞﾝﾊﾟｰ、ｶｰﾑﾚｰﾙ、全開ｽﾄｯﾊﾟｰ、附属金物一式	3枚吊丁番、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り、ｼﾘﾝﾀﾞｰ・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、附属金物一式
備考			防火設備				

符号	(開有効)W1	W2	W3	(窓)w4	数	室名
LSD-1a	800	582	1,382	300	7	調理室、下処理室1、食品庫、洗浄室、検収室、ｱﾚﾙｷﾞｰ対応室、前室2,3
LSD-1b	820	587	1,407	300	1	下処理室2
LSD-1c	1,000	682	1,832	400	1	下処理室1
LSD-1d	1,100	732	1,832	450	1	検収室

符号	(開有効)W1	W2	W3	(窓)w4	数	備考
LSD-2a	600	482	1,082	200	1	ｶﾞﾗﾘ(200x500:開口率30%)
LSD-2b	800	582	1,382	300	1	ｶﾞﾗﾘ(300x500:開口率40%)

符号	W1	W2	W3	w4	H1	H2	数	室名
LSD-4a	1,000	1,190	2,190	900	2,000	700	1	前室4
LSD-4b	1,000	1,190	2,190	900	1,900	600	1	洗浄室

記号	SSF 1	SSF 2	SSF 3*
	1	1	3
場所	下処理室	調理室	下処理室
改修方法	【新設】	【新設】	【新設】
形状			
型式	SUS製 3方枠	SUS製 4方枠	SUS製 1方枠
材質・見込	SUS304	SUS304	SUS304
仕上	ヘアライン	ヘアライン	ヘアライン
ガラス	-	-	-
金物	-	-	-
備考			

符号	W	H	数	室名
SSF-3a	2,320	2,100	1	調理室
SSF-3b	2,570	2,450	1	調理室
SSF-3c	2,760	2,500	1	調理室

建具凡例

※	…建具新設
※	…建具新設(ｶﾊﾞｰ工法)
※	…建具改修
※	…既存のまま

共通事項

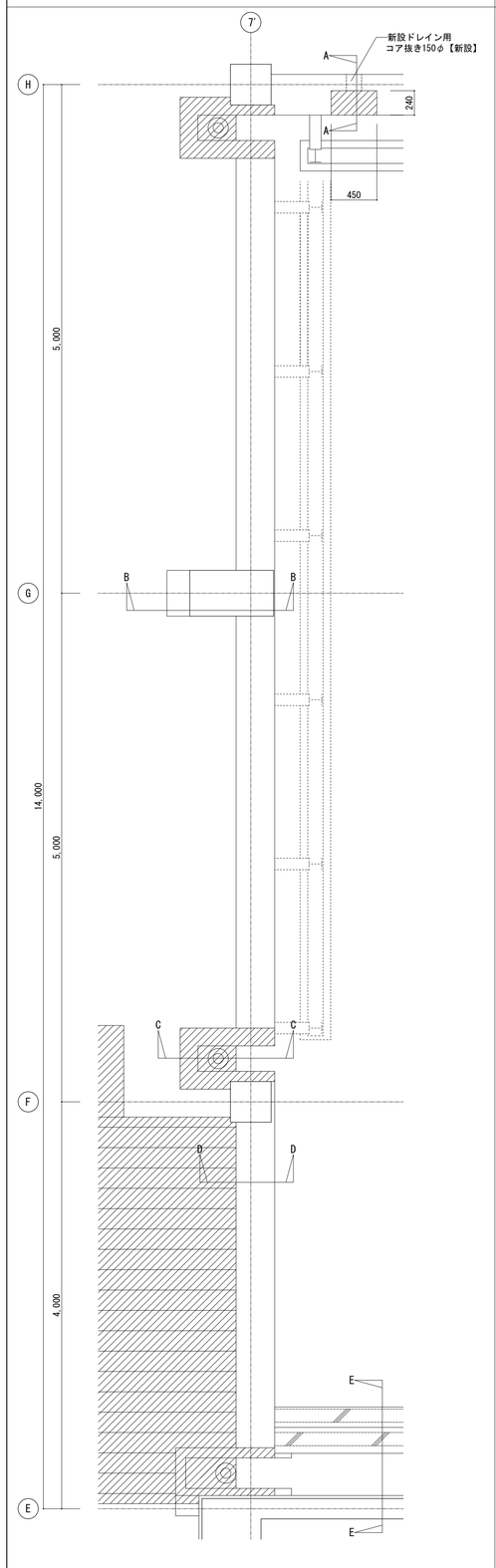
1. 標準的扉材には戸当りゴムを2ヶ所ビス止めとする。
2. 扉を開放するとき壁に当たる場所には　床付戸当りを設置する。
3. ガラス押えは特記なき限り　シール押えとする。
4. サッシュ寸法はタイル割等により寸法調整を行い、係員の承認を得ること。
5. 金属建具の枠廻りは、外部:防水モルタル、内部:モルタル詰めとする。
6. 沓摺は下記とする。
   床面が同一の場合　　:ステンレス製t2.0　形状:
   床面が段差がある場合:ステンレス製t2.0　形状:
7. 既存サッシュ廻り及びガラス廻りコーキングは全て打替えのこと
8. 給食室に面した建具の上額部はほこりの集積を避けるため斜め(45°)加工すること。
9. 注:既存のアルミサッシは枠、ガラス面共清掃のこと。
10. ｶﾞﾗﾘ部のﾌｨﾙﾀｰは、汚染された空気及び虫等の流入を防ぐため、高性能ﾌｨﾙﾀｰとし、洗浄・交換・取付が容易な構造とすること。
    ﾌｨﾙﾀｰ仕様は合成樹脂製t20(±3)とする。
    ※ﾌｨﾙﾀｰ仕様等は監理者監督員と協議の上決定すること。

記事
※ガラス廻りシーリングは防火設備用指定シーリング材とする。

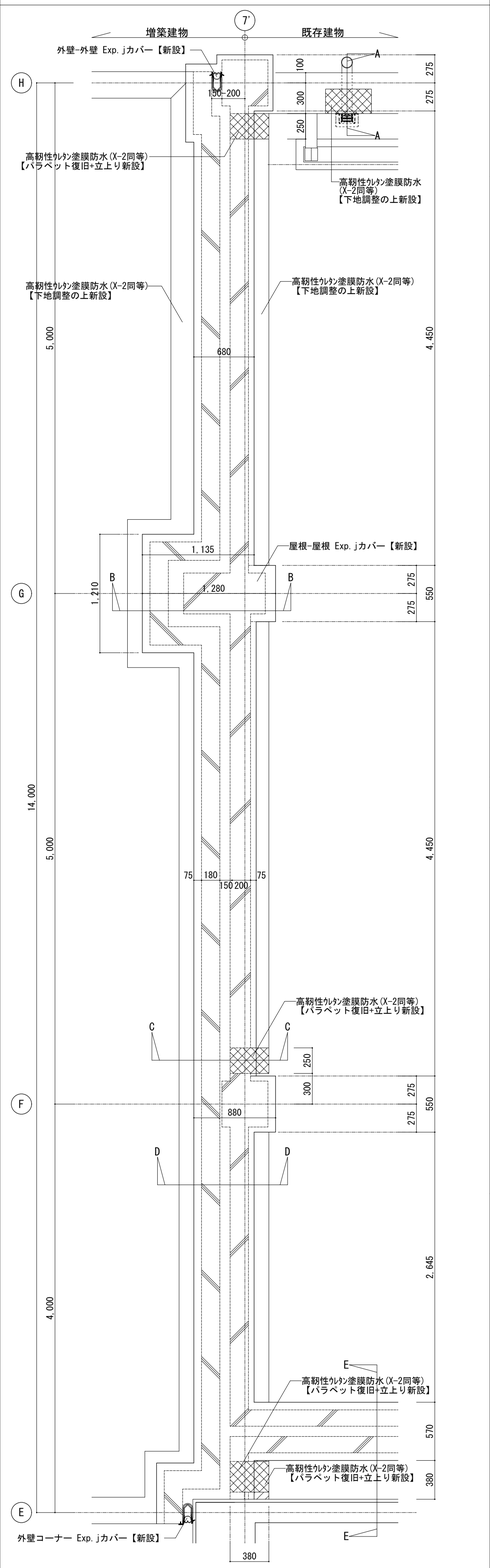
株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称: 建具表【改修後】	縮尺: A1: 1/100　A3: 1/200
	図面番号: A-40

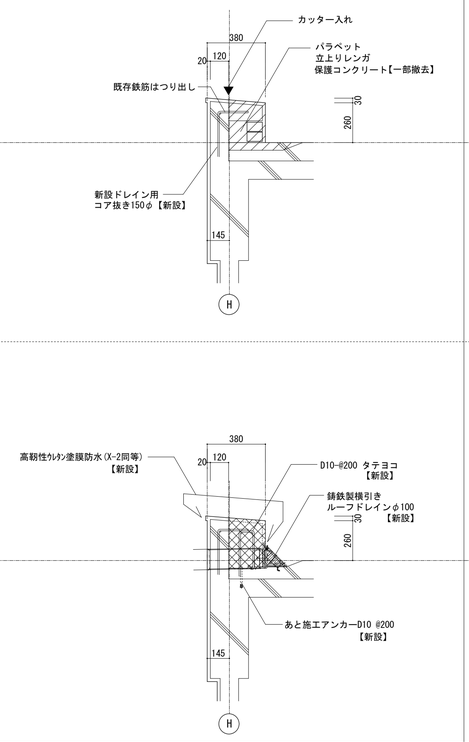
【改修前】2階7'通り平面詳細図 S=1/30



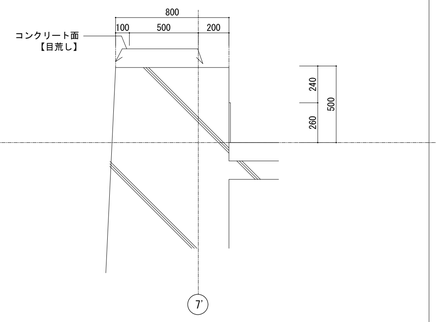
【改修後】2階7'通り平面詳細図 S=1/30



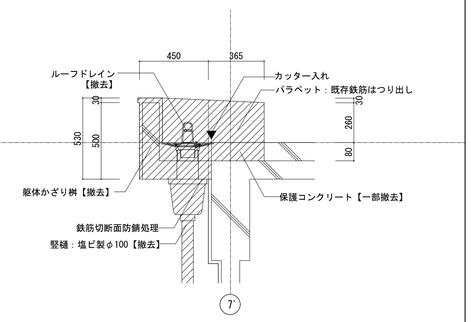
A-A詳細図 S=1/20

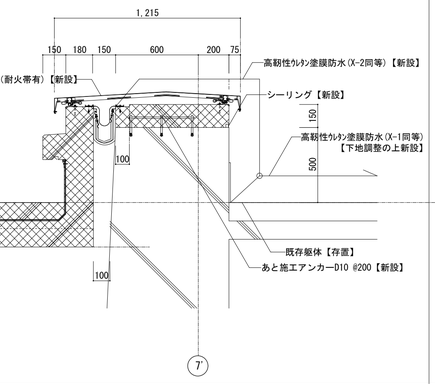


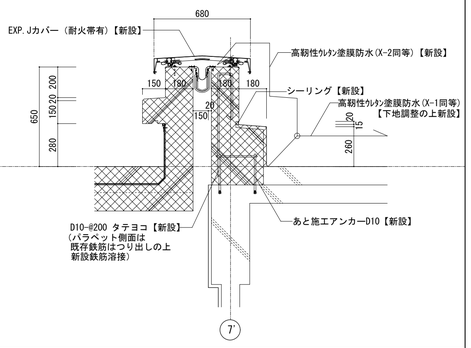
B-B詳細図 S=1/20



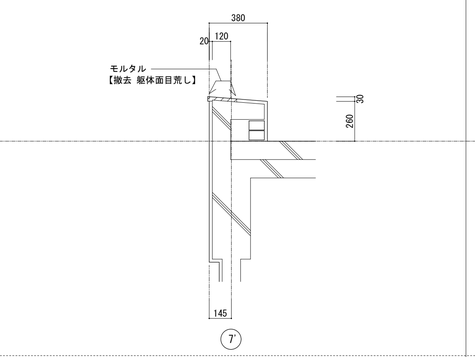
C-C詳細図 S=1/20

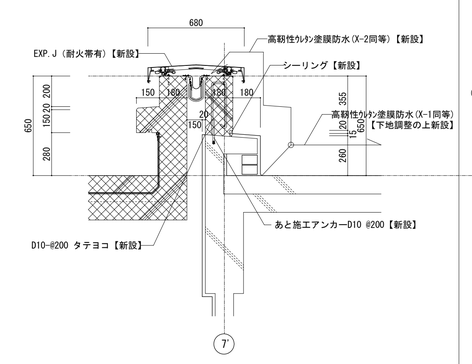




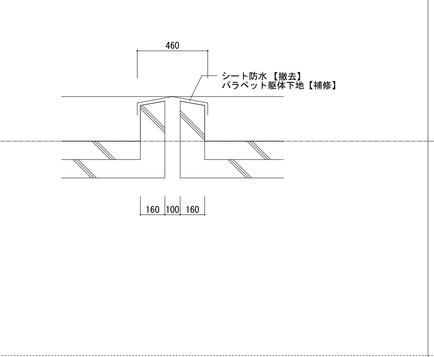


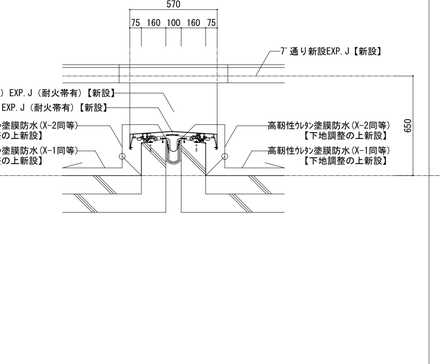
D-D詳細図 S=1/20





E-E詳細図 S=1/20





撤去範囲	
新設範囲	

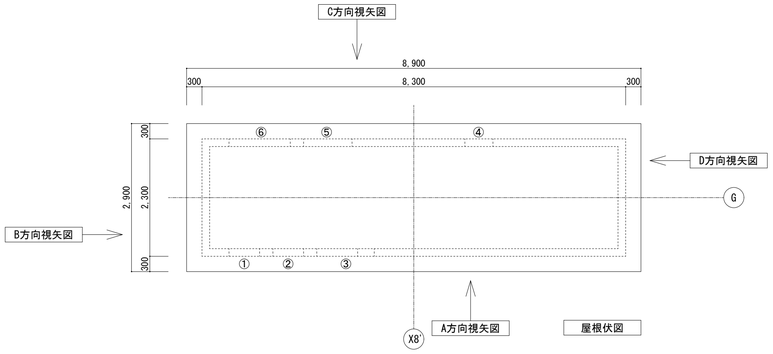
記事

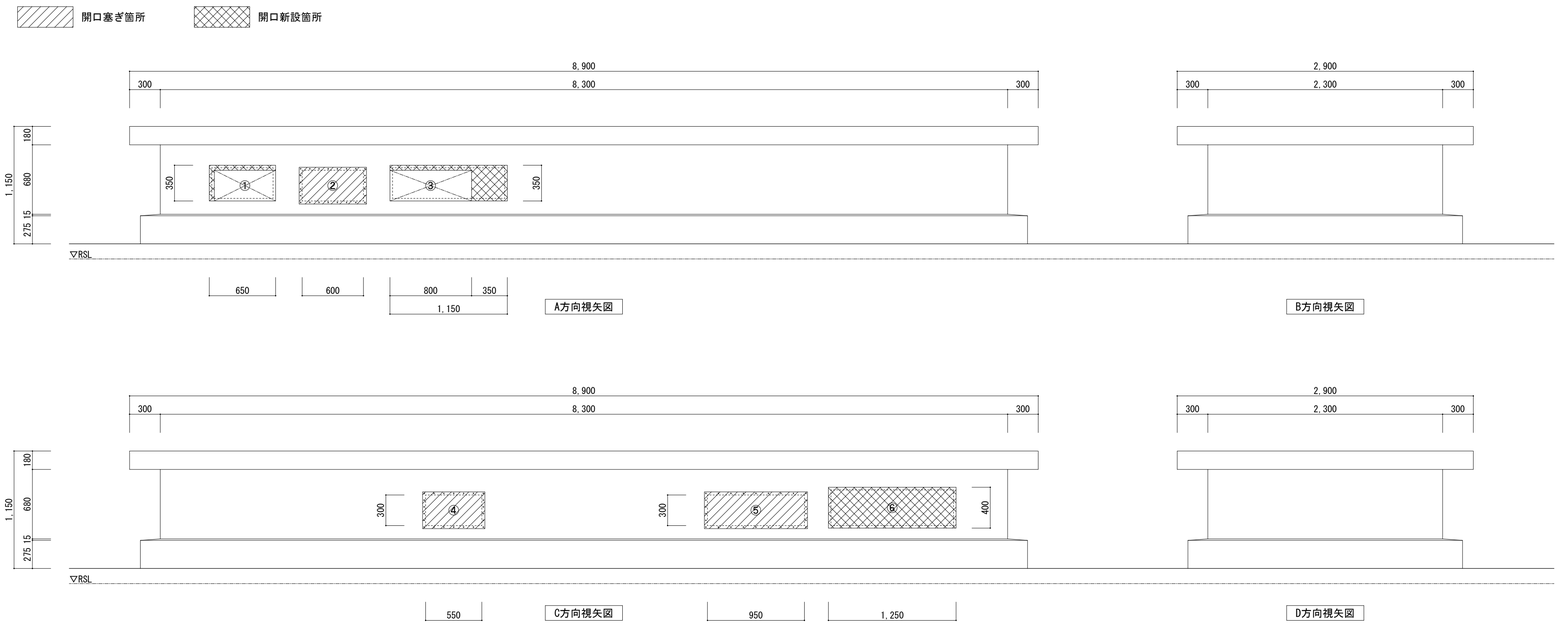
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
部分詳細図(1)	A1: 図示 A3: 図示	A-41

既存給食室ハト小屋ダクト貫通部詳細図

S=1/30, 60

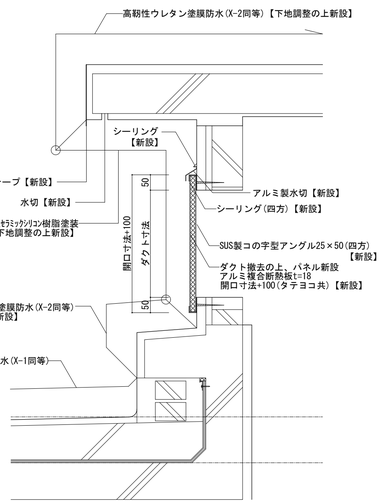




番号	ダクト幅	ダクト高さ	施工内容	新設パネル寸法	新設開口寸法	備考
①	600	300	開口部拡大(既存開口幅600+新規開口幅300)		650×350	L型アングルにて開口補強(四方)
②	600	300	ダクト撤去の上、アルミ複合板にて開口塞ぎ	700×400		
③	1,100	300	開口部拡大(既存開口幅800+新規開口幅300)		1,150×350	L型アングルにて開口補強(四方)
④	550	300	ダクト撤去の上、アルミ複合板にて開口塞ぎ	650×400		
⑤	950	300	ダクト撤去の上、アルミ複合板にて開口塞ぎ	1,050×400		
⑥	1,200	350	新規開口		1,250×400	L型アングルにて開口補強(四方)

ハト小屋ダクト開口塞ぎ部詳細図

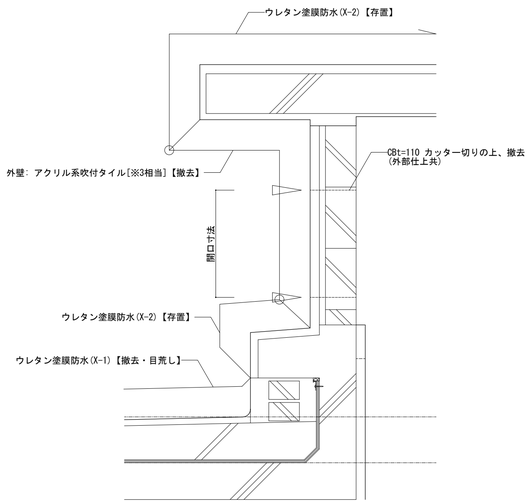
S=1/10



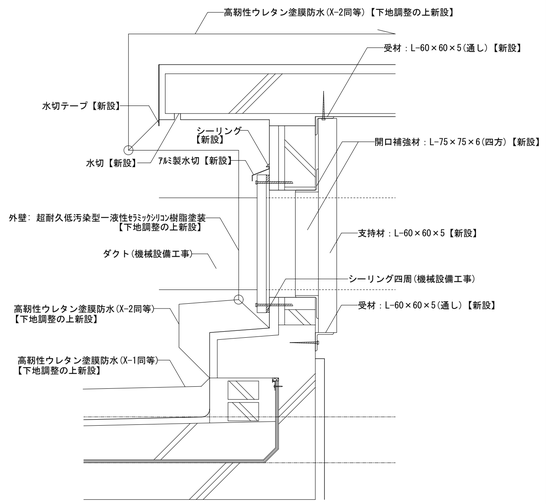
ハト小屋ダクト開口新設部詳細図

S=1/10

改修前

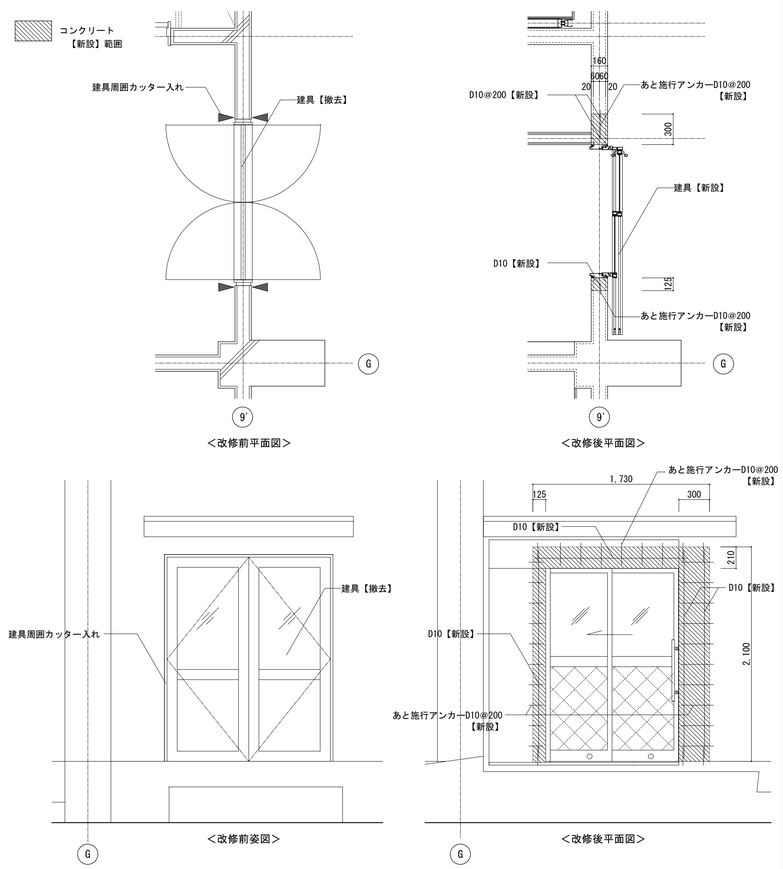


改修後



ポーチ１ 出入口詳細図

S=1/30



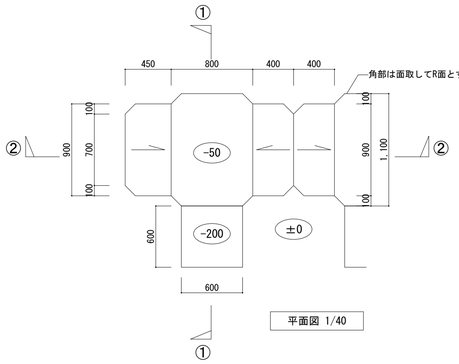
記事	

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

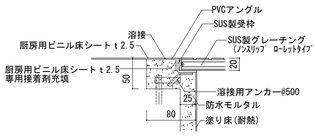
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
部分詳細図(2)	A1: 1/10, 30, 60 A3: 1/20, 30, 120	A-42

回転釜排水溝【新設】 1/20、1/5

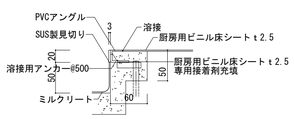
注記：新設コンクリート強度及びスランプは　Fc=18N SL=15とする



平面図 1/40



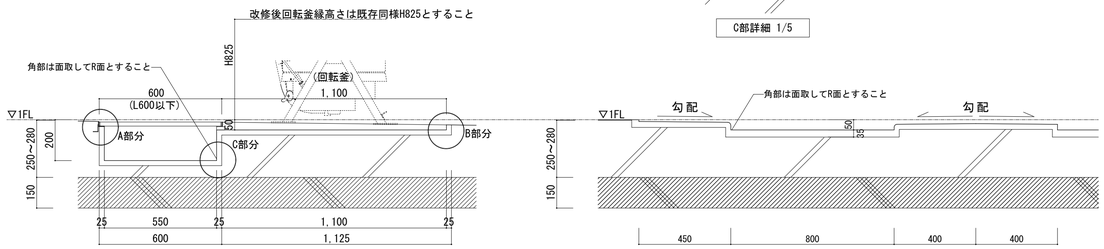
A部詳細 1/5



※入隅部は面取りしてR面とすること

B部詳細 1/5

C部詳細 1/5



①断面詳細 1/15

②断面詳細 1/15

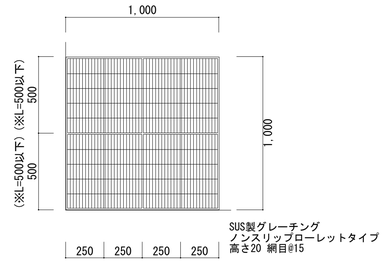
※カート洗い場以外のグレーチング詳細図となる。

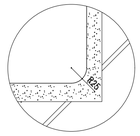
※入隅部は面取りしてR面とすること

カート洗い場、側溝(各グレーチング)【新設】 1/20

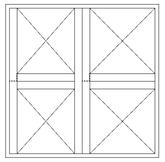
グレーチング幅について
・L500mm→W250mm以下
・L400mm→W400mm以下
グレーチング長さは500mm以下にすること。
グレーチングエンドストッパーを設けること。

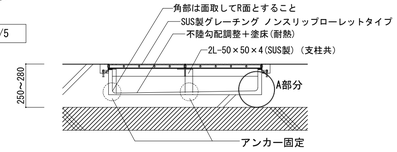
※グレーチング取り外しフックを２本見込む事。
※Lアングル面にはグレーチングの交点に滑り止めを貼り付ける事。





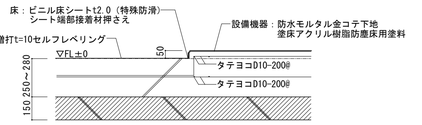
A部詳細 1/5





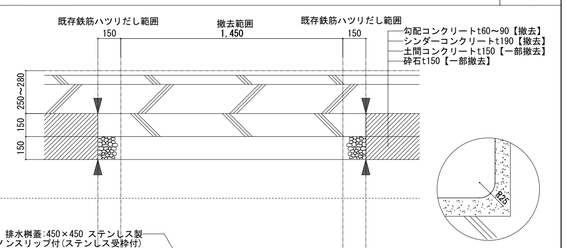
※入隅部は面取りしてR面とすること

厨房機器基礎【新設】 1/20



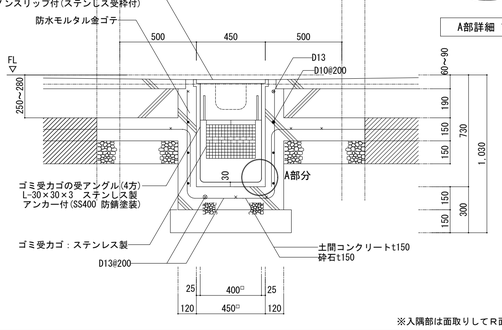
室内最終排水桝【新設】 1/20

改修前



A部詳細 1/5

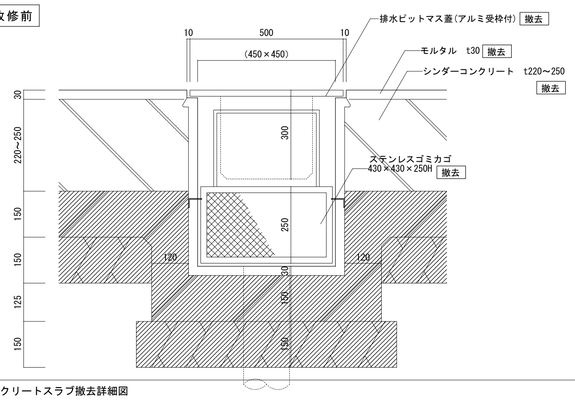
改修後



※入隅部は面取りしてR面とすること

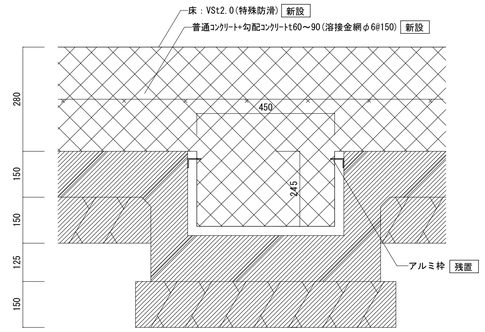
室内最終排水桝【撤去】 1/10

改修前



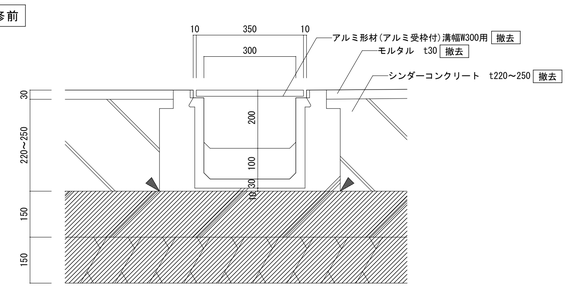
改修後

新設部分



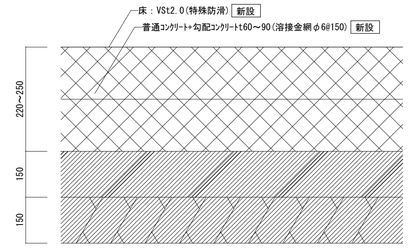
側溝(グレーチング)【撤去】 1/10

改修前



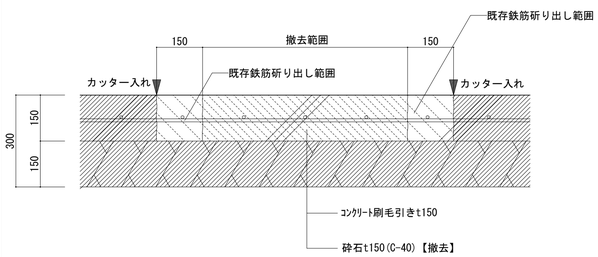
改修後

新設部分

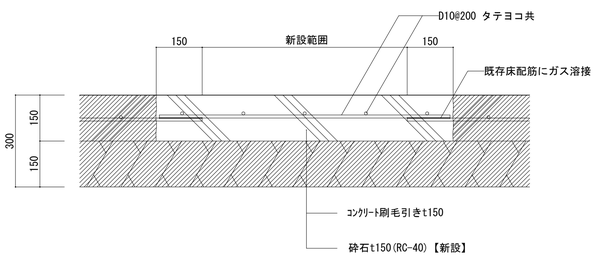


コンクリートスラブ撤去詳細図 1/15

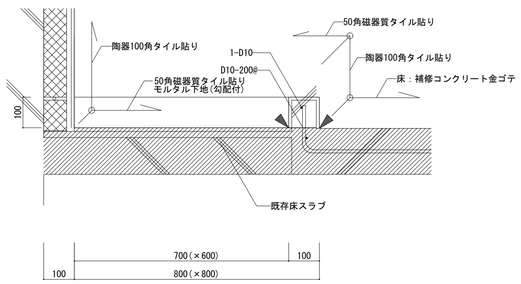
改修前



改修後



下処理室立上り【撤去】 1/10



存置範囲

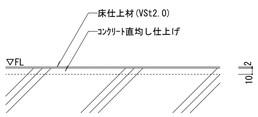
記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
図面名称	部分詳細図(3)	縮尺 A1：－ A3：－	図面番号 A-43

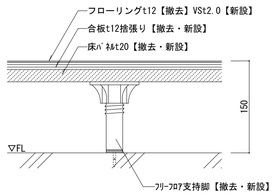
床：コンクリート直均+床詳細図　1/5

(増築部)　【新設】



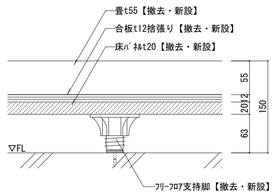
床：鋼製床+床材詳細図　1/5

(改修部)　【撤去・新設】



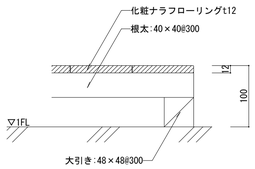
床：鋼製床+スタイロ畳詳細図　1/5

(改修部)　【撤去・新設】

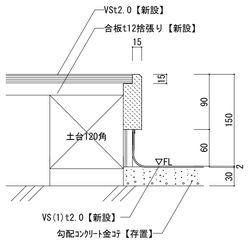


床：蹴上詳細図　1/5

(改修部)　【撤去】

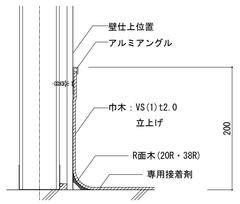


【新設】



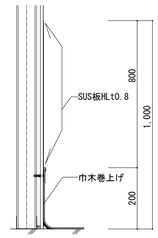
巾木：床材立上げ詳細図　1/5

(改修・増築部)　【撤去】



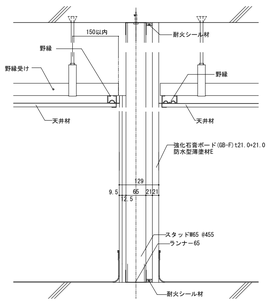
腰壁：SUS板詳細図　1/10

(改修・増築部)　【新設】



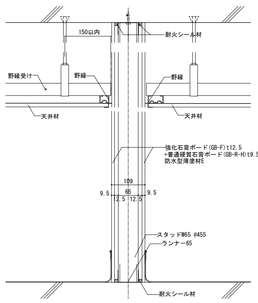
壁：防火区画(LW2)　軽量鋼製間仕切詳細図　1/10

(改修・増築部)　【新設】



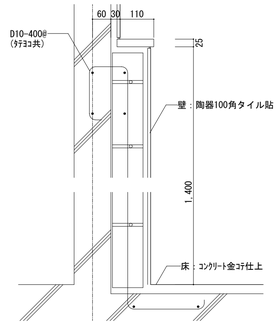
壁：114状区画(LW5)　軽量鋼製間仕切詳細図　1/10

(改修・増築部)　【新設】



既存ライニング詳細図　1/10

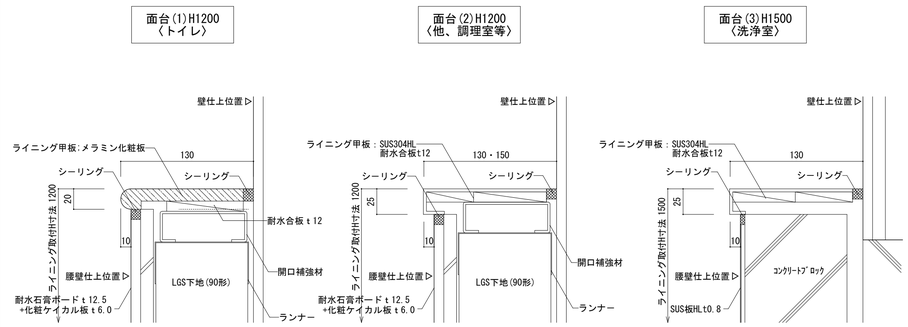
(改修部)　【撤去】



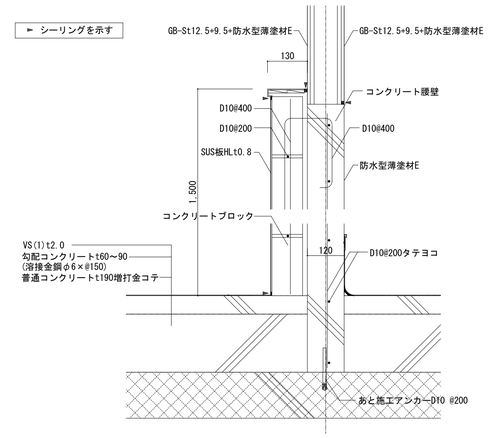
平面図で指定された範囲を撤去すること。
ﾗｲﾆﾝｸﾞ撤去跡は、ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃの上、EP仕上とする。小口部も同様とする。

ライニング詳細図　1/3

(改修・増築部)　【新設】

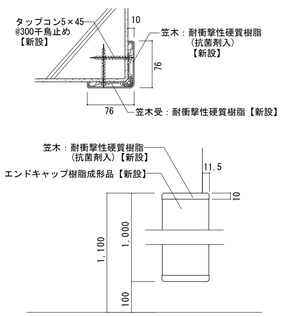


カート置場ライニング(面台(3))廻り詳細図　1/10



コーナーガード　1/5

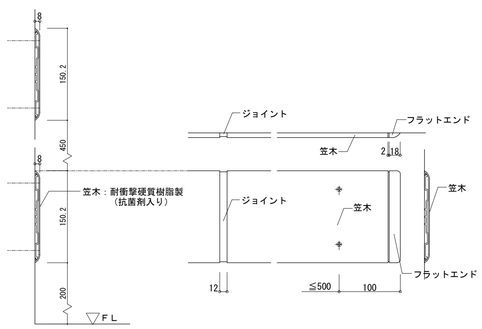
(改修・増築部)　【新設】



・笠木：耐衝撃性硬質樹脂(抗菌剤入)エンボス仕上
・笠木受：耐衝撃性硬質樹脂
・エンドキャップ：樹脂成形品

ストレッチャーガード2段　1/5

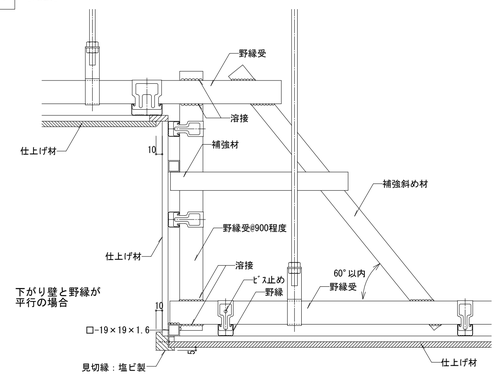
(改修・増築部)　【新設】



・笠木：耐衝撃塩化ビニール樹脂製エンボス仕上げ（抗菌剤入り）
・笠木受：耐衝撃性塩化ビニール樹脂製
・フラットエンド／Rエンド／コーナーキャップ耐衝撃性ＡＢＳ樹脂
・金具：電気亜鉛めっき鋼鈑

段差補強要領図(下がり壁と野縁が平行の場合)　1/5

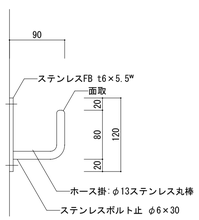
(改修部)　【撤去】



※補強材は野縁受同材又はL-30×30×3程度とし、取付間隔とともにプロジェクト毎に特記する

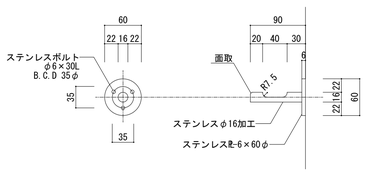
ステンレスホース掛　1/5

(改修部)　【撤去】3箇所　※特記なき限り全て撤去とする



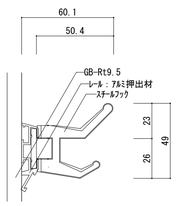
コート掛　1/5

(改修部)　【撤去】15箇所　※特記なき限り全て撤去とする



荷物掛用レール+フック　1/2

(改修・増築部)　【新設】

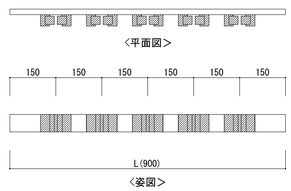


リスト

室名	L	ﾌｯｸ個数
前室１	700	10
前室２	1800	20
前室３	800	10

モップハンガー　1/10

(改修・増築部)　【新設】



リスト

室名	L	箇所数	備考
下処理室１	900	1	5本掛け
前室４	500	1	3本掛け
前室５	500	1	3本掛け
調理室	900	1	5本掛け
配膳室	900	1	5本掛け
洗浄室	900	1	5本掛け

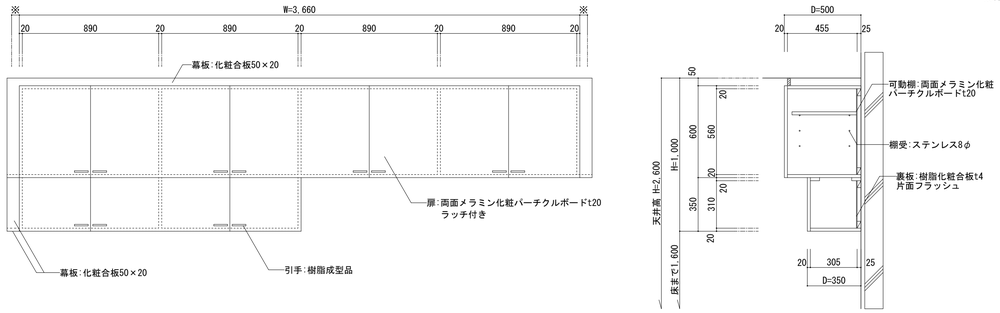
記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

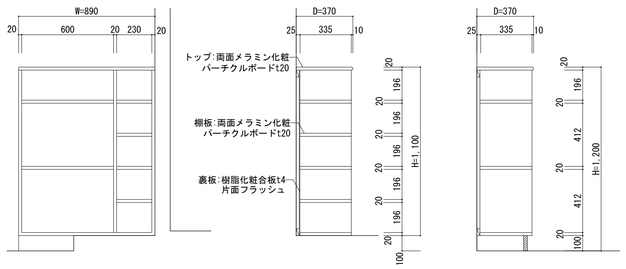
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
部分詳細図(4)	A1: 図示 A3: 図示	A-44

吊戸棚(2)〈下処理室〉【撤去】 1/20

※特記なき限り全て撤去とする

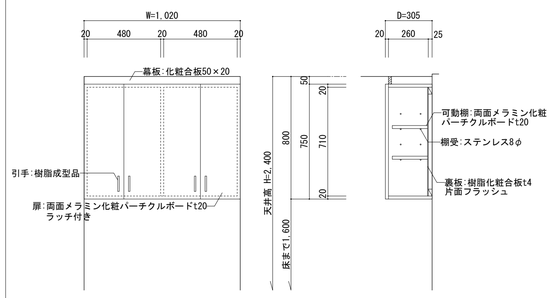


下足入(1)〈前室〉【撤去・新設】(参考図) 1/20



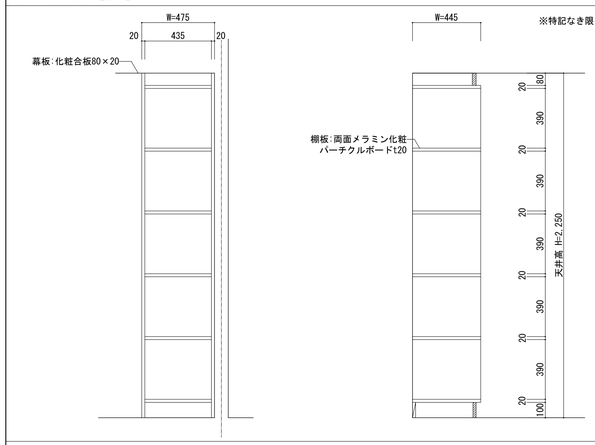
吊戸棚(1)〈トイレ〉【撤去】 1/20

※特記なき限り全て撤去とする

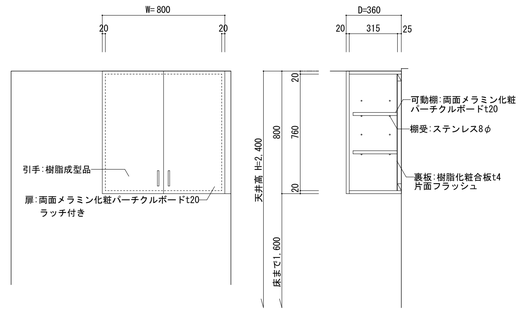


棚(1)〈脱衣室〉【撤去】 1/20

※特記なき限り全て撤去とする

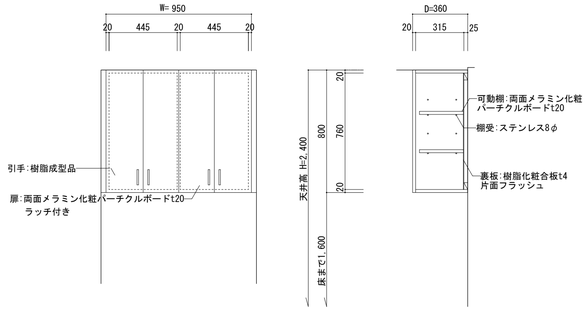


吊戸棚〈前室4〉【新設】(参考図) 1/20



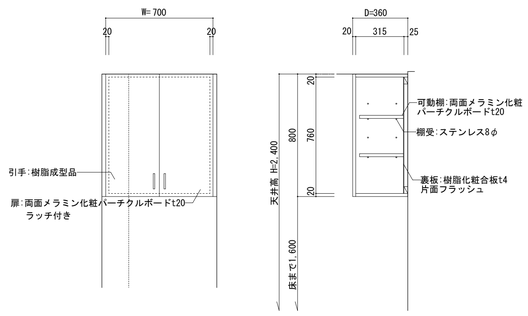
※耐震ラッチ付き

吊戸棚〈トイレ〉【新設】(参考図) 1/20



※耐震ラッチ付き

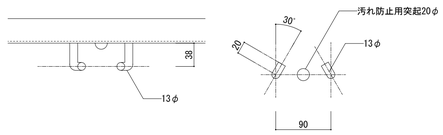
吊戸棚〈前室5〉【新設】(参考図) 1/20



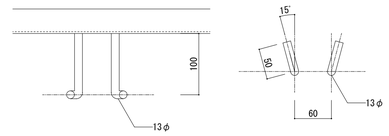
※耐震ラッチ付き

給食室調理用具掛詳細図(1台)【撤去】

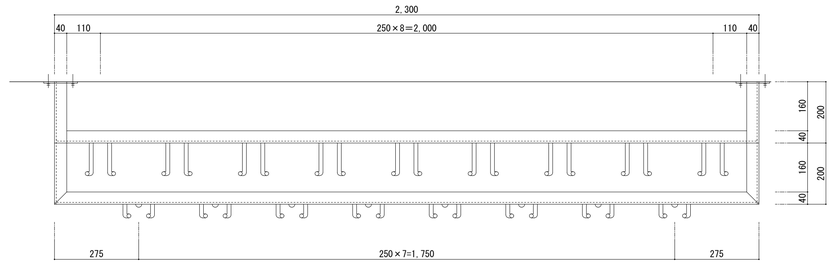
※特記なき限り全て撤去とする



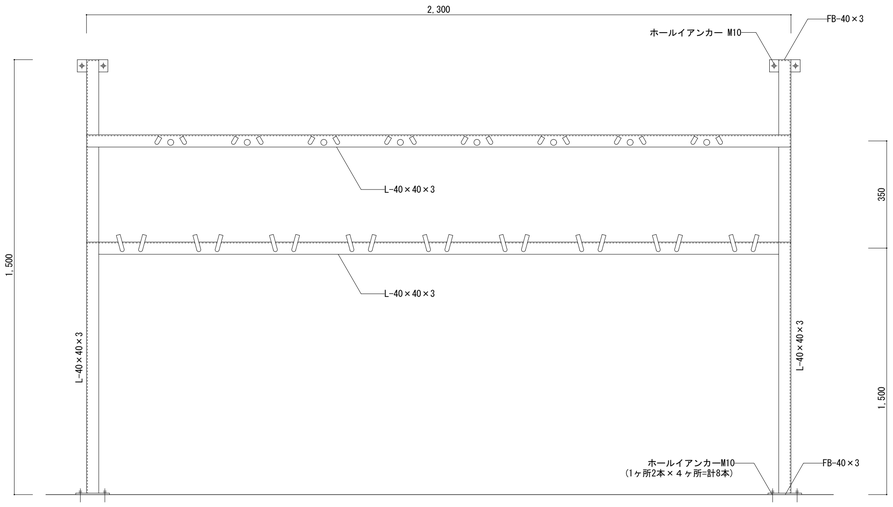
しゃもじ用フック 1/5
(上段 8組)



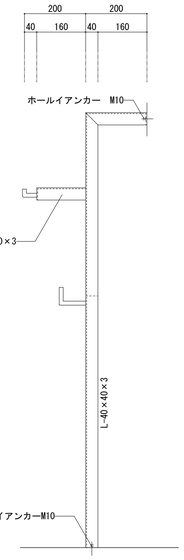
ひしゃく用フック 1/5
(下段 9組)



平面図 1/10



正面図 1/10

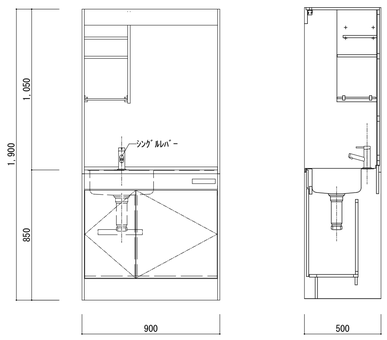


側面図 1/10

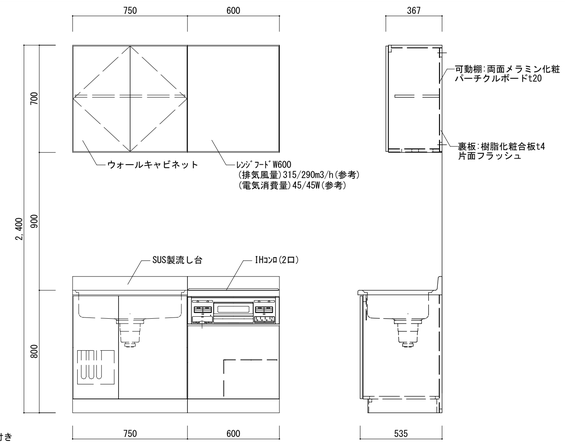
給食室調理用具掛詳細図(1台) 1/10、1/5

※材料は全てステンレスとする

流し台〈休憩室〉【新設】(参考図) 1/20



流し台・ウォールキャビネット〈アレルギー対応室〉【新設】(参考図) 1/20

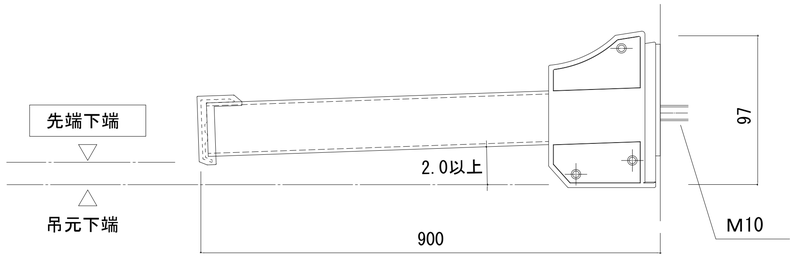


※耐震ラッチ付き

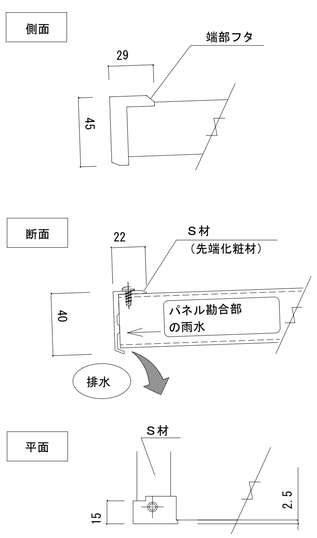
記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

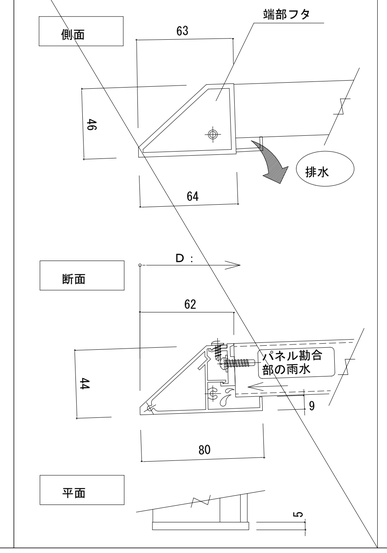
工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月	2025年3月
図面名称	部分詳細図(5)
縮尺	A1: 図示 A3: 図示
図面番号	A-45



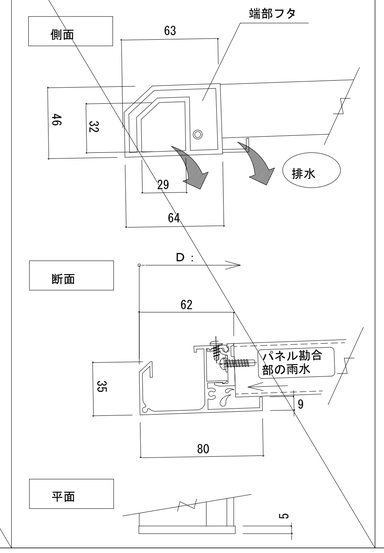
●＜先端化粧材＞



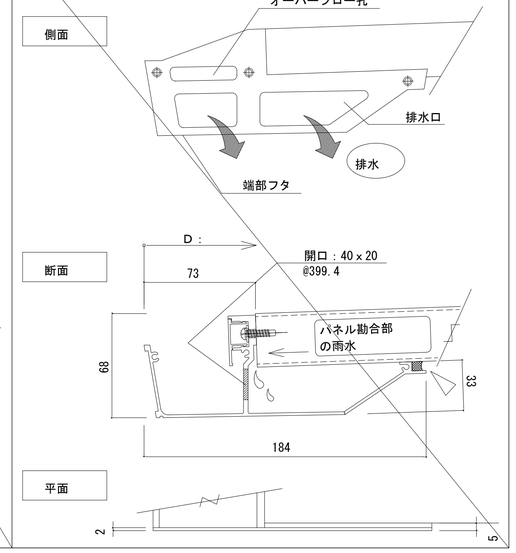
●ＡＤ２Ｎ（オプション）
（先端化粧トイ無）



●ＡＤ２Ｔ（オプション）
（先端化粧トイ付）



●ＡＤ２Ｇ（オプション）
（先端トイ）

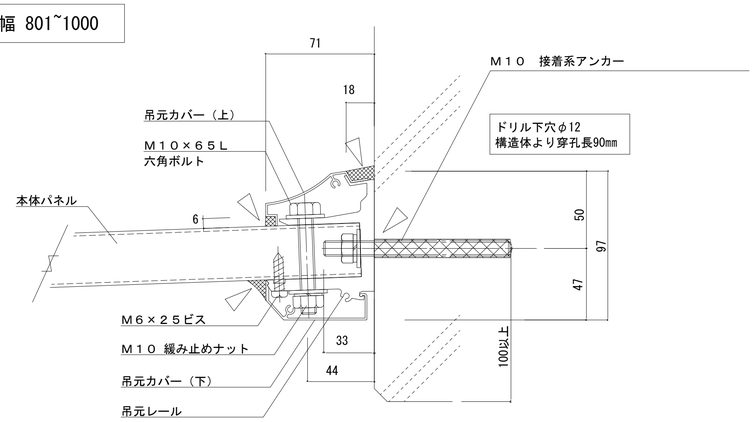


:コーキング

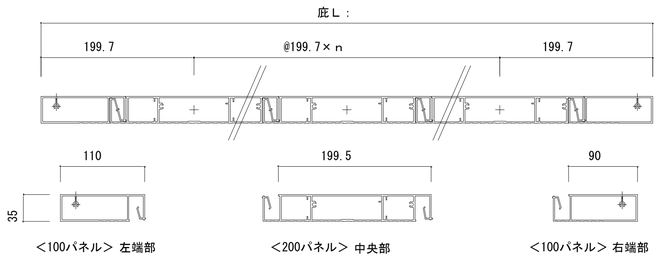
【ＲＣ】外部アンカー止式

S=1:4

出幅 801~1000

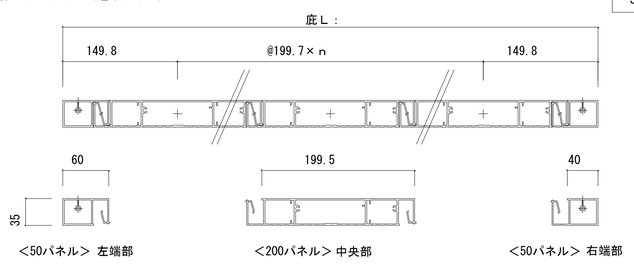


本体パネルピッチ（通常タイプ）

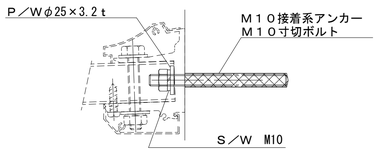


本体パネルピッチ（通常タイプ）

S=1:8



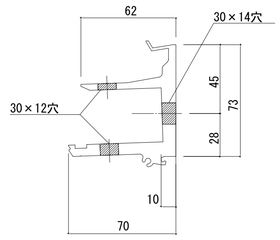
取付部品一式　出幅 801~1000



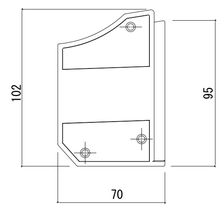
接着系アンカー	M10ｘ90
寸切ボルト	M10ｘ120
Ｐ／Ｗ	（鉄）　25φｘ3.2ｔ

Ｓ／Ｗ	（鉄）　M10
緩止めナット	（鉄）　M10

吊元レール断面図



吊元レール端部フタ



記事	

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
図面名称 部分詳細図(6)(参考)	縮尺 A1: 1/2 A3: 1/4	図面番号 A-46

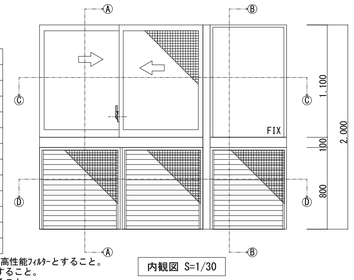
AW 1 アルミ製　引違い+FIX窓

商品名　RC枠　枠見込70
引違い窓+FIX窓/固定ガラリ 連窓

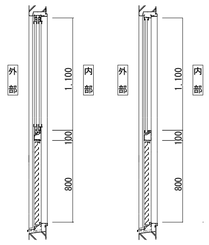
性能

耐風圧性能 ： S-5	2400Pa
気密性能 ： －	2等級線
水密性能 ： －	－
断熱性能 ： －	－
遮音性能 ： －	－
ガラス溝幅：30mm	
ガラス：Tt4+At6+T4(学校用強化透明ガラス)	
ロック付きクレセント	
可動網戸（ステンレスネット）	
フィルターユニット	
下部額縁：SUS曲物t=1.5mm	
アルミ額縁、付属金物一式	

※汚染された空気及び虫等の流入を防ぐため、高性能ﾌｨﾙﾀｰとすること。
ﾌｨﾙﾀｰは、洗浄・交換・取付が容易な構造とすること。
ﾌｨﾙﾀｰ仕様は監理者監督員と協議の上決定すること。

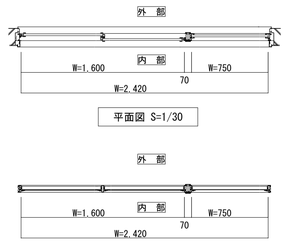


内観図 S=1/30



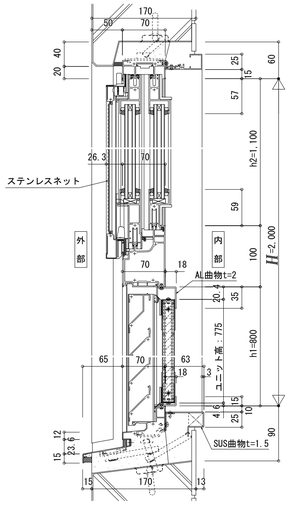
A-A断面図 S=1/30

B-B断面図 S=1/30

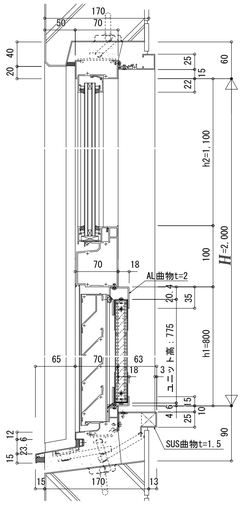


平面図 S=1/30

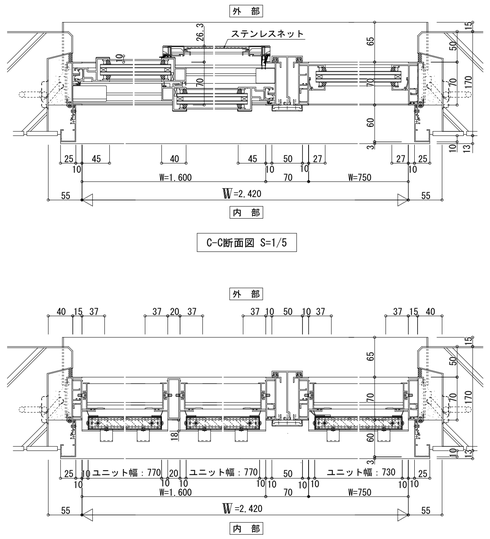
平面図 S=1/30



A-A断面図 S=1/5

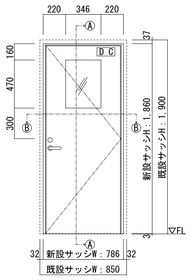


B-B断面図 S=1/5

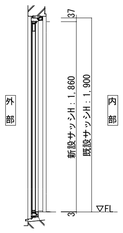


C-C断面図 S=1/5
D-D断面図 S=1/5

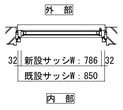
AD 1 アルミ製　片開き戸



内観図 S=1/30



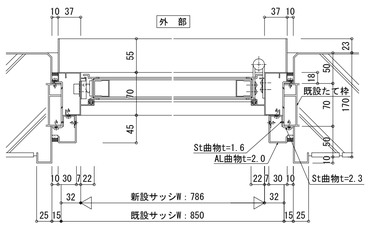
A-A断面図 S=1/30



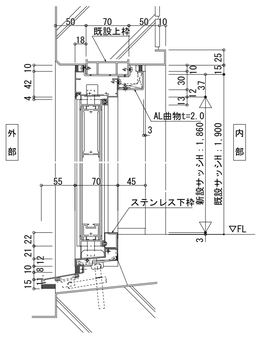
平面図 S=1/30

性能

耐風圧性能 ： S-5	2400Pa
気密性能 ： A-4	2等級線
水密性能 ： W-5	500Pa
断熱性能 ： －	－
遮音性能 ： －	－
中窓ガラス溝幅：28mm	
ガラス：T4(学校用強化透明ガラス)	
レバーハンドル錠、丁番	
ドアクローザー（ストッパー付き）	
付属金物一式	



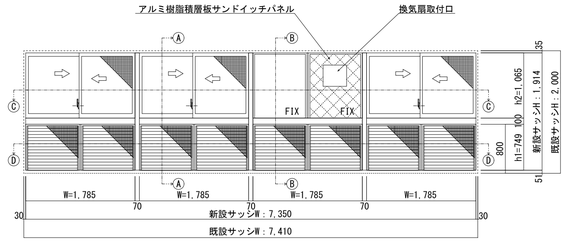
B-B断面図 S=1/5



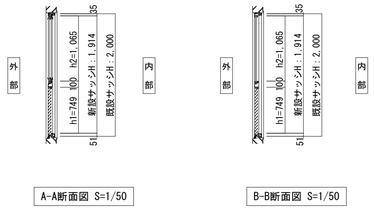
A-A断面図 S=1/5

※マタギ段差にならないように既設サッシ下枠は除去するもの。
監理者監督員と協議の上決定すること

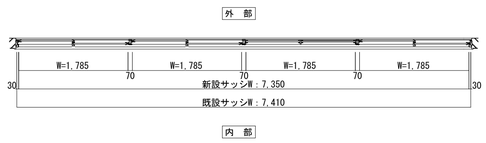
AW 3 アルミ製　4連引違い窓



内観図　A=1/50



A-A断面図 S=1/50
B-B断面図 S=1/50

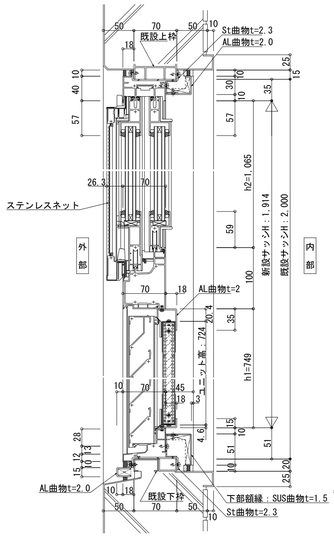


平面図　A=1/50

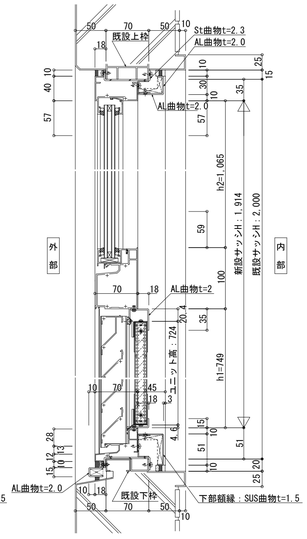
性能

耐風圧性能 ： S-5	2400Pa
気密性能 ： －	－
断熱性能 ： －	－
遮音性能 ： －	－
ガラス溝幅：30mm	
ガラス：Tt4+At6+T4(学校用強化透明ガラス)	
ロック付きクレセント	
可動網戸（ステンレスネット）	
フィルターユニット	
アルミ樹脂積層サンドイッチパネル	
下部額縁：SUS曲物t=1.5mm	
付属金物一式	

※汚染された空気及び虫等の流入を防ぐため、高性能ﾌｨﾙﾀｰとすること。
ﾌｨﾙﾀｰは、洗浄・交換・取付が容易な構造とすること。
ﾌｨﾙﾀｰ仕様は監理者監督員と協議の上決定すること。

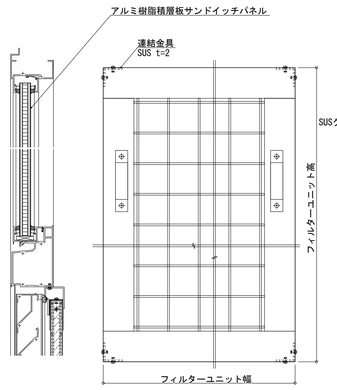


A-A断面図 S=1/5

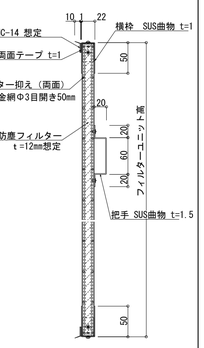


B-B断面図 S=1/5

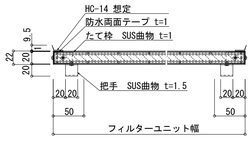
※アルミ樹脂積層ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙの厚さ・構成、ﾌｨﾙﾀｰ仕様は監理者監督員と協議の上決定すること。



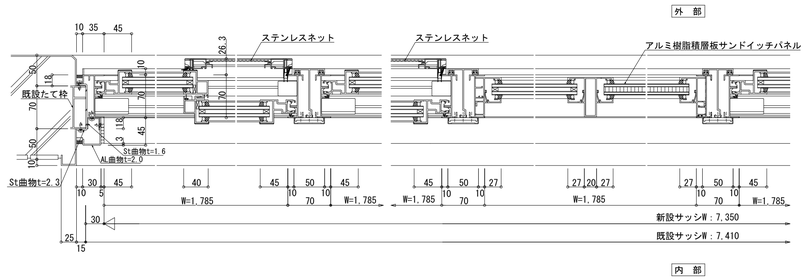
フィルターユニット内観図 S=1/5



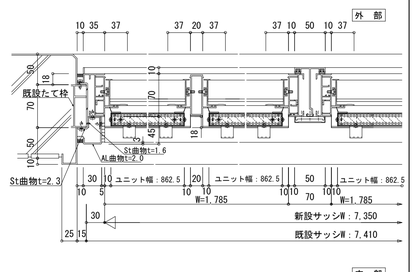
フィルターユニット断面図 S=1/5



フィルターユニット平面図 S=1/5



C-C断面図 S=1/5



D-D断面図 S=1/5

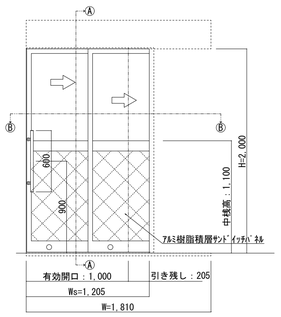
記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

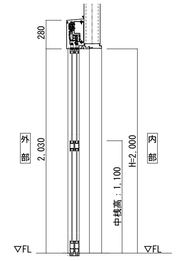
工事名称：調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月：2025年3月
図面名称：アルミ製建具詳細図(1)(参考図)	縮尺：A1: 1/5・30・50　A3: 1/10・60・100	図面番号：A-47

AD 2 アルミ製　片引き戸

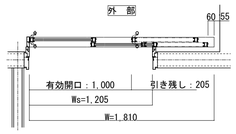
内観図・平面図



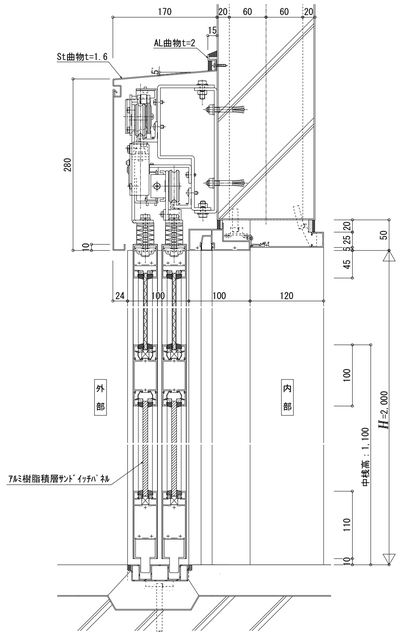
内観図 S=1/30



A-A断面図 S=1/30



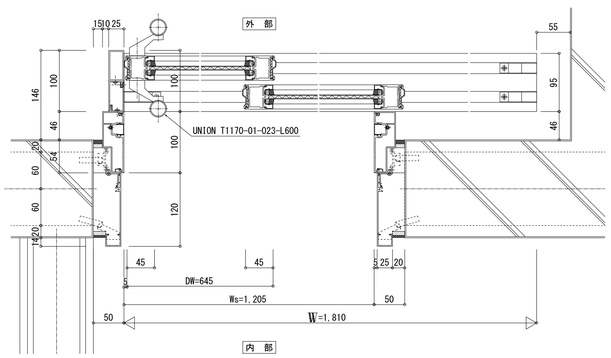
平面図 S=1/30



A-A断面図 S=1/5

性能

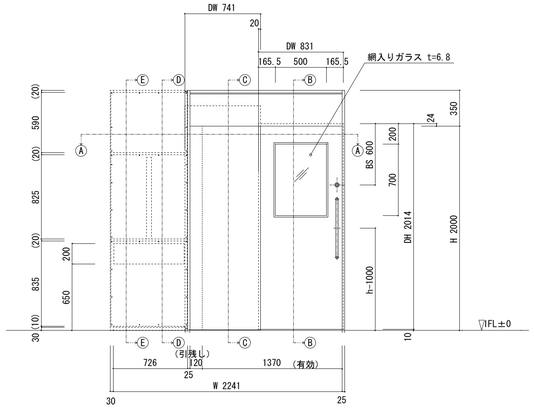
耐風圧性能： S-1	800Pa
断熱性能： －	－
遮音性能： －	－
ガラス：Tt4(学校強化透明ガラス)	
ガラス溝幅：23mm	
腰：アルミ樹脂積層サンドイッチパネル	
本締錠	
押棒	
引戸クローザー（ストップ付）	
アルミ額縁、付属金物一式	



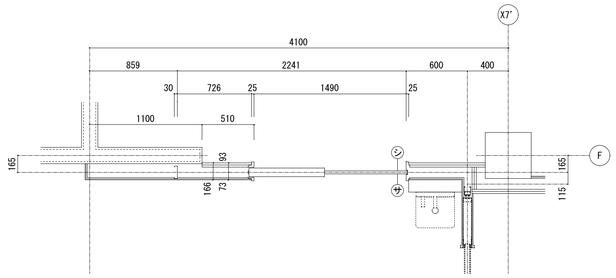
B-B断面図 S=1/5

LSD 3 防　ハンガー2重引き込戸

内観図・平面図　S=1:30



1F 配膳室　床：特殊防滑ビニル床シート(耐熱)t=2.0



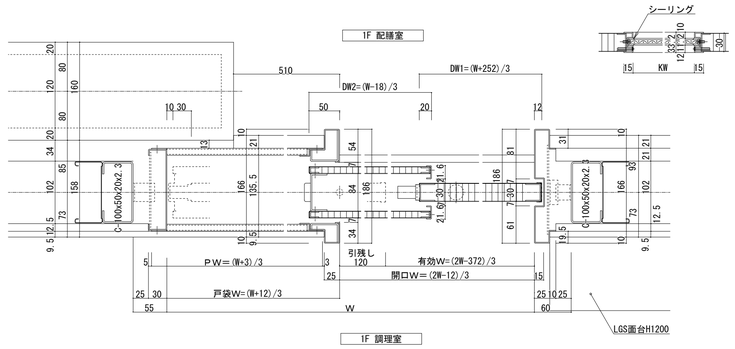
点検口・押縁側

1F 調理室　床：特殊防滑ビニル床シート(耐熱)t=2.0

符号	数量	内外仕様	内部	外部
LSD 3	1	枠形状	ST	SAT　PAT
		防火性能	一般	防火　特定防火
		充填材	水酸化アルミコア	
		扉重量	34kg	
仕上	枠	焼付塗装		
	扉	化粧鋼板		

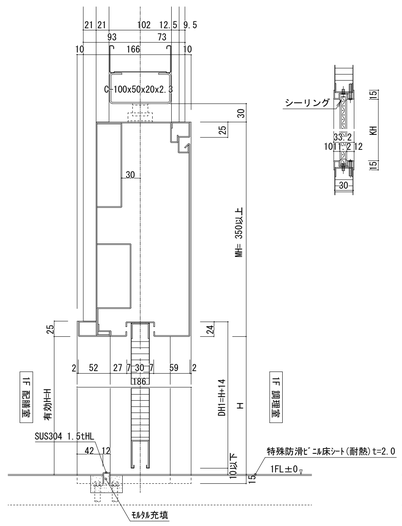
金具品名			単位数量	備考
引戸錠			1	
押棒			1	L=600
ガイドローラー			1	
ガイドローラー			1	
駆動装置			1	

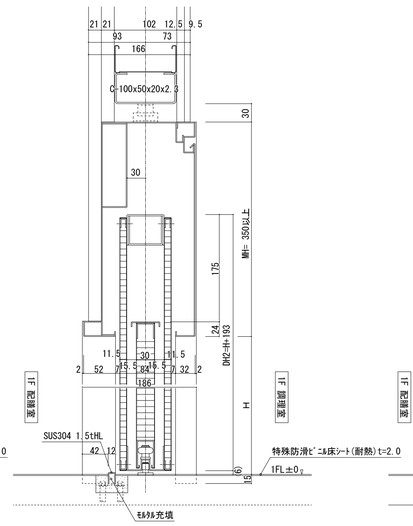
Ⓐ—Ⓐ 断面図　S=1:5

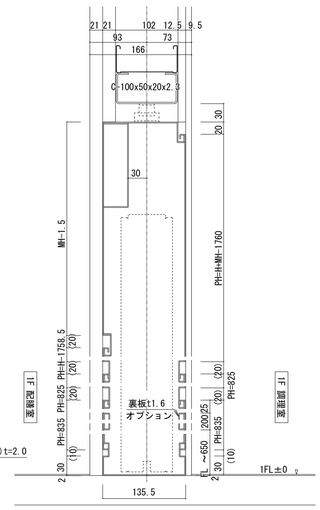


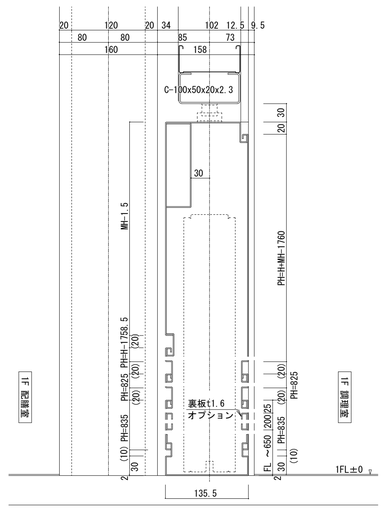
Ⓑ—Ⓑ 断面図　Ⓒ—Ⓒ 断面図　Ⓓ—Ⓓ 断面図　Ⓔ—Ⓔ 断面図

S=1:5





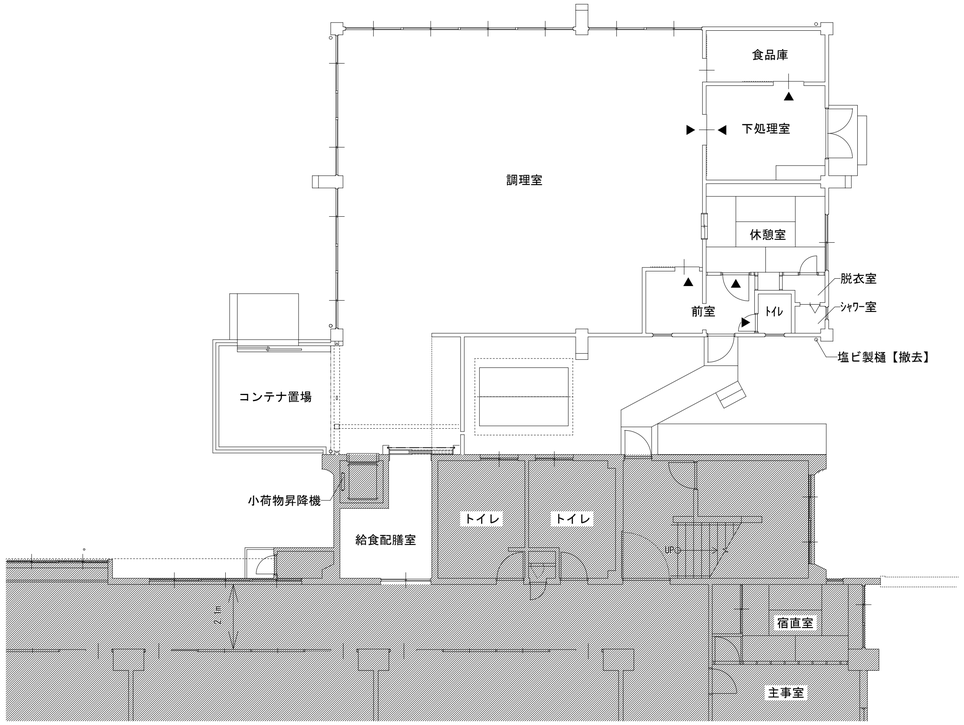




記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月	2025年3月
図面名称	アルミ製建具詳細図(2)・軽量鋼製建具詳細図(参考図)
縮尺	A1: 1/5·30　A3: 1/10·60
図面番号	A-48

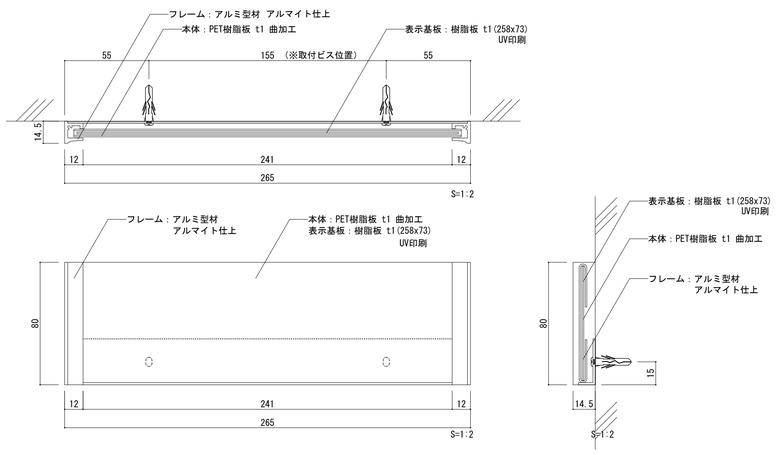


1階　サイン詳細図

【凡例】

▲　：　室名札　アルミプレート平付（265×80×14.5）

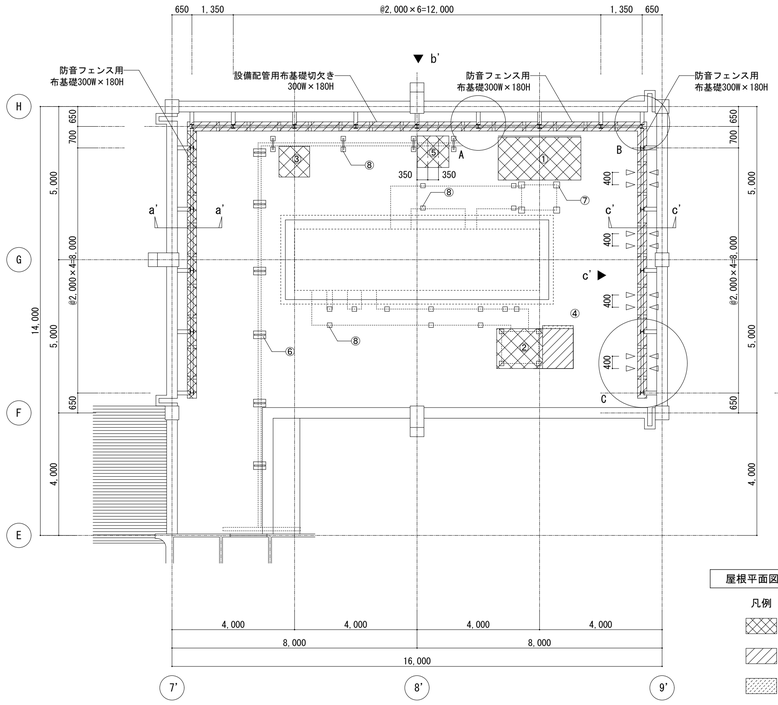
	室名札　平付　【撤去】	前室(3ヶ所)、調理室(1ヶ所)、下処理室(2ヶ所)	6ヶ所	S=1/2		



工事範囲外

記事	株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号 一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
		図面名称 サインキープラン・サイン詳細図【改修前】	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 A-49

屋上構造物詳細図



屋根平面図　1/100

凡例

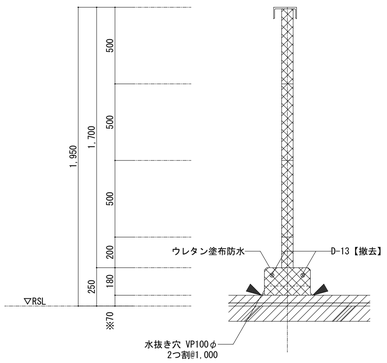
：撤去範囲

：存置範囲

：新設範囲

：防音パネル

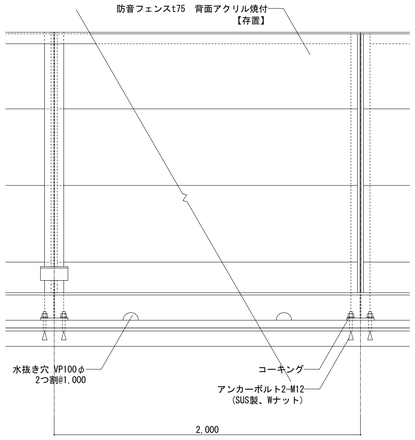
：カッター入れ



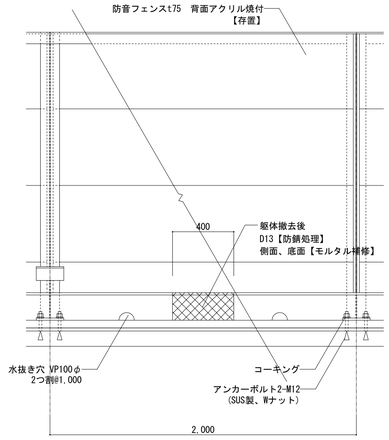
a'-a'断面詳細図　1/20

：存置範囲

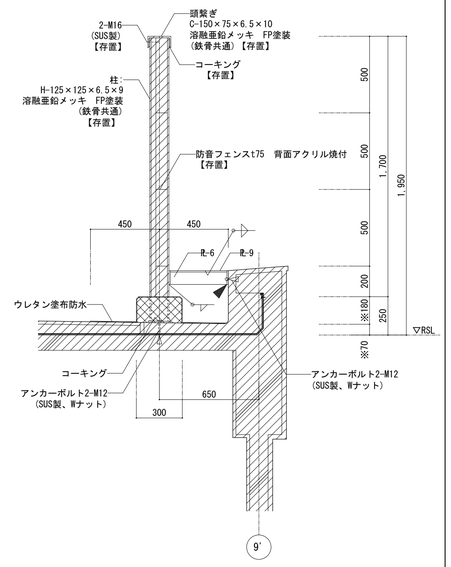
：カッター入れを示す



b'姿図　1/20



c'姿図　1/20

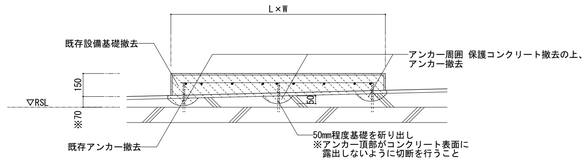


c'-c'断面詳細図　1/20

：存置範囲

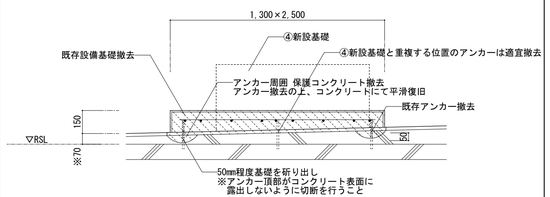
：カッター入れを示す

屋上設備基礎①③断面詳細図【改修前】



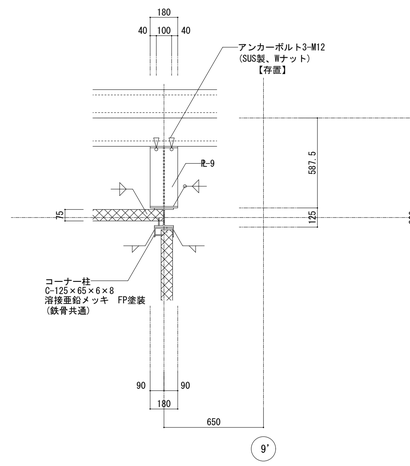
屋上設備基礎①③断面詳細図【改修前】　1/20

屋上設備基礎②断面詳細図【改修後】

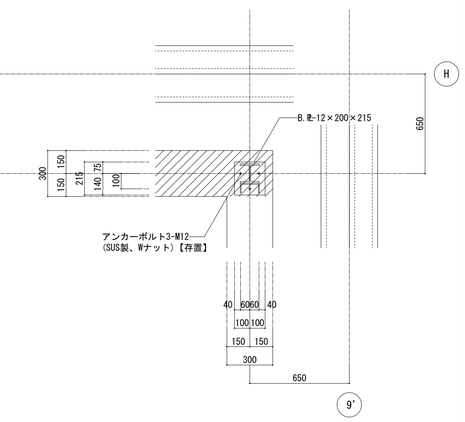


屋上設備基礎②断面詳細図【改修後】　1/20

A部、B部詳細図



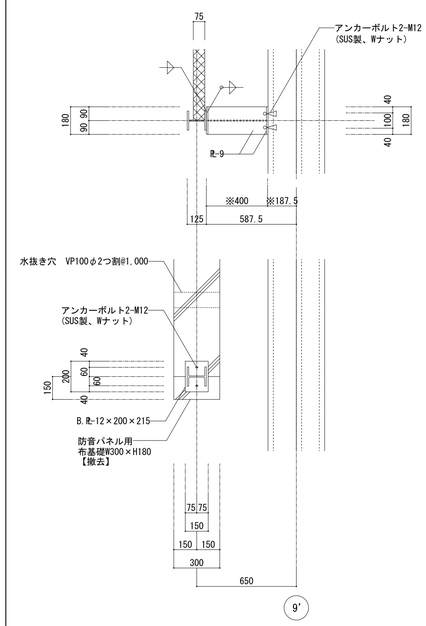
A部詳細図　1/20



：存置範囲

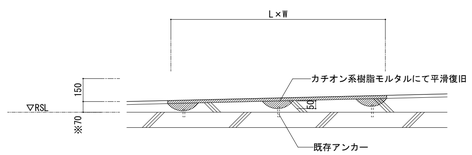
B部詳細図　1/20

C部詳細図



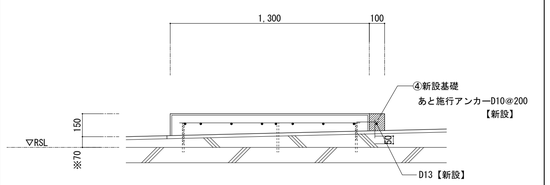
C部詳細図　1/20

屋上設備基礎①③断面詳細図【改修後】



屋上設備基礎①③断面詳細図【改修後】　1/20

屋上設備基礎④断面詳細図【改修後】



屋上設備基礎④断面詳細図【改修後】　1/20

記事	

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

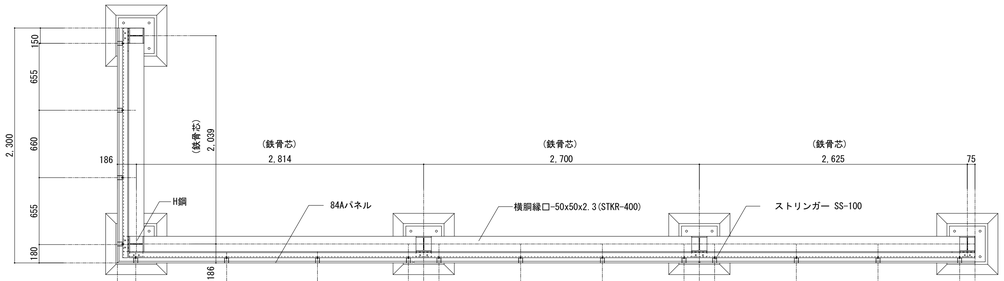
工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
A-50_目隠しフェンス詳細図【改修前】、設備基礎詳細図【改修前・後】	A1: 1/20-100 A3: 1/40-200	A-50

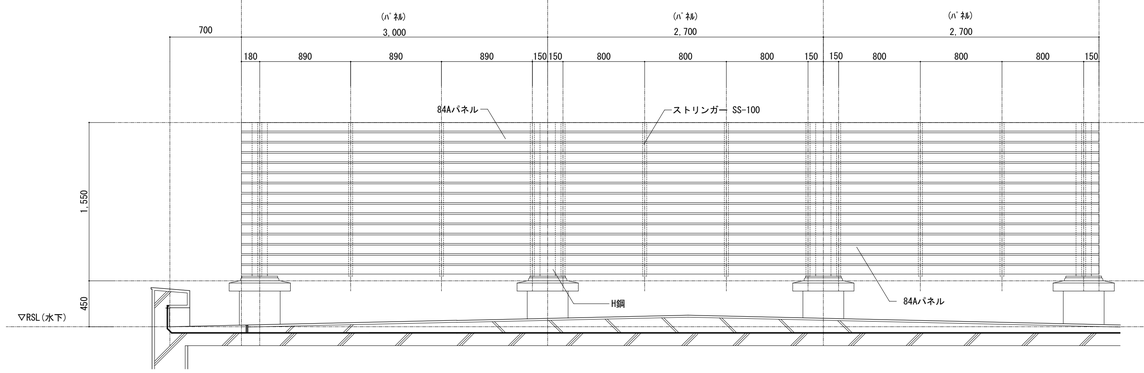
目隠しフェンス詳細図　【新設】

S=1/10, 1/30

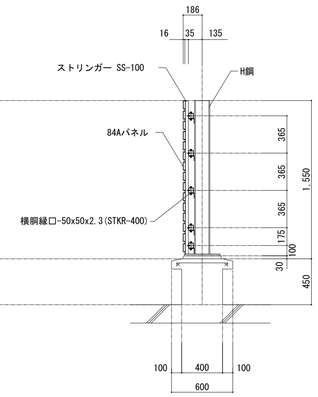
新設位置はA-28に記載



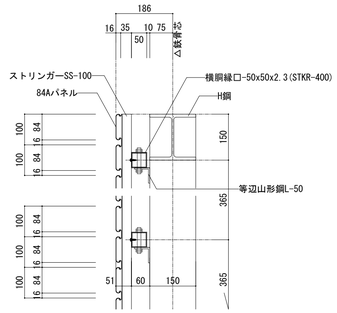
平面図　S=1/30
増築部



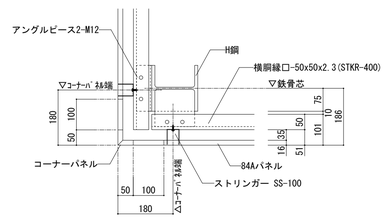
立面図　S=1/30
増築部



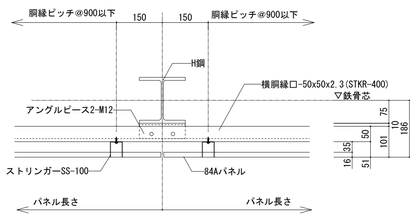
断面図　S=1/30
増築部



断面詳細図　S=1/10



コーナー部詳細図　S=1/10

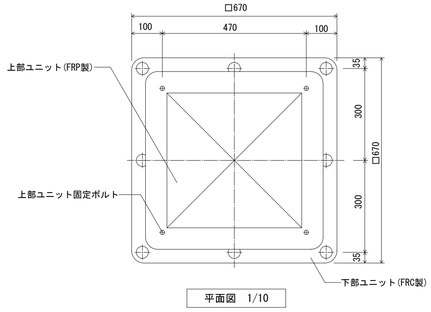


ジョイント部詳細図　S=1/10

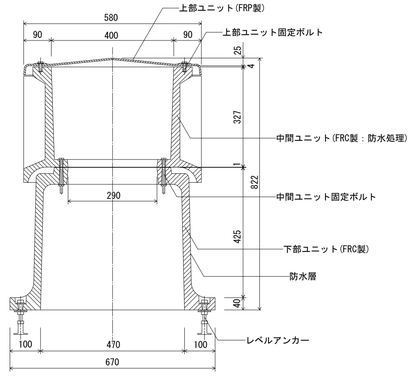
ハト小屋（ユニット型）詳細図　【新設】

S=1/10

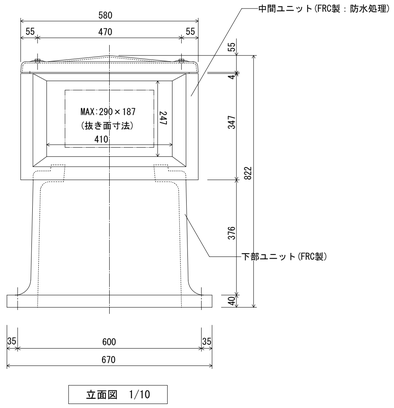
新設位置はA-28に記載



平面図　1/10



断面図　1/10

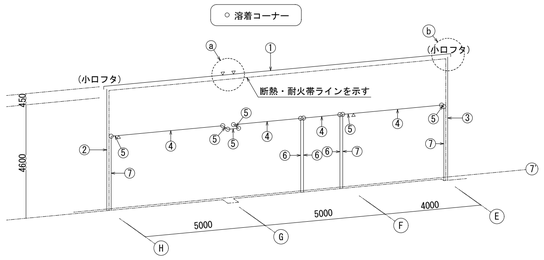


立面図　1/10

記事		株式会社 綜企画設計　西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号 一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
			図面名称 目隠しフェンス詳細図【改修後】	縮尺 A1: 1/10,30 A3: 1/20,60	図面番号 A-51

Exp.j キープラン

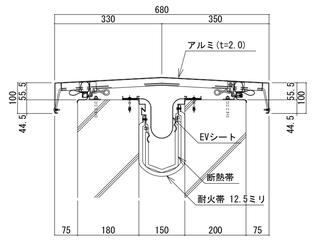
［エキスパンション・ジョイントの各種製品の性能条件］（参考）	
壁EXP.J	・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
	性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
	・2.4mm以上の厚みを有すること。
	・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
	・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
	・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
	・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
	・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
	樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
	・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。
床EXP.J	・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
	性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
	・屋根Exp.J.C.は動風圧試験装置による加圧試験で4000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
	・耐火帯は日本エキスパンションジョイント工業会の適合証を取得した耐火帯とする。
	・振動台実験によって可動性能を確認した製品とする。
	・第三者機関でその製品単体での性能を確認した材料であること。
	・遮熱帯（材）は不可とする。
断熱帯	・厚さ10mm以下とする。
	・Exp.J.C.専用品として開発された製品とし、単に断熱材やシートを敷設しただけのものは不可。
	・保湿対策品とし水分などを含んで断熱性能が低下する製品は不可。
	・熱貫流率（U値）の最大期待値を0.35W/㎡K、製品保証値1.0W/㎡Kを有する製品とする。



① 屋根ー屋根 Exp.j（アルミ製）

H700-APR-ST 断熱・耐火仕様　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

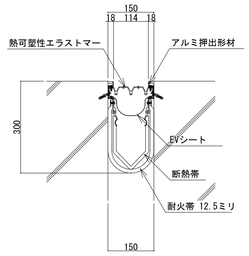


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・屋根Exp.J.C.は動風圧試験装置による加圧試験で4000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・耐火帯は日本エキスパンションジョイント工業会の適合証を取得した耐火帯とする。
・断熱帯は断熱帯は振動台実験によって可動性能を確認した製品とする。
・断熱帯は第三者機関でその製品単体での性能を確認した材料であること。
・断熱帯は遮熱帯（材）は不可とする。
・断熱帯は厚さ10mm以下とする。
・断熱帯はExp.J.C.専用品として開発された製品とし、単に断熱材やシートを敷設しただけのものは不可。
・断熱帯は保湿対策品とし水分などを含んで断熱性能が低下する製品は不可。
・断熱帯は熱貫流率（U値）の最大期待値を0.35W/㎡K、製品保証値1.0W/㎡Kを有する製品とする。

② 外壁ー外壁 Exp.j

EU-150 断熱・耐火仕様　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

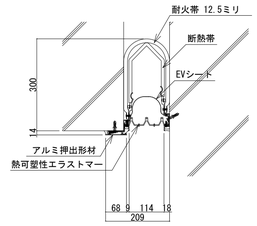


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。
・断熱帯は断熱帯は振動台実験によって可動性能を確認した製品とする。
・断熱帯は第三者機関でその製品単体での性能を確認した材料であること。
・断熱帯は遮熱帯（材）は不可とする。
・断熱帯は厚さ10mm以下とする。
・断熱帯はExp.J.C.専用品として開発された製品とし、単に断熱材やシートを敷設しただけのものは不可。
・断熱帯は保湿対策品とし水分などを含んで断熱性能が低下する製品は不可。
・断熱帯は熱貫流率（U値）の最大期待値を0.35W/㎡K、製品保証値1.0W/㎡Kを有する製品とする。

③ 外壁コーナー Exp.j

EU-150C 断熱・耐火仕様　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

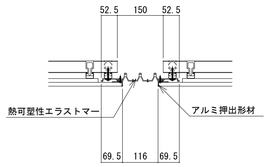


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。
・断熱帯は断熱帯は振動台実験によって可動性能を確認した製品とする。
・断熱帯は第三者機関でその製品単体での性能を確認した材料であること。
・断熱帯は遮熱帯（材）は不可とする。
・断熱帯は厚さ10mm以下とする。
・断熱帯はExp.J.C.専用品として開発された製品とし、単に断熱材やシートを敷設しただけのものは不可。
・断熱帯は保湿対策品とし水分などを含んで断熱性能が低下する製品は不可。
・断熱帯は熱貫流率（U値）の最大期待値を0.35W/㎡K、製品保証値1.0W/㎡Kを有する製品とする。

④ 天井ー天井 Exp.j

EU-BC150　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

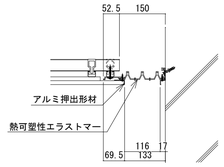


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。

⑤ 天井コーナー Exp.j

EU-BC150C　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

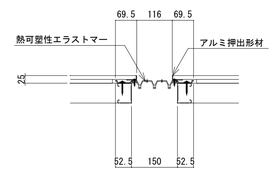


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。

⑥ 内壁ー内壁 Exp.j

EU-BC150　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

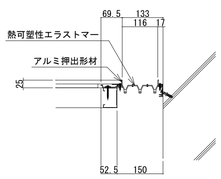


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。

⑦ 内壁コーナー Exp.j

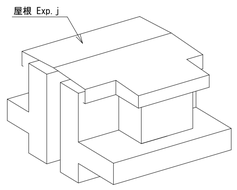
EU-BC150C　S=1:10

クリアランス	150mm
可動量(X,Y)	±75mm

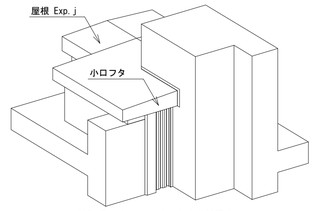


・一般社団法人 日本免震構造協会（JSSI）「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の
性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
・2.4mm以上の厚みを有すること。
・樹脂製Exp.J.C.として15年以上の施工実績のある商品とすること。
・促進耐候性試験、温冷繰返し試験、塩水噴霧複合サイクル試験の耐候性試験を実施している製品とする。
・気密性試験を実施し、通気量が100Paの圧力差で約2.36m¥U+00B3/(h¥U+FF65m¥U+00B2)以下の性能を有する製品とする。
・動風圧試験装置による加圧試験で5000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
・意匠性・漏水危険性・施工安定性・気密性を考慮し、樹脂本体は最小20mを1本物とし、
樹脂同士のジョイント部を極力少なくすること。(2m又は3m定尺物は不可)
・ジョイント部、端部フサギ材の締結は、強固なビスもしくはピン挿入式とし、外側嵌合式は不可とする。

納まり姿図



(a 納まり姿図)



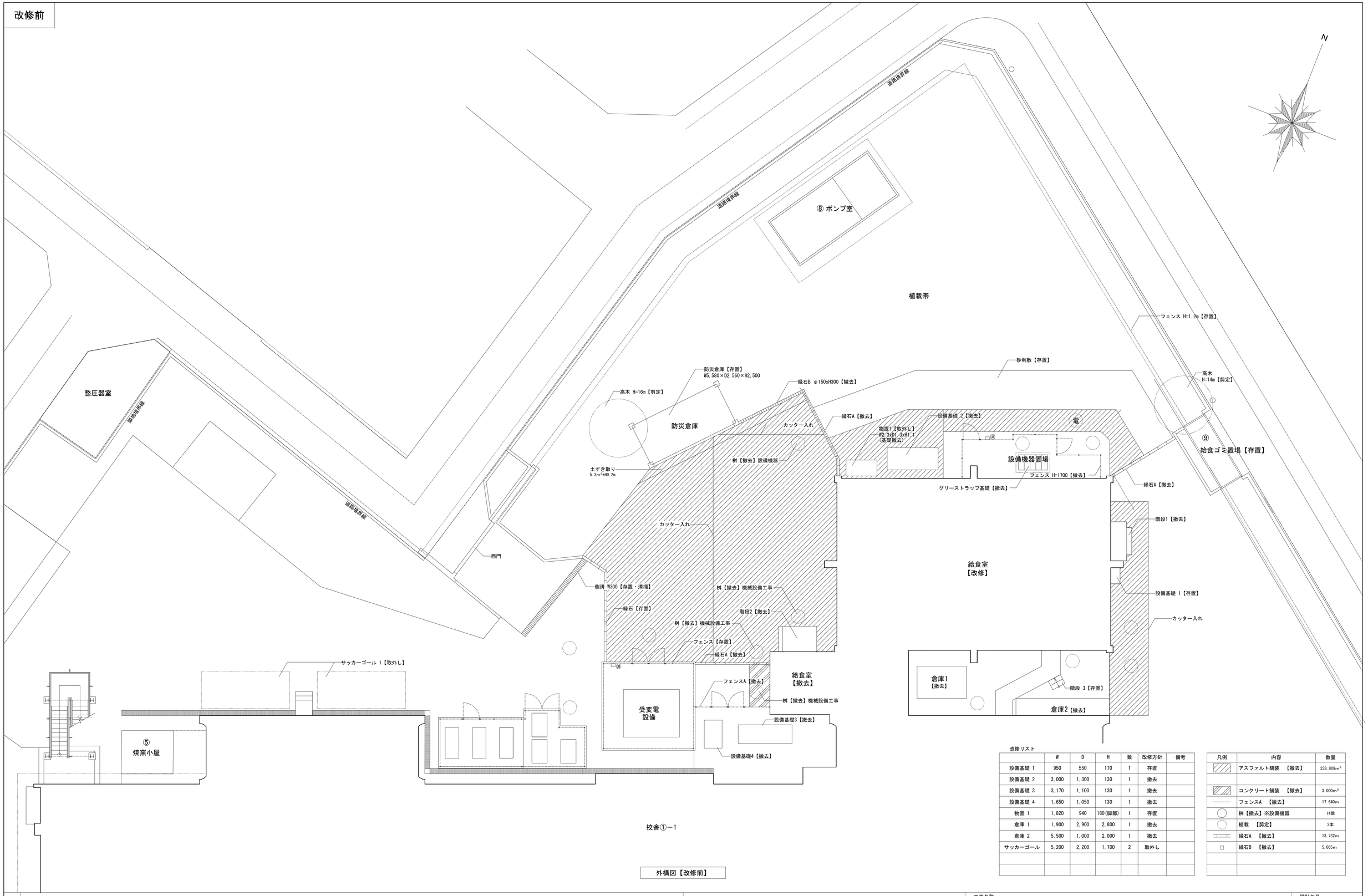
外壁 Exp.j　(b 納まり姿図)

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
エキスパンションジョイント詳細図【改修後】	A1: 1/10 A3: 1/20	A-52

改修前



外構図【改修前】

改修リスト

	W	D	H	数	改修方針	備考
設備基礎 1	950	550	170	1	存置	
設備基礎 2	3,000	1,300	130	1	撤去	
設備基礎 3	3,170	1,100	130	1	撤去	
設備基礎 4	1,650	1,050	130	1	撤去	
物置 1	1,820	940	180(脚部)	1	存置	
倉庫 1	1,900	2,900	2,800	1	撤去	
倉庫 2	5,500	1,000	2,000	1	撤去	
サッカーゴール	5,200	2,200	1,700	2	取外し	

凡例	内容	数量
	アスファルト舗装 【撤去】	238.909m²
	コンクリート舗装 【撤去】	3.000m²
	フェンスA 【撤去】	17.640m
	桝【撤去】※設備機器	14個
	植栽 【剪定】	2本
	縁石A 【撤去】	13.732m
	縁石B 【撤去】	5.065m

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称: 調布市立多摩川小学校給食室改修工事

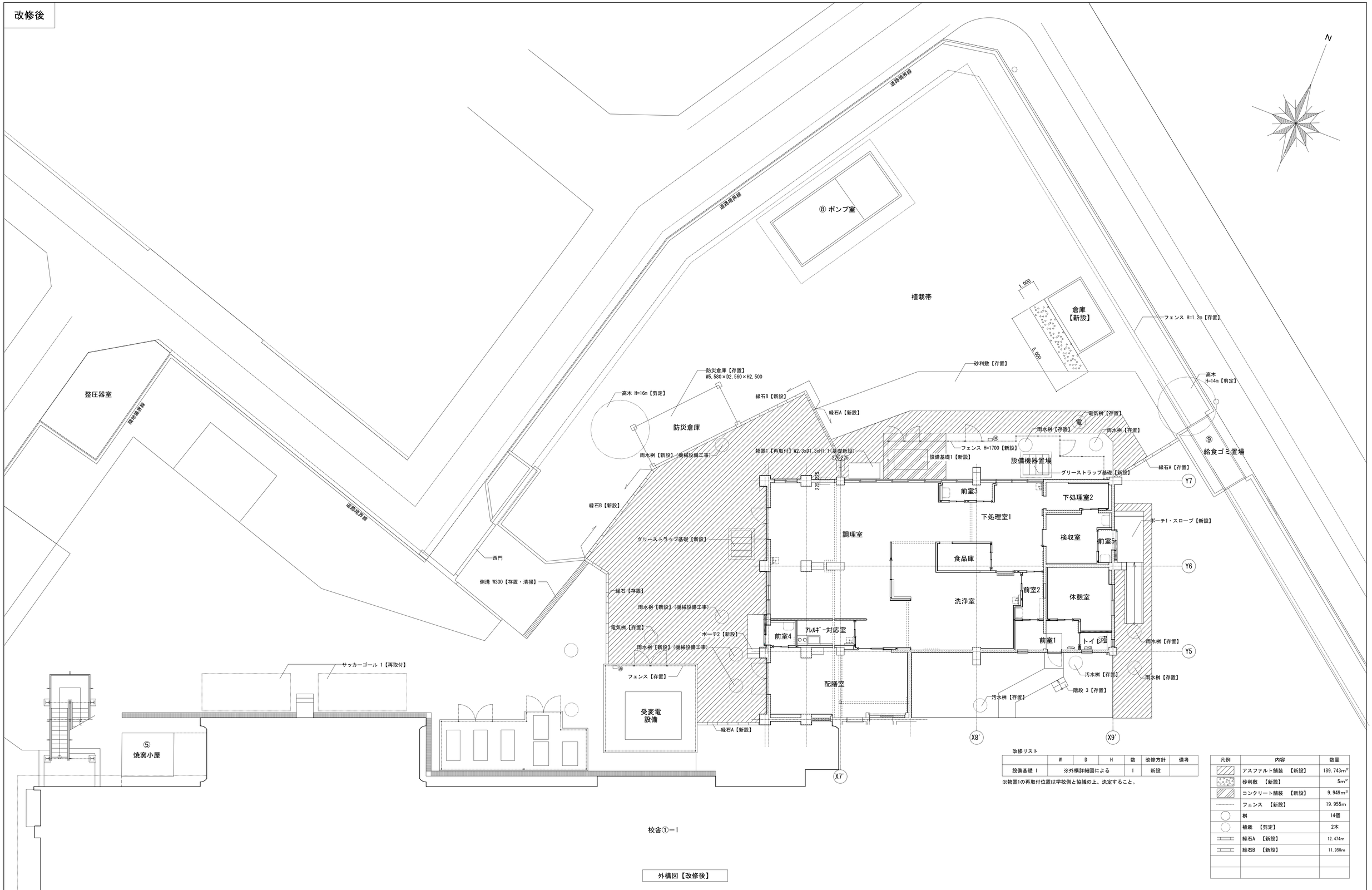
設計年月: 2025年3月

図面名称: 外構図【改修前】

縮尺: A1: 1/100 A3: 1/200

図面番号: A-53

改修後



外構図【改修後】

改修リスト

	W	D	H	数	改修方針	備考
設備基礎 1	※外構詳細図による			1	新設	

※物置1の再取付位置は学校側と協議の上、決定すること。

凡例	内容	数量
	アスファルト舗装 【新設】	189.743m²
	砂利敷 【新設】	5m²
	コンクリート舗装 【新設】	9.949m²
	フェンス 【新設】	19.955m
	桝	14個
	植栽 【剪定】	2本
	縁石A 【新設】	12.474m
	縁石B 【新設】	11.950m

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称: 調布市立多摩川小学校給食室改修工事

設計年月: 2025年3月

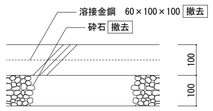
図面名称: 外構図【改修後】

縮尺: A1: 1/100 A3: 1/200

図面番号: A-54

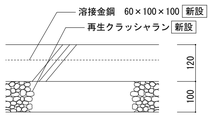
コンクリート舗装詳細図　1/10

撤去範囲は、外構図【改修前】による。



【改修前】

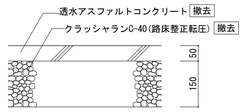
新設範囲は、外構図【改修後】による。
伸縮目地t12@3,000



【改修後】

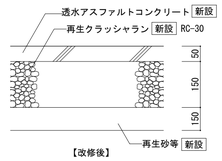
アスファルト舗装詳細図　1/10

撤去範囲は、外構図【改修前】による。



【改修前】

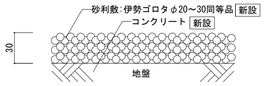
新設範囲は、外構図【改修後】による。



【改修後】

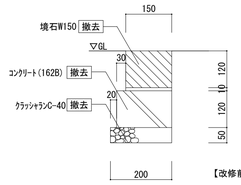
砂利敷き　1/10

新設範囲は、外構図【改修後】による。



縁石A 詳細図　1/10

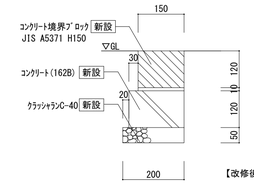
撤去範囲は、外構図【改修前】による。



【改修前】

※東京たまエコセメント製品を使用すること

新設範囲は、外構図【改修後】による。

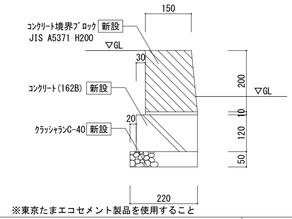


【改修後】

※東京たまエコセメント製品を使用すること

縁石B 詳細図　1/10

新設範囲は、外構図【改修後】による。

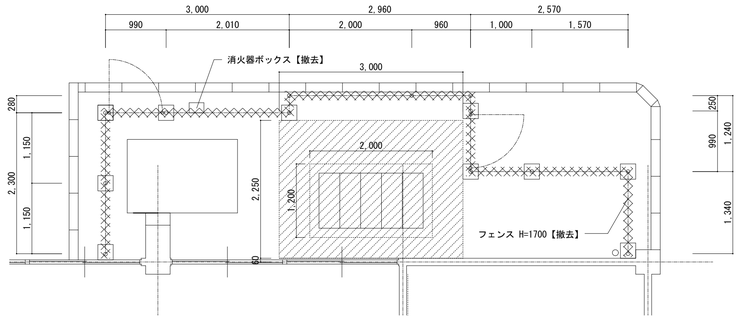


※東京たまエコセメント製品を使用すること

設備基礎置場詳細図　1/50

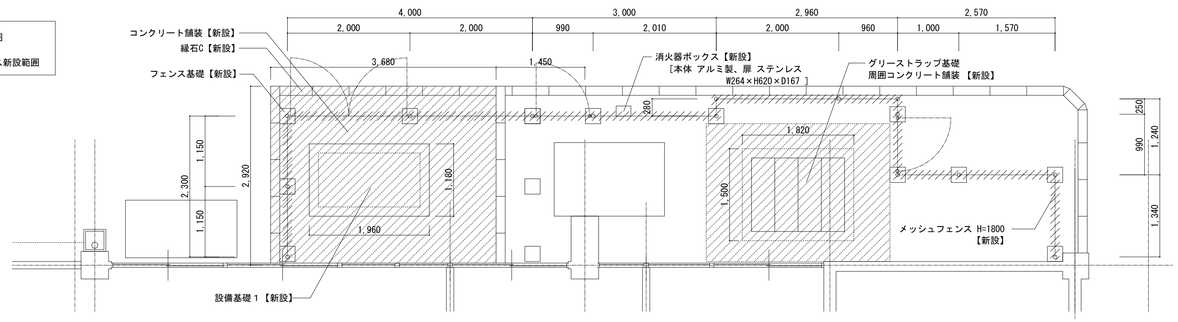
改修前

撤去範囲
フェンス撤去範囲



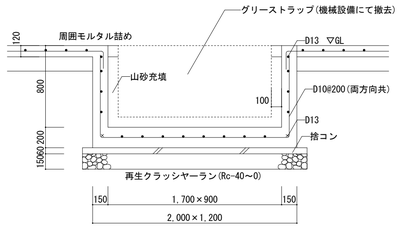
改修後

新設範囲
フェンス新設範囲

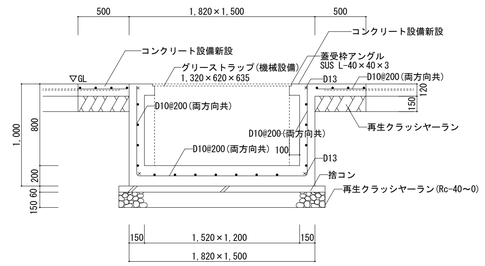


グリーストラップ基礎詳細図　1/30

改修前　既存グリーストラップ基礎は全て撤去する
既存基礎周囲舗装は、新設基礎外面+500程度を撤去する



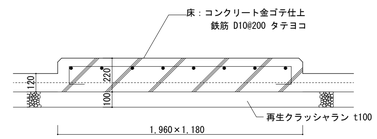
改修後　改修後 グリーストラップ基礎は全て新設する
基礎周囲舗装は、新設基礎外面+500程度を新設する



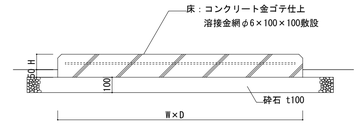
注記：コンクリート強度及びスランプは　Fc=21N SL=15とする
配管にする開口部には補強筋1-D13(縦横斜め計8本)を配筋すること。

新設設備基礎1詳細図　1/20

注記：コンクリート強度及びスランプは　Fc=21N SL=15とする

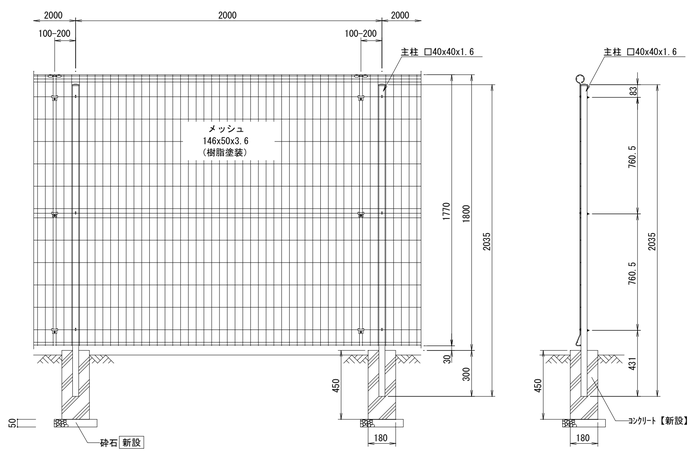


既存撤去設備基礎　詳細図　1/20

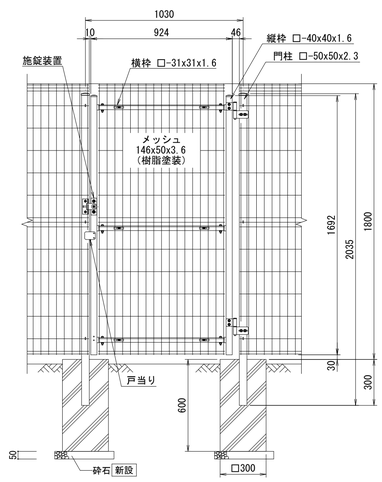


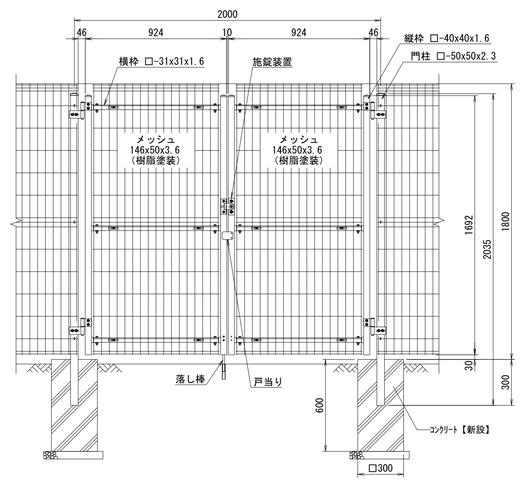
メッシュフェンス詳細図【参考図】　1/20

フェンス位置は、外構図【改修後】による。

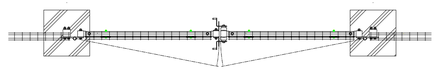


メッシュフェンス扉詳細図（W1030、W2000）【参考図】





平　面　図
(S=1／20)



平　面　図
(S=1／20)

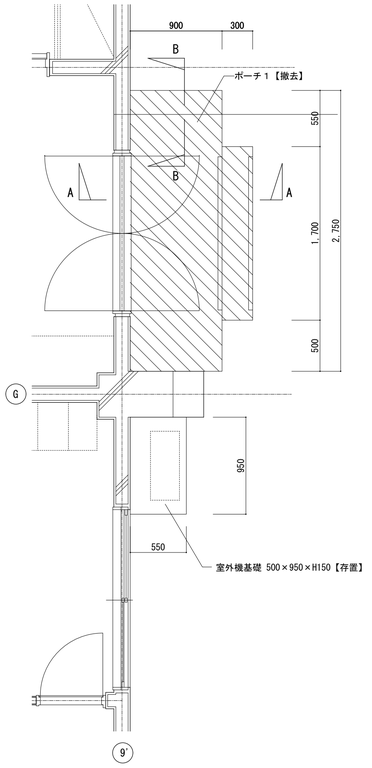
記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

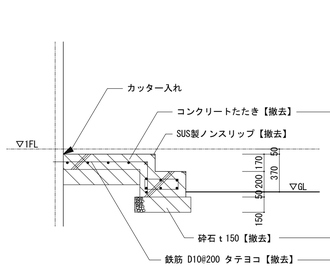
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
外構詳細図(1)	A1：図示 A3：図示	A-55

ポーチ１【撤去】　ポーチ１・スロープ【新設】　詳細図

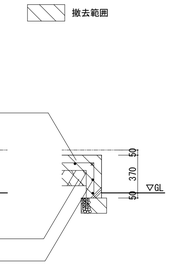
1/30



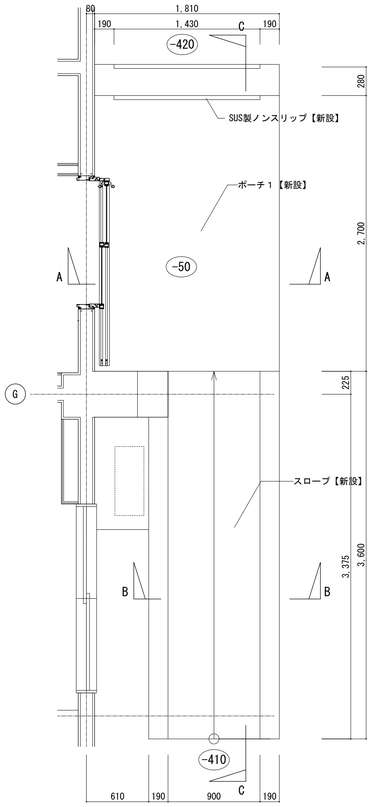
＜平面図＞



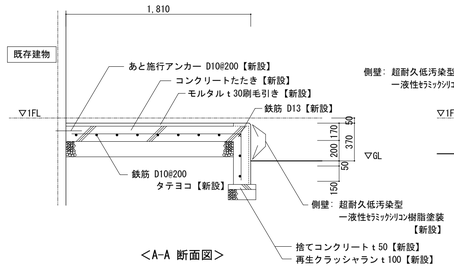
＜A-A 断面図＞



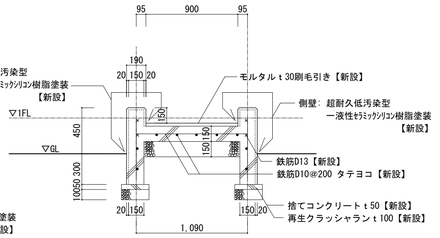
＜B-B 断面図＞



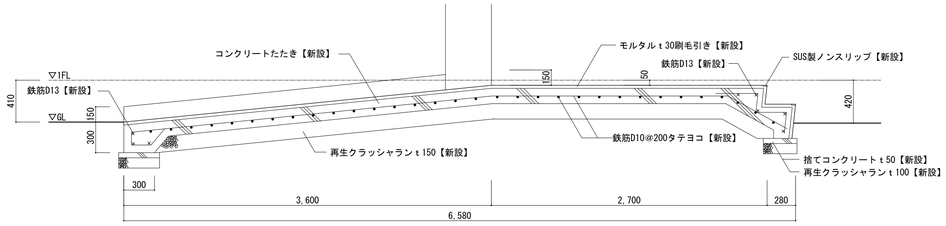
＜平面図＞



＜A-A 断面図＞



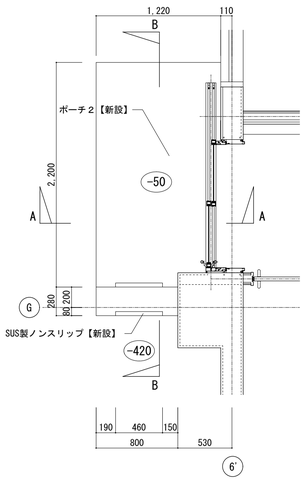
＜B-B 断面図＞

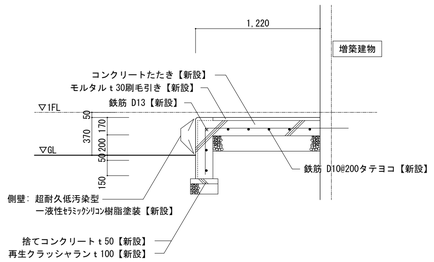


＜C-C 断面図＞

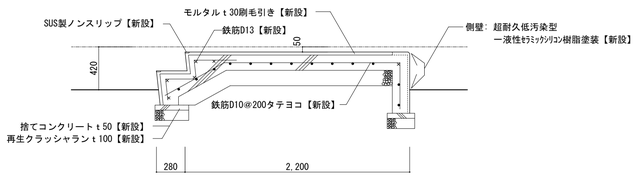
ポーチ２【新設】　詳細図

1/30





＜A-A 断面図＞

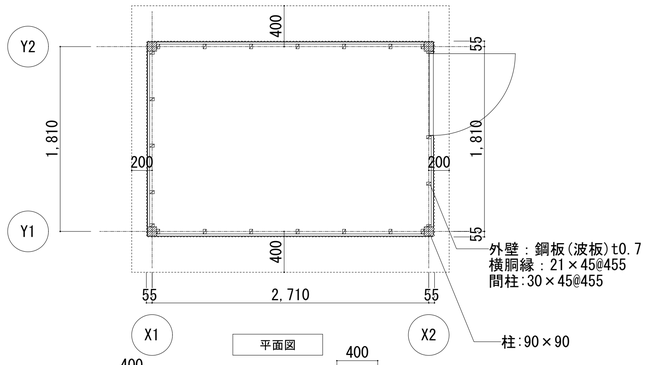


＜B-B 断面図＞

記事	株式会社 綜企画設計　西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号 一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
		図面名称 外構詳細図(2)	縮尺 A1：図示 A3：図示
			図面番号 A-56

倉庫1　【撤去図】　S=1/30

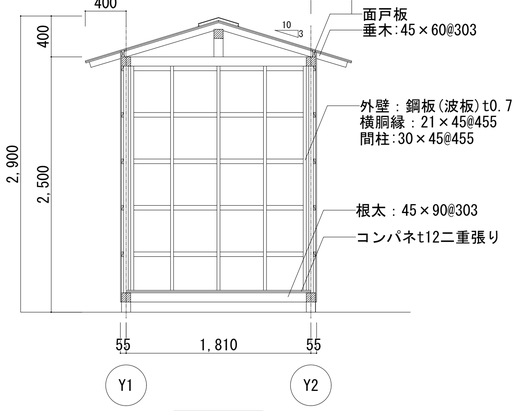
※特記なき限り、全て撤去とする。



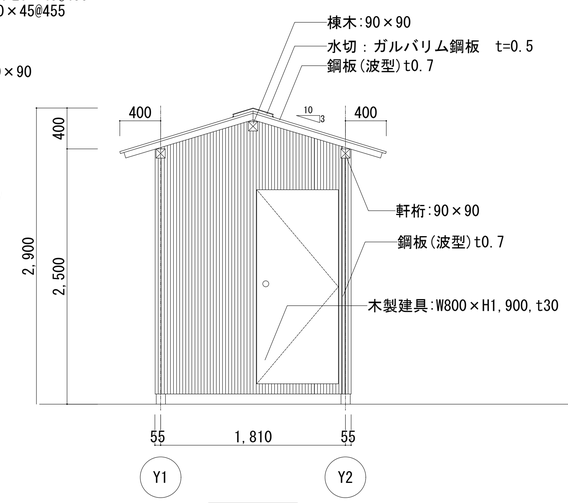
平面図

仕上表

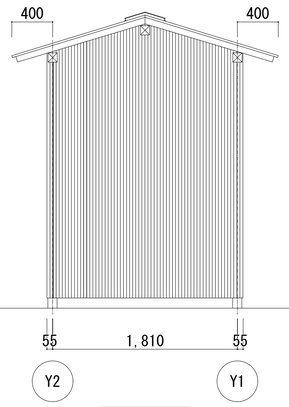
屋根	鋼板(波型)
壁	鋼板(波型)
床	合板
建具	木製建具:W800×H1,900,t30
その他	-



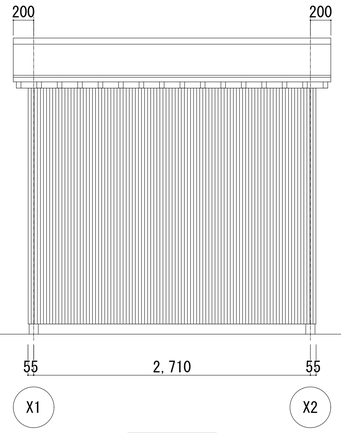
断面図



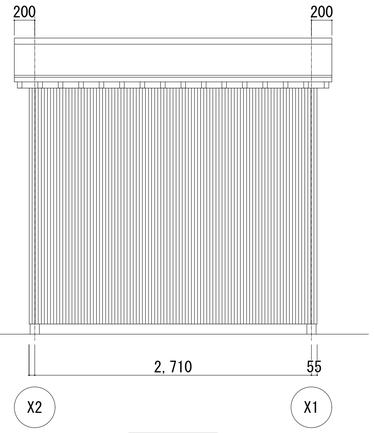
立面図(東)



立面図(西)



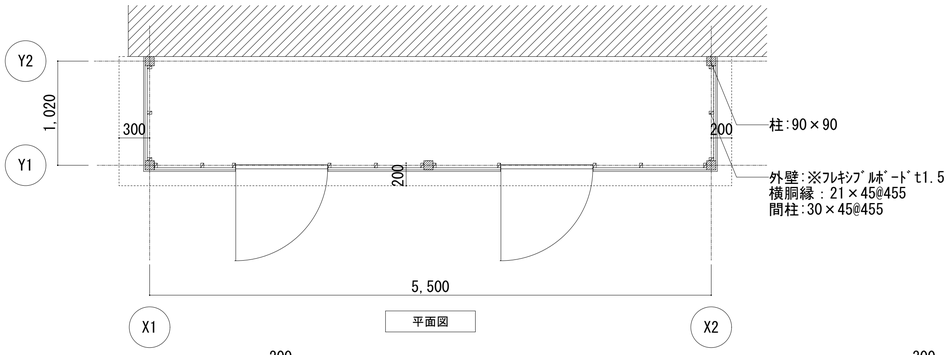
立面図(南)



立面図(北)

倉庫2　【撤去図】　S=1/30

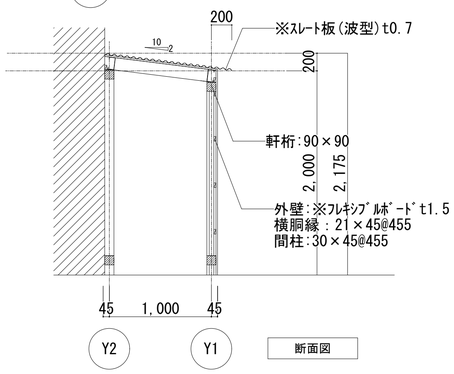
※特記なき限り、全て撤去とする。



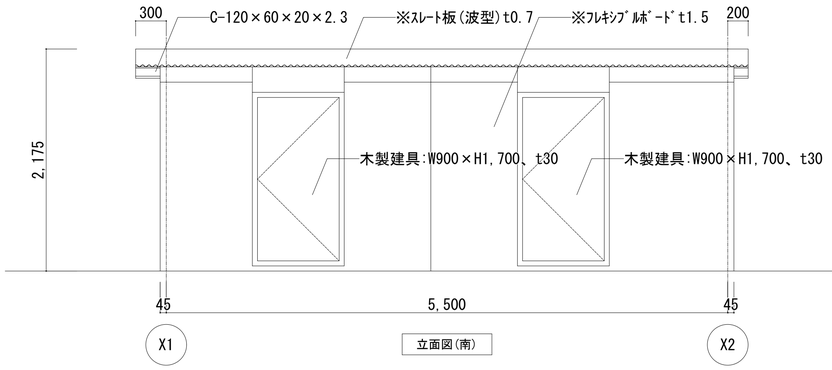
平面図

仕上表

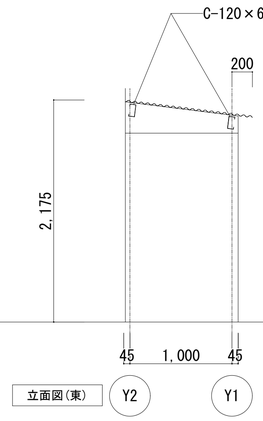
屋根	ｽﾚｰﾄ板(波型)
壁	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt1.5
床	-
建具	木製建具:W900×H1,700、t30
その他	※アスベスト含有建材の仕上塗材(レベル3)



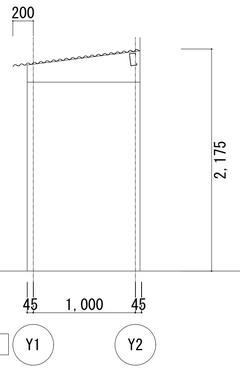
断面図



立面図(南)



立面図(東)

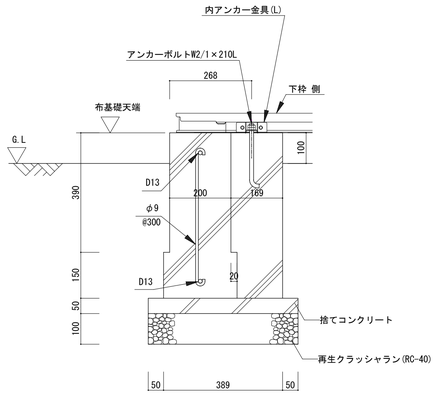


立面図(西)

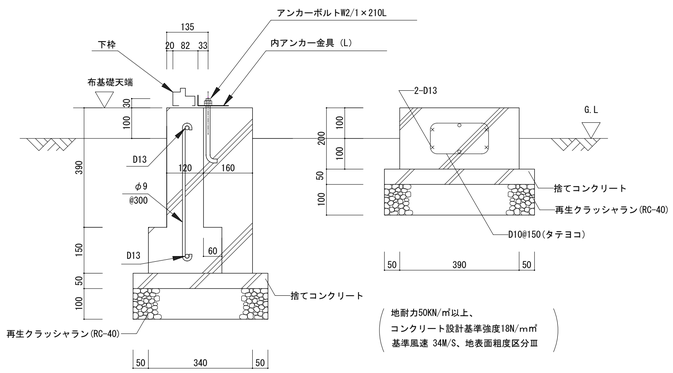
記事	

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

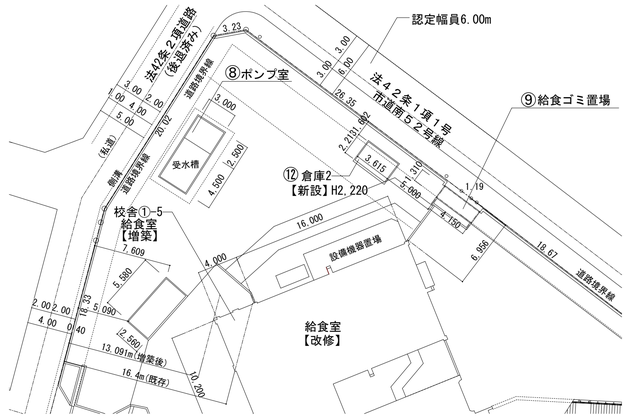
工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称：倉庫1,2【撤去図】	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
	図面番号 A-57



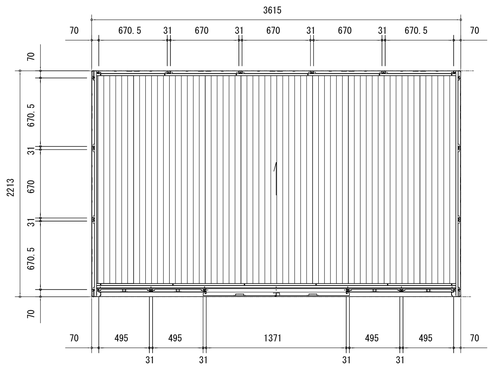
基礎　D～D’断面図　(A1:S=1/10)



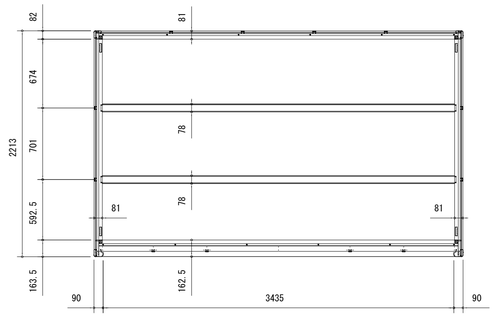
基礎　A～A’断面図　(A1:S=1/10)



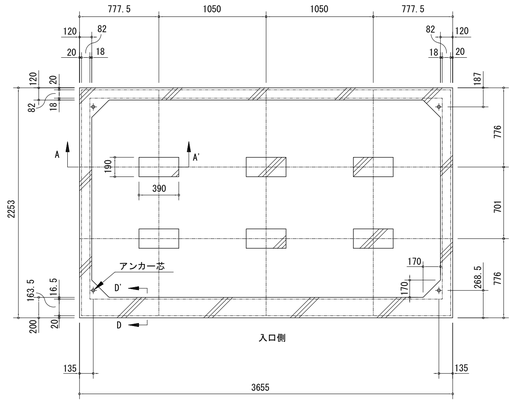
配置図　(A1:S=1/300)



平　面　図　(A1:S=1/30)

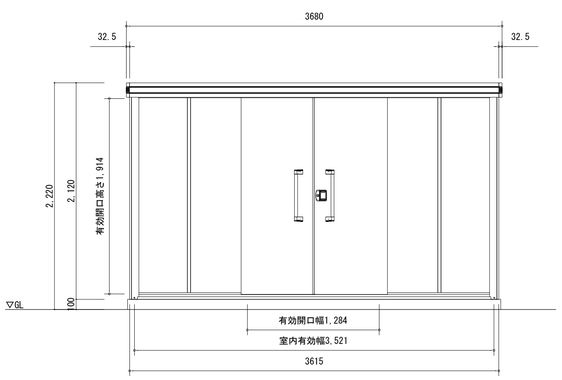


床　伏　図　(A1:S=1/30)

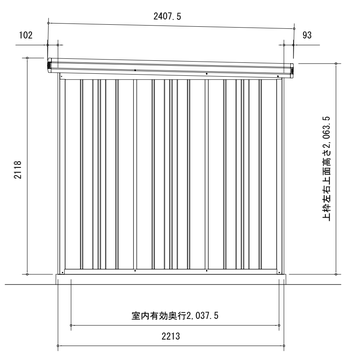


基礎伏図　(A1:S=1/30)

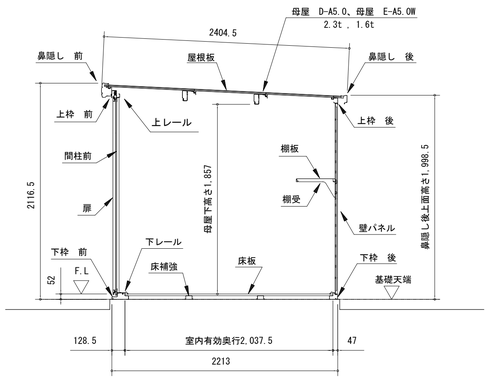
部　材　名	厚さ(m/m)	材　　質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床補強	1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
〈一般型〉母屋　D-A5.0	2.3	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
〈一般型〉母屋　E-A5.0W	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
下枠前（側・後）	1.2(1.0)	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠前（後）	1.0(0.8)	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
上枠　左・右	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC (ｻｰﾄﾞﾝｶﾗｰ)
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC (ｻｰﾄﾞﾝｶﾗｰ)
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
扉	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
壁パネル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
袖　壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
間　柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
床　板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
アンカープレート (L)	2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGCC（後塗装仕上げ）



正面立面図　(A1:S=1/30)



側面立面図　(A1:S=1/30)



矩計図　(A1:S=1/30)

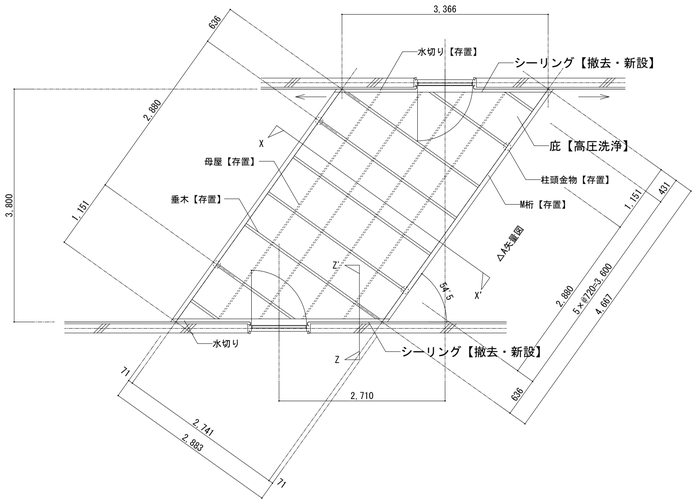
部　材　名	サイズ（巾×高さ）
扉 右　L-A	716　×　1938
扉 左　L-A	716　×　1938
壁パネル　L-A	670　×　1870
袖 壁　L-B	495　×　1909

参 考 図

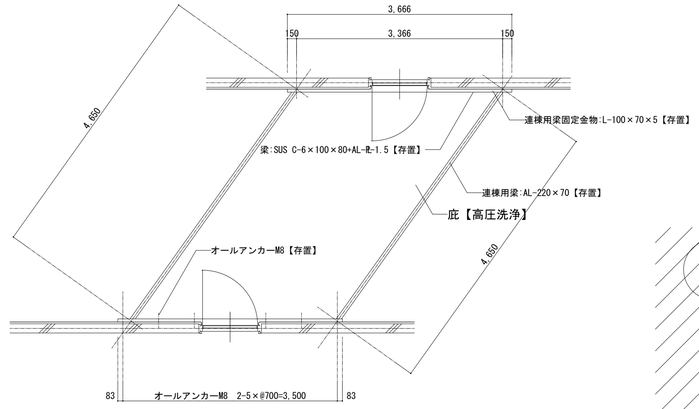
記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

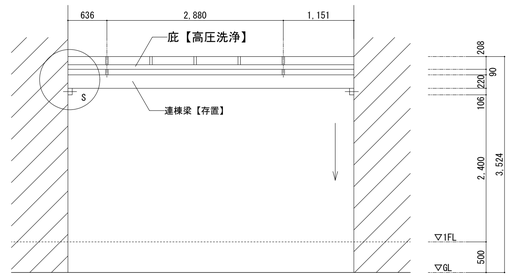
工事名称：調布市立多摩川小学校給食室改修工事
設計年月：2025年3月
図面名称：倉庫　配置図・仕上表・平面図・立面図・矩計図【改修後】(参考)
縮尺：A1: 図示　A3: 図示
図面番号：A-58



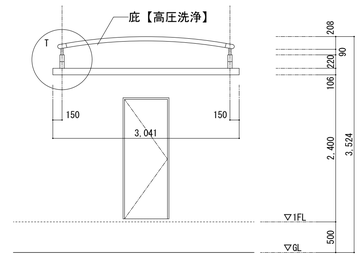
屋根伏図　1/50



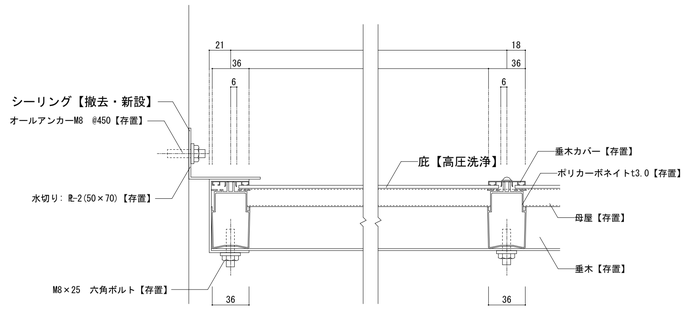
梁伏図　1/50



A矢視図　1/50



X-X' 断面図　1/50

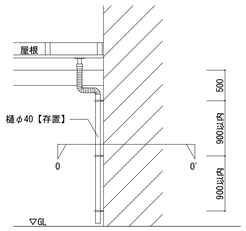


Z-Z' 部水切り・M垂木・屋根板取合い詳細図　1/3

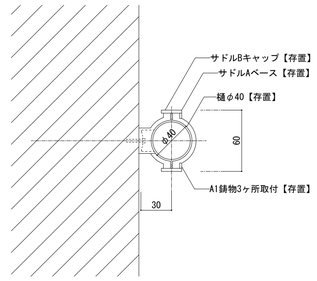
凡　例

竪樋位置を示す

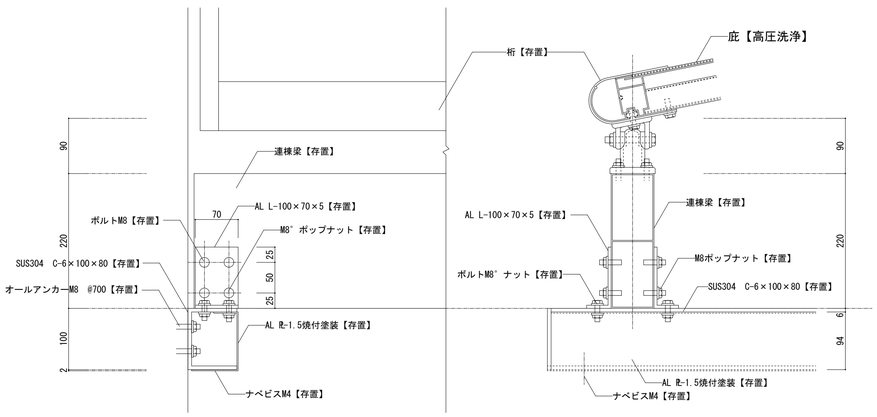
梁上、柱頭金物位置を示す



竪樋詳細図



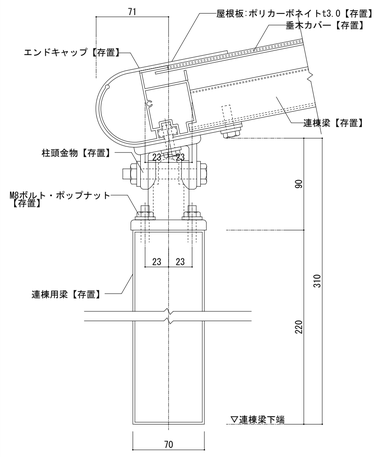
0-0' 断面図　1/3



S部詳細図　1/5

T部詳細図　1/5

M1	
桁・柱頭金物詳細図	1/3

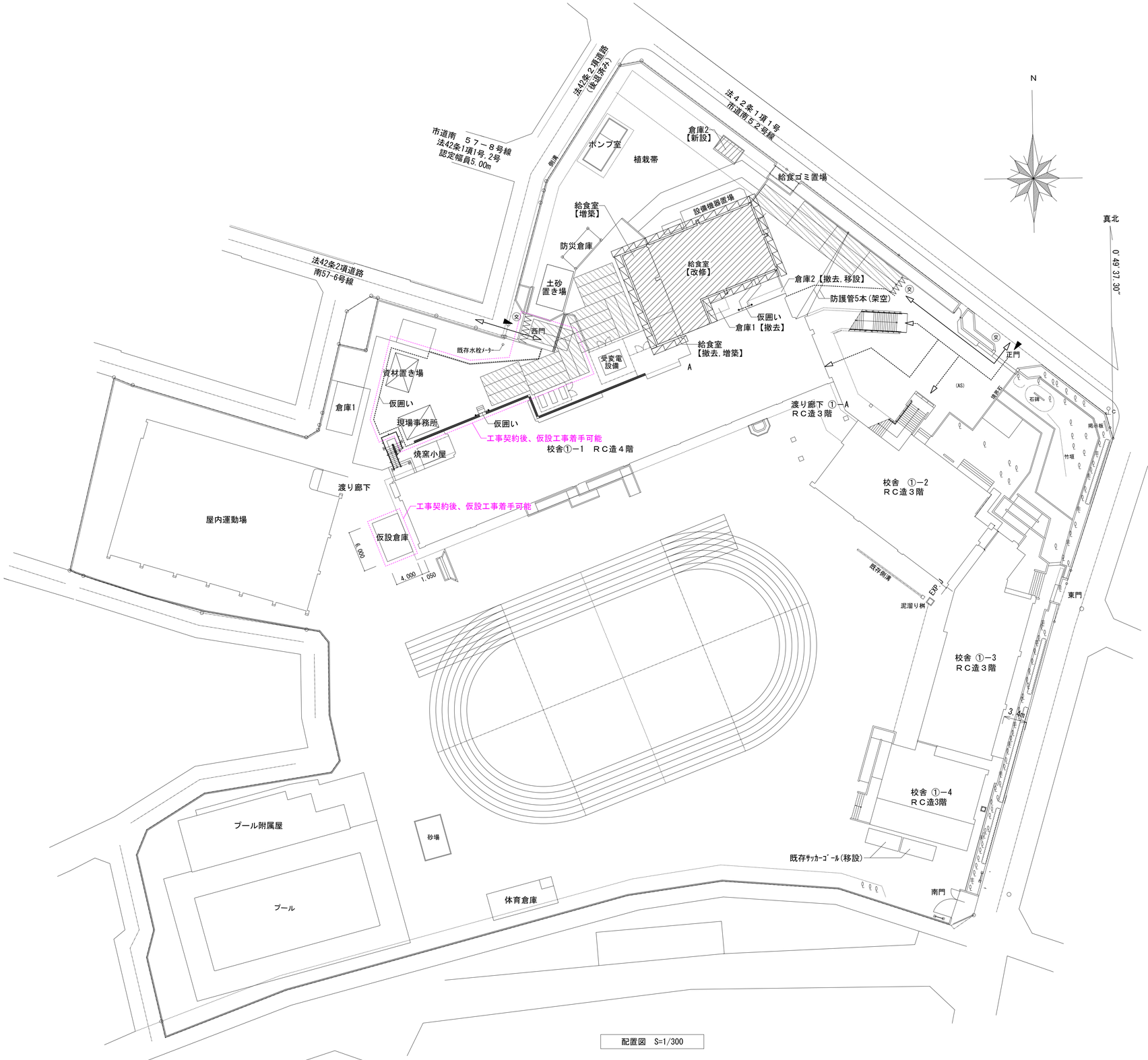


名　　称	材　　質	表面処理
M垂木【存置】	耐食アルミ合金押出材A6063S-T6	色ブロンズ
垂木カバー【存置】	耐食アルミ合金押出材A6063S-T5	電解着色アルマイト+電着塗装 ビードはエラストマー押出材
M桁【存置】	耐食アルミ合金押出材A6063S-T6	色ブロンズ
母屋【存置】	耐食アルミ合金押出材A6063S-T5	電解着色アルマイト+電着塗装
連棟梁【存置】	耐食アルミ合金押出材A6063S-T6	色ブロンズ 電解着色アルマイト+電着塗装
屋根材【存置】	ポリカーボネイトt=3.0	ブラウンスモーク
エンドキャップ【存置】	ABS樹脂製	色ブロンズ
柱頭金物【存置】	アルミ合金鋳物製	色ブロンズ　焼付塗装
ﾈｼﾞ・ﾅｯﾄ・ﾜｯｼｬｰ【存置】	SUS304	-
樋【存置】	アルミ40φ管+PVC製ジャバラ	色ブロンズ

記事

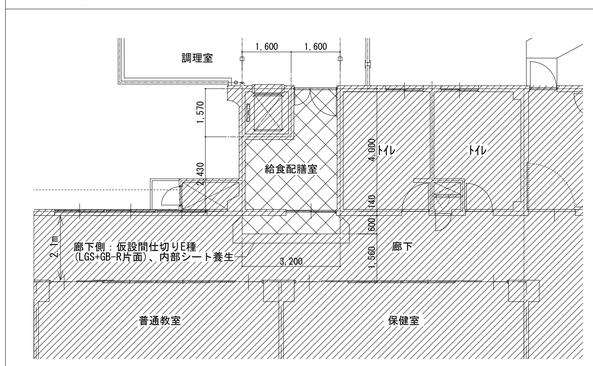
株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
渡り廊下詳細図【改修前・後】	A1: 図示 A3: 図示	A-59



配置図　S=1/300

【A部詳細図】※1階～4階



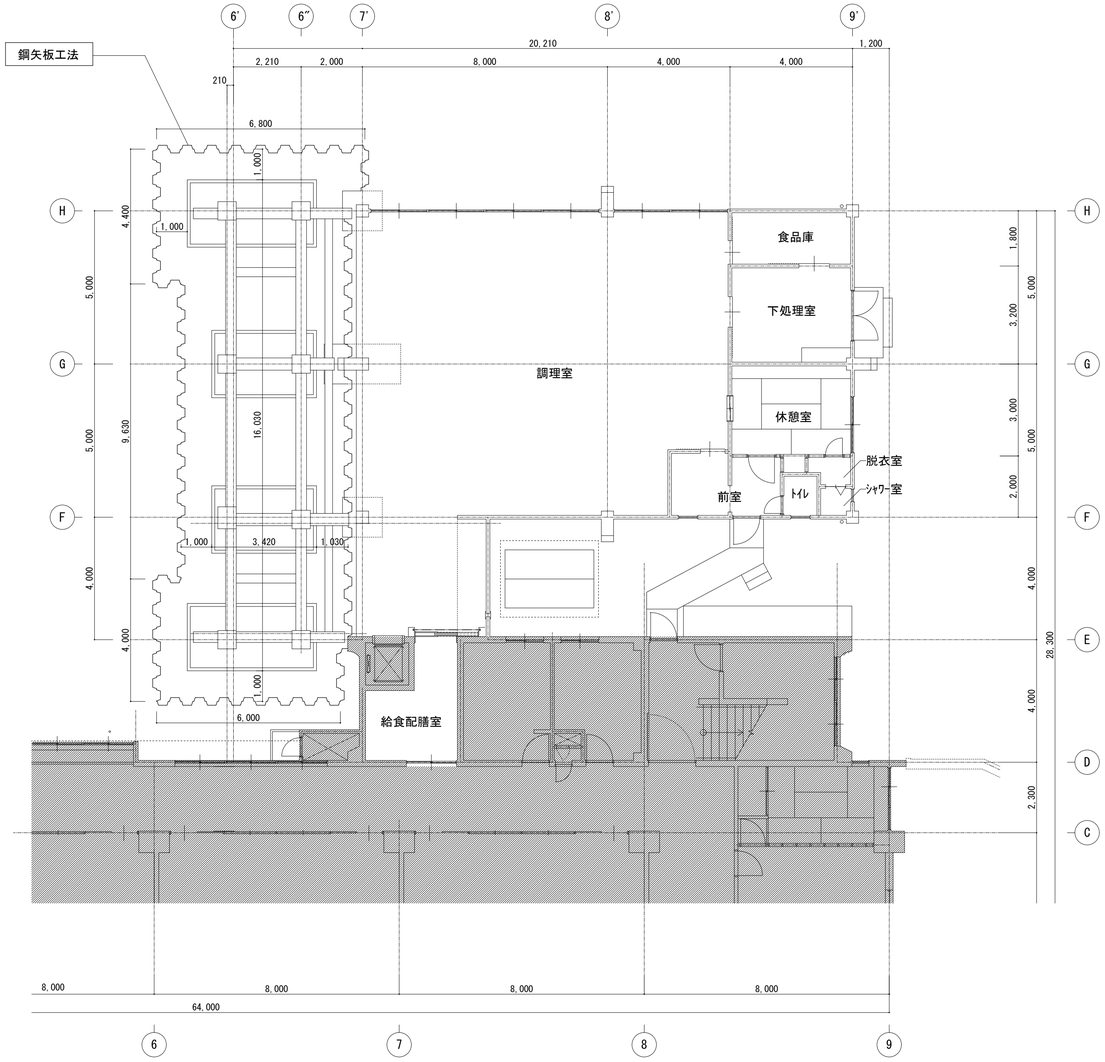
共通凡例		
	工事建物	－
	仮囲い；ガードフェンスH=1,800	70m
	キャスターゲート W5,400×H2,200(パネル付)	2ヵ所
	枠組足場W1,800×D900　※外部足場廻り：上部:防音ｼｰﾄ 下部:巾木	－
	養生鉄板敷き t=22　6,000×1,500　※工事によって地盤に生じた損傷は受注者の責において補修を行う。	29枚
※	誘導員　40週(週休2日)1人	
	工事車両搬入口	
	工事動線	
	学校利用者動線（生徒など）	

※基本となる工事車両動線は西門からとする。
　正門を使用する場合、通行の際は樹脂製鉄板として、登下校時間は極力避けること。
※植栽帯エリアについては、年4回程度草刈りを行うこと。
※特記なき仮設については、R7.7.14以降に着手すること。

記事	

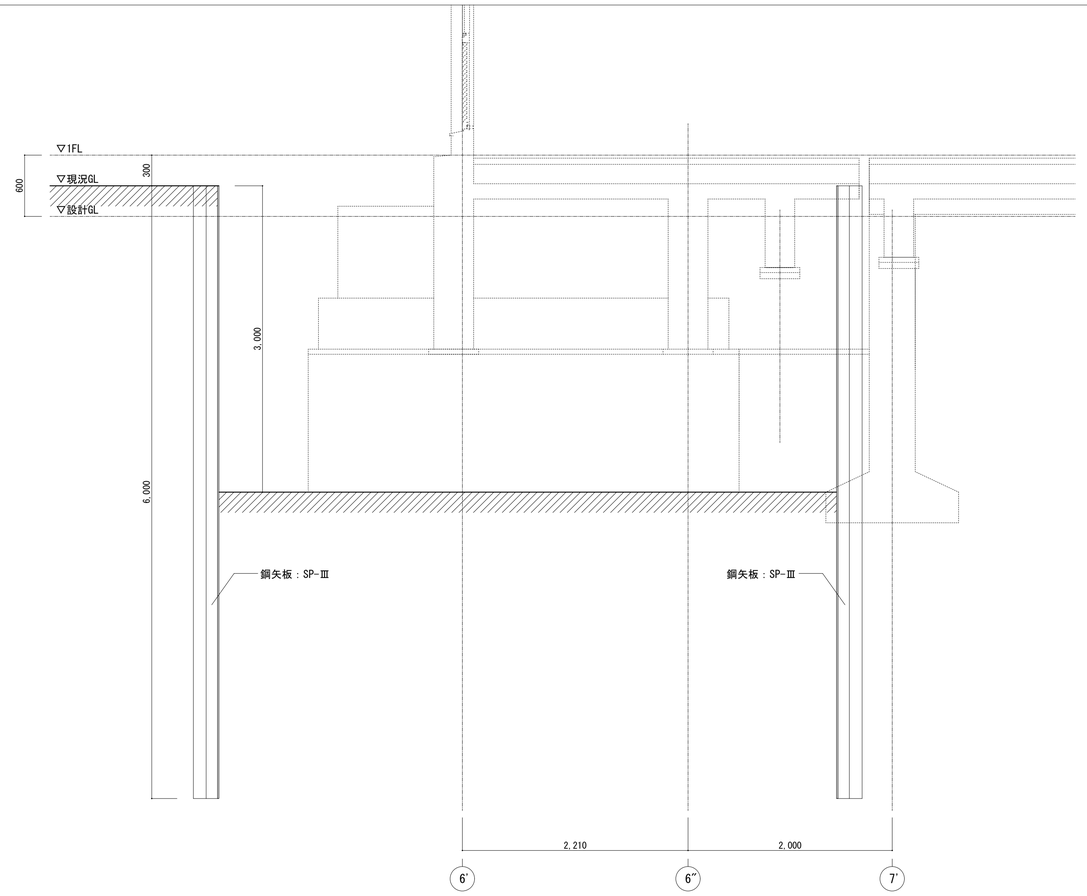
株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
仮設計画図(参考)	A1: － A3: －	A-60

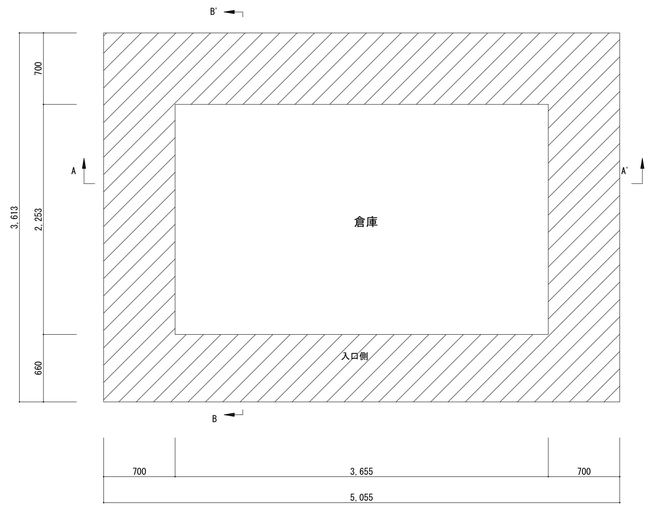


1階平面図　1/100

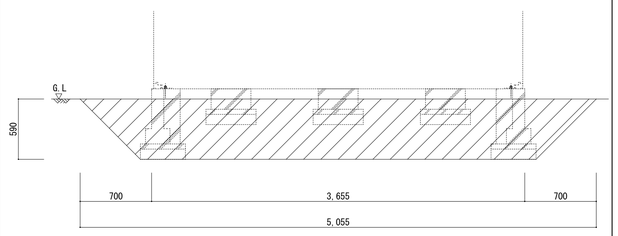
鋼矢板工法　断面図　1/30



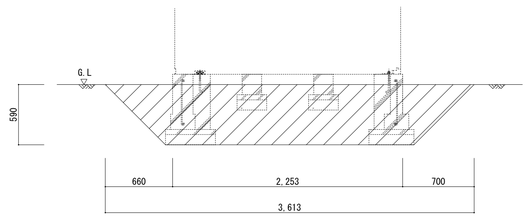
倉庫2　平面図　1/30



倉庫2　A～A'　断面図　1/30



倉庫2　B～B'　断面図　1/30



記事			
株式会社 綜企画設計　西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号 一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
	図面名称 山留計画図(参考)	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 A-61

厨房設備器具明細表　(機械設備工事：参考資料)

No	品　名	型　式 (同等品以上とする)	規格寸法			台数	配管接続口径(A)			ガス(13A)		電気(50Hz)kW			フード	特記事項
			W	D	H		給水	給湯	排水	口径	kW	単相100V	単相200V	三相200V		
	<A:検収室>															
1	二槽シンク	既存再利用	1300	800	850	1	20x2	20x2	40x2							既存再利用
2	移動式ピーラー	PL-42N-M	700	729	945	1	20		ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ					0.4		三相　能力:260kg/h ドライ仕様　L→R
3	受槽	MS	850	700	953	1			ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ							自在車仕様
4	検食用冷凍庫	HF-63CAT-KS2	625	650	1910	1			間接40			0.376				冷凍：384L
5	冷凍冷蔵庫	HRF-120BF	1200	800	1910	1			間接40			0.639				冷凍:492L 冷蔵:492L
	<B:食品庫>															
1	コールドテーブル冷凍庫	FT-90SDJ-R	900	750	800	1			間接40			0.329				冷凍：206L
2	トライアングルキャリー	既存再利用				3										既存再利用
3	ラック	既存再利用	1519	614	1892	1										既存再利用
4	ラック		600	614	1892	1										
5	調味料ワゴン	既存再利用	850	450	900	2										既存再利用
	<C:下処理室>															
1	移動穴アキ調理台	既存再利用	900	900	850	1										既存再利用 ※蓋のみ新設
2	固定シンク	既存再利用	2700	900	850	1										既存再利用
3	固定シンク	既存再利用		上記含む			20x2	20x2	40							既存再利用
4	消毒保管機	ISC-S5JW-EF	530	550	1880	1								3.1		三相片面ｳｫｰﾑ機能付 自己診断機能付
5	器具消毒保管機	ISCK-13JW-EF	1280	750	1880	1								6.4		自在棚5段仕様
6	パススルー冷蔵庫	HR-120B-ML-4G4G	1200	850	1910	1			間接40			0.679				冷蔵：1126L 上下ガラス
7	カウンター		1100	600	850	1										
8	三槽シンク	SDS3-186B	1800	600	850	1	20x3	20x3	40x3							ドライ仕様
	<D:調理室>															
1	包丁器具保管庫	既存再利用	620	550	1800	1								3.1		既存再利用
2	器具消毒保管機	ISCK-13JW-EF	1280	750	1880	1								6.4		自在棚５段仕様
3	フードスライサー	OSI-06S	545	715	750	1						0.5				
4	移動式フードスライサー置台		1500	780	900	1										
5	移動穴アキ調理台		900	900	850	1										
6	移動シンク		800	900	850	2										蓋付
7	移動シンク		800	900	850	1										蓋付
8	ミキサー万能調理機	既存再利用(MX-40S)	-	-	-	-						0.4				既存再利用
9	移動式受槽	MX-MS	500	530	900	1										
10	低輻射ガス回転釜（フライ兼用）	DGK-60JET-DP-F	1650	1210	2160 890	1	20	20	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	20	50.0	0.022			G	満水量：200L使用油 量：35～80L内釜鉄製
11	低輻射ガス回転釜	DGK-60JES-DP-F	1610	1210	2160 890	3	20	20	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	20	50.0				G	満水量：200L釜鉄製
12	ガス回転釜	KHG2D-40RKHNT	1720	1140	1950 860	1	20	20	ﾋﾟｯﾄ	20	46.0				G	内釜ｽﾃﾝﾚｽｸﾗｯﾄﾞ鋼、 満水量：200L
13	ガスコンロ	RGC-064D	600	450	200	1				13mm	10.5				G	
14	ガスコンロ置台	既存再利用	600	600	670	1										既存再利用
15	スチームコンベクションオーブン	CSXH-GW202	1230	975	1835	1	15		高温 間接65	20	83.7			1.2	G	2/1ホテルパン

No	品　名	型　式 (同等品以上とする)	規格寸法			台数	配管接続口径(A)			ガス(13A)		電気(50Hz)kW			フード	特記事項
			W	D	H		給水	給湯	排水	口径	kW	単相100V	単相200V	三相200V		
16	予備ラックカート		705	967	1718	1										
17	真空冷却機	CMJ-40QEC	1130 1285	795 855	1640 1815	1	20		高温40 高温間接40					8.75		40kg/バッチ自己認証 型排水方法別紙参照
18	低輻射ガス立体炊飯器	ARCT-3GCL	790	790	1570	3				25	33.0	0.054			H	最大炊飯能力： 7kg×3段/回
19	移動台1	ｼﾝﾀﾞｲﾌﾟ	1240	640	700	15										
20a	二段式移動台a（新Ｇタイプ）	ｼﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ	1300	650	1000	1										
20b	二段式移動台b	既存再利用	1300	650	1000	3										既存再利用
21	移動台2	既存再利用	900	600	1000	1										既存再利用
22	移動台3	既存再利用	1050	670	850	1										既存再利用
23	移動台4	既存再利用	1000	630	800	1										既存再利用
24	移動台5	既存再利用	900	900	800	1										既存再利用
25	引出し付パススルー戸棚		750	500	1800	1										両面式　引出し付
	<E:アレルギー対応室>															
1	消毒保管機	ISC-S5JW-EF	530	550	1880	1								3.1		三相片面ｳｫｰﾑ機能付 自己診断機能付
2	コールドテーブル冷蔵庫	RT-63PTE1	630	450	800	1			間接40			0.12				冷蔵：72L
	<F:配膳室>															
1a	移動ステンレスワゴン(2ｸﾗｽ用)		950	800	990	5										
1b	移動ステンレスワゴン(2ｸﾗｽ用)	既存再利用	950	800	990	6										既存再利用 ※ｷｬｽﾀｰを外側に移設、棚金具切断
2a	移動ステンレスワゴン(1ｸﾗｽ用)		925	580	985	2										
2b	移動ステンレスワゴン(1ｸﾗｽ用)	既存再利用	925	580	985	3										既存再利用 ※ｷｬｽﾀｰを外側に移設、棚金具切断
3	牛乳保冷庫	MR-150B	1500	900	1970	1			間接40			0.299				保冷：１５４３Ｌ
4	冷蔵庫	HR-150B-ML	1500	800	1910	1			間接40			0.294				冷蔵：１３４７Ｌ
5	熱風消毒保管庫	既存再利用 (ISC-W60JW-EHX)	2560	950	1800	1								10.5		片面、ｳｫｰﾑ機能・自己診 断機能付、ﾘﾚｰ運転仕様
6	消毒保管機	ISC-S5JW-EF	530	550	1880	1										自在棚５段仕様
7	引出し付戸棚		750	500	1800	1										片面式　引出し付
8	ステンレスワゴン(職員用)	既存再利用	950	800	990	1										既存再利用　※現地再計測 ※ｷｬｽﾀｰを外側に移設、棚金具切断
	<G:洗浄室>															
1	三槽シンク	DS3-217B	2100	750	850	1	20x3	20x3	40ｘ3							ドライ仕様
2	食器浸透槽（大）		1000	600	850	4										
3	洗浄機入口置台		1000	360	800	1										
4	食器食缶洗浄機	DWU20-8MCG-23T00	3700	1200	1850	1	20	20x2	高温40 高温50	15x2		48.8			7.8	H	
5	移動台	Fｶﾞﾀ	1040	640	850	1										
6	移動台	ｼﾝﾀﾞｲﾌﾟ	1240	640	700	1										
7	食缶消毒保管機	ISC-W30JW-EHFX	1280	950	2260	2								9.75		両面、ｳｫｰﾑ機能・自己診 断機能付、ﾘﾚｰ運転仕様、 ベース置
8	棚昇降式食器消毒保管機	ISCM-W60JW-EHX	2740	1120	2300	1								21.0		両面、ｳｫｰﾑ機能・自己診 断機能付、ﾘﾚｰ運転仕様、 ベース置
	総使用量...											488.0	3.82	0.0	106.95		

注:上記接続口径並びに消費量は、各器具に於ける1台を示す

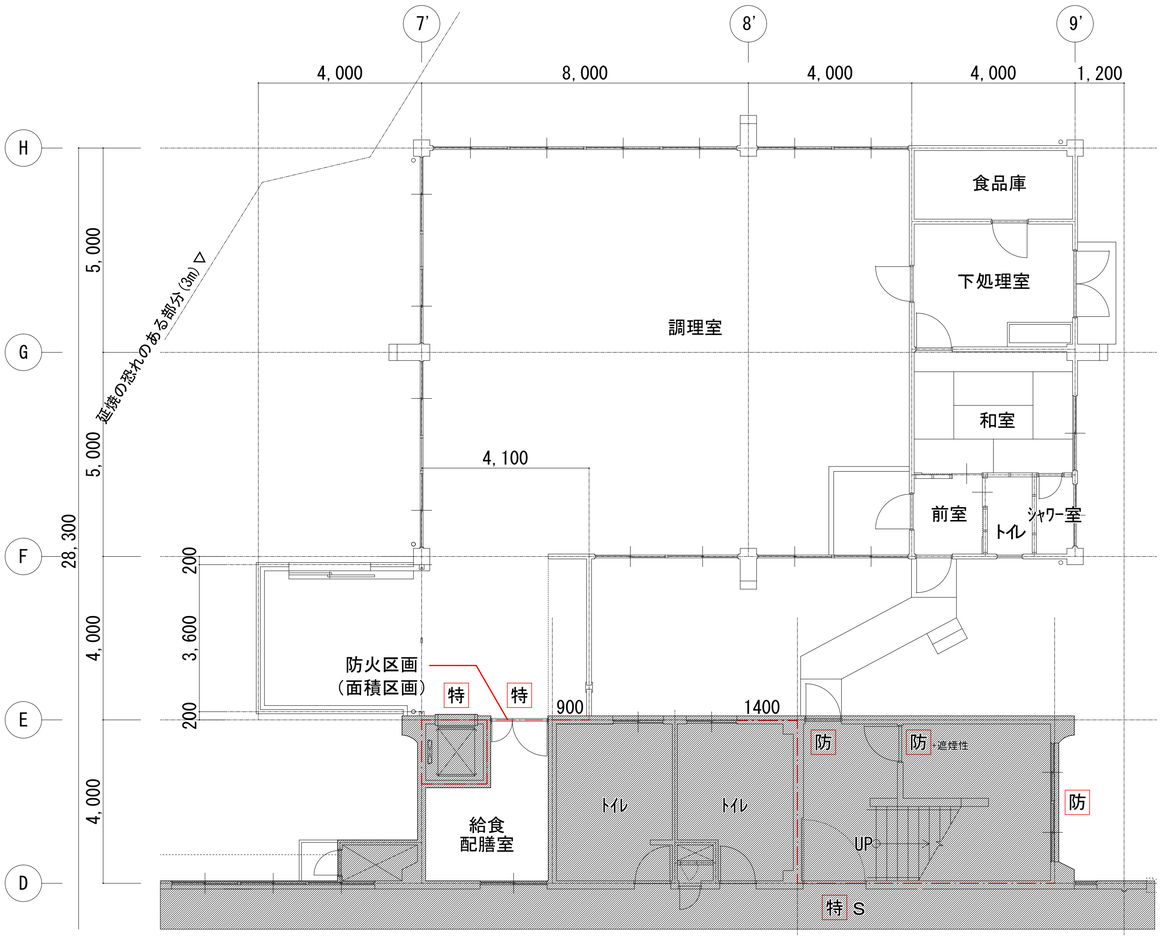
■フード表記　H：グリスフィルター無し　G：グリスフィルター有り　S:天井換気扇　D：ダクト直結

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
厨房設備器具明細表【改修後】(参考)	A1: - A3: -	A-62

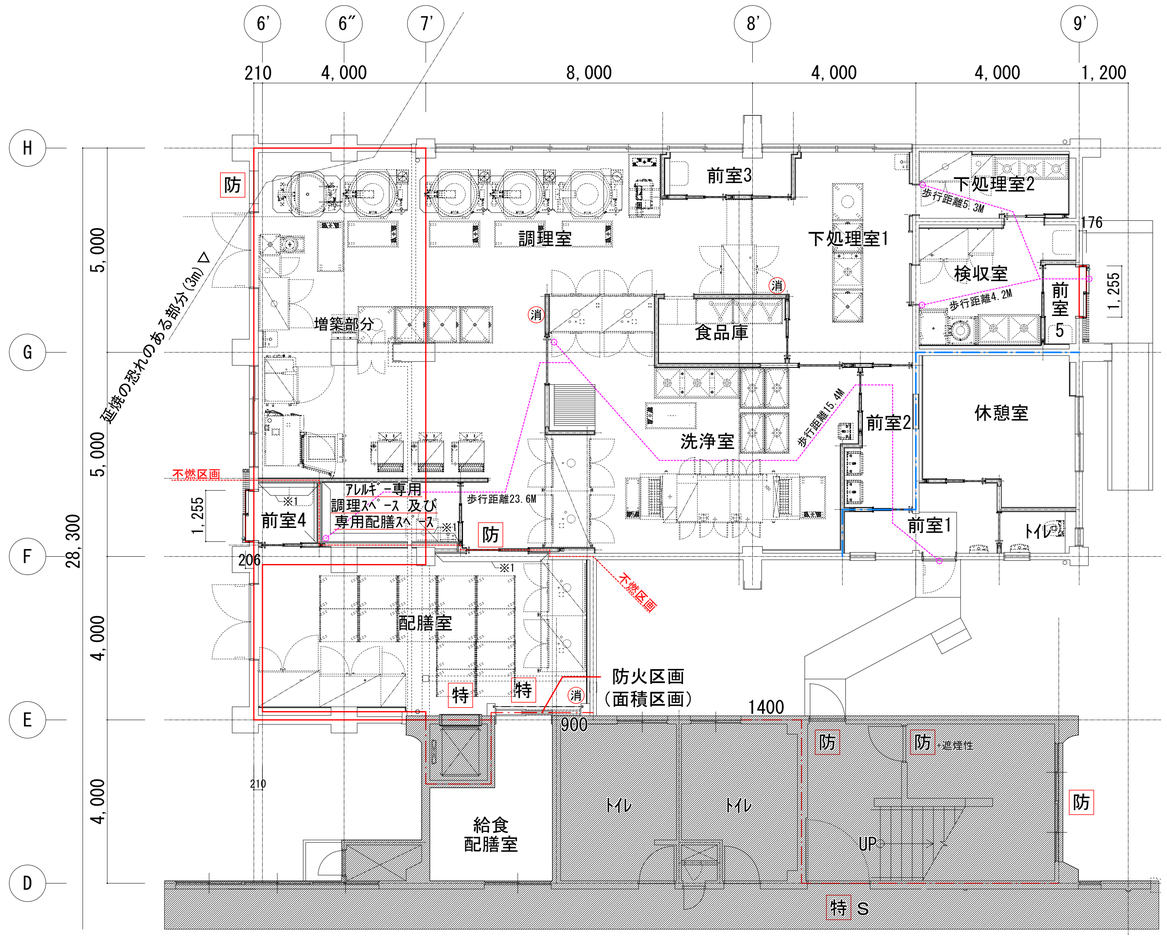
増築前



1階平面詳細図【増築前】 S=1/150

工事範囲外

増築後



1階平面詳細図【増築後】 S=1/150

工事範囲外

凡 例

		記 号	仕 様
	竪穴区画	特	特定防火設備：遮煙性、常時閉鎖
1400	112条16項スパンドレル	特s	特定防火設備：遮煙性、煙感連動
	114条区画	防	防火設備：常時閉鎖
	増築部分	防s	防火設備：遮煙性、煙感連動
		消	消火器

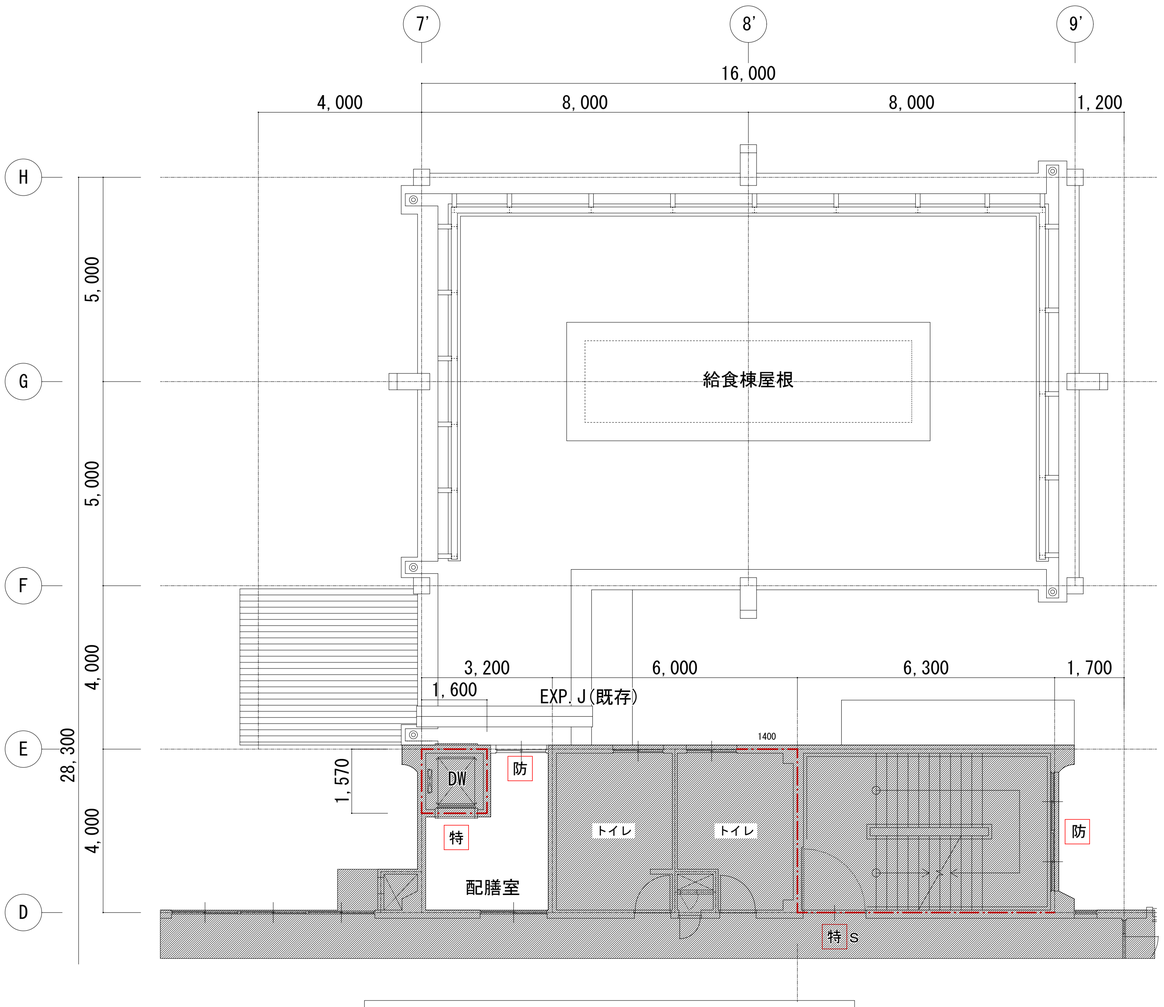
※1：不燃区画壁をスラブ下まで立ち上げること。

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		－
図面名称	縮尺	図面番号
1階平面詳細図【増築前・後】	A1: 1/75 A3: 1/150	KA-01

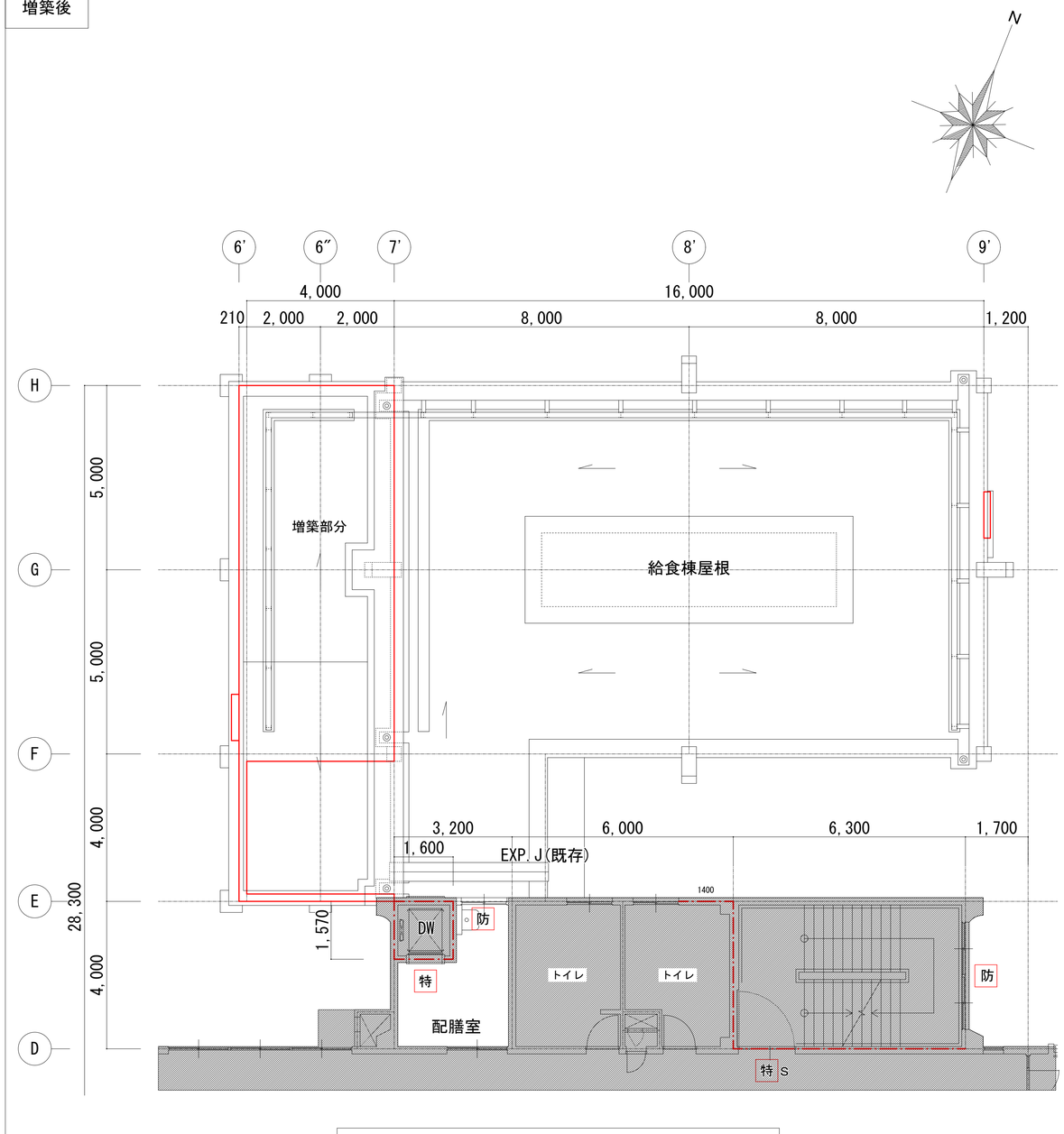
増築前



2階平面詳細図【増築前】 S=1/150

工事範囲外

増築後



2階平面詳細図【増築後】 S=1/150

工事範囲外

凡　例

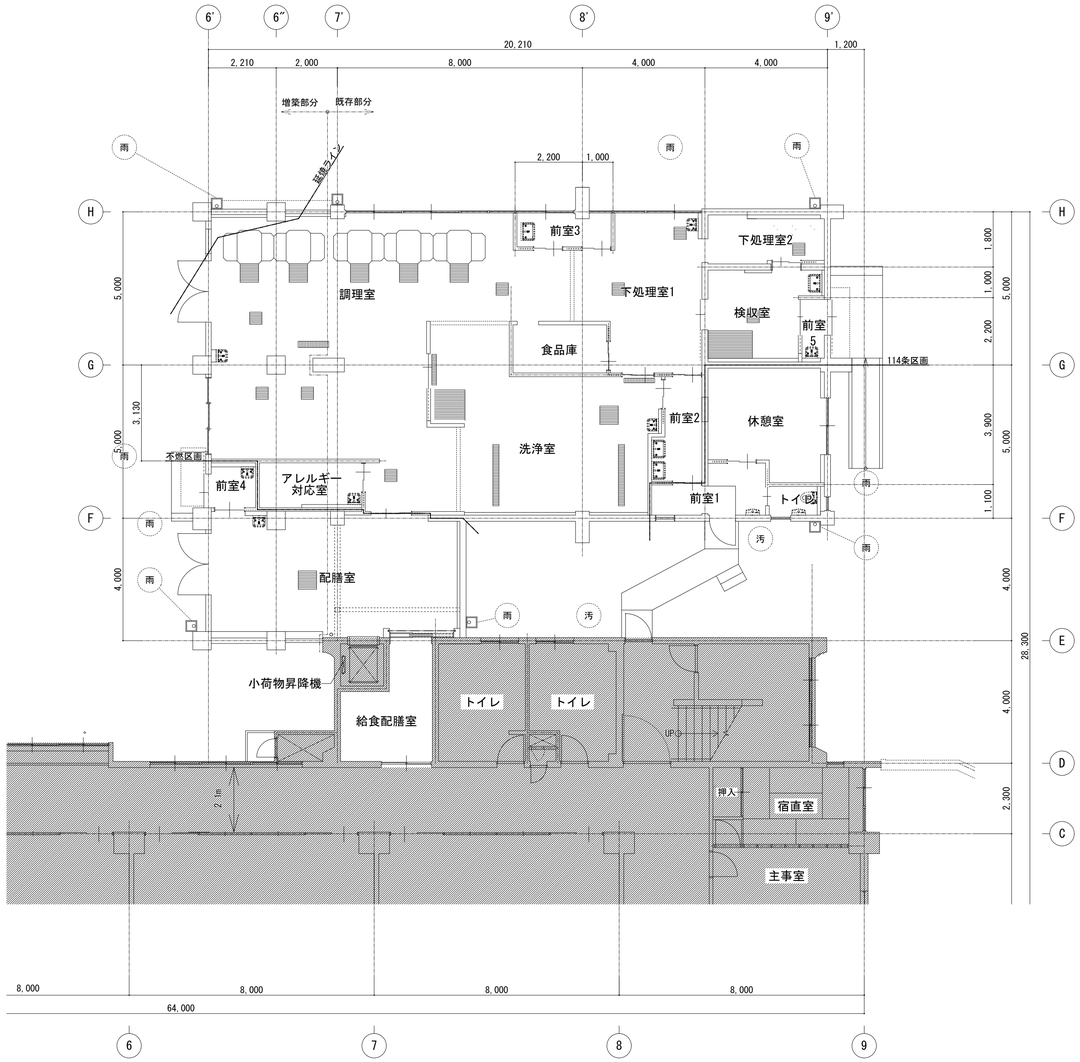
		記　号	仕　様
—·—·—	竪穴区画	特	特定防火設備：遮煙性、常時閉鎖
—·1400·—	112条16項スパンドレル	特s	特定防火設備：遮煙性、煙感連動
—·—·—	114条区画	防	防火設備：常時閉鎖
	増築部分	防s	防火設備：遮煙性、煙感連動

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 -
図面名称 2階平面詳細図【増築前・後】	縮尺 A1: 1/75 A3: 1/150	図面番号 KA-02

改修後



1階平面図(区画図)【改修後】

工事範囲外

記事		株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
			図面名称 1階平面図(区画図)【改修後】	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 KA-03

構造設計特記仕様　その1

・修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1. 本仕様の適用範囲

(1)本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が18N/mm²以上60N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295A(SD295)、SD295B、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが60m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

(2)仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様
②設計図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など)
③標準図(鉄筋コンクリート構造配筋標準図など)
④建築工事標準仕様書・同解説(日本建築学会)等

2. 建築物の構造内容

(1)建築場所　東京都調布市多摩川3丁目21番地1

(2)工事種別
□ 新築　■ 増築　□ 改築　□　□

(3)構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第20条第二号(　□ RC造高さ20m超　□ S造4階建以上　□ 木造高さ13m超　□ その他　)
□

(4)階数

地下	－ 階	地上	1 階	塔屋	－ 階
地下	階	地上	階	塔屋	階
地下	階	地上	階	塔屋	階

(5)構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■ 鉄筋コンクリート造(RC)	基礎 1 階～ 1 階	□ 免震建物
□ 鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)	階～　階	□ 制震建物
□ 鉄骨造(S)	階～　階	□ 搭状建物
□		□
□		□
□		□

(6)主要用途
□ 事務所　□ 共同住宅　□ 病院　□ 店舗　□ 倉庫　■ 給食室　□

(7)屋上付属物
□ キュービクル　kN　□ 高架水槽　kN　□ 広告塔　kN　□ 煙突　m
□ 太陽光発電設備　■ 換気設備基礎(1)　■ 換気設備基礎(2)　■ 目隠しフェンス基礎

(8)設計荷重

(a)主な積載荷重　(N/m²)

室 名	床 用	架構用	地震用
屋根	980	600	400
給食室	4900	2400	1300

(b)1次設計用地震力
Co=　0.20　Z=　1.0　Rt=　1.00　K(地下)=　0.10　I=　1.25

(c)風荷重
地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速 Vo=　34　m/sec

(d)雪荷重
■ 垂直積雪量　30 cm　■ 設計用雪荷重　20 N/m²・cm　□

(e)特殊の荷重及び仕上材
□ エレベーター　kN　基　□ 受水槽　kN　□ エスカレーター
□　□　□　□

(9)構造計算ルート
X方向ルート　1　ー(　)　Y方向ルート　1　ー(　)

(10)一次設計時用層間変形角
X方向　1/　200　rad　Y方向　1/　200　rad

(11)付帯工事
□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場　□

(12)特定天井
□ 有　■ 無

(13)屋根、床、壁

材　種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚	□ 壁　□ 床版	□ スライド　□ ボルト止め
押出し成形セメント版			□ ロッキング □
□ ハーフPca版　□ Pca版	厚	□ 壁　□ 床版	□
折 版	H=　厚	□ 屋根 □	□
特殊デッキプレート 大臣認定(　)	型式　厚	□ 屋根　□ 床版	□

3. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1)コンクリート(レディーミクストコンクリート JIS Q 1001,JIS Q 1011,JIS A 5308)

適用箇所 階	適用箇所 部 位	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ=kN/m³	備 考
1階	■ 柱 ■ 壁 ■ 梁 ■ 床版	24	24	18	23	
	□ 柱 □ 梁 □ 壁 □ 床版					
	□ 柱 □ 梁 □ 壁 □ 床版					
	□ 柱 □ 梁 □ 壁 □ 床版					
	□ 柱 □ 梁 □ 壁 □ 床版					
	□ 柱 □ 梁 □ 壁 □ 床版					
基礎	■ 床版 □ ■ 基礎 ■ 地中梁	24	24	18		
	□ □					
	土間コンクリート	■ 18		15	23	※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ 18		15	23	※本仕様適用外

セメントの種類	■ 普通ポルトランドセメント　□ 中庸熱ポルトランドセメント　□ 低熱ポルトランドセメント　□
細骨材の種類	■ 砂　■ 山砂　□ 砕砂　□
粗骨材の種類	■ 砂利　■ 砕石　□　□
水の区分	■ 水道水　■ 地下水　□ 工業用水　□
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢(■ 28日　□ 56日　□ 91日　□　) 養生(■ 標準　■ 現場水中　□ 現場封かん　□　)
単位水量	■ 185kg/m³以下　□ 175kg/m³以下　□
単位セメント量	■ 270kg/m³以上　□
混和剤	■ (高性能)AE減水剤　□ 高性能減水剤　□ / □　□　□
空気量	■ 4.5%以下　□ 3.0%以下　□
塩化物量	■ 0.3kg/m³以下　□　□
水セメント比	■ 65%以下　□ 50%以下　□

(2)コンクリートブロック　(　□ JIS A 5406)
□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所(　□　□　)

(3)鉄 筋

鉄 筋	種 類	使用径	使 用 箇 所	備 考
異 形 鉄 筋 (JIS G 3112)	■ SD295 A (SD295)	D10～D16	基礎はかま筋、基礎ベース筋、壁筋、スラブ筋、STP、HOOP	■ 重ね継手
	□ SD295 B			■ ガス圧接継手
	■ SD345	D19～D22	柱・梁主筋	□ 溶接継手
	□ SD390			□ 機械式継手
	□ SD490			□
				□ 機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□ MK785同等品
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶 接 金 網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1)SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2)各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に□にて表示すること。

(4)鉄 骨　S-12参照

種 類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□ SS400　□ SM400　□ SN400 A,B,C		□ 有 □ 無	JIS G 3136
□ SN490 B　□ SN490 C		□ 有 □ 無	JIS G 3160
□ STKR400　□ STKR490		□ 有 □ 無	JIS G 3466
□ BCR295　□ BCP235　□ BCP325		□ 有 □ 無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□ SSC400		□ 有 □ 無	JIS G 3350
□　□			
□　□			
溶接材料 □			JIS Z
□　□			

(5)ボルト等
□ 高力ボルト
□ F10T(JIS B1186)　(□ M16、□ M20、□ M22、□ M24、□　)
□ S10T 大臣認定番号(　)　(□ M16、□ M20、□ M22、□ M24、□　)
□ 溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号(　)　(□ M16、□ M20、□ M22、□ M24、□　)
□
□ ボルト(JIS B1180)　M　M　□ 4.8(4T)　□　□
□ アンカーボルト(構造用アンカーボルト)
□ SS400　M　L=　mm　ナット(□ シングル、□ ダブル)
□ ABR400　M　L=　mm　ナット(□ シングル、□ ダブル)(JIS B 1220)
□　M　L=　mm　ナット(□ シングル、□ ダブル)
□ 頭付スタッド(JIS B1198)
φ=　L=　mm　使用箇所(□ 柱　□ 大梁　□ 小梁)
φ=　L=　mm　使用箇所(□ 柱　□ 大梁　□ 小梁)

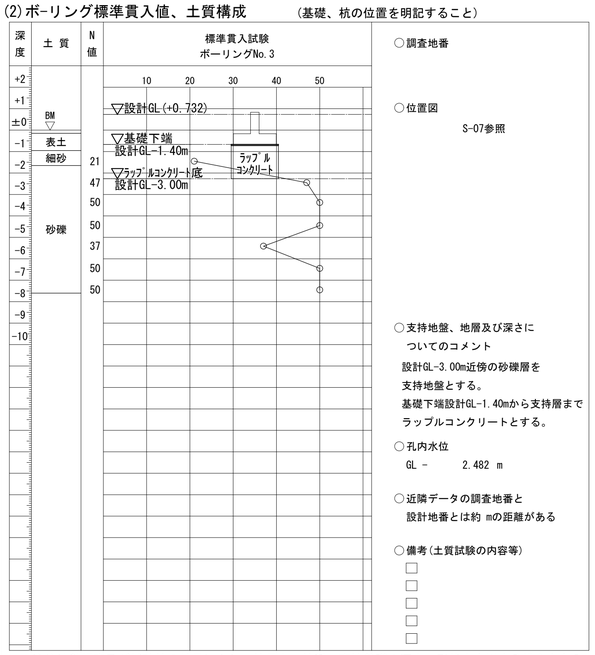
4. 地　盤

(1)地盤調査資料と調査計画
■ 有 (■ 敷地内　□ 近隣)　□ 無 (調査計画 □ 有 □ 無)

調 査 項 目	資料有	調査計画	調査項目	資料有	調査計画	調査項目	資料有	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験掘(支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注)上記表中の資料が有るもの、調査計画があるものに ● を記入する。

(2)ボーリング標準貫入値、土質構成　(基礎、杭の位置を明記すること)



注1)地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5. 地業工事

(1)直接基礎　□ ベタ基礎　■ 布基礎　□ 独立基礎　試験掘 □ 有 ■ 無
深さ GL- 1.4m(基礎底)、3.0m(ラップルコンクリート底)
支持層- 砂礫層 、長期許容支持力度　300　kN/m²　載荷試験 □ 有 ■ 無

(2)地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　□
深さ GL-　m、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □ 有 □ 無
注)「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針:日本建築センター2018」を参考とする

(3)杭基礎　支持層-

杭 種	材 料	施工法	備 考
□ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=　N/mm² スランプ　cm以下 セメント量　kg/m³ 単位水量　kg/m³	□ オールケーシング □ リバースサーキュレーション □ アースドリル □ 拡底杭　□ 拡頭・拡底杭 □ 鋼管補強杭 □ □ 深礎 □ 手掘 □ 機械掘	認定 第　号 年　月　日

既製杭・杭種	種 類	材 料	施 工 法	備 考
□ PRC	□ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種 □	鋼材 □	□ 埋め込み	認定
□ PHC	□ A種　□ B種　□ C種　□	鋼材 □	□ 打ち込み	第　号
□ 鋼管	□	コンクリート □ FC85	□	年　月　日
□ SC	□	コンクリート □ FC105	□	

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　(□ 有・□ 無)　(□ 打ち込み・□ 載荷・□ 孔壁測定)　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本 数	特 記 事 項

6. 鉄骨工事　(施工方法等計画書)

(1)鉄骨工事は指示のない限り下記による
□ 日本建築学会「JASS6 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□ 一社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2)工事監理者の承認を必要とするもの
□ 製作工場　□ 製作要領書　□ 工作図　□ 施工計画書
□ 認定工場(大臣認定　S　H　M　R　J　グレード)
□ 材料規格証明書※、または試験成績書
□ 鋼材　□ 高力ボルト　□ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
※一社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□ 社内検査表　□　□

(3)工事監理者が行う検査項目
(□ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
□ 現寸検査　□ 組立・開先検査　□ 製品検査　□ 建方検査　□

(4)接合部の溶接は下記によること
□ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ」
□ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針工事現場施工編」

(5)接合部の検査
□ 溶接部の検査(検査結果は工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備 考
□ 完全溶込み溶接部	外観検査(※)	%個	%個	%個	※平成12年建設省告示
(突合せ溶接)	超音波探傷検査	%個	%個	%個	第1464号第二号による
□	内質検査(注) □ 硬さ試験	%個	%個	%個	(目視及び計測)
	□ 示温塗料塗布	%個	%個	%個	(注)東京都の要綱に
	マクロ試験・その他	個	個	個	基づき必要となる建築
□	外観検査(※)	%個	%個	%個	物の場合に実施する
第三者検査機関名			(都知事登録　号)		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1)現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2)知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
□ 高力ボルトの検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験　□ 要 □ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要 □ 否
□ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
□ トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6)防錆塗装
□ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□ JIS K 5621、□ JIS K 5625、□ JIS K 5674、□　(フォースター F☆☆☆☆)を使用し、2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7)耐火被覆の材料
□

7. 設備関係　令第129条の2の3の事項　※ 設計が該当する場合には、■ 印を記入する。

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■ 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐れのおそれがないものとすること。
■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備を除く)は
・風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
・建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
・管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
・管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
□ 建築物に設ける第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機にあつては、第129条の4及び第129条の5(これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む)、第129条の6第一号、第129条の8第1項並びに第129条の12第1項第六号の規定(第129条の3第2項第一号に掲げる昇降機にあつては、第129条の6第一号の規定を除く)に適合すること。
□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
■ 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15Kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
＊「給湯設備」:建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8. その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
構造設計特記仕様　その1		S-01

構造設計特記仕様　　その2

・修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2022 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節(高強度コンクリート)を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度(JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。( )は耐久設計基準強度Fd
□ 短期(18)　■ 標準(24)　□ 長期(30)　□ 超長期(36)
(本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。)

■ コンクリートはJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)に適合するJIS認証工場の製品とする。

□ 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、調合管理強度が33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし
設計基準強度が36N/mm²超45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。

■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および計画供用期間の級に応じて3日以上とする。

■ 打込み・締固め・打ち継ぎ・養生については、JASS 5 2022による。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮強度試験方法)
もしくはJIS A 1107(コンクリートからのコアの採取方法)による。

i) 高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。
$_{H}F_{m}=F_{c}+_{m}S_{n}$ (N/mm²)
$_{H}F_{m}$:高強度コンクリートの調合管理強度(N/mm²)
F_{c}:コンクリートの設計基準強度(N/mm²)
$_{m}S_{n}$:高強度コンクリートの構造体強度補正値でJASS 5による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
$_{H}F \geqq {}_{H}F_{m}+1.73\sigma_{H}$ (N/mm²)
$_{H}F \geqq 0.85{}_{H}F_{m}+3\sigma_{H}$ (N/mm²)
$_{H}F$:高強度コンクリートの調合強度(N/mm²)
σ_{H}:高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm²)で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、$0.1(F_{c}+_{m}S_{n})$とする。

ii) 普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28 日	X≧F_{m}
コ　ア	91 日	X≧F_{n}

ただし、X:1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値(N/mm²)
F_{m}:コンクリートの調合管理強度(N/mm²)
F_{n}:コンクリートの品質基準強度(N/mm²)

[注] (1)早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2)工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

*標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

*コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。
$F_{m}=F_{n}+_{m}S_{n}$ (N/mm²)
F_{m}:コンクリートの調合管理強度(N/mm²)
F_{n}:コンクリートの品質基準強度(N/mm²)
$_{m}S_{n}$:標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度と構造体コンクリートのn日における圧縮強度の差による構造体強度補正値(N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢m日は、原則として28日とする。
$F \geqq F_{m}+1.73\sigma$ (N/mm²)
$F \geqq 0.85F_{m}+3\sigma$ (N/mm²)
F:コンクリートの調合強度(N/mm²)
σ:使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm²)で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は2.5N/mm²、または$0.1F_{m}$の大きい方の値とする。

■ 品質基準強度Fqは、設計基準強度Fcおよび耐久設計基準強度Fd以上の値とし、特記による。
特記がない場合は、設計基準強度Fcまたは耐久設計基準強度Fdの大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(一財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm(呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm)とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

■ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　　未定　　(都知事登録　　号)
代行業者名　　(登録番号　　号)
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄 筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551(溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを用いる。

□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1)引張力最小部位	(2)(1)以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D(16)以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D(19)以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D(　)以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D(　)以上	

注)(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術基準解説書 2020)』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、(公社)日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□ SD490の鉄筋を圧接する場合は施工前試験を実施する。圧接に従事するすべての圧接技量者に対して行う。外試験方法及び合否判定は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事(2017年)」により、引張試験、曲げ試験方法及び合否判定は強度試験JIS Z 3120(鉄筋コンクリート用棒鋼ガス圧接継手の試験方法及び判定基準)による。

□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

i) 鉄筋の種類・径の検査

■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ii) 配筋の検査

■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。

iii) 鉄筋継手部の検査

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参考のこと。

表9.5 鉄筋継手部の検査　(検査結果は工事監理者に報告すること)

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり(30)箇所又は(　)%	JIS Z 3062:2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	JRJS 0005-2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	JRJS 0003:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	JIS Z 2241:2011による

注)1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注)2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜き取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。(必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること)

表9.6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備考
		検査機関	施工者		
■	全数	全数	(　　)	(　　)	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	(　　)	
□	全数	ー	全数	(　　)	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり(　)箇所又は(　)%	(　　)	(　　)	

■ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。

■ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。
試験機関名　　未定　　(都知事登録　　号)
試験機関名　　(都知事登録　　号)

(3) 型 枠

■ 材料合板厚12mmを標準とする。

■ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.7 型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号(最終改正:令和元年国土交通省告示第203号)

種類 / 部位		せき板				支柱		
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令(日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		10.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の100%		

注)1 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注)2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注)3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注)4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注)5 支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛り替えをしてはならない。
注)6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛替えを行わないこと。
注)7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称: 構造設計特記仕様　その2	縮尺: / 図面番号: S-02

建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（1）

1．一般事項

（1）構造図面に記載された事項は、本共通図に優先して適用する。

（2）記号

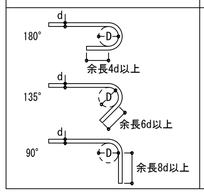
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　　r･･･半径　　℄･･･中心線　　ℓo･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

2．鉄筋加工

（1）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295	D16以下	3d以上
		SD345	D19～D25	4d以上
		SD390	D29以上	5d以上

［注］（1） dは呼び名に用いた数値とする。

（2） スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（3） 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（4） スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

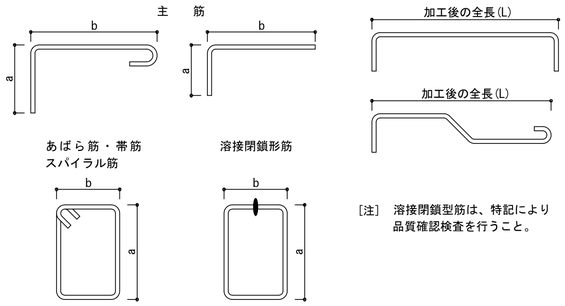
（5） 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（6） SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（2）加工寸法の許容差　　(mm)

項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a，b	± 15
		D29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長			L	± 20

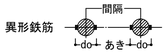
［注］（1） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



［注］ 溶接閉鎖型筋は、特記により品質確認検査を行うこと。

（3）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（4）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

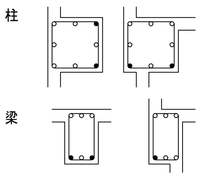
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（5）定着長さ(軽量コンクリートは5dを加算する)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			

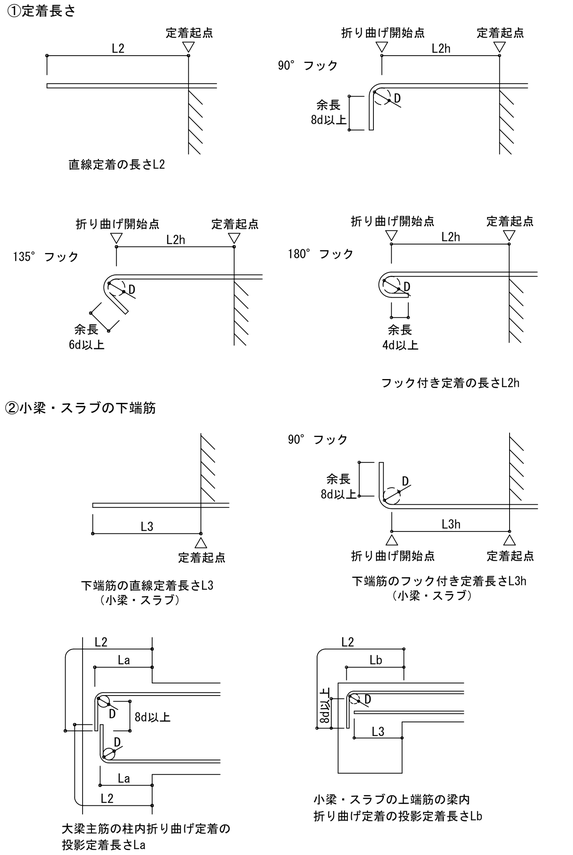
［注］（1） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（2） フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（3） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

（4）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。

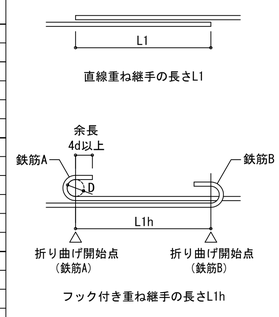
①定着長さ



（6）継手

■重ね継手(軽量コンクリートは5dを加算する)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	重ね継手長さ L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d



［注］（1） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（2） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（3） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

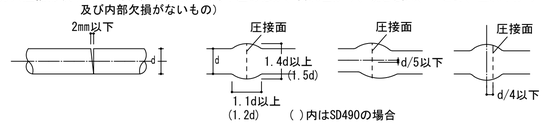
1．継手位置は、塑性ヒンジ域を避け、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D35以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

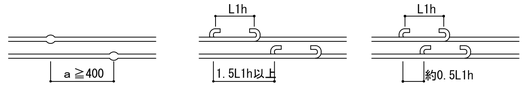
3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手　　・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

6．非破壊検査を行う検査機関は東京都建築工事標準仕様書の記載による。なお、鉄筋抜き取り試験等により、鉄筋継手がヒンジ領域に存することとなる場合は、非破壊検査を前提とする。

（7）かぶり厚さ　（単位：mm）

■建築基準法による

構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ** ・非耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分 基礎つなぎ梁	40	50
基礎（捨コンクリート部分は除く）	60	70

［注］＊　耐久性上有効な仕上げのない場合、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
　　また、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
　＊＊　片持ちスラブ先端は、最少かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照)

■住宅性能評価を適用する場合は次による（高炉ｾﾒﾝﾄＢ種の特別評価方法認定(鉄鋼ｽﾗｸﾞ協会)）

構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ** ・非耐力壁	40*	50*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	50*	60*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分 基礎つなぎ梁	50	60
基礎（捨コンクリート部分は除く）	70	80

a．住宅性能評価による劣化等級３の場合は、水セメント比50%以下とする。

b．住宅性能評価による劣化等級２の場合は、水セメント比55%以下とする。

［注］＊　耐久性上有効な仕上げのない場合、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
　　また、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
　＊＊　片持ちスラブ先端は、最少かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照)

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

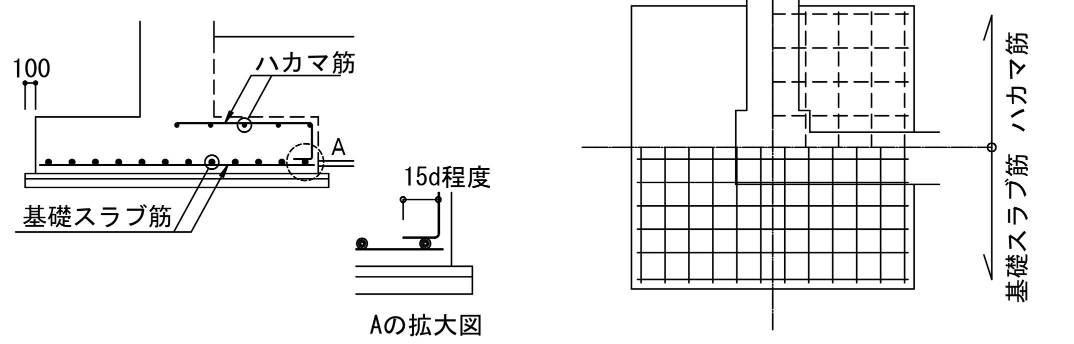
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（1）		S-03

建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（2）

3．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

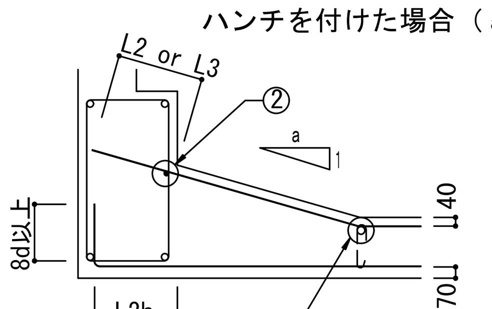
（1）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

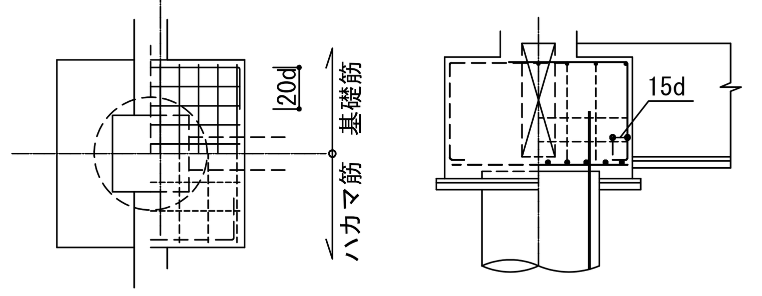
ハンチを付けた場合（a ≧3）



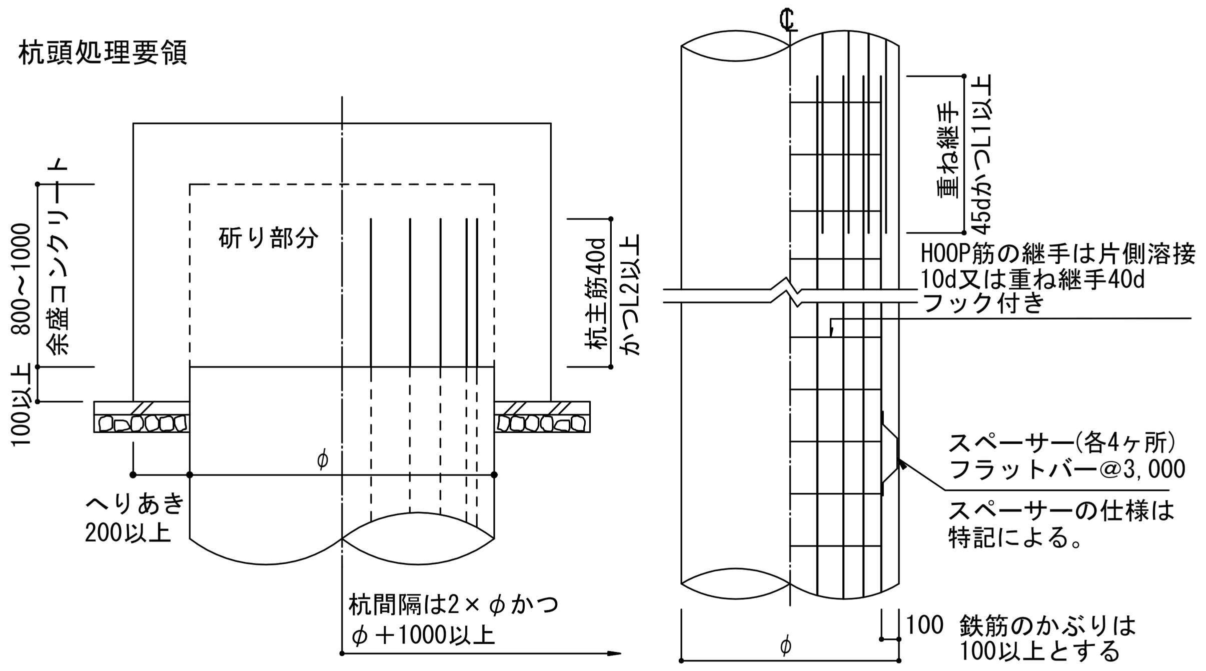
1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3．② の鉄筋はD13以上
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（2）杭基礎

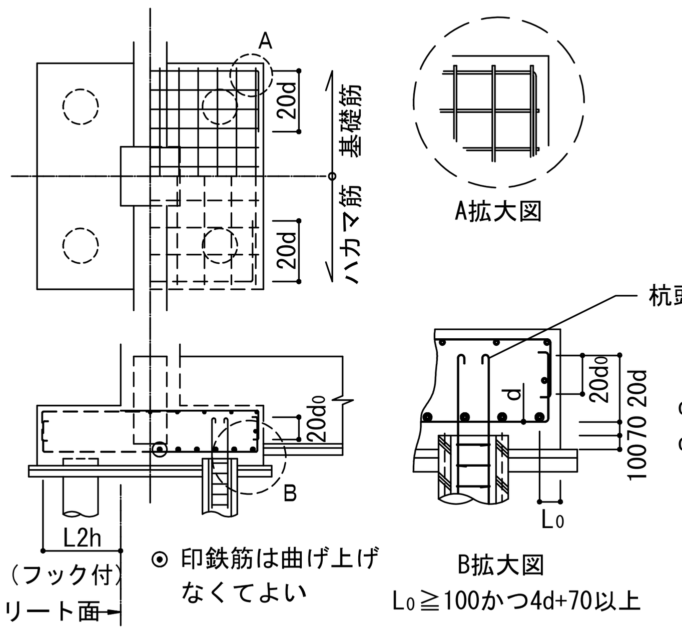
① 場所打ち杭



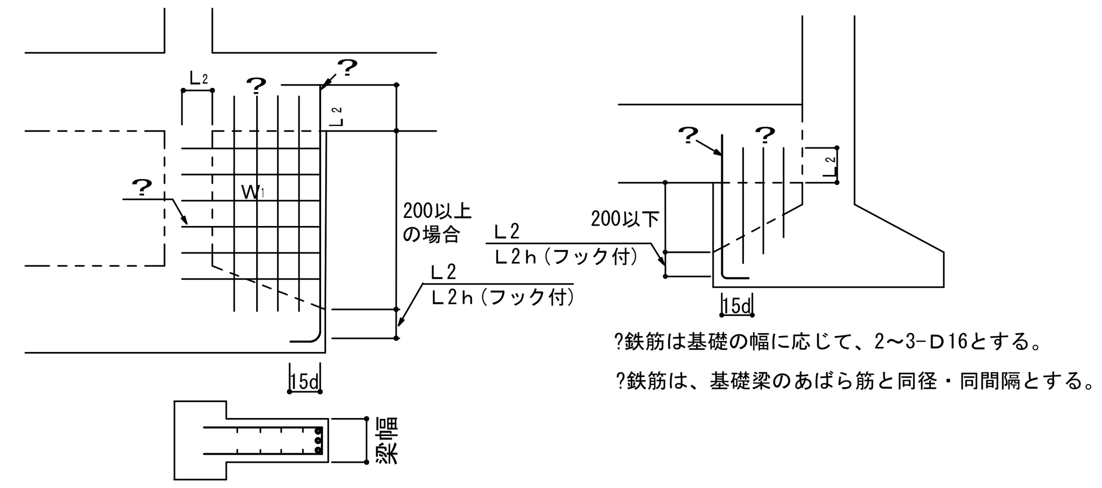
杭頭処理要領



② PHC杭



（3）基礎接合部の補強

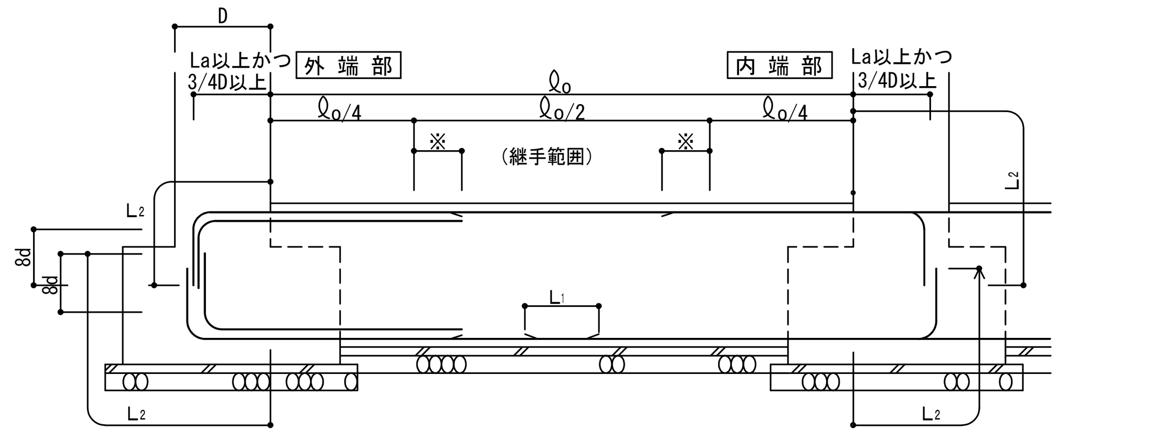


?鉄筋は基礎の幅に応じて、2～3-D16とする。
?鉄筋は、基礎梁のあばら筋と同径・同間隔とする。

???の各鉄筋量は，設計図書による。
記載のない場合は、工事管理者に協議し，指示を受けること。

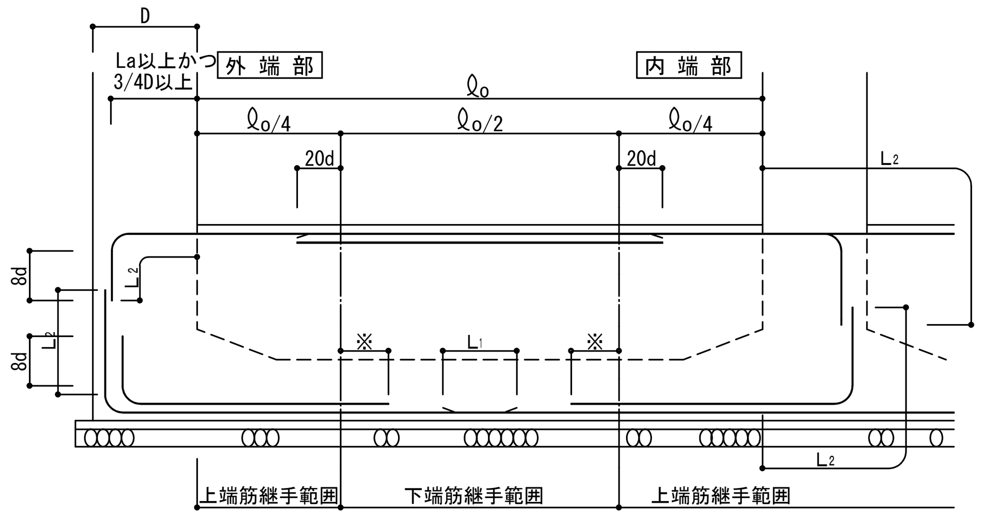
4．地中梁

（1）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



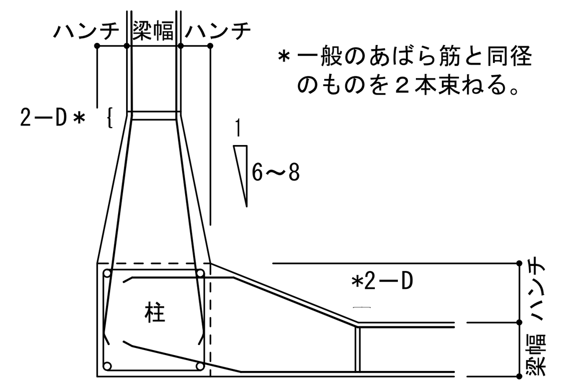
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（2）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



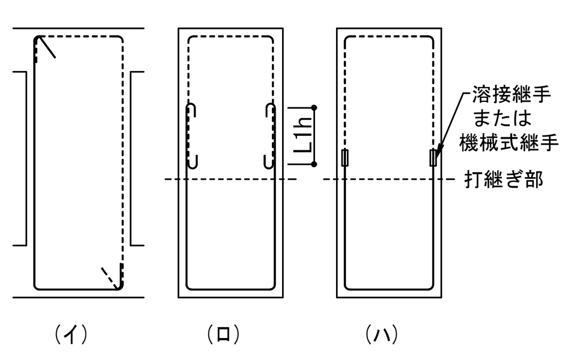
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（3）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

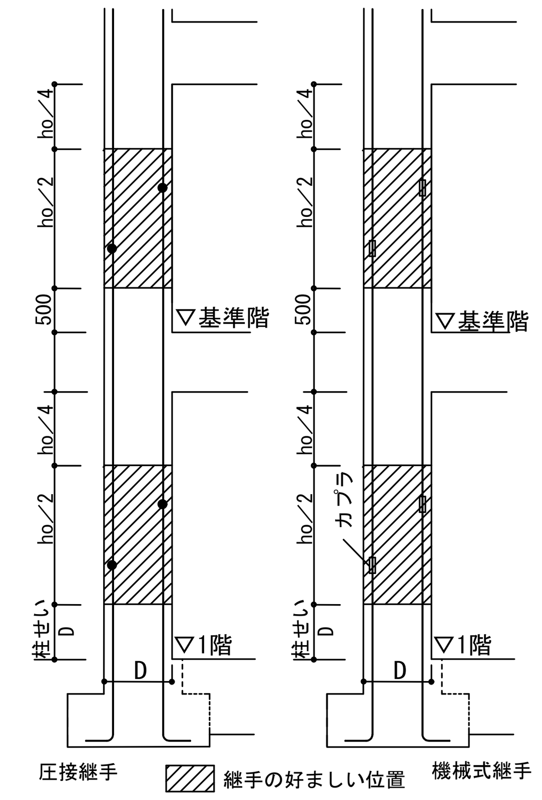
（4）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



［注］　（イ）で、 を使用してよいが、
　　　　 は使用してはいけない。
　　　（ロ）では、あばら筋の継手は
　　　　180°フック付きとする。

5．柱

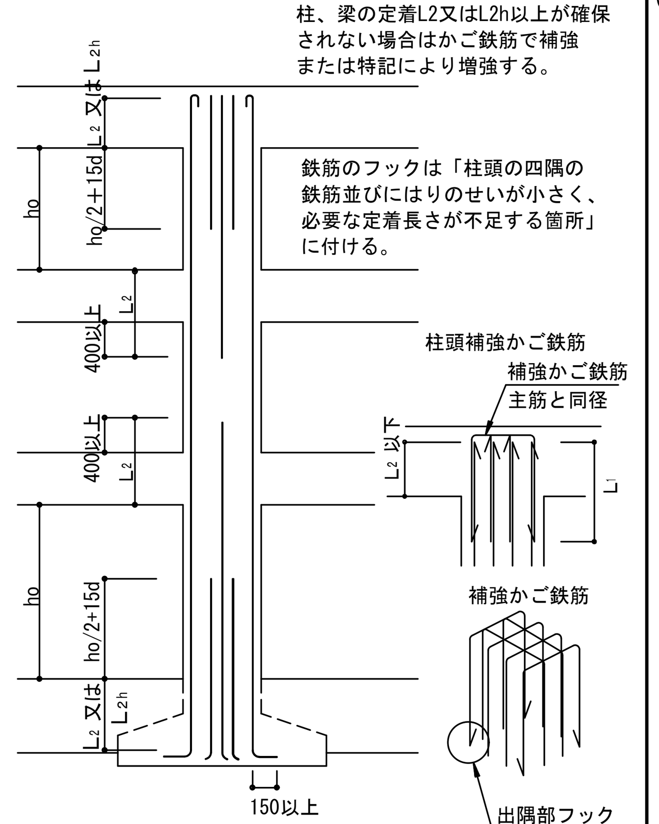
（1）柱主筋の継手位置



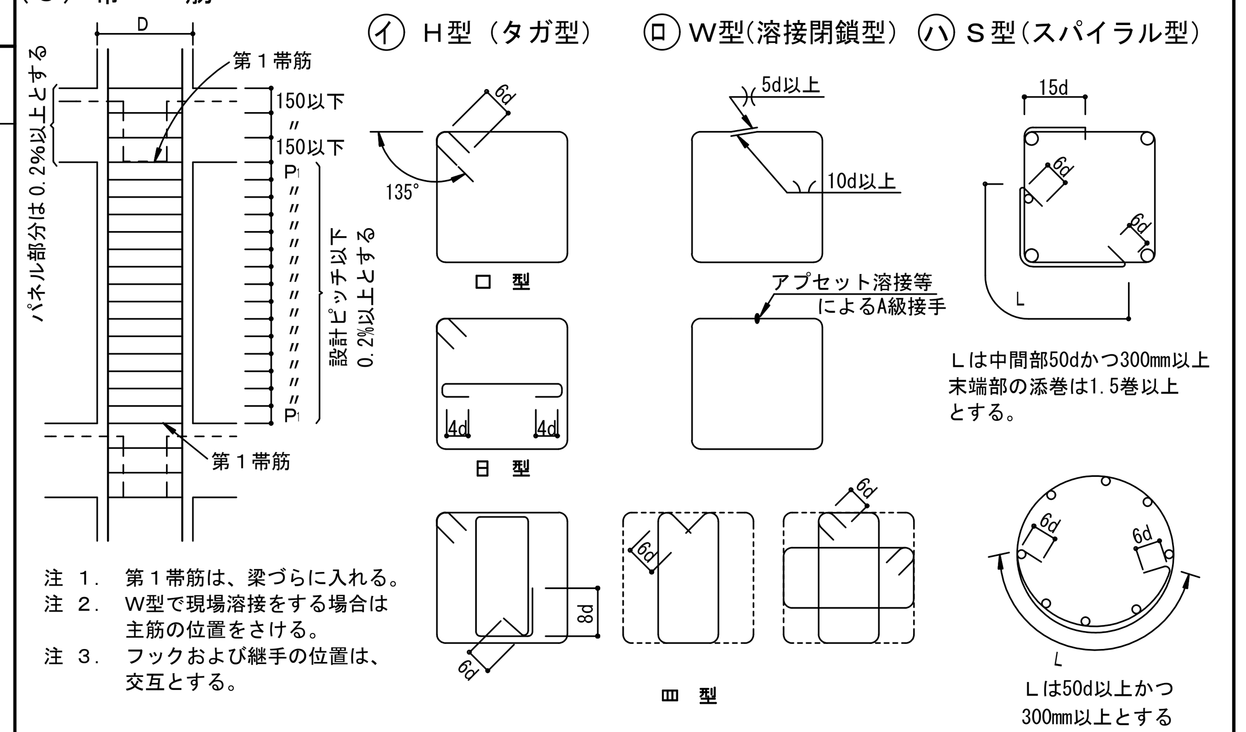
（2）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

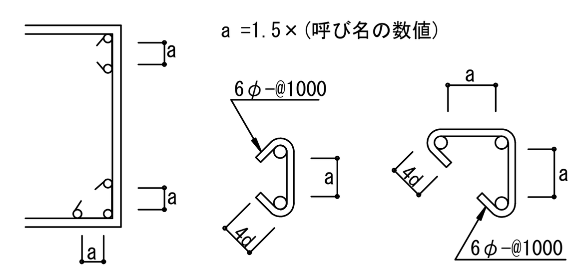


（3）帯　筋

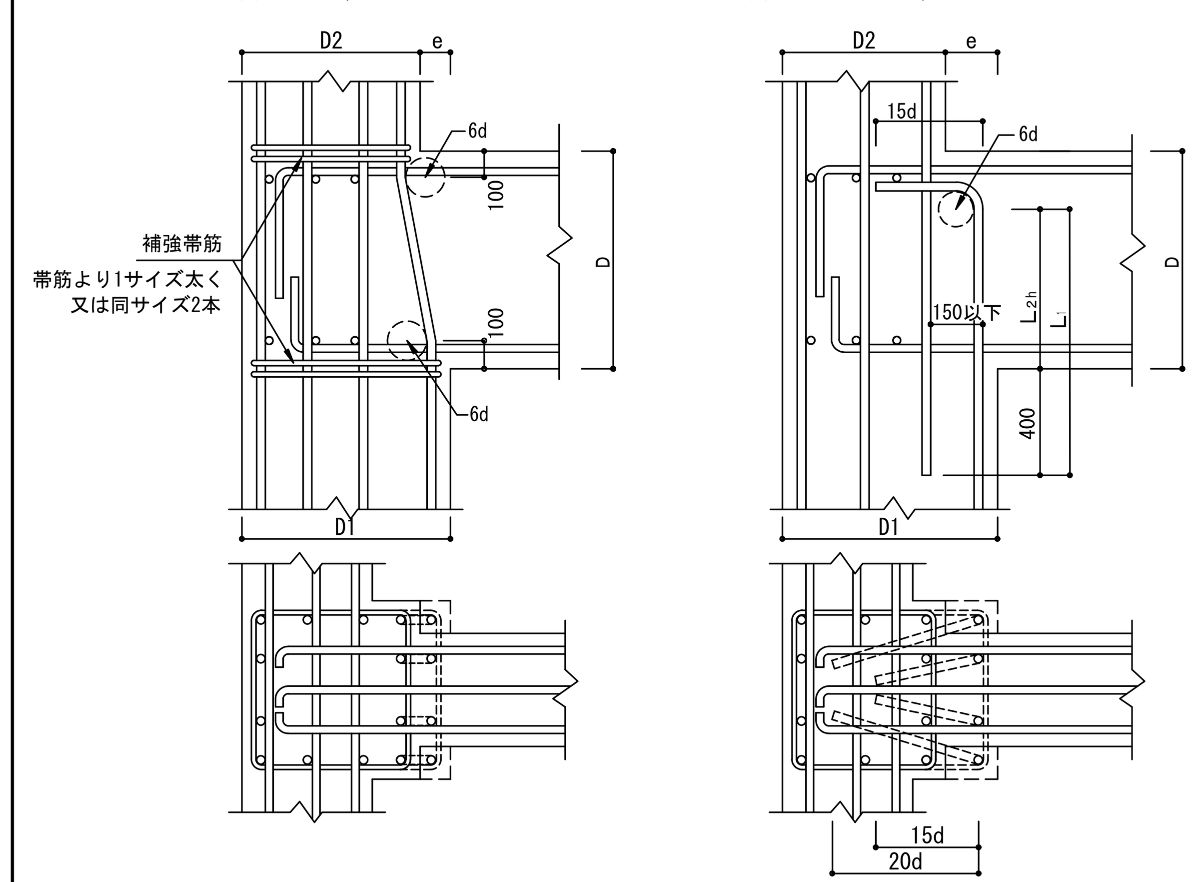


注 1．第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注 3．フックおよび継手の位置は、交互とする。

（4）寄せ筋の保持



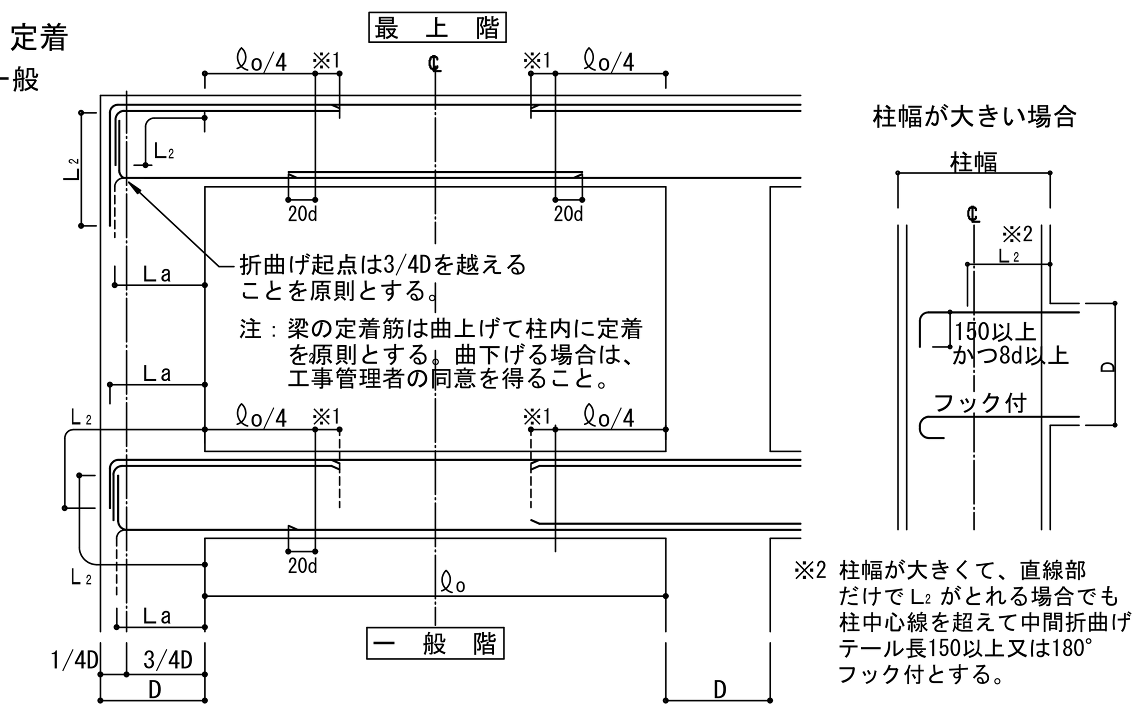
（5）絞り



6．大梁

（1）定着

ⓐ 一般



※1 主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する場合は表6-1による。

ⓑ ハンチがある場合

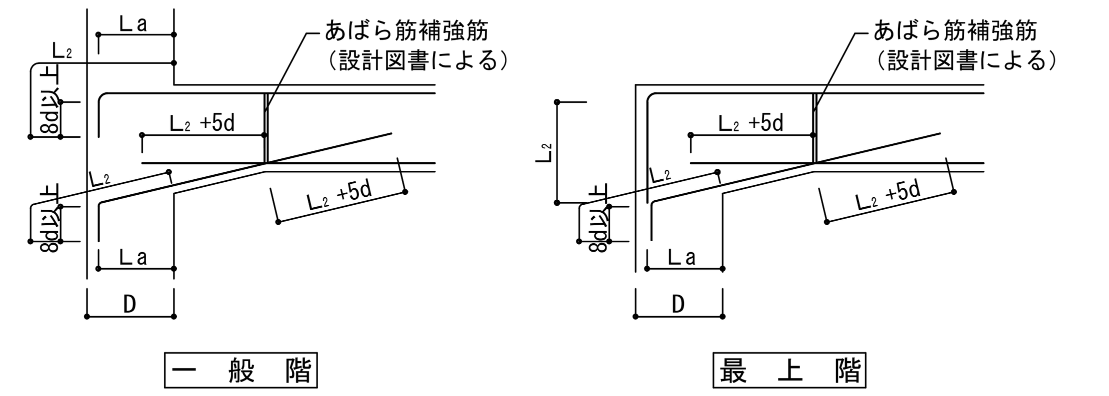
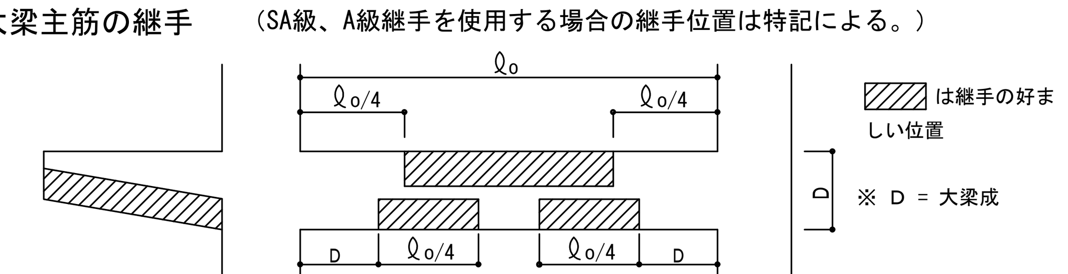


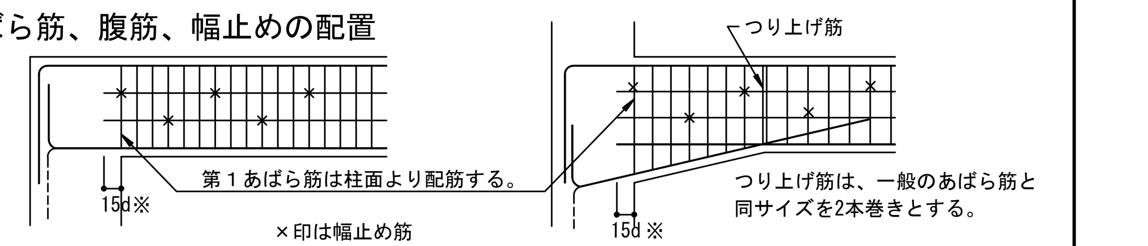
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部 材 名	ℓo/4 に加える長さ	部 材 名	ℓo/4 に加える長さ

（2）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



（3）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

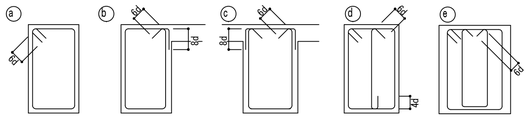
工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（2）		S-04

建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(3)

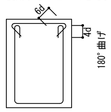
6．大梁

（4）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



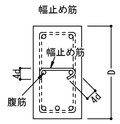
（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ 、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



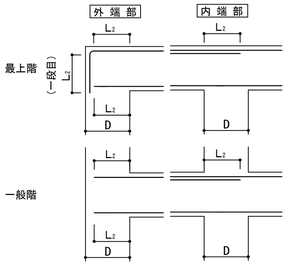
（5）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2－D10　1段
	900≦D＜1200	4－D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

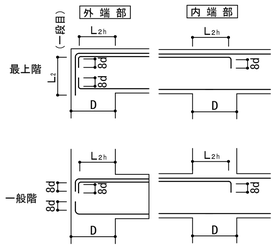


（6）梁主筋の定着

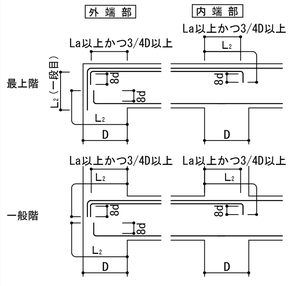
① 直線定着



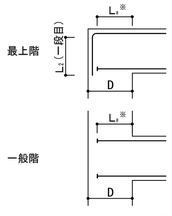
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ 機械式定着



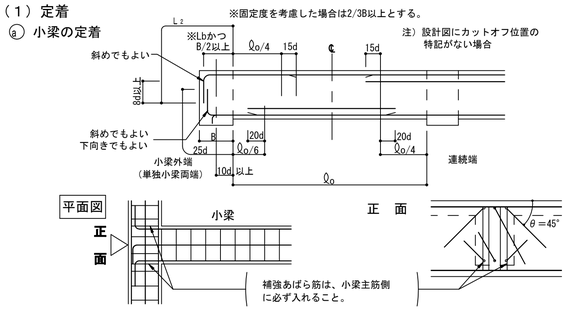
※最上階 L型接合部の上端筋には、機械式定着を適用できない。

※Ｌａ※ は指定性能評価機関で技術評価を受けた設計・施工指針に従うこと。

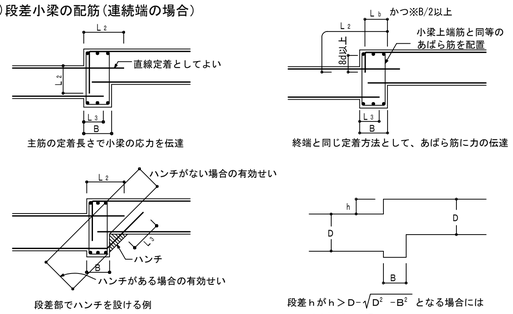
7．小梁、片持梁

（1）定着

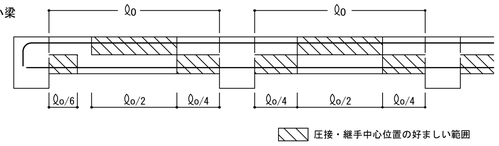
ⓐ 小梁の定着



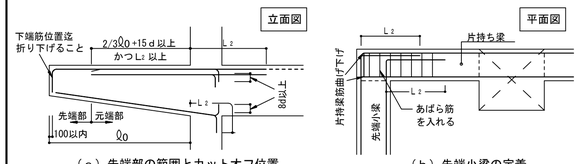
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



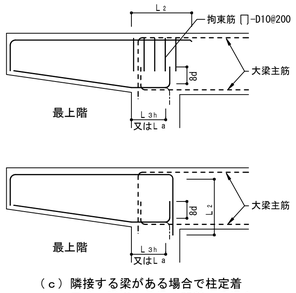
ⓒ 小梁筋の継手位置



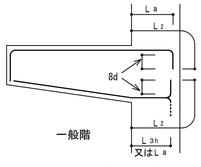
ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（a）先端部の範囲とカットオフ位置　（b）先端小梁の定着



（c）隣接する梁がある場合で柱定着又は、隣接する梁へ定着する場合

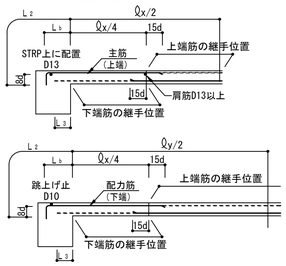


（d）隣接する梁がない場合で柱定着

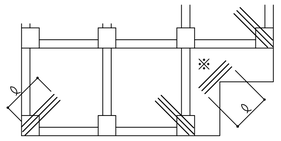
8．床　　版

（1）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



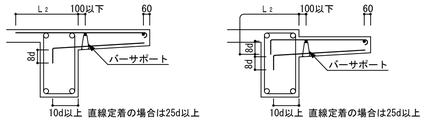
（2）屋根スラブの補強



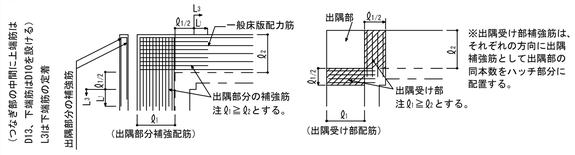
ⓔ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。
ⓕ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（3）片持床スラブ定着及び出隅部補強

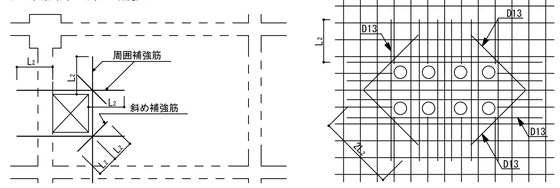
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



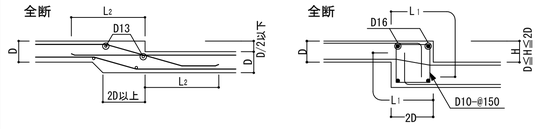
（4）床版開口部の補強　（開口の径500以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各2－D13	各1－D13
150＜D≦300	各2－D13	各2－D13
300＜D≦500	各2－D19	各2－D16

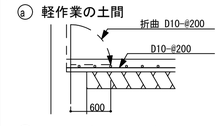
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（5）床版段差

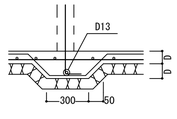


（6）土間コンクリート

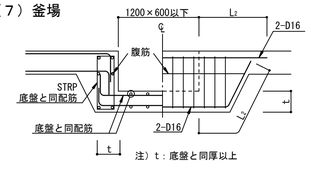
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



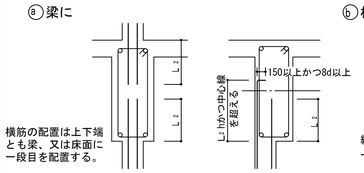
（7）釜場



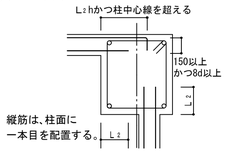
9．壁

（1）定着

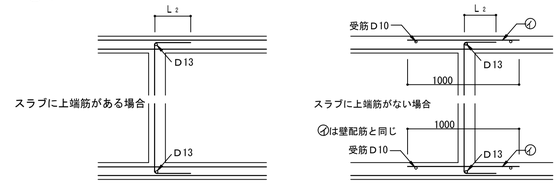
ⓐ 梁に



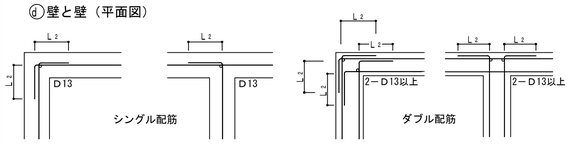
ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

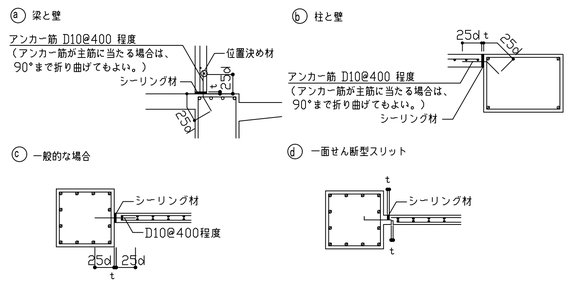


ⓓ 壁と壁（平面図）



（2）スリット部（設計図に記入のあるとき）　※ S-11参照

完全スリット



共通事項
注1. 構造スリットは完全スリット型とし、使用製品について監理者の確認を受けること。
注2. 完全スリット型の使用ができない場合で、監理者に報告の上、指示がありた場合に限り、部分スリット型を使用できる。
注3. スリット巾tは、有効丈の1/100とする。
注4. 構造スリットは、ISO834-1（耐火試験－建築構造部材）に準拠した試験により、2時間耐火性能を有することが確認されたものとすること。
注5. 外部及び水廻りに接する構造スリットは、防水型スリットとすること。

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

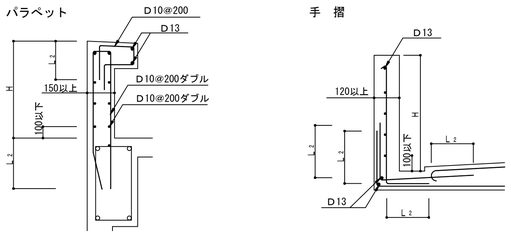
株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（3）		S-05

建築工事鉄筋コンクリート構造共通図(4)

9．壁

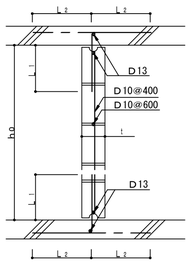
（3）手摺、パラペット　※ S-12参照



（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

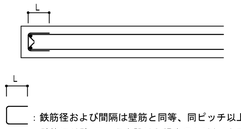
（4）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



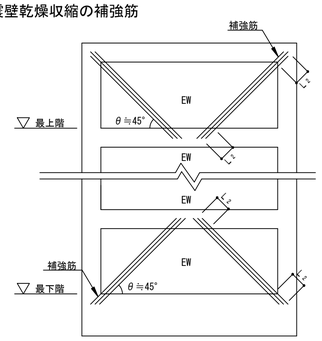
注）ｈo≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（5）耐震壁端部の納まり



：鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、
壁筋に135°フックを設けた場合のＬは8ｄとする。
壁筋にフックを設けない場合のＬはＬ2とする。

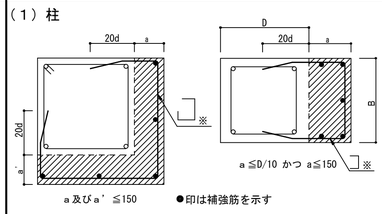
（6）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（1）柱



●印は補強筋を示す

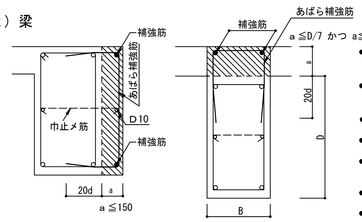
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積　A　cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3-D16	4-D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（2）梁



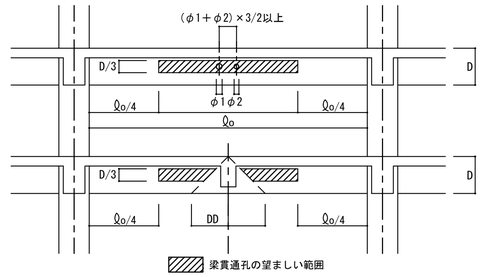
●印は補強筋を示す

- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強

設置可能範囲

梁端部（スパン ?/10以内かつ2D以内）は原則として避ける



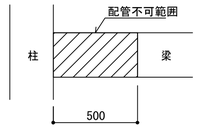
12．CD管・PF管の打込みについて

1. スラブ内配管について
スラブ内配管の間隔は十分あける。最低30mm以上あけることを原則とする。
鉄筋に添わせた配管は行わない。
配管と並行する鉄筋とは1.5d以上はなすこと。（d：鉄筋径）
キャンテスラブ内への配管は、スラブ根元及び先端部から400mm以上離す。
（本数は5本程度までとする。）
スラブ内配管の重ねは2本以下とする。
梁に平行となる埋設配管は梁面から可能な限り500mm以上の間隔をあける。
配管同士の交差は、鉄筋交差部では行わない。

2. 柱への配管について
柱内の配管は原則として認めない。
やむを得ず、柱への自動火災報知機等の設置は、柱をフカシ設置することとし、柱内に埋め込まない。
避雷設備の引下げ導線に主筋を用いてはならない。別途鉄筋を配筋すること。

3. 壁への配管について
耐力壁内への設備機器、配管は、原則として認めない。
やむを得ず、設備機器等を設置する場合は、開口及び欠損としての検討を行い設置する。
非耐震壁内への配管は以下による。
・横渡り配管は行わない。
・交差配管は可能な限り避けること。
・耐震スリットを貫通させない。
・縦筋に沿わせない。
・配管相互のあき及びかぶりは30mm以上。（アウトレット廻りは除く）

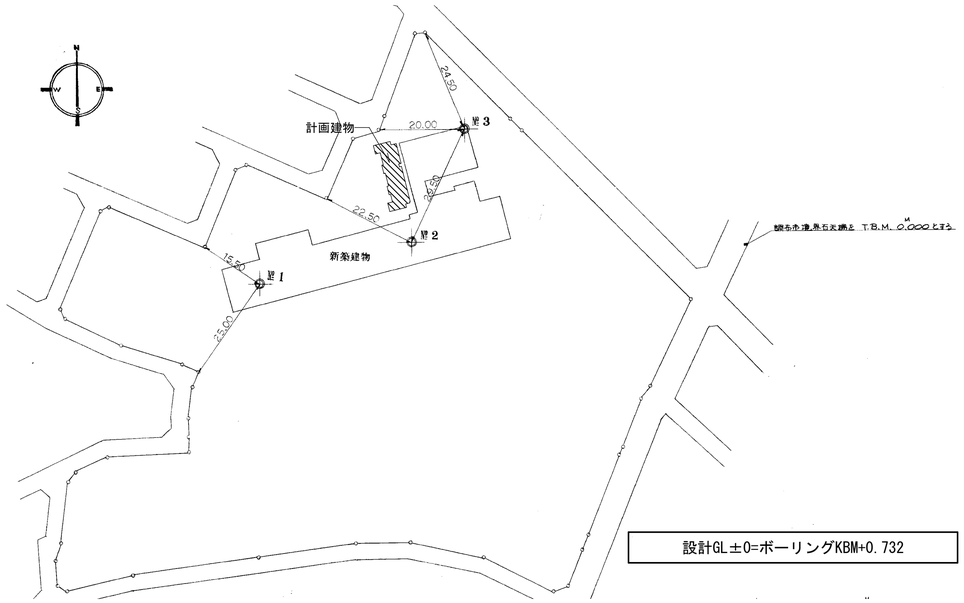
4. 梁への配管について
梁への軸方向配管、鉛直方向貫通は行わない。
柱面より500mm以内の範囲への配管は可能な限り避けること。
梁への配管は梁主筋の内側とし、かぶり部には配管しない。
（下図参照）



構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

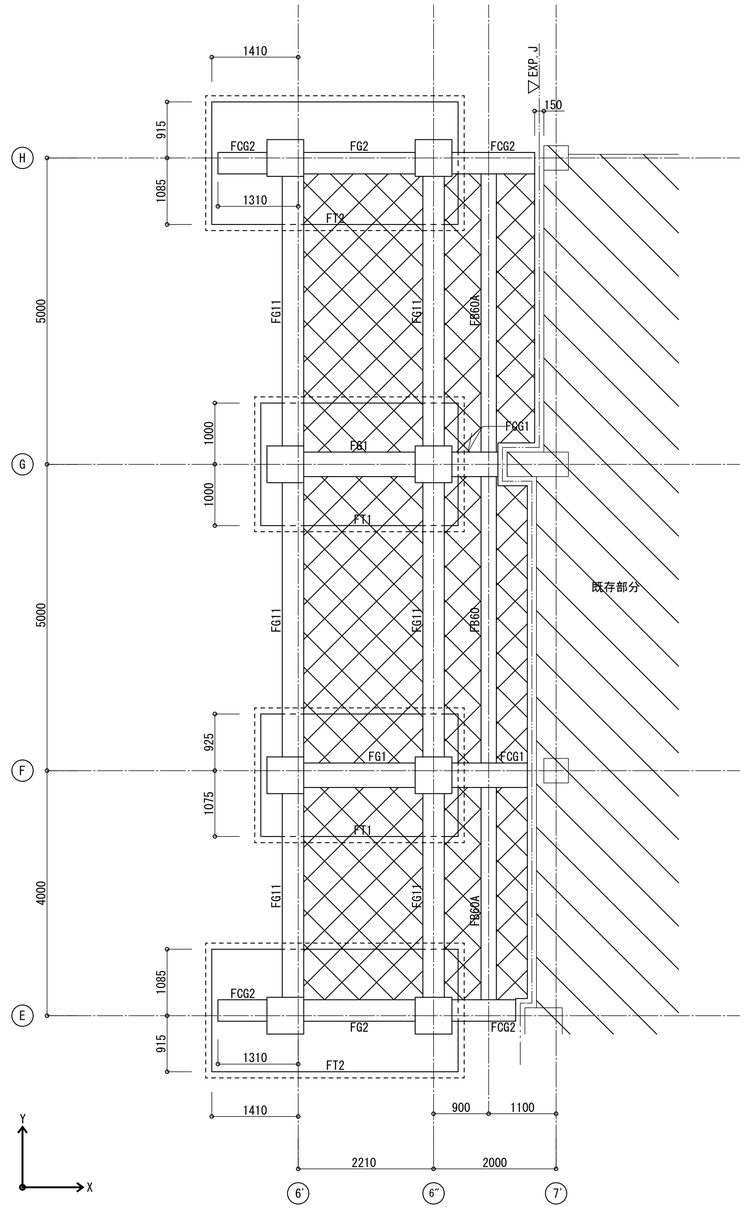
記事		株式会社 綜企画設計 西東京支店 一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号 一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志	工事名称 調布市立多摩川小学校給食室改修工事		設計年月 2025年3月
			図面名称 建築工事鉄筋コンクリート構造共通図（４）	縮尺	図面番号 S-06

ボーリング位置平面図



設計GL±0=ボーリングKBM+0.732

※ボーリング柱状図はS-01参照



基礎伏図 1/50

【 特記事項 】

- 特記なき限り、基礎下端はGL-1400とする。
- 長期地耐力(基礎下端) 300kN/m²
- 特記なき限り、ラップルコンクリート底はGL-3000とする。
- 〔〕はラップルコンクリート(Fc=18N/mm²)を示す。
- ⊠ は埋戻しを示す。

構造設計者

株式会社 コンパース東京一級建築士事務所

一級建築士事務所 東京都知事登録第59776号

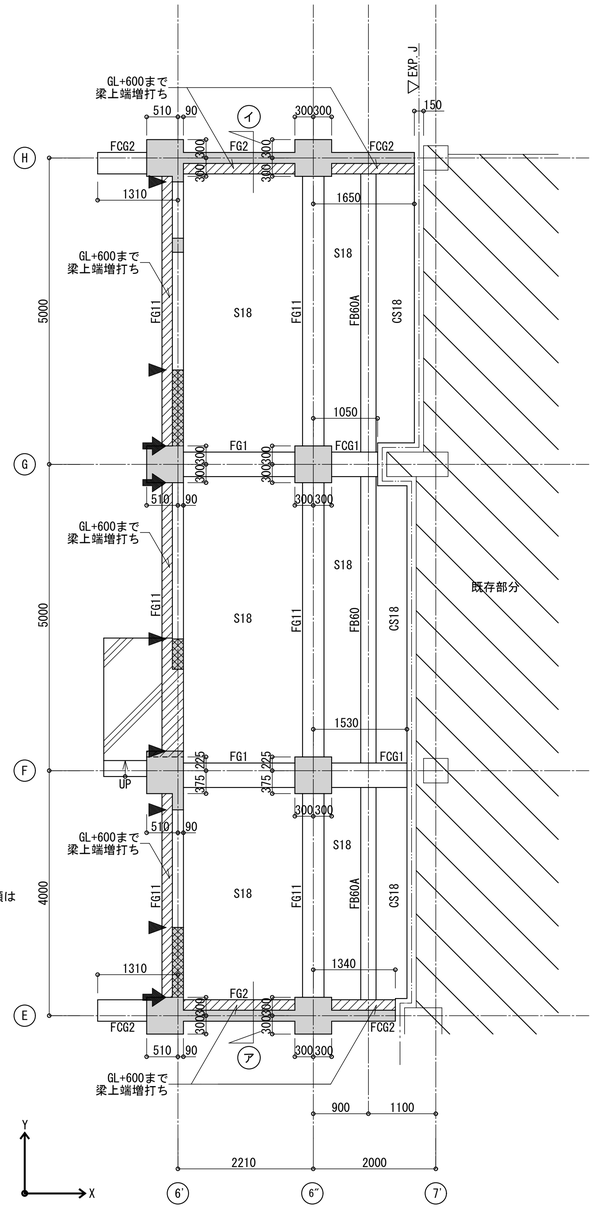
一級建築士大臣登録番号 第338084号
構造設計一級建築士証交付番号 第9404号 高野 建一郎

記事	

株式会社 綜企画設計 西東京支店

一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

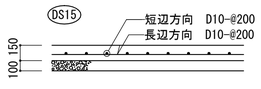
工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
地盤資料 基礎伏図 (改修後)	A1: 1/50 A3: 1/100	S-07

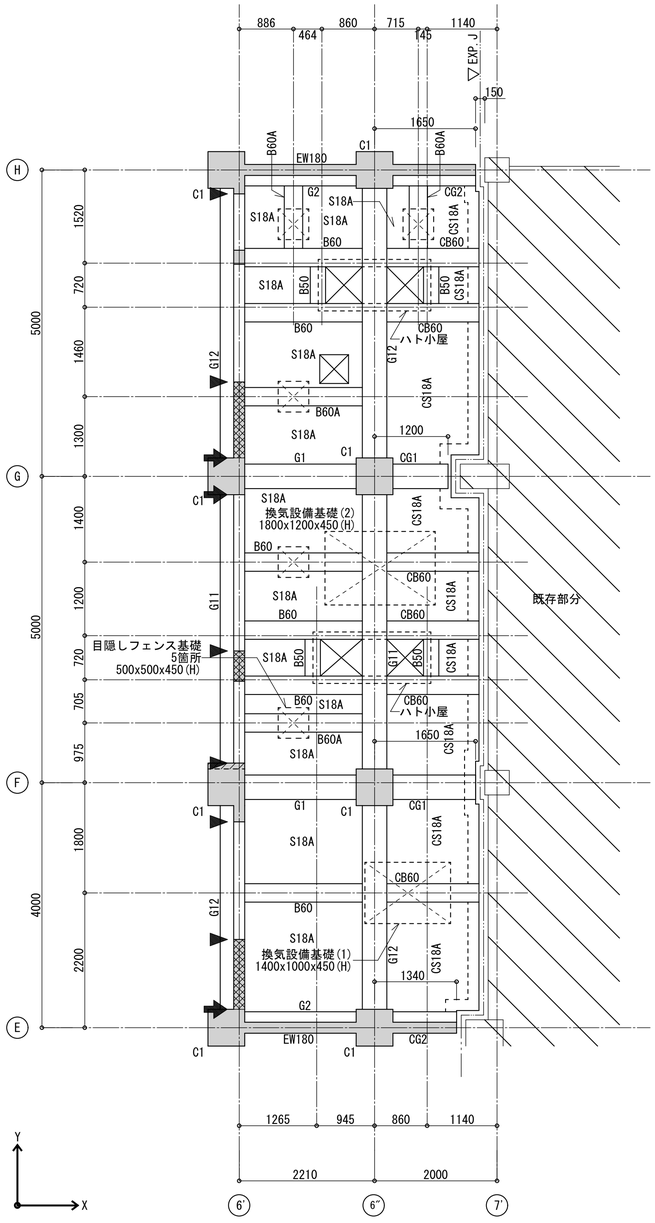


1階床梁伏図（見下げ図） 1/50

【 特記事項 】
- 特記なき限り、梁天端はGL+100とする。
- 特記なき限り、スラブ天端はGL+320とする。
- 特記なき限り、スラブ天端と梁天端が異なる場合は梁上端増打ちとする。
- 特記なき限り、スラブの主筋方向は ⇝ (X方向)とする。
- ▨ 土間スラブ範囲(DS15)を示す。
- ↓ は構造縦スリット(完全スリット)を示す。
- ▼ は壁端、及び壁中央構造縦スリット(完全スリット)を示す。
- ▩ は壁下端水平スリット(完全スリット)を示す。
- ▨ はコンクリート増打を示す。

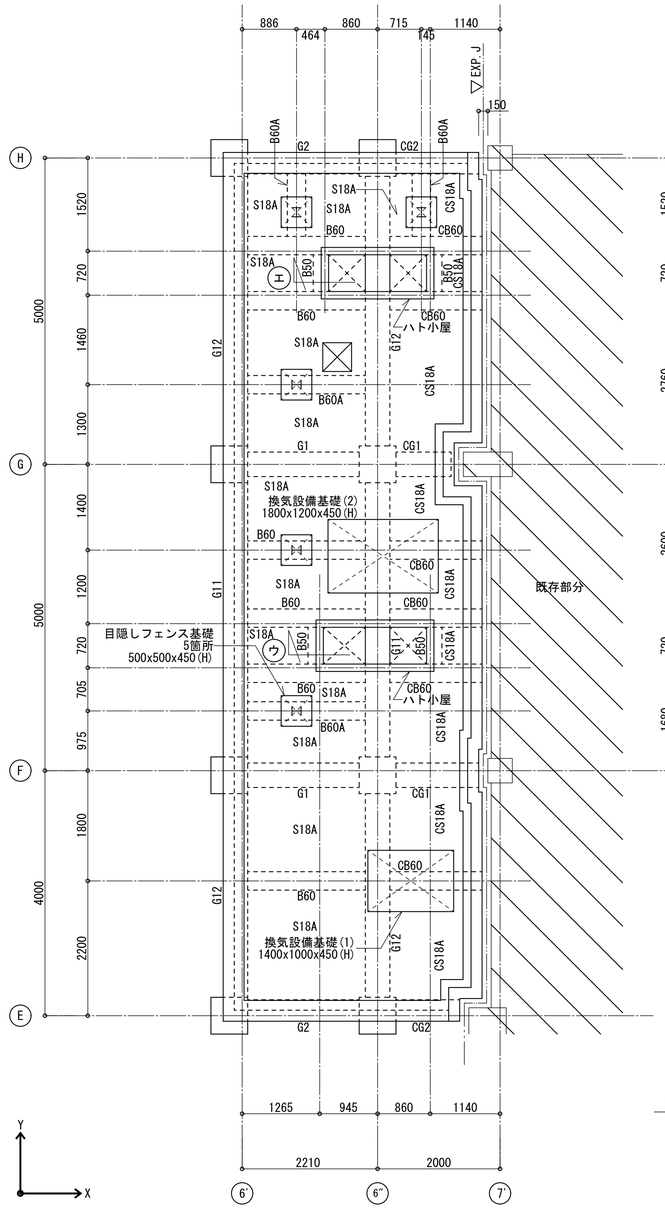
土間スラブリスト 1/30





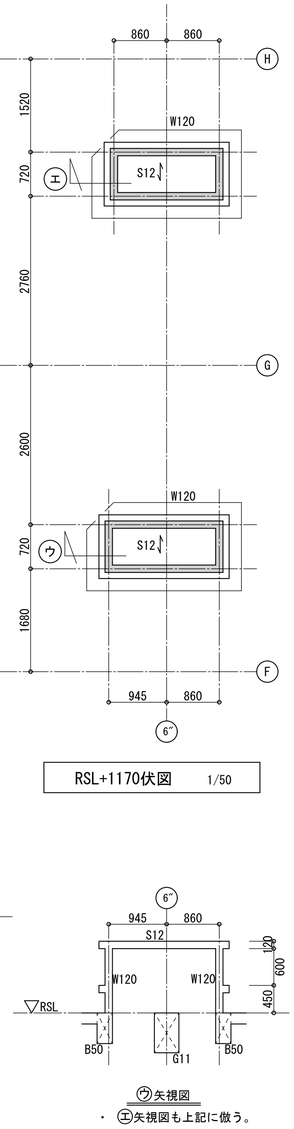
1階柱壁R階床梁伏図 （見上げ図） 1/50

【 特記事項 】
- 特記なき限り、壁はW180とする。
- 特記なき限り、梁天端はRSL-50とする。
- 特記なき限り、スラブ天端はRSL±0とする。
- 特記なき限り、スラブ天端と梁天端が異なる場合は梁上端増打ちとする。
- 特記なき限り、スラブの主筋方向は ⇝ (X方向)とする。
- ↓ は構造縦スリット(完全スリット)を示す。
- ▼ は壁端、及び壁中央構造縦スリット(完全スリット)を示す。
- ▩ は壁下端水平スリット(完全スリット)を示す。



R階床梁伏図（見下げ図） 1/50

【 特記事項 】
- 特記なき限り、梁天端はRSL-50とする。
- 特記なき限り、スラブ天端はRSL±0とする。
- 特記なき限り、スラブ天端と梁天端が異なる場合は梁上端増打ちとする。
- 特記なき限り、スラブの主筋方向は ⇝ (X方向)とする。

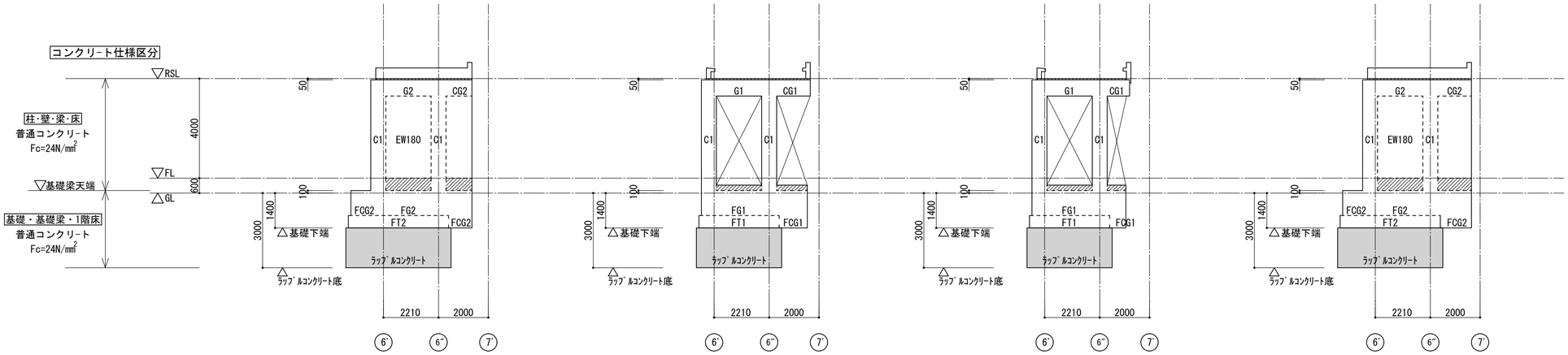


構造設計者
株式会社 コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号 第338084号
構造設計一級建築士証交付番号 第9404号
高野 建一郎

記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	調布市立多摩川小学校給食室改修工事	設計年月 2025年3月
図面名称	1階床梁伏図 1階柱壁R階床梁伏図（改修後）	縮尺 A1: 1/30 1/50 A3: 1/60 1/100
		図面番号 S-08

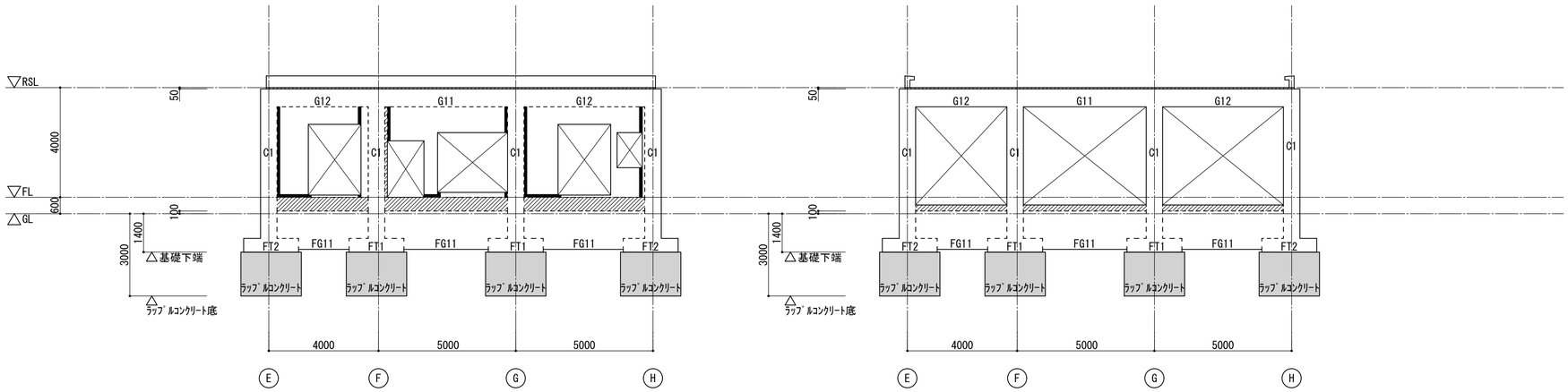


E通り軸組図 1/100

F通り軸組図 1/100

G通り軸組図 1/100

H通り軸組図 1/100



6'通り軸組図 1/100

6"通り軸組図 1/100

【 特記事項 】

- 特記なき限り、壁はW180とする。
- ▌は構造スリット(完全スリット)を示す。
  特記なき限り、スリット幅はS-11参照の事。
- ▨ はコンクリート増打を示す。
- 構造スリットを意匠上、施工上の問題にて変更する場合は設計監理者と協議し、承諾を得ること。

構造設計者

株式会社 コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号 第338084号
構造設計一級建築士証交付番号 第9404号 高野 建一郎

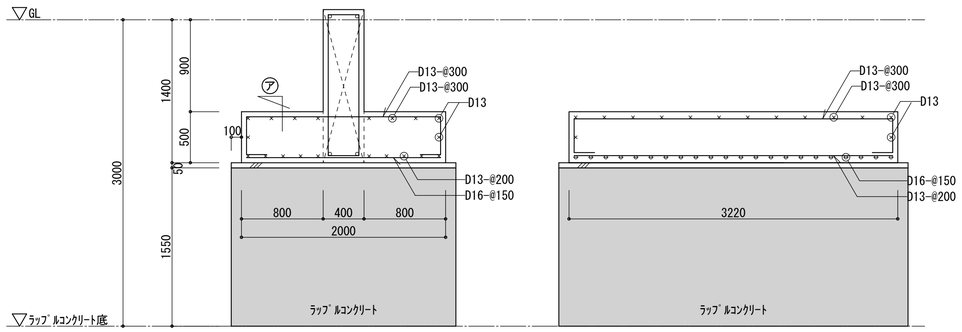
記事

株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
軸組図（改修後）	A1: 1/100 A3: 1/200	S-09

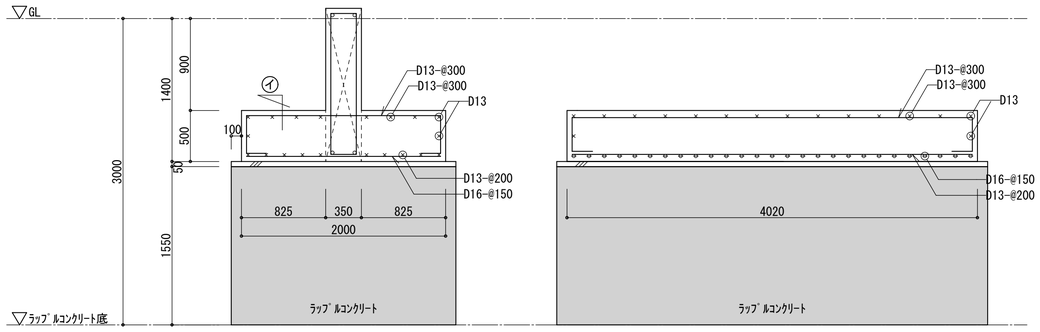
基礎リスト 1/30

FT1



㋐ 矢視図

FT2



㋑ 矢視図

基礎梁リスト 1/30

センド断補強筋の種別
D表示 = 一般異形鉄筋(SD295)

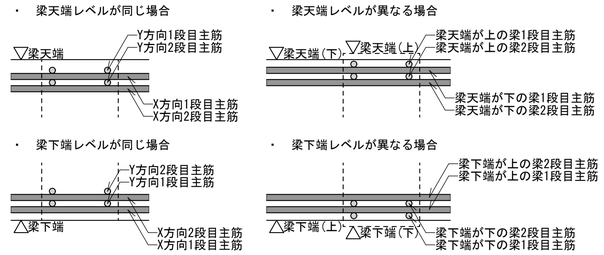
センド断補強筋の形状
D表示 = 一般型(副あばら筋共ツメ付)

【 特記事項 】
・ 柱内へ定着する梁主筋の定着長は40d以上確保すること。

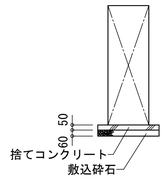
符号	FG1	FG2	FG11	FCG1	FCG2	FB60	FB60A
位置	全断	全断	全断	全断	全断	両端 中央	Ⓔ通端 Ⓗ通端 中央 Ⓕ通端 Ⓖ通端
断面	GL 100 1500 400	100 1500 350	100 1400 350	100 1500 400	100 1500 350	100 600 250	100 600 250
上端筋	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22 2-D22	2-D22 2-D22 3-D22
下端筋	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	2-D22 2-D22	2-D22 2-D22 2-D22
肋筋	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D10-□-@200
腹筋	3X2-D13	3X2-D13	2X2-D13	3X2-D13	3X2-D13	1X2-D10	1X2-D10

基礎梁主筋の上下位置関係図

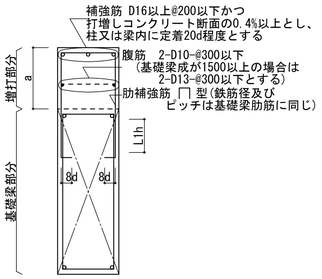
※基礎梁主筋の上下位置関係を変更する場合は監理者へ連絡、協議すること。



凡例(全基礎梁共通)



基礎梁増打要領図(a≧70)

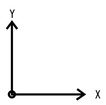


柱リスト 1/30

センド断補強筋の種別
D表示 = 一般異形鉄筋(SD295)

センド断補強筋の形状
D表示 = 溶接閉鎖型+副帯筋ツメ付

符号	C1
梁中フープ	D13-□-@100
1階	4 4 600 600
主筋	12-D19
帯筋	D13-□-@100
基礎梁中フープ	D13-□-@100



大梁リスト 1/30

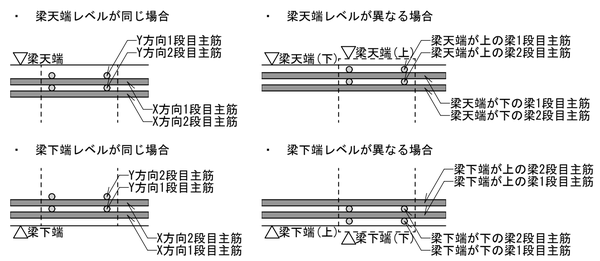
センド断補強筋の種別
D表示 = 一般異形鉄筋(SD295)

センド断補強筋の形状
D表示 = 一般型(副あばら筋共ツメ付)

【 特記事項 】
・ 柱内へ定着する梁主筋の定着長は40d以上確保すること。

符号	G1	G2	G11	G12	CG1	CG2
位置	全断	全断	両端 中央	外端 中央 内端	全断	全断
R階	RSL 50 650 400	50 650 350	50 650 400	50 650 400	50 650 400	50 650 350
上端筋	3-D19	2-D19	5-D19 3-D19	3-D19 3-D19 5-D19	3-D19	2-D19
下端筋	3-D19	2-D19	5-D19 5-D19	3-D19 5-D19 5-D19	3-D19	2-D19
肋筋	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200
腹筋	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10

大梁主筋の上下位置関係図



構造設計者
株式会社 コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号 第338084号
構造設計一級建築士証交付番号 第9404号
高野 建一郎

記事

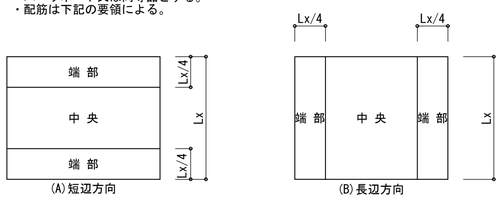
株式会社 綜企画設計 西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録 第59590号
一級建築士 国土交通大臣登録 第323718号 牧本 武志

工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月
図面名称: 各リスト(1)	縮尺: A1: 1/30 A3: 1/60 / 図面番号: S-10

スラブリスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向(主筋) 端部	短辺方向(主筋) 中央	長辺方向(配力筋) 端部	長辺方向(配力筋) 中央	備考
S12	120		D10-@100	同左	D10-@100	同左	ハト小屋
S18	180	上筋	D10+D13-@200	同左	D10+D13-@200	同左	
		下筋	D10-@200	同左	D10-@200	同左	
S18A	180	上筋	D13-@100	同左	D13-@200	同左	
		下筋	D13-@200	同左	D13-@200	同左	
		上筋					
		下筋					
CS18	180	上筋	D10+D13-@200	同左	D10-@200	同左	
		下筋	D10-@200	同左	D10-@200	同左	
CS18A	180	上筋	D13-@100	同左	D13-@200	同左	
		下筋	D13-@200	同左	D13-@200	同左	
		上筋					
		下筋					
DS15	150		配筋 X、Y両方向共D10-@200シングル　クラッシャーランt=100				S-08参照

特記なき限り次の通りとする
- 床版のサポートは、バーサポート又は同等品とする。
- 配筋は下記の要領による。



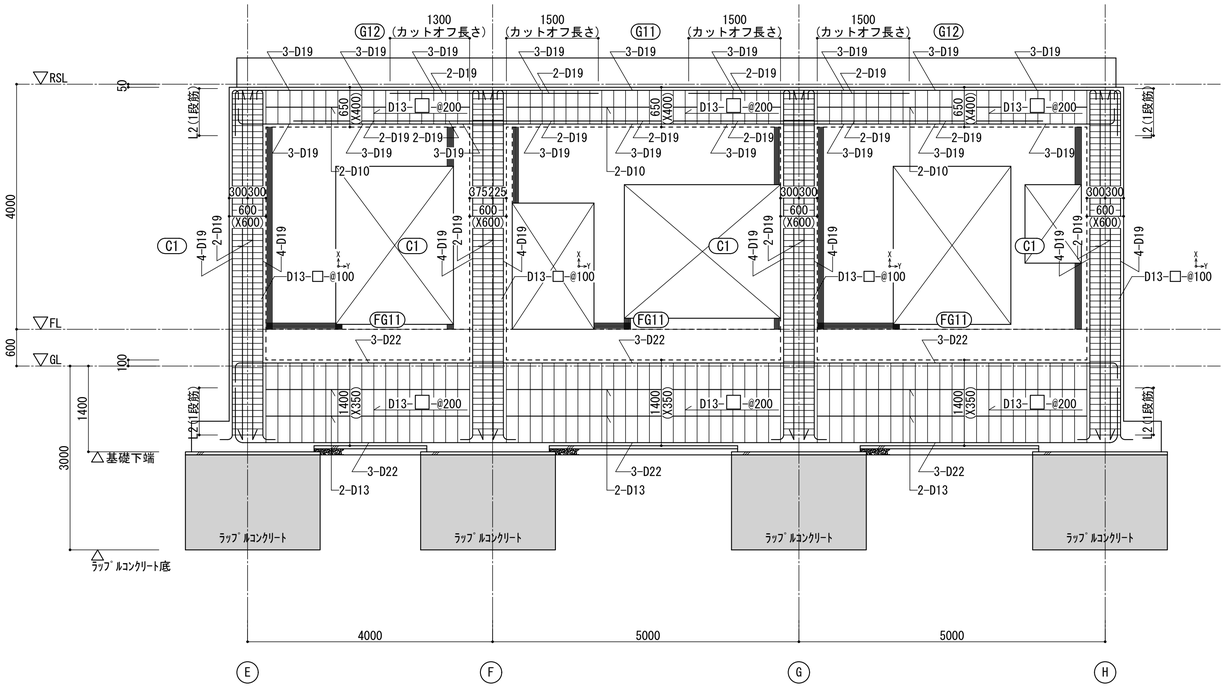
小梁リスト　1/30

センン断補強筋の種別
D表示　=　一般異形鉄筋(SD295)

センン断補強筋の形状
D表示　=　一般型(副あばら筋共ツメ付)

符号	B50	B60
位置	全断	全断
断面	500 / 250	600 / 300
上端筋	2-D16	5-D19
下端筋	2-D16	3-D19
肋筋	D10-□-@200	D10-□-@200
腹筋	——	1X2-D10

符号	B60A	CB60	
位置	全断	元端	先端
断面	600 / 300	600 / 300	600 / 300
上端筋	3-D19	5-D19	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19
肋筋	D10-□-@200	D10-□-@200	
腹筋	1X2-D10	1X2-D10	



6'通り配筋詳細図　1/50

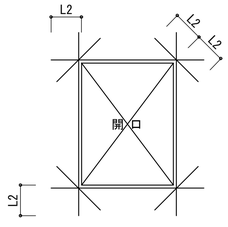
※ 6''通りのG11、G12のカットオフ長さも6'通りに倣う。

壁リスト

※ EW180に重ね継手を設ける場合の重ね長さは40d以上とすること。

符号		W120	W180				EW180				
壁厚		120	180				180				
断面		ヨコ筋 / タテ筋									
配筋法		シングル	ダブル				ダブル				
縦筋		D10-@100	D10-@150				D10-@150				
横筋		D10-@100	D10-@150				D10-@150				
開口補強筋	縦筋		2-D13								
	横筋		2-D13								
	斜筋		2-D13								
端部補強筋		1-D13	2-D13								

特記なき限り次の通りとする
- EWは耐震壁、CBはコンクリートブロックを示す。
- 巾止メ筋　縦・横共D10-@1000
- 壁厚は増打寸法は含まない。
- 開口補強は下記の要領による。

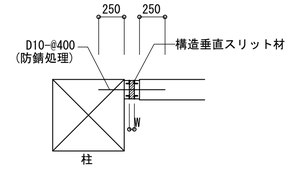


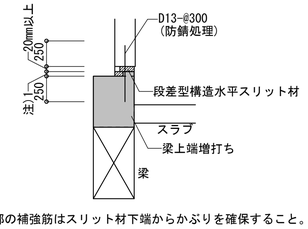
センン断補強筋の種別
D表示　=　一般異形鉄筋(SD295)

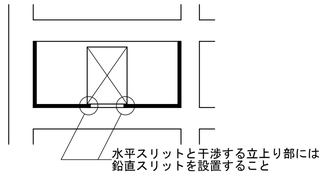
センン断補強筋の形状
柱　D表示　=　溶接閉鎖型+副帯筋ツメ付
梁　D表示　=　一般型(副あばら筋共ツメ付)

【　特記事項　】
- X Y は柱帯筋X方向、Y方向を示す。
- ▌は構造スリット(完全スリット)を示す。

構造スリット要領図



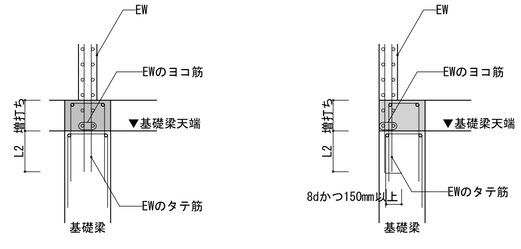




- W=25mm以上かつ、壁内法高さの1/100以上とする。
- 鉛直スリットは、水返しにより躯体断面が欠損しない位置にて設置の事。
- 延焼の恐れのある部分の構造スリットは耐火認定品(耐火時間120分)とする。

注)1 増し打ち部の補強筋はスリット材下端からかぶりを確保すること。
垂直スリット材は段差部分に納まるように加工すること。

EWの基礎梁への定着要領図



※　壁縦横筋の内外関係は「壁リスト」による
※　▭　は増打ちを示す。基礎梁上端増打ちについては、S-10参照

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号
高野　建一郎

記事

株式会社 綜企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

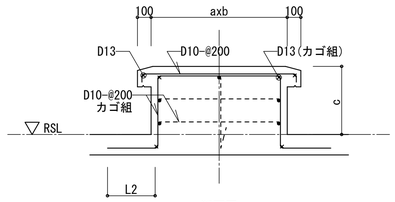
工事名称	設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事	2025年3月

図面名称	縮尺	図面番号
各リスト(2)	A1: 1/30, 1/50 A3: 1/60, 1/100	S-11

設備基礎

屋外設備基礎リスト

位置 種類	a	b	c	備考
換気設備基礎(1)	1400	1000	450	
換気設備基礎(2)	1800	1200	450	

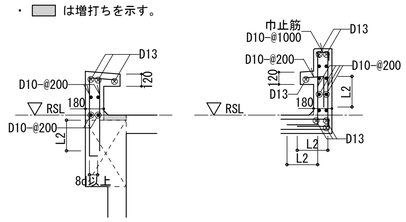


断面図

パラペット

1/30

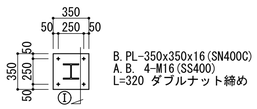
・ は増打ちを示す。



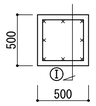
※パラペットの縦筋は壁の縦筋との兼用は不可。
壁縦筋のR階梁への定着要領はS-05 9.壁
(1)定着ⓐ梁に参照

設備基礎　目隠しフェンス

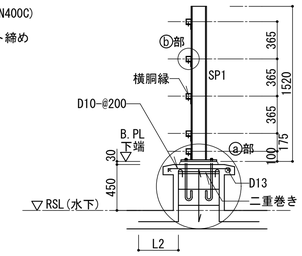
1/10,1/30



鉄骨柱脚



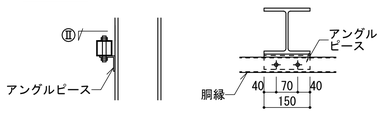
RC基礎



ⓐ部　詳細図

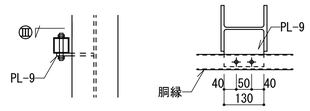
Ⅰ部　詳細図

一般部



Ⅱ部　詳細図

隅角部



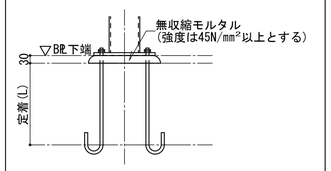
Ⅲ部　詳細図

ⓑ部　詳細図

部材リスト

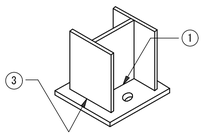
符号	部　材
SP1	全断　H-150x150x 7x10
	柱脚リストは、左図参照
横胴縁	全断　□- 50x 50x2.3
	アングルピース 2-M12 (中ボルト)

アンカーボルト(SS400)要領



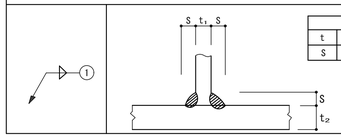
鉄骨部材リスト 共通事項

・特記なき限り、鋼材材質はSS400とする。
・鋼材は全て溶融亜鉛メッキ加工とする。
　但し、アンカーボルトはRC柱脚天端から40mmまでの範囲とする。
・特記なき限り、溶接は隅肉溶接(全周溶接)とする。



柱脚部溶接図

隅肉溶接

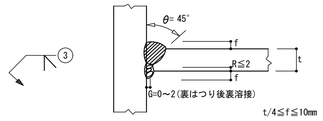


t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt₁、t₂の小なる方とする
　余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚
　とすることが望ましい

完全溶込み溶接

(平継手 T型継手)



t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

構造設計者
株式会社　コンパース東京一級建築士事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録第59776号
一級建築士大臣登録番号　第338084号
構造設計一級建築士証交付番号　第9404号　高野　建一郎

記事

株式会社 緑企画設計　西東京支店
一級建築士事務所 東京都知事登録　第59590号
一級建築士　国土交通大臣登録 第323718号　牧本　武志

工事名称		設計年月
調布市立多摩川小学校給食室改修工事		2025年3月
図面名称	縮尺	図面番号
雑詳細図	A1: 1/10 1/30 A3: 1/20 1/60	S-12